

翻刻『論語義疏』（大槻本）―泰伯篇・子罕篇・鄉党篇・先進篇―

影山輝國  
下村泰三  
中田妙葉

はじめに

今回は、雍也篇・述而篇（『年報』第三十一号 平成二十四年三月）に引き続き、泰伯・子罕・鄉党・先進四篇の翻刻を掲載発表する。泰伯・子罕二篇は影山が担当し、郷党篇は二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻博士後期課程の下村泰三君が、先進篇は東洋大学准教授の中田妙葉さんが担当した。

凡例

一、本訓読文は慶応義塾大学附属研究所斯道文庫に蔵せられる文明十九年鈔本『論語義疏』（いわゆる「大槻本」）を、原文に附せられた訓点に従って読み下した

ものである。

一、原文は每半葉九行、毎行二十字、疏文小字双行であるが、翻刻に際してはこれにこだわらなかった。

一、使用する漢字は、コンピュータ処理の上で可能な限り旧字体とした。

一、原文の異体字は、原則として正字に改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当する漢字に改めた。

一、原文にはカタカナで振仮名や送仮名が附せられているので、それらはみなカタカナを用いて表記した。その際、「メ」「ㄗ」「寸」「云」「子」などは、それぞれ「シテ」「コト」「トキ」「イフ」「ネ」などに改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当するカタカナに改めた。

一、振仮名、送仮名には若干の例外を除き濁音符がないので、例外箇所を除き濁音符を附けることはしていない。

一、振仮名と送仮名は、なるべく原書に忠実に従うことに努めたが、両者の判別が困難な場合、原則として活用語は語幹を振仮名と見做して漢字の脇に、活用語尾を送仮名と見做して漢字の下に表記した。その他の語もなるべく読みやすい形で表記した。

一、カタカナが、読み的一部分だけしか示していない場合は、残りの読みを推定し、ひらがなを用いて補った。その際、原則として歴史的仮名遣いに則り、音便形を用いていない。

一、頻繁に用いられる「日」<sup>ノ</sup>、「則」<sup>ハ</sup>は、それぞれ「ノたうはク」、「ときハ」とも読めるが、ここでは「ノたまはク」、「ときんハ」と訓じた。また、「欲」、「雖」は、「ほりす」、「いふとも」ではなく、「ほつす」、「いへとも」と訓じた。

一、漢字の左右に二通りの訓がある場合は、右傍訓を優先して表記し、左傍訓は括弧に入れて表記した。間々、漢字の右側に二通りの訓がある事があるが、その場合はより漢字に近い訓を優先して表記し、遠い訓は括弧に入れた。

一、漢字の右側に附せられた振仮名は右側に、左側に附せられた振仮名は左側に附した。推定して補った読みも、右側にあるべきものは右側に、左側にあるべきものは左側に附した。

一、訓読文中では不読字（置き字）はすべて省略した。どの文字を省略したかは、訓読文の前に示した白文（読点付き）から判断願いたい。

一、訓読文中では再読文字はその文字を再度表出して、あたかもその文字が二度使用されているかのごとく表記してある。その際、一々再読であることを示していないので、どの文字を再読したかについても、訓読文の前に示した白文から判断願いたい。

一、地名・人名・官名・書名などを示す朱引は、すべて省略した。

一、原文では句点と読点の区別がなく、すべて行の中央に朱点が附せられているので、ここでは句点を用いず、すべて読点を用いた。朱点はなるべく忠実に表示したが、明らかに誤り附けたと思われるものは訂正した。また、附け落しと思われる箇所には、読み易さに資する最少の範囲で白抜きの上読点を補った。

一、原文には墨筆の縦線で、漢字の右脇に音読符、左脇に訓読符、漢字間の中央に音合符、左側に訓合符が附せ



られている。これらはすべて忠実に再現するように努めたが、明らかに誤りのあるものは訂正して読んだ。その際、一々注記することはない。

一、原文に書き入れられている心覚えのためと思われる文字や記号は省略した。

一、一部に書き加えられている邢昺の疏は、省略した。

一、各章末に、武内義雄刊『論語義疏』（大正十三年一月懷徳堂記念会発行「武内本」と略称する）との文字の異同を記した。武内本は誤植が少なからずあり、必ずしも拠るべき最善のテキストとは言えないが、多くの方が参考にすると思われるからである。

翻刻掲載にあたっては、大槻本を所蔵する慶応義塾大学附属研究所斯道文庫の承諾を得た。特に記して感謝の意を表す。

泰伯第八<sup>(三)</sup> 疏<sup>(三)</sup>

(一) 「泰」上、武内本有「論語」二字。

(二) 「八」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡廿一章」四字（小字單行）。

(三) 「疏」、武内本別行跳格。

【疏】

泰伯者周太王長子、能推位讓國者也、所以次前者、物情見孔子栖遑、常謂實係心慮、今明太伯賢人、尚能讓國、以證孔子大聖、雖位非九五、豈以糝糠累眞、故泰伯次述而也

泰伯ハ周ノ太王ノ長子ナリ、能ク位ヲ推シ國ヲ讓ル者ナリ、前ニ次ツル所以ハ、物情孔子ノ栖遑タルヲ見テ、常ニ謂ラク實ニ心慮ニ係タリト（實ニ心慮ニ係タリト謂ヘリ）、今太伯ハ賢人ナリ、尚ヲ能ク國ヲ讓ルコトヲ明シテ、孔子ノ大聖ヲ證ス、位九・五ニ非ト雖モ、豈ニ糝糠ヲ以テ眞ヲ累サンヤトイフコトヲ證ス、故ニ泰伯ヲ述而ニ次ツ

(一) 「糝」、武内本作「糝」。

【經】

子曰、泰伯其可謂至德也已矣、

子ノ曰ク、泰伯ヲハ其レ至德ト謂フ可ラク已、

【疏】

泰伯者周太王之長子也、太王者即古公亶甫也、亶甫有三子、大者太伯、次者仲雍、小者季歷三子竝賢、而太伯有讓德深遠、雖聖不能加、故云、其可謂至德也已矣、其至德之事、在下、范寧云、太善大之稱也、伯長也、太伯周大王之元子、故號太伯、其德弘遠、故曰至也、

泰伯ハ周ノ太王ノ長子ナリ、太王ハ即チ古公亶甫ナリ、亶甫三子有リ、大ハ太伯、次テハ仲雍、小ハ季歷三子竝ニ賢ニシテ、太伯讓德有テ深遠ナリ、聖ト雖モ加ルコト能ハ不、故ニ云ク、其レ至德ト謂フ可ラク已、其ノ至德ノ事ハ、下ニ在リ、范寧カ云ク、太ハ善大ノ稱ナリ、伯ハ長ナリ、太伯ハ周ノ大王ノ元（元）子ナリ、故ニ太伯ト號ス、其ノ德弘遠ナリ、故ニ至ト曰フ、

【經】

三以天下讓、

三タヒ天一下ヲ以テ讓ル、

【疏】

此至德之事也、其讓天下之位有三迹、故云三以天下讓也、  
 所以有讓者、少弟季歷生子文王昌、昌有聖人德、太伯知昌  
 必有天位、但升天位者、必須階漸、若從庶人而起則爲不  
 易、太王是諸侯、已是大王長子、長子後應傳國、今欲令昌  
 取王位、有漸故讓國而去、令季歷傳之也、其有三迹者、范  
 寧云、有二釋。一云太伯少弟季歷生子文王昌、子有聖德、  
 太伯知其必有天下、故欲令傳國於季歷、以及文王。因大王  
 病、託採藥於吳越、不反。大王薨、而季歷立、一讓也、季  
 歷薨、文王立、二讓也、文王薨而武王立、於此遂有天下、  
 是以三讓也。又一云、大王病而託採藥出、生不事之以禮、  
 一讓也、大王薨而不反、使季歷主喪、死不葬之以禮、二  
 讓也、斷髮文身示不可用、使季歷主祭祀、不祭之以禮、三  
 讓也、繆協云、太伯三讓之所爲者、季歷文武三人而王道  
 成、是三以天下讓之也、

此レハ至德ノ事ナリ、其レ天一下ノ位ヲ讓ルコト三迹有

リ、故ニ云ク三タヒ天一下ヲ以テ讓ルト、讓ルコト有ル  
 所以ハ、少弟季歷子文王昌ヲ生ム、昌ニ聖人ノ德有リ、  
 太伯昌ノ必ス天一位ヲ有タンコトヲ知ル、但タ天一位ニ升ル  
 コトハ、必ス階漸ヲ須ユ、若シ庶人從シテ起ル則ハ易  
 カラ不ト爲、太王ハ是レ諸侯ナリ、已ニ是レ大王ノ長子  
 ナリ、長子トシテ後國ヲ傳フ應シ、今昌ヲ令テ王位ヲ取  
 ラ令メント欲、漸有ルカ故ニ國ヲ讓テ去テ、季歷ヲ令テ  
 之ヲ傳ヘ令ム、其レ三迹有ルコトハ、范寧カ云ク、二一釋  
 有リ。一ニ云ク太伯ノ少弟季歷子文王昌ヲ生ム、子ニ聖  
 德有リ、太伯其ノ必ス天一下ヲ有タンコトヲ知ル、故ニ國  
 ヲ季歷ニ傳テ、文王ニ及ハ令メント欲ス。大王ノ病ニ因  
 テ、藥ヲ吳越ニ採ルニ託シテ、反ラ不。大王薨シテ、季歷  
 立ツ、一ノ讓ナリ、季歷薨シテ文王立ツ、二ツノ讓ナリ、  
 文王薨シテ武王立ツ、此ニ於テ遂ニ天一下ヲ有ツ、是レ以  
 テ三ツノ讓ナリ。又一ニ云ク、大王病テ藥ヲ採ルニ託シテ  
 出ツ、生ケルトキニ之ニ事ルニ禮ヲ以テセ不、一ノ讓ナ  
 リ、大王薨シテ反ラ不、季歷ヲ使テ喪ニ主タラ使ム、死ス  
 ルニ之ヲ葬ルニ禮ヲ以テセ不、二ノ讓ナリ、髮ヲ斷チ身ヲ  
 文ラシテ用フ可ラ不ルコトヲ示ス、季歷ヲ使テ祭祀ニ主  
 タラ使メテ、之ヲ祭ルニ禮ヲ以テセ不、三ノ讓ナリ、繆協  
 カ云ク、太伯三タヒ讓ルカ爲ル所ハ、季歷文武三人ニシ  
 テ王道成ル、是レ三タヒ天一下ヲ以テ讓ナリ、

【經】

民無得而稱焉、

民得テシテ稱スルコト無シ、

【疏】

讓德迹既隱、當時人民不覺、故無能稱其讓德者也、故范寧云、詭道合權、隱而不彰、故民無得而稱。乃大德也、繆協云、其讓之迹詭當時莫能知。故無以稱焉、可謂至德也。或問曰、太伯若堪有天下則不應讓人、若人有天下、則太伯復無天下可讓、今云、三以天下讓、其事如何。或通云、太伯實應傳諸侯、今讓者、諸侯位耳、而云讓天下者、是爲天下而讓、今即之有階、故云天下也。然中雍亦隨太伯而隱、不稱仲雍者、國位在太伯、太伯讓、是導仁軌也、仲雍隨是揚其波也、

讓德ノ迹既ニ隱レテ、當時ノ人民覺ラ不、故ニ能ク其ノ讓德ヲ稱スル者無シ、故ニ范寧カ云ク、道ヲ詭ツテ、權ニ合フ、隱而彰レ不、故ニ民得テ稱スルコト無シ。乃チ大德ナリ、繆協カ云ク、其ノ讓ノ迹當時ニ詭ツテ能ク知ルコト莫シ。故ニ以テ稱スルコト無シ、至德ト謂ツ可シ。或ヒト、問テ曰ク、太伯若シ天下ヲ有ツニ堪ヘ

ハ則チ人ニ讓ル應ラ不、若シ人天下ヲ有タハ、太伯復天下ノ讓ル可キ無シ、今云ク、三タヒ天下ヲ以テ讓ルト、其ノ事如何。或ル通ニ云ク、太伯實ニハ諸侯ヲ傳フ應シ、今讓ルハ、諸侯ノ位耳、而ルヲ天下ヲ讓ルト云フコトハ、是レ天下ノ爲ニシテ讓ル、今之ニ即テ階有リ、故ニ天下ト云フ。然ルニ中雍モ亦太伯ニ隨テ隱ル、仲雍ヲ稱セ不ルコトハ、國位ハ太伯ニ在リ、太伯讓ル、是仁軌ヲ導クナリ、仲雍是ニ隨テ其ノ波ヲ揚ク、

【注】

王肅曰、泰伯周大王之太子也、次弟仲雍。少弟曰季歷、季歷賢又生聖子文王昌、昌必有天下、故泰伯以天下、三讓於王季、其讓隱、故民家無得而稱言之者所以爲至德也、

王肅カ曰ク、泰伯ハ周ノ大王ノ太子ナリ、次ノ次ハ弟仲雍。少弟ヲ季歷ト曰フ、季歷賢ニシテ又聖子文王昌ヲ生メリ、昌必天下ヲ有タン、故ニ泰伯天下ヲ以テ、三タヒ王季ニ讓ル、其ノ讓リ隱レタリ、故ニ民家得テ之ヲ稱言スル者無シ至德ト爲ル所以ナリ、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「賣甫」、武内本無此二字。

- (三) 「季歷」、武内本作「季曆」、下同。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「太伯」、武内本無此二字。
- (六) 「大王」、武内本作「太王」、下同。
- (七) 「至」下、武内本有「德」字。
- (八) 「已」、武内本作「己」。
- (九) 「云」、武内本作「曰」。
- (一〇) 「子生」、武内本作「生子」。
- (一一) 「薨」下、武内本有「而」字。
- (一二) 「以」、武内本作「爲」。
- (一三) 「葬」、武内本作「喪」。
- (一四) 「云」、武内本作「曰」。
- (一五) 「以天下讓之」、武内本作「以讓天下」。
- (一六) 「讓德」、武内本作「德讓」。
- (一七) 「云」、武内本作「曰」。
- (一八) 「云」、武内本作「曰」。
- (一九) 「中」、武内本作「仲」。
- (二〇) 「泰」、武内本作「太」。

【經】

子曰、恭而無禮則勞、

子ノ曰ク、恭<sup>うやうやし</sup>ハフシテ禮無キ則ハ勞ス、

【疏】

此章明行事須禮、以爲節也、夫行恭遜必宜得禮、則若恭而無禮則、遷<sup>うつり</sup>在床下、所以身爲自勞苦也、

此ノ章ニハ事ヲ行コト禮ヲ須<sup>もちろ</sup>テ、節ヲ爲ルコトヲ明ス、夫レ行恭<sup>ようし</sup>遜ニシテ必ス宜ク禮ヲ得宜シ、則チ若シ恭シテ禮無キ則ハ、遷<sup>うつり</sup>テ床下ニ在テ、身自<sup>みづか</sup>勞苦ヲ爲ス所以ナリ、

【經】

愼而無禮則愼<sup>しん</sup>、

愼<sup>つし</sup>テ禮無キ則ハ愼ス、

【疏】

愼<sup>しん</sup>畏懼過甚也、愼<sup>しん</sup>若無禮則、畏懼之甚、於事不行也、

愼ハ畏懼ノ過<sup>す</sup>キハ甚<sup>はなはた</sup>キナリ、愼テ若シ禮無キ則ハ、畏懼ノ甚ナリ、事ニ於テ行ハレ不<sup>な</sup>、

【注】

蕙畏懼之貌也、言慎而不以禮節之則、常畏懼也、

蕙ハ畏懼ノ貌、言ハ慎メトモ禮ヲ以節セ不ルトキハ、  
常ニ畏懼ス、

【經】

勇而無禮則亂、

勇ニシテ禮無キ則ハ亂ス、

【疏】

勇而有禮、内則擎跪於廟堂之上、外則捍難於壇場之所、若  
勇而無禮則、爲殺害之亂也、

勇ニシテ禮有ルハ、内ニハ則チ廟堂ノ上ニ擎ケ<sup>ヒツサ</sup>跪ク、  
外ニハ則チ難ヲ<sup>キヤフ</sup>壇<sup>エキ</sup>場ノ所ニ捍ク、若シ勇ニシテ禮  
無キ則ハ、殺<sup>サツ</sup>害ノ亂ヲ爲ス、

【注】

直而無禮則絞、

直ニシテ禮無キ則ハ絞ス<sup>カウ</sup>（絞ル）、

【疏】

絞刺也、直若有禮、則自行不邪曲、若不得禮、對面譏刺他  
人之非、必致怨恨也、

絞ハ刺<sup>シ</sup>（刺）、直ニシテ若シ禮有ル、則ハ自<sup>ミツカラ</sup>行コト  
邪<sup>ソシ</sup>曲ナラ不、若シ禮ヲ得<sup>サ</sup>不レハ、面ニ對シテ他<sup>ソシ</sup>人ノ非ヲ  
譏<sup>ミ</sup>刺テ、必ス怨恨ヲ致ス、

【注】

馬融曰、絞絞刺也、

馬融カ曰ク、絞ハ絞<sup>ソシル</sup>刺<sup>シ</sup>（刺）スルソ、

【經】

君子篤於親、則民興於仁、

君子親ニ篤<sup>アツ</sup>キトキハ、民仁ヲ興ス、

【疏】

君子人君也、篤厚也、人君若自於親屬、篤厚則、民下化之、皆競興起仁恩也、孝悌也者、其仁之本與也、

君子トハ人君ナリ、篤ハ厚ナリ、人君若シ自親屬ニ於テ、篤厚ナル則ハ、民下之ニ化シテ、皆競テ仁恩ヲ興シ起ス、孝悌ハ、其レ仁ノ本タル與、

【經】

故舊不遺則、民不偷、

故舊遺レ不ル則ハ、民偷シカラ（偷セ）不、

【疏】

故舊謂朋友也、偷薄也、人君富貴而不遺忘昔舊友朋、則下民效之不爲薄厚也、

故舊トハ朋友ヲ謂フ、偷ハ薄ナリ、人君富貴ニシテ昔ノ舊友朋ヲ遺レ忘レ不ル、則ハ下民之ニ效テ薄厚ヲ爲サ不、

【注】

苞氏曰、興起也、君能厚於親屬、不遺忘其故舊、行之美者也、則民皆化之、起爲仁厚之行、不偷薄也、

苞氏カ曰ク、興ハ起、君能ク親屬ニ厚シテ、其ノ故舊ヲ遺レ忘レ不ルハ、行ノ美ナル者ナリ、則チ民皆之ニ化シテ、起テ仁厚ノ行ヲ爲シテ、偷シク薄カラ不、

（一）「須」上、武内本有「悉」字。

（二）「遷」、武内本作「遜」。

（三）「蕙」、武内本作「蕙」。

（四）「蕙」、武内本作「蕙」。

（五）「慎」、武内本無此字。

（六）「刺」上、武内本有「則」字。「刺」下、武内本有

「之」字。

（七）「厚」、武内本作「行」。

【經】

曾子有疾、召門弟子曰、啓予足啓予手、

曾子疾有リ、門弟子ヲ召シテ曰ク、予力足ヲ啓ケ予力手ヲ啓ケ、

【疏】

啓開也、予我也、孔子昔授孝經於曾子云、身體髮膚受之父母、不敢毀傷、曾子稟受至死不忘、故疾病臨終日、召已門徒弟子、令開衾視我手足不毀傷與不、亦示父母全而生己、已亦全而歸之也、先足後手、手近足遠、示急從遠而視也、

啓ハ開ナリ、予ハ我ナリ、孔子昔孝經ヲ曾子ニ授テ云ク、身一體髮膚ハ父一母ニ受タリ、敢テ毀ヒ傷ラ不レ、曾子稟ケ受テ死ニ至ルマテ忘レ不、故ニ疾一病ニシテ、終ルノ日ニ臨テ、己カ門徒ノ弟子ヲ召シテ、衾ヲ開テ我カ手一足ヲ毀ヒ傷ラ不ルカ不ヤト視セ令ム、亦父一母全フシテ己ヲ生ミ、己亦タ全フシテ之ヲ歸スコトヲ示ス、足ヲ先ニシテ手ヲ後ニスルコトハ手ハ近ク足ハ遠シ、急ニ遠キ從リシテ視セシコトヲ示ス、

【注】

鄭玄曰、啓開也、曾子以爲受身體於父母、不敢毀傷之、故使弟子開衾而視之也、

鄭玄カ曰ク、啓ハ開、曾子以爲ラク身一體ヲ父一母ニ受タリ、敢テ毀イ傷ラ不ト（身一體ヲ父一母ニ受タリ、敢テ毀イ傷ラ不ト以爲ヘリ）、故ニ弟子ヲ使テ衾ヲ開テ之

ヲ視セ使ム、

【經】

詩曰、戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰、

詩ニ曰ラク、戰戰兢兢競トシテ、深キ淵ニ臨ムカ如ク、薄キ冰ヲ履ムカ如シトイヘリ、

【疏】

既令開衾、又引詩證己平生敬慎、畏懼有毀傷之心也、戰戰恐懼、兢兢戒慎也、如臨深淵、恐墮也、如履薄冰、恐陷也、夫人於高岩之頂、俯臨萬丈之深淵、必恐懼寒心、恆畏墜落也、冰之厚者猶不可履、況跪行薄冰之上、孰不斂身戒慎恐陷臨乎、言我平生畏慎身體之心、如人之臨履深薄也、

既ニ衾ヲ開カ令メテ、又詩ヲ引テ己カ平生敬慎シテ、毀ヒ傷ルコト有シコトヲ畏レ懼ルルノ心ヲ證ス、戰戰ハ恐懼ナリ、兢兢ハ戒慎ナリ、深キ淵ニ臨テ、墮チンコトヲ恐ルルカ如ク、薄キ冰ヲ履テ、陷ランコトヲ恐ルルカ如シ、夫レ人高岩ノ頂ニ於テ、萬丈ノ深淵ニ俯臨ムトキハ、必ス恐懼寒心シテ、恒ニ墜チ落コトヲ畏ル、冰ノ厚キ者猶ヲ履ム可不、況ヤ薄キ冰ノ上ヲ跪行セ



ンニ、孰カ身ヲ歛<sup>ヲサ</sup>メ戒メ、慎テ陷リ、臨ムコトヲ恐レ<sup>さら</sup>不ンヤ、言<sup>いふこと</sup>ハ我平<sup>いふこと</sup>一生身體ヲ畏レ、慎ムノ心、人ノ深薄ニ臨履スルカ如シ、

## 【注】

孔安國曰、言此詩者、喻己常誠慎、恐有所毀傷也、

孔安國カ曰ク、此ノ詩ヲ言フコトハ、己カ常ニ誠メ、慎<sup>そこな</sup>テ、毀<sup>やぶ</sup>ヒ傷ル所有ランコトヲ恐ルルニ喩フ、

## 【經】

而今而後吾知免夫、

而<sup>ケ</sup>今<sup>フ</sup>ヨリシテ後<sup>のち</sup>吾免<sup>わかれ</sup>レタリトイフコトヲ知ル、

## 【疏】

引詩既竟、又語諸弟子也、而今今日也、而後即今日以後也、免免毀傷也、既臨終而得不毀傷、故知自今日以後、全歸泉壤、得免毀傷之事也、

詩ヲ引クコト既ニ<sup>ニ</sup>竟テ、又諸弟子ニ語ル、而今<sup>ハ</sup>今<sup>ハ</sup>日ナリ、而後ハ即チ今<sup>ハ</sup>日ノ以後ナリ、免トハ毀傷ニ免

レタルソ、既ニ終ニ臨テ毀ヒ傷ラ不ルコトヲ得、故ニ知ヌ今日自<sup>よ</sup>リ以後、全ク泉壤ニ歸シテ、毀傷ノ事ヲ免ルコトヲ得ルコトヲ、

## 【經】

小子

小子

## 【疏】

小子諸弟子也、曾子言竟、而呼諸弟子、語之令識己言也、

小子ハ諸弟子ナリ、曾子言フコト<sup>ニ</sup>竟テ、而シテ諸弟子ヲ呼テ、之ニ語テ己カ<sup>コト</sup>言ヲ識ラ令<sup>しむ</sup>、

## 【注】

周生烈曰、乃今日而後、我自知免於患難矣、小子弟子也、呼者欲使聽識其言也、

周生烈カ曰ク、乃<sup>いま</sup>今<sup>ケ</sup>日ヨリシテ後、我自<sup>わし</sup>患難ニ免タリトイフコトヲ知ル、小子ハ弟子ナリ、呼フコト者、其ノ言ヲ聽<sup>コト</sup>キ、識<sup>し</sup>ラ使メマク欲ス、

- (一) 「疾」、武内本作「病」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「不」、武内本無此字。
- (四) 「曰」、武内本作「云」。
- (五) 「墮」、武内本作「墜」。
- (六) 「臨」、武内本無此字。

【經】

曾子有疾、孟敬子問之、

曾子疾<sup>やまい</sup>有り、孟敬子之ヲ問フ、

【疏】

敬子魯大夫也仲孫捷<sup>ニ</sup>、來參問曾子之疾也、

敬子ハ魯ノ大夫仲孫捷<sup>シヨウ</sup>ナリ、來參シテ曾子ノ疾ヲ問フ、

【注】

馬融曰、孟敬子魯大夫仲孫捷也、

馬融カ曰ク、孟敬子ハ魯ノ大夫仲孫捷<sup>セウ</sup>、

【經】

曾子言曰。鳥之將死、其鳴也哀、人之將死、其言也善、

曾子言テ曰ク。鳥ノ將ニ死<sup>シナン</sup>ト將ルトキニ、其ノ鳴クコト哀シ、人ノ將ニ死<sup>シナン</sup>ト將ルトキニ、其ノ言フコト善シ、

【疏】

曾子得敬子之問疾、因而戒之也、將欲戒之、故先發此言、欲明我所以相戒之意也、言鳥之臨死、唯知哀鳴、而不知出善言、此則是鳥之常、人之將死、必宜云善言、此則是人之常也、若人臨死、而無善言、則與鳥獸不異、今我將臨死、故欲出善言、以誠汝也、故李充云<sup>ニ</sup>、人之所以貴於禽獸者、以其慎終始、在困不撓也、禽獸之將死、不遑擇音、唯吐窘急之聲耳、人若將死、而不思令終之言、唯哀懼而已者、何以別於禽獸乎、是以君子之將終、必正存道、不忘格言、臨死易簣、困不違禮、辨論三德、大加明訓、斯可謂善言也、

曾子敬子カ疾ヲ問コトヲ得テ、因テ之ヲ戒ム、將ニ之ヲ戒メント欲<sup>ス</sup>、故ニ先ツ此ノ言ヲ發シテ、我カ相ヒ<sup>ニ</sup>戒ムル所以ノ意ヲ明ニセント欲<sup>ス</sup>、言ハ鳥ハ死ニ臨テ、唯タ哀ミ鳴コトヲ知テ、而シテ善言ヲ出スコトヲ知ラ不<sup>ス</sup>、此レハ則チ是レ鳥ノ常ナリ、人ハ將ニ死<sup>シナン</sup>ト將ルトキハ、必ス

宜ク善言ヲ云フ宜シ、此レハ則チ是レ人ノ常ナリ、若シ人死ニ臨テ、善言無クシハ、鳥獸與異ナラ不<sub>レ</sub>、今我將ニ死ニ臨マント將、故ニ善言ヲ出シテ、汝ヲ誡メント欲ス、故ニ李充カ云ク、人ノ禽獸ヨリ貴キ所以ハ、其ノ終始ヲ慎テ、困ムニ在テ撓マ不<sub>レ</sub>ルコトヲ以ナリ、禽獸ノ將ニ死ト將ルトキハ、音ヲ擇フニ違<sub>レ</sub>アラ不<sub>レ</sub>、唯タ窘急ノ聲ヲ吐ク耳、人若シ將ニ死ト將テ、終ヲ令クスルノ言ヲ思ハ不<sub>レ</sub>シテ、唯タ哀懼スル而已ナラハ、何ヲ以力禽獸ニ別カンヤ、是ヲ以テ君子ハ將ニ終ント將ルトキニ、必ス正シクシテ道ヲ存シテ、格言ヲ忘<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>、死ニ臨テ寶ヲ易ヘ、困テ禮ニ違ハ不<sub>レ</sub>、三德ヲ辨論シテ、大ニ明訓ヲ加フ、斯レ善言ト謂ツ可シ、

【注】

荀氏曰、欲戒敬子、言我且將死、言善可用也、

荀氏カ曰ク、敬子ヲ戒メマク欲ス、言ハ我且ツ將ニ死ト將、言コト善シ用フ可シ、

【疏】

此注亦明如向釋、又繆協云、曾子謙不以遠理自喻、且敬子

近人、故以常言語悟之、冀其必納也、然繆解、亦得會苞注也、或問曰、不直云曾子曰、而云言曰何也、答曰、欲重曾子臨終言善之可録、故特云言也、又一通云、出己曰言、答述曰語、曾子臨終、綿困不堪答述也、示直出己之懷而已也、

此ノ注モ亦明ニ向ノ釋ノ如シ、又繆協カ云ク、曾子謙シテ遠理ヲ以自喻サ不<sub>レ</sub>、且タ敬子ハ近人ナリ、故ニ常ノ言語ヲ以テ之ヲ悟シテ、其ノ必ス納コトヲ冀フ、然レハ繆カ解モ、亦苞カ注ニ會フコトヲ得タリ、或ヒト問テ曰ク、直ニ曾子曰ト云ハ不<sub>レ</sub>シテ、而シテ言テ曰クト云フハ何ソヤ、答テ曰ク、曾子終ニ臨テ善言フコトヲ重クシテ録ス可コトヲ欲、故ニ特ニ言ト云フ、又一通ニ云ク、己ヨリ出ルヲ言ト曰ヒ、答述スルヲ語ト曰フ、曾子終ニ臨テ、綿困答述スルニ堪ヘ不<sub>レ</sub>、直ニ己カ懷ヲ出スコトヲ示ス而已、

【經】

君子所貴乎道者三、

君子ノ貴フ所ノ道三ツ、

【疏】

此以下、即曾子所述善言也、道猶禮也、言君子所貴禮者有三事也、

此ヨリ以下ハ、即チ曾子カ述ル所ノ善言ナリ、道ハ禮ノ猶シ、言ハ君子ノ貴フ所ノ禮ニ事有リ、

【經】

動容貌、斯遠暴慢矣、

容<sub>うご</sub>貌<sub>か</sub>ヲ動<sub>うご</sub>シテ、斯<sub>こ</sub>ニ暴<sub>こ</sub>慢<sub>さ</sub>ヲ遠<sub>さ</sub>ク、

【疏】

此所貴三之第一也、動容貌、謂儀容舉止也、君子坐則嚴然、行則踣濟、如此則人望而畏之、不敢有暴慢之者、故云、斯遠暴慢也、故顏延之云、動容則、人敬其儀、故暴慢息也、

此ハ貴フ所ノ三ノ第一ナリ、容<sub>うご</sub>貌<sub>か</sub>ヲ動<sub>うご</sub>ストハ、儀<sub>ぎ</sub>容<sub>うご</sub>舉<sub>き</sub>止<sub>し</sub>ヲ謂<sub>い</sub>フ、君<sub>きみ</sub>子<sub>こ</sub>ハ坐<sub>ま</sub>スル則<sub>すなは</sub>チハ嚴<sub>げん</sub>然<sub>ぜん</sub>タリ、行<sub>ゆ</sub>ク則<sub>すなは</sub>チハ踣<sub>ふ</sub>濟<sub>けい</sub>タリ、此ノ如キ則<sub>すなは</sub>チハ人<sub>ひと</sub>望<sub>のぞ</sub>テ之ヲ畏<sub>おそ</sub>テ、敢<sub>あ</sub>テ暴<sub>こ</sub>慢<sub>さ</sub>スルノ者<sub>もの</sub>有<sub>あ</sub>ラ不<sub>ず</sub>、故ニ云ク、斯<sub>こ</sub>ニ暴<sub>こ</sub>慢<sub>さ</sub>ヲ遠<sub>さ</sub>クト、故ニ顏延之カ

云ク、容ヲ動ス則ハ、人其ノ儀ヲ敬ム、故ニ暴慢息ム、

【經】

正顏色、斯近信矣、

顏<sub>か</sub>色<sub>しき</sub>ヲ正<sub>ただ</sub>シテ、斯<sub>こ</sub>ニ信<sub>ちか</sub>ヲ近<sub>か</sub>ク、

【疏】

此所貴三之第二也、就凡人相見、先觀容儀、容儀故先也、次見顏色、顏色故爲次也、人之顏色恆欲莊正、不數變動、則人不敢欺詐之、故云、近信也、故顏延之云、正色則、人達其誠、故信者立也、

此レハ貴フ所ノ三ノ第二ナリ、凡ノ人相ヒ見ルニ就テ、先ツ容<sub>うご</sub>儀<sub>ぎ</sub>ヲ觀<sub>み</sub>ル、容<sub>うご</sub>儀<sub>ぎ</sub>故ニ先ナリ、次ニ顏<sub>か</sub>色<sub>しき</sub>ヲ見<sub>み</sub>ル、顏<sub>か</sub>色<sub>しき</sub>故ニ次ト爲<sub>な</sub>ス、人ノ顏<sub>か</sub>色<sub>しき</sub>恆<sub>とこ</sub>ニ莊<sub>さう</sub>（莊）正<sub>せい</sub>ナランコトヲ欲<sub>ほ</sub>ス、數<sub>しばしば</sub>變<sub>へん</sub>動<sub>どう</sub>セ不<sub>ず</sub>ル、則<sub>すなは</sub>チハ人<sub>ひと</sub>敢<sub>あ</sub>テ之ヲ欺<sub>かた</sub>キ詐<sub>いつ</sub>ラ不<sub>ず</sub>、故ニ云ク、信<sub>ちか</sub>ヲ近<sub>か</sub>クト、故ニ顏延之カ云ク、色ヲ正<sub>ただ</sub>スル則<sub>すなは</sub>チハ、人其ノ誠ヲ達<sub>た</sub>ス、故ニ信<sub>ちか</sub>ハ立<sub>た</sub>ツ、

【經】

出辭氣、斯遠鄙倍矣、

辭氣ヲ出シテ、斯ニ鄙倍ヲ遠ク、

【疏】

此所貴三之第三也、辭氣言語音聲也、既見顔色、次接言語也、出言有章、故人不取鄙穢倍違之也、故顔延之云、出辭則人樂其文、故鄙倍絶也、侃謂暴慢鄙倍同是惡事、故云遠也、而信是善事、故云近也、

此レハ貴フ所ノ三ノ第三ナリ、辭氣トハ言語音聲ナリ、既ニ顔色ヲ見ル、次ニ言語ヲ接ユ、言ヲ出スコト章有リ、故ニ人敢テ鄙穢シテ之ニ倍キ違カ不、故ニ顔延之カ云ク、辭ヲ出ス則ハ人其ノ文アルコトヲ樂ム、故ニ鄙倍絶ス、侃謂ラク暴慢鄙倍ハ同シク是レ惡事ト（侃暴慢鄙倍ハ同シク是レ惡事ト謂ヘリ）、故ニ遠ト云フ、信ハ是善事ナリ、故ニ近ト云フ、

【注】

鄭玄曰、此道謂禮也、動容貌、能濟濟蹢蹢則、人不敢暴慢之也、正顔色、能矜莊嚴栗則、人不敢欺誕之也、

鄭玄カ曰ク、此ノ道トハ禮ヲ謂フ、容貌ヲ動シテ、能ク濟濟蹢蹢タル則ハ、人敢テ暴慢セ不、顔色ヲ正フシ

テ、能ク矜莊嚴栗ナル則ハ、人敢テ欺誕セ（欺キ誕ラ）不、

【疏】

誕猶詐妄也、

誕ハ詐妄ノ猶シ、

【注】

出辭氣、能順而說之則、無惡戾之言入於耳也、

辭氣ヲ出シテ、能ク順ニシテ説クトキハ、惡戾（戾ノ言耳ニ入ルコト無シ、

【疏】

惡鄙醜也、戾背也、禮記云、言悖而出亦悖而入、若出能不悖、故鄙戾不入於耳也、

惡ハ鄙醜ナリ、戾ハ背ナリ、禮記ニ云ク、言悖ツ而出ルトキハ亦タ悖而入ル、若シ出スコト能キトキハ悖ラ不、故ニ鄙戾耳ニ入ラ不、

【經】

籩豆之事、則有司存、

籩豆ノ事ハ、有司存セリ、

【疏】

籩豆禮器也、竹曰籩、木曰豆、豆盛俎醢、籩盛菓實、竝容四升、柄尺二寸、下有跗也。舊云、敬子不存大事、大事即斥前三禮也、而好修飾籩豆、籩豆比三事、爲小事、故曾子先戒此三禮、若籩豆之事、付於有司不同汝也、有司謂典籩豆之官也、

籩豆ハ禮ノ器ナリ、竹ヲ籩ト曰ヒ、木ヲ豆ト曰フ、豆ハ俎<sup>ソ</sup>醢<sup>カイ</sup>ヲ盛ル、籩ハ菓實ヲ盛ル、竝ニ四升ヲ容ル、柄ハ尺ニ寸、下ニ跗<sup>アシ</sup>有リ。舊ニ云ク、敬子大事ヲ存セ<sup>サ</sup>不<sup>ス</sup>大事ハ即チ前<sup>マヘ</sup>ノ三禮ヲ斥ス、而ルニ好<sup>コノミ</sup>テ籩豆ヲ修飾<sup>シヨウ</sup>ス、籩豆ヲ三事ニ比スレハ、小事ト爲<sup>ス</sup>、故ニ曾子先ツ此ノ三禮ヲ戒ム、籩豆ノ事ノ若キハ、有司ニ付セヨ汝ニ同<sup>ワンシカラズ</sup>、有司トハ籩豆ヲ典<sup>ツカサト</sup>ルノ官ヲ謂フ、

【注】

苞氏曰、敬子忘大務小、故又戒之以此也、籩豆禮器也、

苞氏カ曰ク、敬子大ヲ忘レテ小ヲ務ム、故ニ又之ヲ戒ムルニ此ヲ以<sup>モテ</sup>ス、籩豆ハ禮ノ器ナリ、

【疏】

依<sup>ユヰ</sup>苞此注、亦得如舊說也。若欲又爲一通、亦得云、敬子好務小事、而忽略籩豆、故曾子云、汝不須務小、當使有司存於宗廟籩豆之禮也、而繆協別通云、籩豆禮器、可以致<sup>イダ</sup>於敬於宗廟者、言人能如上三貴、則祝史陳信無愧辭、故有司所存、籩豆而已<sup>ニ</sup>也、

苞カ此ノ注ニ依ルニ、亦舊說ノ如ナルコトヲ得。若シ又一通ヲ爲サント欲セハ、亦タ云フコトヲ得タリ、敬子好<sup>コノミ</sup>テ小事ヲ務テ、籩豆ヲ忽<sup>ワス</sup>レ<sup>（忽レ）</sup>略ス、故ニ曾子カ云ク、汝小ヲ務ム須<sup>ヘカ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、當ニ有司ヲ使<sup>シ</sup>テ宗廟籩豆ノ禮ヲ存セ使ム當シ、而ルヲ繆協別<sup>ワス</sup>ニ通シテ云ク、籩豆ハ禮ノ器ナリ、敬ヲ宗廟ニ致ス可シ、言ハ人能ク上ノ三貴ノ如キンハ、祝史信ヲ陳ルニ愧<sup>ハチ</sup>ル辭ハ無シ、故ニ有司ノ存スル所ハ、籩豆而已<sup>ニ</sup>ナリ、

(一) 「仲孫捷」、武内本無此三字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「言」、武内本無此字。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「也」、武内本無此字。

(六) 「謂」下、武内本有「成」字。

(七) 「嚴」、武内本作「儼」。

(八) 「濟」、武内本作「躋」。

(九) 「不」、武内本作「又」。

(一〇) 「倍」、武内本作「信」。

(一一) 「也」、武内本無此字。

(一二) 「之」、武内本無此字。

(一三) 「云」、武内本作「曰」。

(一四) 「同」、武内本作「關」。

(一五) 「依」、武内本無此字。

(一六) 「云」、武内本作「曰」。

(一七) 「云」、武内本作「曰」。

(一八) 「於」、武内本無此字。

(一九) 「也」、武内本無此字。

【經】

曾子曰、以能問於不能、

曾子カ曰ク、能ヲ以不能ニ問ヒ、

【疏】

此明顏淵德也、能才能也、時多競誇<sup>二</sup>、無而爲有、虛而爲盈、唯顏淵謙而反之也、顏淵實有才能、而恆如己不能、故見雖不能者、猶諮問衷求也、

此レハ顏淵カ德ヲ明ス、能ハ才ニ能ナリ、時ニ多ク競<sup>ケイ</sup>誇<sup>クハ</sup>シテ、無ケレトモ有リト爲<sup>シ</sup>、虛<sup>ムナシ</sup>ケレトモ盈<sup>ミ</sup>テレリト爲<sup>ス</sup>、唯タ顏淵ハ謙シテ之ニ反ス、顏淵ハ實ニ才能有テ、恆ニ己能アラ<sup>レ</sup>ルカ如シ、故ニ見ヘテ不能<sup>イヘトモ</sup>者ト雖、猶ヲ諮<sup>シ</sup>ヒ<sup>タ</sup>問テ衷<sup>ウラ</sup>シ<sup>ム</sup>（衷ニ）求ム、

【經】

以多問於寡、

多ヲ以寡ニ問フ、

【疏】

多謂識性之多也、己識雖多常不敢自言己多、故每問於寡識者也、

多トハ識性ノ多ヲ謂フ、己識<sup>オノレ</sup>多シト雖<sup>イヘトモ</sup>常ニ敢テ自<sup>ミツカラ</sup>己多シト言ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ每ニ寡識ノ者ニ問フ、

【經】

有若無、實若虛、

有<sup>あれとも</sup>無<sup>こと</sup>キカ若クシ、實<sup>ミ</sup>テレトモ虛<sup>むなし</sup>キカ若クス、

【疏】

又處人間、未曾以己之才德、爲有爲實、恆謙退如虛無也、

又人<sup>一</sup>間二處<sup>シテ</sup>、未<sup>カ</sup>タ曾<sup>かつ</sup>テ己カ才德ヲ以テ、有<sup>シ</sup>リト爲<sup>ミ</sup>實アリト爲<sup>ス</sup>未、恆<sup>ス</sup>謙退<sup>ス</sup>シテ虛無ノ如シ、

【經】

犯而不狃<sup>三</sup>、

犯セトモ狃<sup>カフ</sup>(狃)イ不<sup>ス</sup>、

【疏】

狃報也、人有惡加犯己者、己不報之也。殷仲湛云、能問不能、多問於寡、或疑其負實德之迹、似乎爲教而然。余以爲外假謙虛黃中之道、深<sup>五</sup>而用之、每事必然、夫推情在於忘賢、故自處若不足、處物以賢善、故期善於不能、因斯而言、乃虛中之素懷、處物之誠心、何言於爲教哉。犯而不狃

者、其亦不居物以非乎、推誠之理然也、非不爭事也、應物之迹異矣、其爲中虛一也、

狃ハ報ナリ、人惡ヲモテ己ニ加ヘ(加キ)犯ス者有レトモ、己之ヲ報イ不<sup>ス</sup>。殷仲湛カ云ク、能<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>二</sup>問<sup>一</sup>ヒ、多寡ニ問フ、或ルハ(或ルヒト)疑フ其<sup>レ</sup>實德ノ迹ニ負イテ、教ヲ爲スニ似テ而シテ然リ。余以爲ラク外謙<sup>ハ</sup>虛黃<sup>一</sup>中ノ道ヲ假テ、深シテ之ヲ用フ、事毎ニ必ス然リト(外謙<sup>ハ</sup>虛黃<sup>一</sup>中ノ道ヲ假テ、深シテ之ヲ用フ、事毎ニ必ス然リト以爲ヘリ)、夫レ情ヲ推シテ賢ヲ忘ニ在リ、故ニ自ラ<sup>ミツカ</sup>處スルコト足ラ不<sup>ル</sup>カ若シ、物ニ處スルニ賢<sup>一</sup>善ヲ以テス、故ニ善ヲ不<sup>レ</sup>能<sup>二</sup>期<sup>一</sup>ス、斯ニ因テ言ハハ、乃チ虛<sup>一</sup>中ノ素懷、物ニ處スルニ誠<sup>一</sup>心アリ、何ソ教ヘト爲<sup>ス</sup>ト言ンヤ。犯セトモ狃イ不<sup>ト</sup>ハ、其レ亦物ニ居ルニ非<sup>ハ</sup>ヲ以テ不<sup>ル</sup>カ、誠ヲ推スノ理<sup>一</sup>然リ、非<sup>ハ</sup>爭ハ不<sup>ル</sup>ノ事ナリ、物ニ應スルノ迹<sup>一</sup>異ナレトモ、其ノ中<sup>一</sup>虛ヲ爲ルコト一ナリ、

【注】

苞子曰、狃報也、言見侵犯而不狃之也、

苞子カ曰ク、狃ハ報ナリ、言<sup>ハ</sup>侵シ<sup>ル</sup>犯サ見レトモ狃ヒ不<sup>ス</sup>、



【經】

昔者吾友、嘗從事於斯矣、

昔<sup>ムカシ</sup>者吾カ<sup>レ</sup>友、嘗<sup>カ</sup>テ事斯ニ從イキ、

【疏】

友謂顏淵也、曾子言、唯昔吾友能爲上諸行也、江熙<sup>（九）</sup>云、稱吾友、言已所未能也、

友トハ顏淵ヲ謂<sup>イフ</sup>、曾子カ言ク、唯タ昔<sup>ヒカシ</sup>吾カ<sup>レ</sup>友能上ノ諸<sup>モトメ</sup>行ヲ爲ス、江熙カ云ク、吾カ<sup>レ</sup>友ト稱スルコトハ、言<sup>イフ</sup>ハ<sup>（一）</sup>己未タ能ハ未ル所ナリ、

【注】

馬融曰、友謂顏淵也、

馬融カ曰ク、友トハ顏淵ヲ謂フ、

（一）「競誇」、武内本作「誇競」。

（二）「狡」、武内本作「校」、下同。

（三）「湛」、武内本作「堪」。

（四）「云」、武内本作「曰」。

（五）「深」、武内本作「沖」。

（六）「事」、武内本無此字。

（七）「中」、武内本作「沖」。

（八）「於」、武内本無此字。

（九）「云」、武内本作「曰」。

【經】

曾子曰、可以託六尺之孤、

曾子カ曰ク、六尺ノ孤ヲ託ク可ク、

【疏】

託謂憑託也、六尺之孤、謂童子無父、而爲國君者也、年齒既幼<sup>（二）</sup>少、未能自立、故憑託大臣、如成王託周公者也、

託トハ憑<sup>（一）</sup>（憑ミ）トスルヲ謂フ、六尺ノ孤トハ、童子ノ父無シテ、而シテ國君爲ル者ヲ謂フ、年齒既ニ幼少ニシテ、未タ自立スルコト能ハ未、故ニ大臣ニ憑<sup>（二）</sup>トス、成王ヲ周公ニ託クルカ如キ者ナリ、

【注】

孔安國曰、六尺之孤、謂幼少君也、

孔安國カ曰ク、六尺ノ孤トハ、幼少ノ君ヲ謂フ、

【經】

可以寄百里之命、

百里ノ命ヲ寄ス可シ、

【疏】

百里、謂國也、言百里舉全數也、之命(三)謂國之教令也、幼君既未能行政、故寄冢宰攝之也、如周公攝政也。然幼孤言託、教令云寄者、有以故也、託是長憑無反之言、寄是暫寄有反之目也、君身尊重、故云託、示長憑於阿衡者也、教命待君年長、而還君自裁斷、是有反也、

百里トハ、國ヲ謂フ、言いふことハ百里トハ全數ヲ舉ク、之命トハ國ノ教令ヲ謂フ、幼君ニシテ既ニ未タ政ヲ行フコト能ハ未、故ニ冢宰ニ寄テ之ヲ攝セシム、周公ノ政ヲ攝スルカ如シ。然ルニ幼孤ニ託ト言ヒ、教令ニ寄ト云フコトハ、故有リ、託ハ是レ長クカタ憑ンテ反スコト無キノ言ナリ、寄ハ是レ暫ク寄テ反スコト有ルノ目ナリ、君ノ身ハ尊重ナリ、故ニ託ト云テ、長ク阿衡ニ憑ルコトヲ示ス者ナリ、教令ハ君ノ年長ヲ待テ、而シテ還ス君自裁みづからさい

斷ス(裁ハリ斷ハル)、是レ反スコト有ルナリ、

【注】

孔安國曰、攝君之政令也、

孔安國カ曰ク、君ノ政令ヲ攝スルソ、

【經】

臨大節、而不可奪也、

大節ニ臨テ、奪フ可へからず不スハ、

【疏】

國有大難、臣能死之、是臨大節、不可奪也、

國ニ大難有ルトキハ、臣能ク之ニ死ス、是レ大節ニ臨テ、奪フ可へからず不ス、

【注】

大節安國家、定社稷也、奪者不可傾奪(五)之也、

大節トハ國ノ家ヲ安シ、社稷ヲ定ムルソ、奪トハ傾ケレ奪

フ可<sup>へから</sup>不<sup>さ</sup>ルソ、

【經】

君子人與君子人也、

君<sup>か</sup>子人與君<sup>か</sup>子人ナリ、

【疏】

言爲臣能受託幼寄命、又臨大節不回、此是君子人與也、再言君子、美之深也、而繆協<sup>ふ</sup>云、夫能託六尺於其臣、寄顧命於其下、而我無貳心、彼無二節、授任而不失人、受任而不可奪、故必同乎君子之道、齊契而要終者也、非君子之人與、君子者、孰能要其終、而均其政乎、

言<sup>いふ</sup>ハ臣ト爲<sup>シ</sup>テ能ク幼ヲ託ケ命ヲ寄スルコトヲ受テ、又大<sup>一</sup>節ニ臨<sup>メ</sup>テ回<sup>ラ</sup>サ<sup>サ</sup>不<sup>ス</sup>、此レハ是レ君<sup>一</sup>子人<sup>一</sup>與<sup>か</sup>、再ヒ君子ト言フコトハ、之ヲ美ムルコトノ深ナリ、而ルヲ繆協カ云ク、夫レ能ク六<sup>一</sup>尺ヲ其ノ臣ニ託ケ、顧<sup>一</sup>命ヲ其ノ下ニ寄テ、我<sup>ハ</sup>貳<sup>ハ</sup>心<sup>（貳心）</sup>無ク、彼<sup>ハ</sup>二<sup>一</sup>節無シ、任ヲ授テモ人ヲ失セ不<sup>ス</sup>、任ヲ受テモ奪フ可<sup>ヘ</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ必ス君<sup>一</sup>子ノ道ト同シ、契<sup>（齊）</sup>ヲ齊<sup>（齊）</sup>シテ終ヲ要スル者ナリ、君<sup>一</sup>子ノ人<sup>一</sup>與<sup>か</sup>、君<sup>一</sup>子ニ非<sup>ハ</sup>シ<sup>ハ</sup>、孰カ能ク其ノ終リヲ要シテ、其ノ

政ヲ均<sup>ヒトシク</sup>センヤ、

【經】

曾子曰、士不可以不弘毅、

曾子カ曰ク、士ハ弘<sup>コウ</sup>毅<sup>ギ</sup>ナラ不<sup>ス</sup>ンハアル可<sup>ヘ</sup>不<sup>ス</sup>、

【疏】

士通謂丈夫也、弘大也、毅謂能弘果斷也、言丈夫居世、必使德行弘大而能果斷、

士トハ通シテ丈<sup>一</sup>夫ヲ謂フ、弘ハ大ナリ、毅トハ能ク弘ニシテ果斷ナルヲ謂フ、言<sup>いふ</sup>ハ丈<sup>一</sup>夫ハ世ニ居テ、必ス德

行ヲ使<sup>シ</sup>テ弘<sup>一</sup>大ニシテ能ク果<sup>一</sup>斷ナラ使ム、

【經】

任重而道遠、

任<sup>一</sup>重シテ道<sup>一</sup>遠シ、

【疏】

釋所以宜弘毅義也、即所任者重、所行者遠、故宜德大而能斷也、

宜ク弘<sup>一</sup>毅ナル宜キ所<sup>一</sup>以ノ義ヲ釋ク、即チ任トスル所ノ者ハ重ク、行ク所ノ者ハ遠シ、故ニ宜ク德<sup>一</sup>大ニシテ能ク斷ル宜シ、

【注】

荀氏曰、弘大也、毅弘<sup>三</sup>而能決斷也、士弘毅、然後能負重任、致遠路也、

荀氏カ曰ク、弘ハ大ナリ、毅ハ弘ニシテ能ク決斷スルソ、士ハ弘毅ニシテ、然シテ<sup>一</sup>後ニ能ク重<sup>一</sup>任ヲ負テ、遠路ニ致ス、

【經】

仁以爲己任、不亦重乎、

仁<sup>一</sup>以<sup>コレヲモ</sup>テ己カ任ト爲<sup>ス</sup>、亦<sup>一</sup>重カラ不ヤ、

【疏】

此解任重也、士既以仁爲平生之任、此任豈得不謂爲重乎、

此レハ任<sup>一</sup>重キヲ解ス、士ハ既ニ仁ヲ以テ平<sup>一</sup>生ノ任ト爲<sup>ス</sup>、此ノ任豈ニ謂テ重シト爲<sup>セ</sup>ズルコトヲ得ンヤ、

【經】

死而後已、不亦遠乎、

死シテ而シテ<sup>一</sup>後ニ已ム、亦タ<sup>一</sup>遠カラ不ヤ、

【疏】

此釋道遠也、已止也、言知行仁、不可小時而止、必至死乃後而止耳、至死乃止、此道豈不遠乎、

此レハ道ノ<sup>一</sup>遠コトヲ釋ス、已ハ止ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ仁ヲ行コトヲ知テ、小時モ止ム可<sup>ベ</sup>カラ不<sup>ス</sup>、必ス死ニ至テ乃チ後ニ止<sup>ヤ</sup>

ム耳、死ニ至テ乃チ止ム、此ノ道豈ニ遠カラ不ヤ、

【注】

孔安國曰、以仁爲己任、重莫重焉、死而後止、<sup>(四)</sup>遠莫遠焉也、

孔安國カ曰ク、仁ヲ以テ己カ<sup>ス</sup>任ト爲、重キコト焉ヨリ重キハ莫シ、死シテ而シテ<sup>レ</sup>後ニ止ム、遠キコト焉ヨリ遠キハ莫シ、

(一) 「弘」、武内本作「強」。

(二) 「斷」下、武内本有「也」字。

(三) 「弘」、武内本作「強」。

(四) 「止」、武内本作「已」。

【經】

子曰、興於詩

子ノ曰ク、詩ニ興リ<sup>のたまは</sup>

【疏】

此章明人學須次第也、興起也、言人學先從詩起、後乃次諸

典也、所以然者、詩有夫婦之法人倫之本、近之事父、遠之事君故也、又江熙<sup>(一)</sup>云、覽古人之志、可起發其志也、

此ノ章ニハ人ノ學ノ次第ヲ<sup>もちゐる</sup>須コトヲ明ス、興ハ起ナリ、<sup>いふこと</sup>言ハ人ノ學先ツ詩從リ起テ、後ニ乃チ諸典ニ次ク、然ル所<sup>ゆゑん</sup>以ハ、詩ニ夫婦ノ法人倫ノ本、近クハ父ニ事<sup>つかうまつ</sup>リ、遠クハ君ニ事ルコト有ルカ故ナリ、又江熙カ云ク、古人ノ志ヲ覽テ、其ノ志ヲ起發ス可シ、

【注】

荀氏曰、興起也、言修身當先學詩也、

荀氏カ曰ク、興ハ起ナリ、<sup>いふこと</sup>言ハ身ヲ修ムルコト當ニ先ツ詩ヲ學フ當シ、

【經】

立於禮、

禮ニ立チ、

【疏】

學詩已明、次又學禮也、所以然者、人無禮則死、有禮則

生、故學禮以自立身也、

詩ヲ學まなぶコト已ニ明ナリ、次ニ又禮ヲ學フ、然ル所以ハ、  
人ひと禮無キ則ハ死ス、禮有ル則ハ生ス、故ニ禮ヲ學テ自  
身ヲ立ツ、

【注】

荀氏曰、禮者所以立身也、

荀氏カ曰ク、禮ハ身ヲ立ル所以ナリ、

【經】

成於樂、

樂ニ成ル、

【疏】

學禮若畢、次宜學樂也、所以然者、禮之用和爲貴、行禮必  
須學樂、以和成己性也、

禮ヲ學コト若シ畢ラハ、次ニ宜ク樂ヲ學フ宜シ、然ル所  
以ハ、禮ノ用ハ和ヲ貴シト爲ス、禮ヲ行フハ必ス須ク樂ヲ學

テ、己カ性ヲ和成ス須シ、

【注】

孔安國曰、樂所以成性也、

孔安國カ曰ク、樂ハ性ヲ成ス所以ナリ、

【疏】

王弼云、言有爲政之次序也。夫喜懼哀樂民之自然、應感而  
動則發乎聲歌、所以陳詩採謠以知民志風、既見其風、則損  
益基焉、故因俗立制、以達其禮也。矯俗檢刑、民心未化、  
故又感以聲樂、以和神也。若不採民詩、則無以觀風、風乖  
俗異則、禮無所立。禮若不設則、樂無所樂、樂非禮、則功  
無所濟、故三體相扶、而用有先後也。侃案輔嗣之言、可思  
也。且案内則明學次第、十三舞勺、十五舞象、二十始學  
禮、惇行孝悌、是先學樂、後乃學禮也、若欲申此注、則當  
云先學舞勺舞象、皆是舞詩耳、至廿學禮之後、備聽八音之  
樂、和之以終身成性、後云樂也、

王弼カ云ク、言ハ政ヲ爲スノ次序有リ。夫レ喜懼哀  
樂ハ民ノ自ラ然ナリ、感ニ應シテ動ク則ハ聲歌ニ發ス、  
所以ニ詩ヲ陳ヘ謠ヲ採テ民ノ志風ヲ知ル、既ニ其ノ風ヲ

見ル、則ハ損益焉これヲ基ス、故ニ俗ニ因テ制ヲ立テ、其ノ  
 禮ヲ達ス。俗ヲ矯シタタ刑ヲ檢テ、民ノ心未化セ未、故ニ  
 又感スルニ聲樂ヲ以テシテ、以テ神ヲ和ス。若シ民ノ詩  
 ヲ採ラ不シハ、風ヲ觀ルコト無シ、風乖ツム俗異ナル則  
 ハ、禮立スル所無シ。禮若シ設ケ不ル則ハ、樂樂ム所無  
 シ、樂禮ニ非トキハ、功濟ス所無シ、故ニ三體相ヒタス扶  
 ケテ、而シテ用ルコト先チ後有リ。侃輔嗣カ言ヲ案、思  
 フ可シ。且夕内則ヲ案スルニ學ノ次第ヲ明ス、十二ニシ  
 テ勺ヲ舞シ、十五ニシテ象ヲ舞シ、二十ニシテ始テ禮ヲ  
 學テ、悌アツ孝悌ヲ行フト、是レ先ツ樂ヲ學テ、後ニ乃シ  
 禮ヲ學フナリ、若シ此ノ注ヲ申ヘント欲ハ、當ニ云フ當  
 シ先ツ勺ヲ舞シ象ヲ舞スコトヲ學フトハ、皆是レ詩ヲ舞ス  
 耳、廿ニ至テ禮ヲ學テ後、備ニ八音ノ樂ヲ聽テ、之ニ和  
 シテ身ヲ終ヘ性ヲ成ス、後ニ樂ト云フ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「有」、武内本無此字。
- (四) 「舞」、武内本作「舞」、下同。
- (五) 「廿」武内本作「二十」。
- (六) 「之」武内本無此字。
- (七) 「後」上、武内本有「故」字。

【經】  
 子曰、民可使由之、不可使知之、

子ノ曰ク、民ニハ由イ使ム可、知ラ使ム可不、

【疏】

此明天道深遠、非人道所知也、由用也、元亨日新之道、百  
 姓日用、而生、故云、可使由之也、但雖日用、而不知其所  
 以、故云不可知之也。張憑云、爲政以德則、各得其性、天  
 下日用而不知、故曰可使由之、若爲政以刑則防民之爲奸、  
 民知有防、而爲奸彌巧、故曰、不可使知之、言爲政當以  
 德、民由之而已、不可用刑民知其術也、

此レハ天道ハ深遠ニシテ、人道ノ知ル所ニ非ルコトヲ  
 明ス、由ハ用ナリ、元亨日新ノ道ハ、百姓日ニ用テ、  
 生ス、故ニ云ク、由イ使ム可シト、但夕日ニ用ト雖モ、  
 其ノ所以ヲ知不、故ニ云ク知ラシム可不ト。張憑カ云  
 ク、政ヲ爲ルニ德ヲ以スル則ハ、各其ノ性ヲ得テ、  
 天下日ニ用テ知ラ不、故ニ曰ク由イ使ム可シト、若シ  
 政ヲ爲ルコト刑ヲ以テスル則ハ民ノ奸（奸シキ）ヲ爲ス  
 コトヲ防ク、民防コト有ルコトヲ知テ、奸ヲ爲スコト彌

巧ナリ、故ニ曰ク、知ラ使ム可<sup>ヘ</sup>不<sup>カ</sup>ト、言<sup>コト</sup>ハ政ヲ爲<sup>ス</sup>ルニ當<sup>タ</sup>ニ德ヲ以テス當シ、民之ヲ由<sup>モ</sup>ル而<sup>シテ</sup>已<sup>ミ</sup>、刑ヲ用テ民ニ其ノ術ヲ知ラシム可<sup>ヘ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、

【注】

由<sup>ヨ</sup>用<sup>ウ</sup>之<sup>ノ</sup>也、可<sup>コ</sup>使<sup>シ</sup>用<sup>ウ</sup>而<sup>シテ</sup>不<sup>カ</sup>可<sup>ヘ</sup>使<sup>シ</sup>知<sup>ル</sup>者、百<sup>ヒャク</sup>姓<sup>セイ</sup>能<sup>ス</sup>日<sup>ニ</sup>用<sup>ウ</sup>、而<sup>シテ</sup>不<sup>カ</sup>能<sup>ス</sup>知<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>、

由<sup>ヨ</sup>ハ用<sup>ウ</sup>、用<sup>ウ</sup>ヒ使<sup>シ</sup>ム可<sup>ヘ</sup>シ知<sup>ル</sup>ラ使<sup>シ</sup>ム可<sup>ヘ</sup>不<sup>カ</sup>トハ、百<sup>ヒャク</sup>姓<sup>セイ</sup>ハ能<sup>ス</sup>ク日<sup>ニ</sup>用<sup>ウ</sup>テ、知<sup>ル</sup>ルコト能<sup>ス</sup>ハ不<sup>ス</sup>、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「之」、武内本無此字。

(三) 「之」、武内本作「也」。

【經】

子曰。好<sup>コト</sup>勇<sup>ユウ</sup>疾<sup>シキ</sup>貧<sup>ヒン</sup>亂<sup>ラン</sup>也、

子ノ曰ク、勇ヲ好テ貧ヲ疾ムハ亂ナリ、

【疏】

好<sup>コト</sup>勇<sup>ユウ</sup>之<sup>ノ</sup>人、若<sup>シ</sup>能<sup>ス</sup>樂<sup>ラク</sup>道<sup>ダウ</sup>自<sup>ミツ</sup>居<sup>カラ</sup>、此<sup>コノ</sup>乃<sup>ハ</sup>爲<sup>ス</sup>可<sup>シ</sup>耳、若<sup>シ</sup>不<sup>カ</sup>能<sup>ス</sup>樂<sup>ラク</sup>道<sup>ダウ</sup>、而<sup>シテ</sup>憎<sup>ミ</sup>疾<sup>シキ</sup>己<sup>ミ</sup>之<sup>ノ</sup>貧<sup>ヒン</sup>賤<sup>セン</sup>、則<sup>スレバ</sup>此<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>爲<sup>ス</sup>亂<sup>ラン</sup>也、故<sup>ニ</sup>繆<sup>ミウ</sup>協<sup>キョウ</sup>云<sup>フ</sup>、好<sup>コト</sup>勇<sup>ユウ</sup>則<sup>スレバ</sup>剛<sup>コウ</sup>武<sup>ブ</sup>、疾<sup>シキ</sup>貧<sup>ヒン</sup>則<sup>スレバ</sup>多<sup>タ</sup>怨<sup>オン</sup>、以<sup>テ</sup>多<sup>タ</sup>怨<sup>オン</sup>之<sup>ノ</sup>人、習<sup>ス</sup>於<sup>ニ</sup>武<sup>ブ</sup>事<sup>シ</sup>、是<sup>レ</sup>使<sup>シ</sup>之<sup>ノ</sup>爲<sup>ス</sup>亂<sup>ラン</sup>也、

勇ヲ好ムノ人、若<sup>シ</sup>能<sup>ス</sup>ク道ヲ樂テ自<sup>ミツ</sup>居<sup>カラ</sup>ルハ、此<sup>レ</sup>乃<sup>ハ</sup>シ<sup>シ</sup>可<sup>シ</sup>ナリト爲<sup>ス</sup>ル耳、若<sup>シ</sup>道ヲ樂ムコト能ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>シテ、己<sup>ミ</sup>カ貧<sup>ヒン</sup>賤<sup>セン</sup>ヲ憎<sup>ミ</sup>疾ム、則<sup>スレバ</sup>此<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>亂<sup>ラン</sup>ヲ爲<sup>ス</sup>、故<sup>ニ</sup>繆<sup>ミウ</sup>協<sup>キョウ</sup>カ云<sup>フ</sup>ク、勇ヲ好ム則<sup>スレバ</sup>剛<sup>コウ</sup>武<sup>ブ</sup>ナリ、貧<sup>ヒン</sup>ヲ疾ム則<sup>スレバ</sup>怨<sup>オン</sup>多<sup>タ</sup>シ、怨<sup>オン</sup>多<sup>タ</sup>キノ人ヲ以テ、武ノ事ヲ習スハ、是<sup>レ</sup>之<sup>ノ</sup>ヲ使<sup>シ</sup>テ亂<sup>ラン</sup>ヲ爲<sup>ス</sup>ナ<sup>ス</sup>使<sup>シ</sup>ム、

【注】

荀氏曰、好<sup>コト</sup>勇<sup>ユウ</sup>之<sup>ノ</sup>人、而<sup>シテ</sup>患<sup>ム</sup>疾<sup>シキ</sup>己<sup>ミ</sup>貧<sup>ヒン</sup>賤<sup>セン</sup>者、必<sup>ズ</sup>將<sup>ス</sup>爲<sup>ス</sup>亂<sup>ラン</sup>也、

荀氏カ曰ク、勇ヲ好ムノ人ニシテ、己<sup>ミ</sup>カ貧<sup>ヒン</sup>賤<sup>セン</sup>ヲ患<sup>ム</sup>疾<sup>シキ</sup>ム者ハ、必<sup>ズ</sup>將<sup>ス</sup>ニ亂<sup>ラン</sup>ヲ爲<sup>ス</sup>サント將<sup>ス</sup>ルナリ、

【經】

人而不仁、疾之已甚亂也、

人トシテ仁アラ不<sup>ス</sup>ルヲ、之<sup>ノ</sup>ヲ疾ムコト已<sup>ミ</sup>ニ甚<sup>シ</sup>シキトキハ亂



ナリ、

【疏】

夫不仁之人、當以理將養冀其感悟、若復憎疾之太甚則、此不仁者、近無所在、必爲逆亂也、故鄭康成云、不仁人、疾之太甚、是使之爲亂也、

夫不仁ノ人ハ、當ニ理ヲ以テ將ニ養テ其ノ感<sup>コイ</sup>悟<sup>イ</sup>ヲ冀<sup>カ</sup>フ當シ、若シ復之ヲ憎ミ<sup>また</sup>疾ムコト太<sup>ハな</sup>甚シキ則ハ、此ノ不<sup>へ</sup>仁ノ者、近クコト所<sup>ト</sup>在無シ、必ス逆<sup>ハな</sup>亂ヲ爲ス、故ニ鄭康成カ云ク、不<sup>へ</sup>仁ノ人ヲ、之ヲ疾ムコト太<sup>ハな</sup>甚シキトキハ、是レ之ヲ使<sup>シ</sup>テ亂ヲ爲サ<sup>ナ</sup>使ム、

【注】

孔安國曰、疾惡太甚、亦使其爲亂也、

孔安國カ曰ク、惡ヲ疾ムコト太<sup>ハな</sup>甚シキトキハ、亦其ヲ使<sup>ナ</sup>テ亂ヲ爲サ<sup>シ</sup>使ム、

- (一) 「爲」、武内本作「可」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「復」、武内本無此字。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、如有周公之才之美、設使驕且吝<sup>(二)</sup>、其餘不足觀也已矣<sup>(三)</sup>、  
子ノ曰ク、如シ周公ノオノ美ナル有ルモ、設<sup>ケ</sup>使<sup>キ</sup>驕<sup>コ</sup>リ且<sup>モ</sup>ツ吝<sup>ヤラサカシ</sup>ラハ、其ノ餘觀ルニ足ラ不ラク已<sup>ノミ</sup>、

【疏】

其餘、謂周公之才伎也、言人假令有才能如周公旦之美、而用行驕恠、則所餘如周公之才伎者、亦不足復可觀者、以驕沒才也、故王弼云、人之才美如周公、設使驕恠、其餘無可觀者、言才美以驕恠棄也、況驕恠者必無周公才美乎、假無設有以其驕恠之鄙也

其ノ餘トハ、周公ノオ<sup>イ</sup>伎ヲ謂フ、言<sup>コト</sup>ハ人假<sup>タト</sup>令<sup>イ</sup>オ<sup>イ</sup>能<sup>イ</sup>周公旦ノ如キ美有トモ、行ヲ用ルコト驕<sup>コ</sup>リ恠<sup>ヤラサカシ</sup>ラハ、餘マル所ノ周公ノオ<sup>イ</sup>伎ノ如クナルハ、亦復タ觀ル可<sup>ヘ</sup>ニ足<sup>タラ</sup>ズル者ナリ、驕ヲ以オ<sup>イ</sup>ラ沒ス、故ニ王弼カ云ク、人ノオノ美周公ノ如クナルモ、設<sup>ケ</sup>使<sup>キ</sup>驕<sup>コ</sup>リ恠<sup>ヤラサカシ</sup>ラハ、其ノ餘ハ觀ル可<sup>ヘ</sup>キ無シトハ、言<sup>コト</sup>ハオ<sup>イ</sup>美驕<sup>コ</sup>リ恠<sup>ヤラサカシ</sup>ヲ以テ棄ツ、況ヤ驕<sup>コ</sup>リ恠<sup>ヤラサカシ</sup>ノ者必ス周公ノオ<sup>イ</sup>美無<sup>ナカ</sup>ラヤ、假<sup>タト</sup>ヒ無<sup>ナカ</sup>キモ設<sup>ケ</sup>ヒ有ルモ其ノ

驕<sup>イ</sup>恠<sup>イ</sup>ヲ以テセハ鄙ナリ

【注】

孔安國曰、周公者周公旦也、

孔安國カ曰ク、周公ハ周公旦ソ、

(一) 「吝」、武内本作「恪」。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、三年學不至於穀、不易得也已、

子ノ曰ク、三年學テ穀<sup>ヨキ</sup>ニ至<sup>いた</sup>ラズハ、得<sup>へ</sup>易カラ不<sup>さ</sup>ラク已<sup>ノミ</sup>、

【疏】

勸人學也、穀善也、言學三年者、必至於善道也、若三年學而不至善道者、必無此理也、故云、不易得已也。孫綽云、穀祿也、云三年學足以通業、可以得祿、雖時不得祿、得祿之道也、不易得已者、猶云不易已得也、此教勸中人已下也、

人ヲ學ニ勸ム、穀ハ善ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ學コト三年ナル者ハ、必<sup>かならず</sup>善<sup>まなひ</sup>道ニ至ル、若シ三年學<sup>テ</sup>而善<sup>す</sup>道ニ至ラ<sup>ず</sup>ンハ、必ス此ノ理無ケン、故ニ云ク、得<sup>へ</sup>易カラ不<sup>さ</sup>ラク已<sup>ノミ</sup>、孫綽カ云ク、穀ハ祿ナリ、云ク三年學テ業ニ通スルニ足テ、祿ヲ得可シ、時ニ祿ヲ得<sup>いへ</sup>不<sup>とも</sup>ト雖、祿ヲ得ルノ道ナリ、得<sup>ウ</sup>易カラ不<sup>さ</sup>ラク已<sup>ノミ</sup>ト者、猶<sup>なほ</sup>シ已<sup>レ</sup>ニ得<sup>へ</sup>易カラ不<sup>さ</sup>ト云ハシカ猶<sup>こと</sup>シ、此レハ中人已<sup>レ</sup>下ヲ教ヘ勸ム、

【注】

孔安國曰、穀善也、言人三歲學、不至於善、不可得、言必無及也、所以勸人於學也、

孔安國カ曰ク、穀ハ善ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ人三歲學テ、善キニ至<sup>いた</sup>ラ<sup>ず</sup>ンハ、得<sup>う</sup>可<sup>か</sup>ラ不<sup>いふこと</sup>ト、言<sup>いふこと</sup>ハ必<sup>かならず</sup>及<sup>か</sup>フコト無シ、人ヲ學ニ勸ムル所以ナリ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、篤信好學、

子ノ曰ク、信ニ篤クシテ學ヲ好ム、

【疏】

此章教人立身法也、令篤厚於誠信、而好學先王之道也、

此ノ章ニハ人ノ身ヲ立ルノ法ヲ教フ、誠<sub>一</sub>信ニ篤<sub>一</sub>厚ニシテ、好テ先王ノ道ヲ學ハ令ム、

【經】

守死善道、

死ヲ善<sub>一</sub>道ニ守ル、

【疏】

寧爲善而死、不爲惡而生、故云守死善道也、

寧口善ヲ爲シテ死スレトモ、惡ヲ爲シテ生セ不<sub>ス</sub>、故ニ云<sub>ノたまは</sub>ク死ヲ善<sub>一</sub>道ニ守ルト、

【經】

危邦不入、

危<sub>一</sub>邦ニ入ラ不<sub>ス</sub>、

【疏】

謂初仕時也、見彼國將危、則不須入仕也、

初テ仕ル<sub>一</sub>時ヲ謂フ、彼ノ<sub>一</sub>國ノ將ニ危カラント將ルヲ見テハ、須ク入テ仕フ<sub>ハ</sub>須不<sub>ス</sub>、  
(へから)

【經】

亂邦不居、

亂<sub>一</sub>邦ニ居ラ不<sub>ス</sub>、

【疏】

謂我國已亂則、宜避之不居住也、然亂時不居、則始危時猶居也、危者不入、即亂故宜不入也、

我カ國<sub>一</sub>已ニ亂ルル<sub>ときん</sub>則ハ、宜ク之ヲ避テ居<sub>一</sub>住セ不<sub>ス</sub>ル宜キコトヲ謂フ、然レハ亂ノ時ハ居ラ不<sub>ス</sub>ル、則ハ始メ危キ<sub>ハ</sub>時ハ猶ヲ居ル、危キニ<sub>一</sub>者入不<sub>ス</sub>ルコトハ、即チ亂ルルカ<sub>一</sub>故ニ宜ク入ラ不<sub>ス</sub>ル宜シ、  
へ

【經】

天下有道則見、

天<sup>ト</sup>下<sup>カ</sup>道<sup>ミチ</sup>有<sup>アル</sup>ル<sup>ル</sup>則<sup>スナハチ</sup>ハ見<sup>ミ</sup>へ、

【疏】

天下謂天子也、見謂出仕也、若世王有道則、宜出仕也、

天<sup>ト</sup>一<sup>ニ</sup>下<sup>カ</sup>トハ天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>ヲ謂<sup>イハ</sup>フ、見<sup>ミ</sup>トハ出<sup>デ</sup>テ仕<sup>シ</sup>ヲ謂<sup>イハ</sup>フ、若<sup>シ</sup>世<sup>セ</sup>王<sup>ワ</sup>道<sup>ミチ</sup>有<sup>アル</sup>ル<sup>ル</sup>則<sup>スナハチ</sup>ハ、宜<sup>ヨク</sup>ク出<sup>デ</sup>テ仕<sup>シ</sup>フ宜<sup>ヘ</sup>シ、

【經】

無道則隱、

道<sup>ミチ</sup>無<sup>ク</sup>キ<sup>ニ</sup>則<sup>スナハチ</sup>ハ隱<sup>カクレ</sup>ル、

【疏】

若時王無道、則隱枕石漱流也、<sup>(三)</sup>

若<sup>シ</sup>時<sup>トキ</sup>ノ王<sup>ワ</sup>道<sup>ミチ</sup>無<sup>ク</sup>キ<sup>ニ</sup>、則<sup>スナハチ</sup>ハ隱<sup>カクレ</sup>テ石<sup>イシ</sup>ニ枕<sup>マクラ</sup>シ流<sup>ナガレ</sup>ニ漱<sup>クサス</sup>ク、

【注】

荀氏曰、言行當常然也、危邦不入、謂始欲往也、亂邦不居、今欲去也、臣弑君子弑父亂也、危者將亂之兆也、

荀氏カ曰ク、言行當ニ常ニ然ル當シ、危邦ニ入ラ不トハ、始メテ往カマク欲スルヲ謂フ、亂邦ニ居ラ不トハ、今去ラマク欲スルヲ、臣君ヲ弑シ子父ヲ弑スルハ亂ナリ、危ト者將ニ亂レント將ルノ兆<sup>キサシ</sup>（兆）ナリ、

【疏】

陳文子棄馬十乘、而去、是亂邦不居也、

陳文子馬十乘ヲ棄テ、去ル、是レ亂邦ニ居ラ不ルナリ、

【經】

邦有道、貧且賤焉恥也、

邦道有ルトキニ、貧シク且ツ賤シキハ恥ナリ、

【疏】

國君有道、則宜運我才智、佐時出仕、宜始得富貴而已、獨貧賤、則是才德淺薄、不會明時、故爲可恥也、<sup>(三)</sup>

國君道有ル、則ハ宜ク我カ才智ヲ運ンテ、時ヲ佐ケ出テ仕テ、宜ク始テ富貴ヲ得宜キ而已、獨リ貧賤ナルハ、是レ才德淺薄ニシテ、明時ニ會ハス、故ニ恥ツ可シト

爲<sup>す</sup>、

【經】

邦無道、富且貴焉恥也、

邦道無キトキニ、富且ツ貴キハ恥ナリ、

【疏】

國君無道、而已出仕招致富貴、則是己亦無道、得會惡逆之君、故亦爲可恥也。江熙云、不枉道而事人、何以致無道寵、寵所以恥也。夫山林之士、咲朝廷之人、束帶立朝、不獲逍遙也、在朝者、亦諂山林之士徧厄也、各是其所是、而非其所非、是以、夫子兼知出處之義、明屈申貴於當時也、

國君無道ニシテ、而シテ己出テ仕テ富貴ヲ招キ致スハ、是レ己亦タ無道ニシテ、惡逆ノ君ニ會コトヲ得、故ニ亦恥ツ可シト爲。江熙カ云ク、道ヲ枉テ人ニ事ヘ不シハ、何ヲ以テカ無道ノ寵ヲ致サン、寵ハ恥ル所以ナリ。夫レ山林ノ士ハ、朝廷ノ人ノ、束帶シテ朝ニ立テ、逍遙ヲ獲不コトヲ咲ヒ、朝ニ在ル者ハ、亦山林ノ士ノ徧厄ナルコトヲ諂ツテ、各其ノ是トスル所ヲ是トシ、其非トスル所ヲ非スト、是ヲ以テ、夫子出處ノ義ヲ兼ネ知

テ、屈申ノ當時ニ貴コトヲ明ス、

【經】

子曰、不在其位、不謀其政也、

子ノ曰ク、其ノ位ニ在ラ不レハ、其ノ政ヲ謀ラ不<sup>まつりごと</sup>、

【注】

孔安國曰、欲各專一於其職也、

孔安國カ曰ク、各其ノ職ヲ專一ニセンコトヲ欲<sup>ほつす</sup>、

【經】

子曰、師摯之始闕雉之亂、洋洋乎盈耳哉、

子ノ曰ク、師摯シ關雎シヨノ亂ヲ始ムルトキニ（始メテ）、洋カサ乎トシテ耳ニ盈ミテル哉、

【疏】

師魯大師也、摯大師名也、始首也、關雎詩篇也、洋洋聲盛也、于時禮樂崩壞、正聲散逸、唯魯大師猶識關雎之聲、而首理調定、使聲盛盈於耳聽也、

師ハ魯ノ大一師ナリ、摯ハ大師ノ名ナリ、始ハ首ナリ、關雎ハ詩ノ篇ナリ、洋ヤ洋ハ聲ノ盛ナルナリ、時于禮樂崩壞ヤフルテ、正一聲散逸ス、唯タ魯ノ大師猶ヲ關雎ノ聲ヲ識テ、首ハシメ理メ調ヘ定テ、聲ヲ使テ盛ニシテ耳一聽ニ盈テ使ム、

【注】

鄭玄曰、師摯魯大師之名也、始猶首也、周道既衰微、鄭衛之音作、正樂廢而失節、魯大師摯識關雎之聲、而首理其亂（三）、洋洋乎盈耳哉、聽而美也、

鄭玄カ曰ク、師摯ハ魯大師ノ名ナリ、始ハ首ノ猶シ、周道既ニ衰微ニシテ、鄭衛ノ音作リ、正樂廢シテ節ヲ失ス、魯ノ大師摯關雎ノ聲ヲ識テ、首ハシメテ其ノ亂ヲ理ム、洋洋乎トシテ耳ニ盈テル哉トハ、聽テ美ムルソ、

【疏】

侃謂、即前篇孔子語其樂曰、樂其可知、始作翕如之屬、而其受孔子言、而理之得正也、

侃謂ラク、即チ前篇ニ孔子其ノ樂ヲ語テ曰ク、樂ハ其レ知ヌ可ラクノミ、始テ作ストキニ翕如タリトイフノ屬ナリ、其レ孔子ノ言ヲ受テ、之ヲ理メテ正ヲ得ルケラシ、

（二）「大師」、武内本作「太師」、下疏同。

（二）「亂」下、武内本有「者」字。

【經】

子曰、狂而不直、

子ノ曰ク、狂ニシテ直ナラヌ、

【疏】

此章歎時世與古反也、狂者用行宜直趣無廻不俟於善惡、而當時狂者、不復直也、故下卷則云、古之狂也肆、今之狂也蕩、

此ノ章ニハ時世（一）古與反スルコトヲ歎ス、狂者ハ行ヲ用

ルコト宜ク直ニ趣オモムイテ廻メグラスコト無ク善イデ惡アクヲ俟マタ  
 (俟ウカカワ)不ズル宜シ、而ルヲ當時ノ狂キヤウ者ハ、復ヘタ直ナラ  
 不ズ、故ニ下ス一ニ卷ニ則チ云ク、古ノ狂ハ肆シナリ(肆ホシイマナリ)、  
 今ノ狂ハ蕩タウナリ、

## 【注】

孔安國曰、狂者進取宜直也、

孔安國カ曰ク、狂者ハ進テ取ル宜ク直ナル宜シ、

## 【經】

侗而不愿、

侗トウニシテ愿ツツシナラ(愿マ)不ズ、

## 【疏】

侗謂籠侗未成器之人也、愿謹愿也、人幼未成人者、情性宜  
 謹愿、而當時幼者、亦不謹愿也、

侗トハ籠カゴ侗未タ器ト成ラ未ルノ人ヲ謂フ、愿ハ謹ゲン愿ナ  
 リ、人ニ幼ニシテ未タ人ト成ラ未ル者ハ、情セウ性宜ク謹ゲン愿

ナル宜シ、而ルヲ當時ノ幼者ハ、亦謹愿ナラズ不ズ、

## 【注】

孔安國曰、侗未成器之人也、宜謹愿、

孔安國カ曰ク、侗ハ未タ器ト成ナラ未ルノ人ナリ、宜ク謹愿  
 ナル宜シ、

## 【疏】

謹愿無情愿貌也

謹ツツシ愿ハ情無シテ愿カタチム貌

## 【經】

恹恹而不信、

恹ツツシ恹ツツシニシテ信アラ不ズシハ、

## 【疏】

恹恹謂野慤也、野慤之人、宜可信、而于時野慤者、皆詐詭  
 不復可信也、

控<sup>カ</sup>控<sup>カ</sup>トハ野<sup>ノ</sup>慤<sup>コ</sup>（慤<sup>ニ</sup>）ヲ謂フ、野<sup>ノ</sup>慤<sup>コ</sup>ノ人ハ、宜ク信アル可シ、而ルヲ時<sup>ツクシム</sup>于野<sup>ノ</sup>慤<sup>コ</sup>ノ者、皆詐<sup>イツハ</sup>リ詭<sup>タカ</sup>テ（詭<sup>イツハ</sup>テ）復<sup>フタ</sup>タ信アル可<sup>ヘカ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、

【注】

荀氏曰、慤<sup>コ</sup>慤<sup>コ</sup>慤<sup>コ</sup>、宜可信也、

荀氏カ曰ク、慤<sup>カク</sup>慤<sup>カク</sup>ハ慤<sup>コ</sup>ノ、宜ク信アル可シ、

【經】

吾不知之矣、

吾知<sup>ワレ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、

【疏】

既與古時反、故孔子云、非復我能知測也。王弼云、夫推誠訓俗、則民僞自化、求其情僞、則嶮心茲應、是以聖人務使民皆歸厚、不以探幽爲明、務使姦僞不興、不以先覺爲賢、故雖明竝日月、猶曰不知也、

既ニ古<sup>コ</sup>時與反<sup>ト</sup>ス、故ニ孔<sup>ノ</sup>子ノ云ク、復<sup>フタ</sup>タ我カ能ク知リ

測<sup>ハ</sup>ルニ非ス。王弼カ云ク、夫レ誠ヲ推シテ俗ヲ訓<sup>フシユ</sup>ル、則<sup>トキ</sup>ハ民ノ僞<sup>ヲのつから</sup>リ自<sup>ニ</sup>化<sup>ス</sup>ス、其ノ情<sup>ニ</sup>僞ヲ求ムル、則<sup>トキ</sup>ハ嶮<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>茲ニ應<sup>ス</sup>ス、是ヲ以テ聖人ハ務テ民ヲ使<sup>シ</sup>テ皆厚ニ歸セ<sup>ミナ</sup>シム、幽ヲ探ルヲ以<sup>モテ</sup>明ト爲<sup>セ</sup>ス不<sup>ス</sup>、務<sup>ニ</sup>テ姦<sup>カン</sup>僞ヲ使<sup>シ</sup>テ興<sup>ス</sup>ラ不<sup>ス</sup>ラ使<sup>シ</sup>ム、先覺ヲ以テ賢ト爲<sup>セ</sup>ス不<sup>ス</sup>、故ニ明日<sup>ニ</sup>月ト竝フト雖<sup>イヘトモ</sup>、猶<sup>ナ</sup>ヲ曰<sup>フ</sup>ク知<sup>ラ</sup>ス不<sup>ス</sup>ト、

【注】

孔安國曰、言皆與常度反、故我不知也、

孔安國カ曰ク、言<sup>イハコト</sup>ハ皆常ノ度<sup>ミナ</sup>（度<sup>ノリ</sup>）與反<sup>ト</sup>ス、故ニ我知<sup>ワレ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、

- (一) 「直」上、武内本有「其」字。
- (二) 「愿」下、武内本有「也」字。
- (三) 「復」下、武内本有「宜」字。
- (四) 「慤」下、武内本有「也」字。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「嶮」、武内本作「儉」。



【經】

子曰、學如不及、猶恐失之、

子ノ曰ク、學ハ及ハ不ルカ如クシ（如シ及ハ不ンハ）、猶シ失テ<sup>うしなつ</sup>ンコトヲ恐ルルカ猶クス、

【疏】

言學之爲法、急務取得、恆如逐前人欲取必及、故云、如不及也、又學若有所得、則戰戰持之、猶如人執物恆恐去失、當錄之爲意也、

言ハ學ノ法爲ルコト、急ニ務メテ得ルコトヲ取ル、恆ニ前ナル人ヲ逐テ必ス及ハンコトヲ取ント欲スルカ如シ、故ニ云ク、及ハ不ルカ如クスト、又タ學テ若シ得ル所有ル、則ハ戰戰トシテ之ヲ持ツコト、猶シ人ノ物ヲ執テ恆ニ去失センコトヲ恐ルルカ如クス、當ニ之ヲ錄シテ意ト爲當シ、

【注】

學自外入至、熟乃可長久、如不及、猶恐失之耳也、

學ハ外自<sup>ほか</sup>り入リ至ル、熟シテ乃シ長久ナル可シ、如シ及

ハ不ンハ、猶シ失テ<sup>うしなつ</sup>ンコトヲ恐ルルカ猶クスル耳、

【疏】

如注意、則云、如若也、言人學宜熟、若學而不及於熟、雖得猶恐失之也。李充云、學有交勞、而無交利、自非天然好樂者、則易爲懈矣、故如懼不及、猶恐失之、況可怠乎。繆協稱中正曰、學自外來、非夫內足、恆不懈惰、乃得其用、如不及者已及也、猶恐失者、未失也、言能恐失之、則不失、如不及、則能及也、

注ノ意ノ如キンハ、則チ云ク、如ハ若ナリ、言ハ人ノ學ハ宜ク熟ス宜シ、若シ學テ熟スルニ及ハ不ンハ、得ルト雖モ猶ヲ失テ<sup>うしなつ</sup>ンコトヲ恐ルルカ猶クニス。李充カ云ク、學ハ交勞スルコト有テ、交利スルコト無シ、天<sup>コトモ</sup>然好樂ノ者ニ非ス自リンハ、懈ルコトヲ爲シ易シ、故ニ及ハ不ランコトヲ懼ルルカ如クニス、猶シ之ヲ失テ<sup>うしなつ</sup>ンコトヲ恐ルルカ猶クス、況ヤ怠タル可ケンヤ。繆協中<sup>ツネ</sup>正ヲ稱シテ曰ク、學ハ外自<sup>ほか</sup>り來ル、夫ノ内ヨリ足ルニ非ス、恆ニ懈リ<sup>ヨク</sup>惰ヲ不レハ、乃チ其ノ用ヲ得、及ハ不ルカ如クナル者ハ已ニ及フ、猶シ失テ<sup>うしなつ</sup>ンコトヲ恐ルルカ猶クナル者ハ、未タ失セ未<sup>なほ</sup>、言ハ能ク之ヲ失テ<sup>うしなつ</sup>ンコトヲ恐ルル、則ハ失セ不<sup>なほ</sup>、及ハ不ルカ如クナル、則ハ能ク及フ、

(一) 「逐」、武内本作「追」。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、巍巍乎、舜禹之有天下也、而不與焉、

子ノ曰ク、巍<sup>カチ</sup>巍タル乎、舜禹ノ天<sup>タモ</sup>下ヲ有テルコト、而レトモ與<sup>アツカ</sup>ラ不、

【疏】

此美舜禹也、舜禹亦古聖天子也、巍巍高大之稱也、言舜禹逢時遇世、高大可美也、舜受堯禪而有天下、禹受舜禪而有天下、此二聖得時有天下、竝非身所預求、而君自禪之也、一云、孔子欲己不預見舜禹之時也、若逢其時、則己宜道當用也、故王弼云、逢時遇主、莫如舜禹也。江熙云、舜禹受禪有天下之極、故樂盡其善、歎不與竝時、蓋感道契昔而理屈當今也、

此レハ舜禹ヲ美ム、舜禹ハ亦太古ノ聖<sup>ハ</sup>天子ナリ、巍巍ハ高<sup>イフコト</sup>大ノ稱ナリ、言<sup>コト</sup>ハ舜禹ハ時ニ逢ヒ世ニ遇テ、高大ニシテ可<sup>タモ</sup>美ナリ、舜ハ堯ノ禪ヲ受テ天<sup>タモ</sup>下ヲ有テ、禹ハ舜ノ禪ヲ受テ天<sup>タモ</sup>下ヲ有ツ、此ノ二聖ハ時ヲ得テ天<sup>タモ</sup>下

ヲ有ツ、竝ニ身ノ預<sup>アツカ</sup>リ求ムル所ニ非シテ、而シテ君自<sup>ミツカ</sup>之ヲ禪ル、一ニ云ク、孔子己舜禹ノ時ニ預<sup>オノレ</sup>見ヘタルコトヲ欲ス、若シ其ノ時ニ逢ハハ、己宜ク道用ラルルニ當ル宜シ、故ニ王弼カ云ク、時ニ逢ヒ主ニ遇テ、舜禹ノ如ナルコト莫シ。江熙カ云ク、舜禹ハ禪ヲ受テ天<sup>タモ</sup>下ノ極ヲ有ツ、故ニ樂其ノ善ヲ盡ス、時ニ與<sup>アツカ</sup>リ竝ハ不<sup>サ</sup>ルコトヲ歎ス、蓋シ道昔ニ契<sup>カサ</sup>ツテ理當<sup>タモ</sup>今ニ屈スルコトヲ感ス、

【注】

美舜禹己不與求天下而得之也、巍巍者高大之稱也、

舜禹ノ己<sup>オノレ</sup>天<sup>タモ</sup>下ヲ與<sup>アツカ</sup>リ求メ不<sup>サ</sup>之ヲ得ルコトヲ美ルソ、巍巍ハ高<sup>イフコト</sup>大ノ稱ソ、

(一) 「欲」、武内本作「歎」。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「主」、武内本作「世」。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「契」下、武内本有「在」字。

【經】

子曰、大哉堯之爲君也、

子ノ曰ク、大ナル<sup>カナ</sup>哉<sup>タ</sup>堯ノ君爲ルコト、

【疏】

此美堯也、爲禪讓之始、故孔子歎其爲君之德大也、

此レハ堯ヲ美ム、禪<sup>ハ</sup>讓ノ始爲リ、故ニ孔子其ノ君爲ルノ  
德ノ大ナルコトヲ歎ス、

【經】

巍巍乎、唯天爲大、唯堯則之、

巍巍タル乎<sup>カヤ</sup>、唯タ天ヲ大ナリト爲<sup>ス</sup>、唯タ堯之ニ則ル、

【疏】

則法也、言唯天德巍巍既高既大、而唯堯能法而行之也、所  
以有則天之德者、夫天道無私、唯德是與、而堯有天位、禪  
舜、亦唯德是與、功遂身退、則法天而行化也、

則ハ法ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ唯タ天ノ<sup>ノ</sup>德巍巍<sup>ノ</sup>トシテ既ニ高シテ  
既ニ大ナリ、而ルヲ唯タ堯能ク法ツテ之ヲ行フ、天ニ則  
ルノ德有ル所以ハ、夫レ天<sup>ノ</sup>道ハ私無シ、唯タ<sup>ノ</sup>德是ニ<sup>ノ</sup>與<sup>ク</sup>  
ス、而ルヲ堯<sup>ノ</sup>位ヲ有チ、舜ニ禪ル、亦唯タ<sup>ノ</sup>德是ニ<sup>ノ</sup>與<sup>ク</sup>

ス、功<sup>ト</sup>遂ケ身退ク、則ハ天ニ法テ化ヲ行フ、

【注】

孔安國曰、則法也、美堯能法天而行化也、

孔安國カ曰ク、則ハ法、堯ノ能ク天ニ法テ化ヲ行フコト  
ヲ美ルソ、

【經】

蕩蕩乎、民無能名焉、

蕩蕩トシテ、民能ク名クルコト無シ、

【疏】

蕩蕩廣遠之稱也、言堯布德廣遠、功用遍匝、故民無能識而  
名之者也、

蕩<sup>ノ</sup>蕩ハ廣<sup>ノ</sup>遠ノ稱ナリ、言ハ堯德ヲ布クコト廣<sup>シ</sup>遠ニシテ、  
功ヲ用コト遍<sup>あまね</sup>ク匝<sup>メ</sup>レリ、故ニ民能ク識テ名ツクルコト  
無キ者ナリ、

【注】

苞氏曰、蕩蕩廣遠之稱也、言其布德廣遠、民無能其名焉、

苞氏カ曰ク、蕩蕩ハ廣遠ノ稱ソ、言ハ其レ德ヲ布ク  
コト廣遠ニシテ、民能ク其レ名クルコト無シ、

【疏】

王弼云、聖人有則天之德、所以稱唯堯則之者、唯堯於時全  
則天之道也、蕩蕩無形無名之稱也、夫名所名者、生於善有  
所章而惠有所存、善惡相傾而名分形焉、若夫大愛無私、惠  
將安在、至美無偏、名將何生、故則天成化、道同自然、不  
私其子、而君其臣、凶者自罰、善者自功、功成而不立其  
譽、罰加而不任其刑、百姓日用、而不知所以然、夫又何可  
名也、

王弼カ云ク、聖人ハ天ニ則ルノ德有リ、唯タ堯之ニ則ル  
ト稱スル所<sup>ナ</sup>以ハ、唯タ堯時ニ於テ天ニ則ルノ道ヲ全スレ  
ハナリ、蕩蕩ハ形無ク名無キノ稱ナリ、夫レ名ノ名トス  
ル所ハ、善ノ章<sup>アキラ</sup>カナル所有テ惠ノ存スル所有ルニ生ル、  
善惡相ヒ傾テ名分形ル、若シ夫レ大ニ愛シテ私無  
クンハ、惠將ニ安ソ在リト將ン、至美偏無キトキハ、名  
將ニ何クンカ生セント將ン、故ニ天ニ則テ化ヲ成スコト、

道自<sup>ミチ</sup>然<sup>シ</sup>ニ同シ、其ノ子ニ私セ不<sup>ス</sup>シテ、其ノ臣ヲ君トス、  
凶者ハ自<sup>ヨのつから</sup>罰セラレン、善者ハ自<sup>ヨのつから</sup>功アリ、功成テ  
モ其ノ譽ヲ立セ不<sup>ス</sup>、罰加ハレトモ其ノ刑ヲ任<sup>トセ</sup>不<sup>ス</sup>、  
百姓日ニ用テ、然ル所以ヲ知ラ不<sup>ス</sup>、夫レ又タ何ヲカ名  
トス可キ、

【經】

巍巍乎、其有成功也、

巍巍タル乎、其レ成功有ルコト、

【注】

功成化隆、高大巍巍也、

功成<sup>サかん</sup>化隆ニシテ、高<sup>サかん</sup>大ニシテ巍巍タリ、

【經】

煥煥乎、有文章、

煥煥<sup>カヘン</sup>乎トシテ、文<sup>カヘン</sup>章有リ、

【注】

煥明也、其立文垂制、復著明也、

煥ハ明ナリ、其レ文ヲ立テ制ヲ垂ルルコト、復タ著明ナリ、

(一) 「德」、武内本作「法」。

(二) 「其」、武内本作「識」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「煥煥乎有文章」、武内本作「煥乎其有文章也」。

【經】

舜有臣五人、而天下治、

舜ニ臣五人有テ、天下治マル、

【疏】

記者又美舜德也、五人者、禹一、稷二、契三、皐陶四、伯益五也、言舜有此五臣、共治天下、天下故治也、

記者又舜ノ德ヲ美ム、五人ハ、禹一、稷二、契三、皐陶四、伯益五ナリ、言ハ舜ニ此ノ五臣有テ、共ニ天下

ヲ治ム、天下故ニ治マル、

【注】

孔安國曰、禹稷契皐陶伯益、

孔安國カ曰ク、禹稷契皐陶伯益ソ、

【經】

武王曰、予有亂臣十人、

武王ノ曰ク、予ニ亂臣十人ナリ、

【疏】

武王周發也、予我也、亂理也、武王云、我有共理天下者、有十人也、

武王トハ周ノ發ナリ、予ハ我ナリ、亂ハ理ナリ、武王ノ云ク、我ニ共ニ天下ヲ理ムル者有テ、十人有リ、

【注】

孔安國曰、亂理也、理官者十人也、謂周公旦

孔安國カ曰ク、亂ハ理<sup>チ</sup>、官ヲ理<sup>ヲ</sup>ムル者十一人トハ、周公旦

【疏】

第一也、周公名旦、是武王弟也、

第一ナリ、周公名ハ旦、是レハ武王ノ弟ナリ、

【注】

召公奭

召公奭<sup>スギ</sup>

【疏】

第二也、亦武王弟也、

第一ナリ、亦タ武王ノ弟ナリ、

【注】

大公望<sup>五</sup>

大公望

【疏】

第三也、謂呂望也、呂望本姓姜、氏呂、名尚。釣於磻溪、文王出獵遙見而呼之曰、望公七年矣、今乃見光景於斯、於是接之上車、文王自御而還、因名爲望、爲周大師、故云大公也、

第三ナリ、呂望ト謂フ、呂望ハ本姓ハ姜、氏ハ呂、名ハ尚<sup>ハシ</sup>。磻溪ニ釣ス、文王獵ニ出テテ遙ニ見ヘ<sup>テ</sup>而之ヲ呼テ<sup>ノ</sup>曰ク、公ヲ望ムコト七年、今乃チ光景ヲ斯ニ見ルト、是ニ於テ之ヲ接シテ車ニ上セテ、文王自御<sup>ミツカラ</sup>シテ還ル、因テ名ケテ望ト爲<sup>ス</sup>、周ノ大師爲リ、故ニ大公ト云フ、

【注】

畢公

畢公

【疏】

第四也

第十四ナリ

榮公

【注】

榮公

第五也

【疏】

第十五ナリ

大顛

【注】

大顛

第六也

【疏】

第十六ナリ

闕天

【注】

闕天

第七也

【疏】

第十七

散宜生

【注】

散宜生

第八也

【疏】

第十八

南宮适

【注】

南宮适  
クハハツ  
ヲ謂フ

【疏】

第九也

第十九

【注】

其餘一人、謂文母也、

其ノ餘ノ一人ハ、文母ヲ謂フ、

【疏】

文母文王之妻也、是有莘氏(六)之女、大姒也(七)、十人有九丈夫一婦人也、

文母ハ文王ノ妻ナリ、是レ有莘氏(六)ノ女、大姒(七)ナリ、十人トハ九丈夫一婦人ナリ、

【經】

孔子曰、才難不其然乎、

孔子ノ曰ク、オノ難(八)キコト其レ然(九)ラ不ヤ、

【疏】

記者先列虞周二國之臣數、而後書孔子之言於下也、孔子歎(八)云、良才之難得、不其如此乎、言如此也(九)、

記者先ツ虞周二國ノ臣ノ數ヲ列シテ、而シテ後ニ孔子ノ言ヲ下ニ書ス(八)、孔子歎シテ云ク、良才ノ得難キコト、其レ此ノ如クナラ不ヤ(九)、言ハ此ノ如シ、

【經】

唐虞之際、於斯爲盛有婦人焉、九人而已、

唐虞ノ際(一)ヲ、斯ニ於テ盛ナリト爲婦人ナリ、九人マク而已(二)、

【疏】

此是才難之證也、唐虞堯舜有天下之號也、之際(一)謂之堯舜交代之間也、斯此也、此謂周也、言唐虞二代交際共有此五臣、若比於此周、周最爲盛、雖爲盛、尚不滿十人、十人中、有文母一、婦人爲十人之數、所以是才難也、季彪難曰、舜之五臣、一聖四賢、八元八凱十有六人、據左氏明文、或稱齊聖、或云明哲、雖非聖人、抑亦其次也、周公一人可與禹爲對、大公召公是當稷契、自畢公以下、恐不及元



凱、就復強相攀(三)繼而數交少、何故唐虞人士反不如周朝之盛也耶、彪以爲斯此也、蓋周也、今云、唐虞之際於此爲盛、言唐虞之朝、盛於周室、周室雖隆不及唐虞由來尚矣、故曰、巍巍蕩蕩莫之能名、今更謂唐虞人士不如周室、反易舊義、更生殊說無乃攻乎異端、有害於正訓乎、侃案師說(四)云、季氏之意(四)允會春秋合當堯舜、但既多才勝周、而孔子唯云兩代有五人者、別有以也、欲盛美周德隆於唐虞、賢才多乎堯舜、而猶事殷紂、故特云唐虞五而周代十也、又明言有婦人者、明周代之盛、匪唯丈夫之才、抑婦人亦能匡弼於政化也、

此ハ是レオノ難キノ證ナリ、唐虞ハ堯舜天下ヲ有ツノ號ナリ、之、際トハ之ノ堯舜交代ノ間ヲ謂フ、斯ハ此ナリ、此トハ周ヲ謂フ、言ハ唐虞二代ノ交際共ニ此ノ五ノ臣有リ、若シ此ノ周二比スレハ、周最モ盛ナリト爲、盛ナリト爲ト雖トモ、尚ヲ十人ニ滿タ不、十人ノ中、文母一有リ、婦人十人ノ數爲リ、是レオノ難キノ所以ナリ。季彪難シテ曰ク、舜ノ五臣ハ、一聖四賢ナリ、八元八一凱十有六人アリ、左氏カ明ニ文ニ據ルニ、或ハ齊聖ト稱シ、或ハ明哲ト云フ、聖人ニ非スト雖、抑亦タ其ノ次キナリ、周公一人ハ禹與對ヲ爲ス可シ、大公召公ハ是レ稷契ニ當タル、畢公自リ以下ハ、恐ラクハ元凱ニ及

ハ不ランコトヲ、就テ復タ強テ相ヒ攀(五)繼クトモ數交少シ、何シカ故ソ唐虞ノ人士反テ周朝ノ盛ナルニ如カランヤ、彪以爲(六)ラク斯ハ此ナリ、蓋シ周ト（彪斯ハ此ナリ、蓋シ周ト以爲ヘリ）、今云ク、唐虞ノ際ハ此ニ於盛ナリト爲、言ハ唐虞ノ朝、周室ヨリ盛ナリ、周室隆ナリト雖、唐虞ニ及ハ不(七)ルコト由來尚シ、故ニ曰ク、巍巍蕩蕩シテ之ヲ能ク名クルコト莫シト、今更ニ唐虞ノ人士ヲ周室ニ如カ不(八)ト謂テ、舊義ニ反リ易セハ、更ニ殊ニ說ヲ生シテ無(九)乃異端ヲ攻メテ、正訓ヲ害スルコト有ン乎、侃師ノ說ヲ案スルニ云ク、季氏カ意ハ自允ニ春秋二會ヒ堯舜二合ヒ當ル、但タ既ニ多才ニシテ周ニ勝レリトス。而ルヲ孔子唯タ兩代ニ五人有リト云フコトハ、別ニ以有リ、周ノ德ノ唐虞ヨリ隆ニシテ、賢才堯舜ニ多レトモ、而トモ猶ヲ殷ノ紂ニ事コトヲ盛ニ美メント欲ス、故ニ特ニ唐虞ハ五ニシテ周代ハ十ト云フ、又明ニ婦人有リト言フコトハ、明ケシ周代ノ盛ナル、唯タ文、夫ノオノミニ匪ス、抑婦人モ亦能政化ヲ匡弼(十)（匡シ弼ク）、

## 【注】

孔安國曰、唐者堯號也、虞者舜號也、際者堯舜交會之間也、斯此也、此斯於周也、言堯舜交會之間、比於此周、

【經】周<sup>(一六)</sup>最盛多賢才、然尚有一婦人、其餘九人而已、大才難得、豈不然乎、

孔安國カ曰ク、唐ハ堯ノ號、虞ハ舜ノ號、際トハ堯舜交會ノ間ソ、斯ハ此ナリ、此トハ周二斯ソ、言ハ堯舜交會ノ間ヲ、此ノ周二比スレハ、周最モ盛ニシテ賢才多シ、然トモ尚ヲ一婦人有リ、其ノ餘ハ九人マク而已、大才ノ得難キコト、豈然ラ不ヤ、

【經】

參分天下有其二、以服事殷、

天<sup>タ</sup>下ヲ參<sup>サ</sup>分シテ其ノ二<sup>ニ</sup>ヲ有テ、殷ニ服事ス、

【疏】

參三也、天下有九州、文王爲雍州西伯、六州化屬文王、故云、三分天下有二、猶服事於殷者也、

參ハ三ナリ、天<sup>タ</sup>下ニ九州有リ、文王ハ雍州ノ西<sup>シ</sup>伯爲リ、六州文王ニ化<sup>カ</sup>屬ス、故ニ云ク、天<sup>タ</sup>下ヲ三分ニシテ二ヲ有ツテ、猶ヲ殷ニ服事スル者ナリ、

【經】周<sup>(一八)</sup>之德其可謂至德也已矣、

周ノ德ヲハ其レ至<sup>シ</sup>德ト謂フ可ラク已、

【疏】

雖聖德之盛、猶服事惡逆之君、故可謂爲德之至德者也、

聖<sup>セイ</sup>德ノ盛ナリト雖モ、猶ヲ惡<sup>アク</sup>逆ノ君ニ服事ス、故ニ謂テ德ノ至<sup>シ</sup>德ト爲可キ者ナリ、

【注】

苞氏曰、殷紂淫亂、文王爲西伯而有聖德<sup>(二〇)</sup>、天下之歸周者、三分有二<sup>(二二)</sup>、而猶以服事殷、故謂之聖德也、

苞氏カ曰ク、殷ノ紂淫亂ナリ、文王西<sup>シ</sup>伯ト爲テ聖德有リ、天<sup>タ</sup>下ノ周二歸スル者、三分ニシテ二ヲ有ツ、而トモ猶ヲ殷ニ服事ス、故ニ之ヲ聖德ト謂フ、

【疏】

殷家州牧曰伯、文王爲雍州伯、雍州在紂西、故曰西伯也、

殷家三州、牧ヲ伯ト曰フ、文王雍州ノ伯爲リ、雍州ハ紂カ  
西ニ在リ、故ニ西ノ伯ト曰フ、

- (一) 「天下」、武内本此二字。
- (二) 「益」下、武内本有「也」字。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「孔安國」、武内本作「馬融」。
- (五) 「大公」、武内本「太公」、下同。
- (六) 「莘」、武内本作「辛」。
- (七) 「太姒」、武内本作「太姒」。
- (八) 「云」、武内本作「曰」。
- (九) 「也」、武内本無此字。
- (一〇) 「之」、武内本無此字。
- (一一) 「謂之」、武内本作「者謂」。
- (一二) 「攀」、武内本作「舉」。
- (一三) 「云」、武内本作「曰」。
- (一四) 「意」下、武内本有「極」字。
- (一五) 「亦」、武内本作「之」。
- (一六) 「周」、武内本無此字。
- (一七) 「者」、武内本無此字。
- (一八) 「之」、武内本無此字。
- (一九) 「德」、武内本作「極」。

- (二〇) 「聖德」、武内本作「至德」、下同。
- (二一) 「有」下、武内本有「其」字。

【經】

子曰、禹吾無聞然矣、

子ノ曰ク、禹ヲハ吾聞（聞）然スルコト無シ、

【疏】

此美禹也、聞猶非聞也、孔子美禹之德美盛、而我不知何以  
厝於非聞矣。郭象云、堯舜禹相承雖三聖、故一堯耳、天下  
化成則功美漸去、其所因修、常事而已、故史籍無所稱、仲  
尼不能聞、故曰、禹吾無聞然矣、李充云、夫聖德純粹、無  
法不備、故堯有則天之號、舜稱無爲而治、又曰、巍巍乎、  
舜禹之有天下、而弗與焉、斯則美聖之極名、窮理之高詠  
矣、至於此章、方復以事迹歎禹者、而豈徒哉、蓋以季世僻  
王、肆情縱欲、窮奢極侈、麗厚珍膳、而簡僞乎享祀、盛織  
靡而闕慢乎祭服、崇臺榭而不恤乎農政、是以亡國喪身、莫  
不由乎此矣、於有國有家者、觀夫禹之所以興也、覽三季之  
所以喪、可不慎與也、

此レハ禹ヲ美ム、聞ハ非ニ聞（聞）ノ猶シ、孔子禹ノ德ノ

美盛ナルコトヲ美メテ、我知ラ不何ヲ以テカ非一闢ヲ磨カン。郭象カ云ク、堯舜禹相承テ三聖ト雖モ、故二一堯耳、天下化一成スル則ハ功一美ノ漸ニ去ル、其ノ因テ修スル所、常ノ事而一已、故二史ノ籍ニ稱スル所無シ、仲尼聞ルコト能ハ不、故二曰ク、禹ヲハ吾聞然スルコト無シ、李充カ云ク、夫レ聖德純粹（粹）ニシテ、法トシテ備ハラ不トイフコト無シ、故二堯ハ天ニ則ルノ號有リ、舜ハ無一爲ニシテ治ト稱ス、又曰ク、巍一巍タル乎、舜禹ノ天下ヲ有テルコト、而トモ與ラ弗ト、斯レ則チ聖ヲ美ムルノ極一、名、理ヲ窮ムルノ高一詠ナリ、此ノ章ニ至テ、方ニ復事一迹ヲ以テ禹ヲ歎スルコトハ、豈二徒ニセン哉（徒カラシムナシ）蓋シ以ル二季一世ノ僻（僻）一王、情ヲ肆ニシ欲ヲ縱ニシ、奢ヲ窮メ侈リヲ極メ、珍膳ヲ麗（麗）一厚シテ、享一祀ヲ簡一僞ス、織（織）一靡（靡）一盛ニシテ祭一服ヲ闕慢ス、臺一榭ヲ崇クシテ農一政ヲ恤エ不、是ヲ以テ國ヲ亡シ身ヲ喪スコト、此レニ由ラ不トイフコト莫シ、國ヲ有チ家ヲ有ツ者ニ於テ、夫ノ禹ノ興ル所以ヲ觀、三季ノ喪ル所以ヲ覽テ、慎マ不ル可ケンヤ、

# 【注】

孔安國曰、孔子推禹功德之盛、言已不能復開厠其間也、

孔安國カ曰ク、孔子禹ノ功德ノ盛ナルコトヲ推シテ、己復タ其ノ間ヲ聞一厠スルコト（聞リ厠ル）能ハ不ルコトヲ言フ、

# 【經】

菲飲食、而致孝乎鬼神、

飲一食ヲ菲クシテ、孝ヲ鬼一神ニ致ス、

# 【疏】

此以下、皆是禹不可聞之事也、其有三事、一是飲食、飲食爲急、故最先也、二是衣服、衣服緩飲食、故爲次也、三是居室、居室緩衣服、故最後也、菲薄也、禹自所飲食、甚自麤薄、而祭祀牲牢極乎豐厚、故云、菲飲食、致孝乎鬼神也、

此ヨリ以下ハ、皆是レ禹ノ聞ル可不ルノ事ナリ、其レ三事有リ、一二ハ是レ飲食、飲一食ハ急ト爲、故二最モ先トス、二二ハ是レ衣服、衣一服ハ飲一食ヨリ緩シ、故二

次ト爲、三ニハ是レ居一室、居一室ハ衣一服ヨリ緩シ、故ニ最モ後ナリ、菲ハ薄ナリ、禹ノ自<sup>ミツカラ</sup>飲一食スル所ハ、甚タ自<sup>ミツカラ</sup>麤<sup>ミツカラ</sup>薄トシテ、祭一祀ノ牲一牢ハ豊<sup>ミツカラ</sup>厚ヲ極ム、故ニ云ク、飲一食ヲ菲シテ、孝ヲ鬼神ニ致ス、

【注】

馬融曰、菲薄也、致孝乎鬼神、祭祀豐潔也、

馬融カ曰ク、菲ハ薄、孝ヲ鬼一神ニ致ストハ、祭一祀豊一潔ナルソ、

【經】

惡衣服、而致美乎黻冕、

衣一服ヲ惡フシテ、美ヲ黻一冕ニ致ス、

【疏】

禹又自常衣服甚自麤惡、而祭祀之服、大華美也、食飲供鬼神、故云孝、祭服自己供身、故云美也、然云黻冕、冕是首服爲尊、黻是十二章最下爲卑、卑尊俱居中可知也。一云、黻非服章、政是韠韍之服也、舉此則正服可知也、

禹又自<sup>ミツカラ</sup>常ノ衣一服ハ甚タ自<sup>ミツカラ</sup>麤惡ニシテ、祭一祀ノ服ハ、大ニ華一美ナリ、食一飲ハ鬼一神ニ供ス、故ニ孝ト云フ、祭服ハ自<sup>ミツカラ</sup>己身ニ供ス、故ニ美ト云フ、然レハ黻冕ト云フコトハ、冕ハ是レ首一服ニシテ尊ト爲、黻ハ是レ十二一章ノ最モ下ナリ卑ト爲、卑一尊俱ニ居<sup>ス</sup>(居)ルトキハ中ヲハ知ヌ可シ。一二云ク、黻ハ服一章ニ非ス、政ニ是レ韠韍ノ服ナリ、此レヲ舉ル則ハ正一服ハ知ヌ可シ、

【注】

孔安國曰、損其常服、以盛祭服也、

孔安國カ曰ク、其ノ常ノ服ヲ損シテ、以テ祭一服ヲ盛ニス、

【經】

卑宮室、而盡力乎溝洫、

宮一室ヲ卑シテ、力ヲ溝一洫ニ盡ス、

【疏】

溝洫田土通水之用也、禹自所居、土階三尺、茅茨不剪、是卑宮室也、而通達畎畝以利田農、盡力溝洫也、

溝、洫ハ田土ニ水ヲ通スルノ用ナリ、禹自<sup>みづから</sup>居ル所、土階三<sup>ミ</sup>尺、茅<sup>チ</sup>茨<sup>キ</sup>剪<sup>ス</sup>ラ不<sup>ス</sup>、是レ宮<sup>ミヤ</sup>室<sup>シツ</sup>ヲ卑スルナリ、畎<sup>ウン</sup>畝<sup>コ</sup>（畎<sup>ウン</sup>畝<sup>コ</sup>）ヲ通<sup>ツ</sup>達<sup>ダツ</sup>シテ田<sup>チ</sup>農<sup>ノウ</sup>ヲ利<sup>リ</sup>シテ、力<sup>リキ</sup>ヲ溝<sup>コウ</sup>洫<sup>コ</sup>ニ盡<sup>ツク</sup>ス、

【注】

荀氏曰、方里爲井、井間有溝、溝廣深四尺、十里爲城、城間有洫、洫廣深八尺也、

荀氏カ曰ク、方<sup>フ</sup>里<sup>リ</sup>ヲ井<sup>ヰ</sup>ト爲<sup>ス</sup>、井ノ間ニ溝<sup>コウ</sup>有<sup>ア</sup>リ、溝ハ廣<sup>ヒロ</sup>サ深<sup>フカ</sup>サ四<sup>シ</sup>尺<sup>シツ</sup>、十<sup>ジュウ</sup>里<sup>リ</sup>ヲ城<sup>シヤウ</sup>ト爲<sup>ス</sup>、城ノ間ニ洫<sup>コ</sup>有<sup>ア</sup>リ、洫ハ廣<sup>ヒロ</sup>サ深<sup>フカ</sup>サ八<sup>ハチ</sup>尺<sup>シツ</sup>、

【經】

禹吾無間然矣、

禹ヲハ吾<sup>ワレ</sup>間<sup>マ</sup>然<sup>ニ</sup>スルコト無<sup>ク</sup>シ、

【疏】

美禹既深、故重云無間然也、

禹ヲ美<sup>ホ</sup>ムルコト既<sup>スデ</sup>ニ深<sup>シ</sup>シ、故ニ重<sup>ノ</sup>テ云<sup>ハ</sup>ク間<sup>マ</sup>然<sup>ニ</sup>スルコト無<sup>ク</sup>シト、

論語義疏卷第四

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「號」下、武内本有「耳」字。
- (四) 「喪」、武内本作「亡」。
- (五) 「德」、武内本無此字。
- (六) 「以」、武内本作「已」。
- (七) 「緩」下、武内本有「於」、下同。
- (八) 「祭服自己供身」、武内本作「祭服供自己」。
- (九) 「云」、武内本作「去」。
- (一〇) 「鞞」、武内本作「鞞」。
- (一一) 「盡」上、武内本有「是」字。

- (一) 「卷」、武内本無此字。
- (二) 「四」下、武内本有「經一千五百十四字／注二千三百七十七字」十七字（小字雙行）。

（泰伯篇担当 影山輝國）

論語義疏卷第五子罕／鄉黨 梁國子助教吳郡皇侃撰  
子罕第九 疏

(一) 「子罕／鄉黨」四字、小字雙行。

(二) 「子」上、武内本有「論語」二字。

(三) 「九」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡卅一章／皇卅章」七字(小字雙行)。

(四) 「疏」、武内本別行跳格。

【疏】

子孔子也、罕希也、此篇明時感者既少、故聖應亦希也、所以次前者、外遠富貴、既爲枇糠、故還反凝寂、所以希言、故子罕次大伯也、

子トハ孔子ナリ、罕ハ希ナリ、此ノ篇ニハ時ニ感スル者既ニ少ナリ、故ニ聖ニ應モ亦希ナルコトヲ明ス、前ニ次ツル所以ハ、外富貴ヲ遠ケテ、既ニ枇糠ト爲、故ニ凝寂ニ還リ反ル、所以ニ希ニ言ク、故ニ子罕ヲ大伯ニ次ク、

(一) 「大」、武内本作「太」。

【經】

子罕言利、與命、與仁

子罕ニ利ヲ言キ、命ヲ與シ、仁ヲ與ス

【疏】

子孔子也、罕者希也、言者說也、利者天道元亨利萬物者也、與者言語許與之也、命天命也、窮達夭壽之目也、仁者側隱濟衆、行之盛者也、弟子記孔子爲教化所希言、及所希許與人者也、所以然者、利是元亨利貞之道也、百姓日用而不知、其理玄絕、故孔子希言也、命是人稟天而生、其道難測、又好惡不同、若逆向人說則、傷動人情、故孔子希言與人也、仁是行盛、非中人所能、故亦希說許與人者也、然希者非都絕之稱、亦有時而言與人也、周易文言是說利之時也、謂伯牛亡之命矣夫、及云、若由也不得其死然、是說與人命也、又、孟武伯問子路冉求之屬仁乎、子曰不知、及曰楚令尹、陳文子焉得仁、竝是不與人仁也、而云顏回三月不違仁、及云管仲知其仁、則是說與人仁時也、故云、子罕言利與命與仁也、

子ハ孔子ナリ、罕ハ希ナリ、言ハ說ナリ、利ハ天道元亨利萬物ヲ利スル者ナリ、與ハ言語シテ之ヲ許シ與スナ

リ、命ハ天ノ命ナリ、窮達天ノ壽ノ目ナリ、仁ハ側（側）  
隱シテ衆ヲ濟ス、行ノ盛ナル者ナリ、弟ノ孔子ノ教ヲ化  
爲シテ希ニ言ク所、及ヒ希二人ニ許ス與ス所ノ者ヲ記  
ス、然ル所以ハ、利ハ是レ元亨利貞ノ道ナリ、百姓ハ  
日ニ用テ知不、其ノ理玄絶ナリ、故ニ孔子希ニ言ク、  
命ハ是レ人ノ天ニ稟テ生スルナリ、其ノ道測リ難シ、又  
好惡同不、若シ逆シメ人ニ向テ説ク則ハ、人ノ情  
ヲ傷動ス、故ニ孔子希ニ言イテ人ニ與ス、仁ハ是レ行ノ  
盛ナルナリ、中人ノ能クスル所ニ非ス、故ニ亦希ニ説テ  
人ニ許シ與ス者ナリ、然ルニ希ニト者都絶ノ稱ニ非ス、  
亦時有テ而シテ言テ人ニ與ス、周易ノ文言ハ是レ利ヲ説ク  
ノ時ナリ、謂ル伯牛亡ナンカ命ナル夫ト、及ヒ云ク、由  
カ若キハ其ノ死然ヲ得ト、是レ説テ人ニ命ヲ與スナリ。  
又、孟武伯子路冉求カ屬仁アリ乎ト問フ、子ノ曰ク知  
ラ不、及ヒ曰ク楚ノ令尹、陳文子焉ソ仁ヲ得ント、竝  
ニ是レ人ニ仁ヲ與ササルナリ、而シテ云ク顔回三月マ  
テニ仁ニ違ハ不、及ヒ云ク管仲其ノ仁ヲ知レリトイフ、  
則ハ是レ説テ人ニ仁ヲ與ス時ナリ、故ニ云ク、子罕ニ利  
ヲ言キ命ヲ與シ仁ヲ與スト、

【注】

罕者希也、利者義之和也、

罕ハ希、利ハ義ノ和、

【疏】

即引文言也、義者宜也、和者無害也、凡人世之利利彼則害  
此、非義和也、若天道之利、利而無害、故萬物得宜而和、  
故曰義之和也、

即文言ヲ引ク、義ハ宜ナリ、和ハ害スルコト無ナリ、凡  
ソ人ノ世ノ利ハ彼ヲ利スル則ハ此ヲ害スルハ、義ノ和ニ  
非、天道ノ利ノ若キンハ、利シテ害スルコト無シ、故ニ  
萬物宜ヲ得テ而シテ和ス、故ニ曰ク義ノ和ナリト、

【注】

命者天之命也、

命ハ天ノ命ナリ、

【疏】

人稟天而生、故云天命也、中庸云、天命之謂性、是也、

人天ニ稟テ生ス、故ニ云ク天ノ命ナリト、中庸ニ云、天ノ  
命セル之ヲ性ト謂フトハ、是ナリ、



【注】

仁者行之盛也、

仁ハ行ノ盛ナルナリ、

【疏】

仁、義、禮、智、信、五者竝是人之行、而仁居五者之首、主生、故曰行盛也、

仁、義、禮、智、信、五ノ者竝ニ是レ人ノ行ニシテ、仁五ノ者ノ首ニ居ル、生ヲ主トス、故ニ曰ク行ノ盛ナルナリト、

【注】

寡能及之、

能ク<sup>およふ</sup>及コト寡<sup>スカナ</sup>シ、

【疏】

天道微妙、天命深遠、仁道盛大、非人所能知及、故云、寡能及之、

天ノ道ハ微妙ニ、天ノ命ハ深遠ニ、仁ノ道ハ盛大ニシテ、人ノ能ク知リ及フ所ニ非ス、故ニ云ク、能ク及フコト寡シ、

【注】

故希言也、

故ニ希ニ言ク、

【疏】

爲世人寡及、故孔子亦希言也、

世人ノ及フコト寡キカ爲ノ、故ニ孔子亦希ニ言ク、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「達」、武内本作「通」。

(三) 「言」、武内本作「說」。

(四) 「者」、武内本無此字。

(五) 「曰」、武内本作「云」。

(六) 「知」、武内本作「如」。

(七) 「云」、武内本作「曰」。

(八) 「之」下、武内本有「也」字。

【經】

達巷黨人曰、大哉孔子博學、而無所成名、

達巷黨ノ人ノ曰ク、大ナル哉孔子ノ博ク學テ、名ヲ成ス所無キコト、

【疏】

五百家爲黨、黨各有名、此黨名達巷、達巷黨中人、美孔子道大、故曰大哉孔子廣學道藝周遍、不可一一而稱、故云、無所成名也、猶如堯德蕩蕩民無能名也、故王弼云、譬猶和樂出乎八音、然八音非其名也、江熙云、言其彌貫六流、不可以一藝、取名焉、故曰大也、

【注】

鄭玄曰、達巷黨名也、五百家爲黨、此黨之人、美孔子博學道藝、不成一名而已也、

鄭玄カ曰ク、達巷ハ黨ノ名、五百家ヲ黨ト爲、此ノ黨ノ人、孔子ノ博ク道藝ヲ學テ、一ノ名ヲ成サズルコトヲ美ムラク而已、

【經】

子聞之、謂門弟子曰、吾何執、

子聞テ、門弟子ニ謂テ曰ク、吾何ヲカ執レル、

【疏】

孔子聞達巷人美己、故呼弟子而語之也、彼既美我之博學、而我於道藝何所持執乎、欲自謙也、

孔子達巷ノ人ノ己ヲ美ムルヲ聞ク、故ニ弟子ヲ呼テ之ニ語ル、彼既ニ我ヲ博學ナリト美ム、我道藝於何ヲカ持リ執ル所ナラン乎、自謙セント欲ス、

五百家ヲ黨ト爲、黨二各名有リ、此ノ黨ヲ達巷ト名ク、達巷黨ノ中ノ人、孔子ノ道ノ大ナルコトヲ美ム、故ニ曰ク大ナル哉孔子ノ廣ク道藝ヲ學フコト周遍ニシテ、一ニ稱ス可ラズルコト、故ニ云ク、名ヲ成ス所無シト、猶シ堯ノ德ノ蕩蕩トシテ民能ク名クルコト無シトイフカ如シ、故ニ王弼カ云ク、譬ヘハ和樂ハ八音ニ出ツ、然レトモハ音其ノ名クルニ非ルカ猶シ、江熙カ云ク、言ハ其レ六流ヲ彌貫ス(彌リ貫ク)、一藝ヲ以テ、名ヲ取ル可不、故ニ大ナリト曰フ、

【經】  
執御乎執射乎、

御ヲ執レルカ射ヲ執レルカ、

【疏】

既欲謙己之不多、故陳六藝之下者、以自許也、言吾所執、  
執於御及射乎、御御車也、

既ニ己カ多ナラ不ルコトヲ謙セント欲ス、故ニ六藝ノ下  
ナル者ヲ陳ヘテ、自許ス、言ハ吾カ執レル所ハ、  
御ト射及ヲ執レルカ、御ハ御車ナリ、

【經】

吾執御矣、

吾ハ御ヲ執レリ、

【疏】

向欲合以射御、自許、又嫌太多、故又減射、而云吾執御  
也、

向ニ合テ射御ヲ以テ、自許サント欲ス、又太タ多  
キコトヲ嫌フ、故ニ又射ヲ減シテ、云ク吾ハ御ヲ執レリ  
ト、

【注】

鄭玄曰、聞人美之、承以謙也、吾執御者、欲名六藝之卑  
也、

鄭玄カ曰ク、人ノ美ムルヲ聞テ、承ルニ謙ヲ以テス、吾ハ  
御ヲ執レリトス、六藝ノ卑キニ名ケラレンコトヲ欲、

【疏】

六藝、一曰五禮、二曰六樂、三曰五射、四曰五馭、五曰六  
書、六曰九數也、今云執御、御比禮樂射、爲卑、

六藝トハ、一ニ曰ク五禮、二ニ曰ク六樂、三ニ曰ク五  
射、四ニ曰ク五馭、五ニ曰ク六書、六ニ曰ク九數、今  
云ク御ヲ執レリトハ、御ハ禮樂射ニ比スレハ、卑シト  
爲、

- (一) 「哉」下、武内本有「也博廣也言大哉」七字。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「巷」下、武内本有「者」字。

(五) 「也」、武内本無此字。

(六) 「車」下、武内本有「者」字。

(七) 「御」下、武内本有「者」字。

(八) 「卑」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、麻冕禮也、

子ノ曰のたまはク、麻冕バベンハ禮ナリ、

【疏】

禮謂周禮也、周禮有六冕、以平板爲主、而用卅升麻布、衣板上玄下纁、故云、麻冕禮也、

禮トハいはゆ謂ル周禮ナリ、周禮ニ六冕有リ、平一板ヲ以テ主ト爲シテ、卅升ノ麻布ヲ用テ、板ニ衣セテ上玄かろ二下纁しもナリ、故ニ云ク、麻冕ハ禮ナリト、

【經】

今也純、

今ノ純ハ、

【疏】

今謂周末孔子時也、純絲也、周末不復用卅升布、但織絲爲之、故云今也、

今トハ周ノ末孔子ノ時ヲ謂フ、純ハ絲ナリ、周ノ末ニ復卅升ノ布ヲ用ヒ不、但夕絲ヲ織テ之ヲ爲ル、故ニ今ト云フ、

【經】

儉、

儉ナリ、

【疏】

卅升布、用功巨多、難得、難得則爲奢華、而織絲易成、易成則爲儉約、故云儉也、

卅升ノ布ハ、功ヲ用ルコト巨多ナリ、得難シ、得難キ則ハ奢一華ト爲、而ルニ絲ヲ織ルハ成シ易シ、成シ易キ則ハ儉一約ナリト爲、故ニ云ク儉ナリト、

【經】

吾從衆、

吾ハ衆ニ從ハシ、

【疏】

衆謂周末時人也、時既人人從易用絲、故孔子云、吾亦從衆也、所以從之者、周末每事奢華、孔子寧欲抑奢就儉、今幸得衆共用儉、故孔子從之也、

衆トハ周ノ末ノ時ノ人ヲ謂フ、時ニ既二人一人易ニ從テ絲ヲ用フ、故ニ孔子ノ云ク、吾モ亦衆ニ從ハント、之ニ從フ所以ハ、周ノ末事毎ニ奢華ナリ、孔子寧口奢ヲ抑ヘ儉ニ就カント欲ス、今幸ニ衆共ニ儉ヲ用ルコトヲ得、故ニ孔子之ニ從フ、

【注】

孔安國曰、冕緇布冠也、

孔安國カ曰ク、冕ハ緇シ(緇)布ノ冠ヲ、

【疏】

冠冕通名也、且周家委貌冠、亦用卅升緇布也、

冠ハ冕ノ通名ナリ、且タ周家ノ委貌冠ハ、亦卅升ノ緇布ヲ用フ、

【注】

古者績麻三十升布、以爲之、純絲也、絲易成、故從儉、

古ニハ績麻三十升ノ布、以テ之ヲ爲レリ、純ハ絲、絲ハ成シ易シ、故ニ儉ニ從フ、

【經】

拜下禮也、

下ニ拜スルハ禮ナリ、

【疏】

下謂堂下也、禮君與臣燕、君賜酒、皆下堂而再拜、故云拜下禮也、

下トハ堂下ヲ謂フ、禮ニ君ト臣與燕スルトキ、君酒ヲ賜

フトキハ、皆堂ヲ下テ再拜ス、故ニ云ク下ニ拜スルハ禮ナリ、

【經】

今拜乎上泰也、

今上ニ拜スルハ泰ナリ、

【疏】

今謂周末孔子時也、上謂堂上也、泰驕泰也、當于時、周末君臣飲燕、臣得君賜酒、不復下堂、但於堂上而拜、故云今拜乎上泰也、拜不下堂、是由臣驕泰、故云泰也、

今トハ周ノ末孔子ノ時ヲ謂フ、上トハ堂上ヲ謂フ、泰ハ驕ト泰ナリ、時ニ當テ、周ノ末ノ君臣飲燕スルトキニ、臣君ノ酒ヲ賜フコトヲ得テ、堂ヲ復下ラ不、但夕堂上ニ於テ拜ス、故ニ云ク今上ニ拜スルハ泰ナリト、拜スルコト堂ヲ下ラ不、是レ臣ノ驕ト泰ニ由ル、故ニ泰ト云フ、

【經】

雖違衆、吾從下、

衆ニ違フト雖、吾ハ下ニ從ハン、

【疏】

當時皆違禮、而拜上者衆、孔子不從拜上、故云、雖違衆也、違衆而從舊禮、拜於下、故云吾從下也、

當時皆禮ニ違テ、上ニ拜スル者ハ衆ナリ、孔子ハ上ニ拜スルニ從ハ不、故ニ云ク、衆ニ違フト雖モ、衆ニ違テ舊禮ニ從テ、下ニ拜セント、故ニ云ク吾ハ下ニ從ハント、

【注】

王肅曰、臣之與君行禮者、下拜然後升成禮、

王肅カ曰ク、臣ト君與禮ヲ行フ者、下ニ拜シテ然シテ後ニ升テ禮ヲ成ス、

【疏】

燕義云、君舉旅於賓、及君所賜爵、即降再拜稽首升成拜、明臣禮也、案燕義云、賓皆是臣之、臣得君旅、及賜爵、降下堂再拜、再拜竟更升堂、又再拜、謂爲成拜、成拜者、向在堂下之拜、若禮未成然、故更升堂以成之也、

燕義ニ云ク、君旅ヲ賓ニ擧ク、君ノ賜フ所ノ爵ニ及テ、即チ降テ再拜稽首シテ升テ拜ヲ成シテ、臣ノ禮ヲ明ニス、案スルニ燕義ニ云ク、賓トハ皆是レ臣ナリ、臣君ノ旅ヲ得テ、爵ヲ賜フニ及テ、堂ヲ降り下テ再拜ス、再拜シ竟テ更ニ堂ニ升テ、又再拜ス、謂ル拜ヲ成シカ爲ナリ、拜ヲ成スコトハ、向ニ堂下ニ在テ拜ス、禮未タ成ラ未ルカ若クニシテ然リ、故ニ更ニ堂ニ升テ以テ成ス、

【注】時臣驕泰、故於上拜也、

時ノ臣驕泰ナリ、故ニ上於拜ス、

【疏】周末時如此也、

周ノ末時此ノ如シ、

【注】今從下、禮之恭也、

今下ニ從フハ、禮ノ恭キナリ、

【疏】

孔子欲從下之禮、是禮爲恭也、

孔子下ノ禮ニ從ハント欲、是レ禮ノ恭ナリト爲、

(一) 「卅」、武内本作「三十」。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「也」下、武内本有次經之疏「三十升布用功巨多

難得難得則爲奢華而織絲易成易成則爲儉約故云儉也」三十一字。

(四) 「儉」下、武内本有「也」字。

(五) 「卅」、武内本作「三十」。

(六) 「云」、武内本作「曰」。

(七) 「儉」下、武内本有「也」字。

(八) 「君」上、武内本有「臣得」二字。

(九) 「云」、武内本作「曰」。

(一〇) 「即」、武内本作「皆」。

(一一) 「云」、武内本作「之」。

(一二) 「之」、武内本作「也」。

(一三) 「禮」、武内本無此字。

【經】

子絶四、

子四ヲ絶ツ、

【疏】

絶者無也、明孔子聖人無此下四事、故云絶四也、不云無而云絶者、據世人、以言之也、四事、世人未能絶、而孔子絶之、故云絶也、故顔延之云、謂絶人四者也、

絶ハ無ナリ、孔子聖人ニシテ此ノ下ノ四ノ事無キコトヲ明ス、故ニ云ク四ヲ絶ツト、無ト云ハ不シテ絶ツト云フコトハ、世人ニ據テ、之ヲ言フ、四ノ事ハ、世人未タ絶ツコト能ハ未、而ルヲ孔子之ヲ絶ツ、故ニ絶ト云フ、顔延之カ云ク、人ノ四ヲ絶タンコトヲ謂フ者ナリ、

【經】

母意、

意トスルコト母シ、

【疏】

一也、此謂聖人心也、凡人有滯、故動靜委曲、自任其心、聖人無心、泛若不係舟、豁寂同道、故無意也、

一ナリ、此レハ聖人ノ心ヲ謂フ、凡人ハ滯ルコト有リ、故ニ動靜委曲ニシテ、自其ノ心ヲ用ルニ任ス、聖人ハ無心ナリ、泛トシテ係カ不ル舟ノ若シ、豁寂ニシテ道ニ同シ、故ニ意トスルコト無シ、

【注】

以道爲度、故不任意也、

道ヲ以テ度(度)ト爲、故ニ意ニ任セ不、

【經】

母必、

必ストスルコト母シ、

【疏】

二也、此謂聖人行化時也、物求則赴應、無所抑必也、故互鄉進而與之是也、無所抑必、由無意故、能爲化無必也、



二ナリ、此レハ聖人ノ化ヲ行フノ時ヲ謂フ、物求ムレハ則チ赴<sup>ヲもむ</sup>キ應ス、抑ヘ必ストスル所無シ、故ニ互<sup>くみ</sup>郷進<sup>きん</sup>テ之ニ與ス是ナリ、抑ヘ必ストスル所無キハ、意トスルコト無キニ由ルカ故ニ、能ク化ヲ爲スコト必ストスルコト無シ、

## 【注】

用之則行、捨之則臧、故無專必也、

之ヲ用ル則ハ行ヒ、捨ル則ハ臧ス、故ニ專ラ必ストスルコト無シ、

## 【經】

母固、

固シトスルコト母シ、

## 【疏】

三也、此聖人已應物行化故也、固謂執守堅固也、聖雖已應物、物若不能得行則、聖亦不追固執之、不反三隅則不復、是也、亦由無意、故能無固也、

三ナリ、此レハ聖人已ニ物ニ應シ化ヲ行フ故ナリ、固トハ執リ守リ堅ク固クスルコトヲ謂フ、聖已ニ物ニ應スト雖モ、物若シ行フコトヲ得ルコト能ハ不<sup>さ</sup>ル則ハ、聖モ亦追テ固ク之ヲ執ラ不<sup>ス</sup>、三隅ヲ返<sup>き</sup>不<sup>さ</sup>ル則ハ復<sup>また</sup>タセ不<sup>ス</sup>トイフ、是ナリ、亦意トスルコト無キニ由ルカ、故ニ能ク固トスルコト無シ、

## 【注】

無可無不可、故無固行也、

可モ無ク不<sup>レ</sup>可モ無シ、故ニ固ク行フコト無シ、

## 【經】

母我、

我トスルコト母シ、

## 【疏】

四也、此聖人行教功德成、身退之迹也、聖人晦迹、功遂身退、恆不自異故無我也、亦由無意、故能無我也、

四ナリ、此レハ聖人教ヲ行ヒ功<sup>レ</sup>徳成テ、身<sup>レ</sup>退クノ迹ナ

リ、聖人ハ迹ヲ晦シテ、功遂ケ身退ク、恆ニ自異ナリト不故ニ我トスルコト無シ、亦意トスルコト無キニ由ルカ、故ニ能ク我トスルコト無シ、

【注】

述古、而不自作、處群萃、而不自異、唯道是從、故不自有其身也、

古ヲ述ヘテ、自<sup>ミツカラ</sup>作セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、群<sup>スイ</sup>萃ニ處シテ、自<sup>ミツカラ</sup>異ナラ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、唯<sup>これ</sup>道是ニ從フ、故ニ自<sup>ミツカラ</sup>其ノ身ヲ有<sup>タ</sup>タ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

【疏】

萃聚也。或問曰、孔子或拒孺悲、或天生德於予、何得云無必無我乎。答曰、聖人作教應機、不可一準、今爲其迹涉茲地、爲物所嫌、恐心實如此、故正明絕此四、以見本地也、

萃ハ聚ナリ。或ヒト問テ曰ク、孔子或ハ孺悲ヲ拒ヘ、或ハ天德ヲ予ニ生セリトイフコト、何ソ必ストスルコト無ク我トスルコト無シト云フコトヲ得ンヤ。答テ曰ク、聖人ハ教ヲ作スコト機ニ應ス、一準<sup>（準）</sup>トス可<sup>（可）</sup>不<sup>（不）</sup>、今其ノ迹<sup>（迹）</sup>茲ノ地ニ涉ル<sup>（涉）</sup>カ爲ニ、物ノ爲ニ嫌ハ<sup>（嫌）</sup>所、恐ハ心實ハ此

ノ如シ、故ニ正ニ此ノ「四ヲ絶コトヲ明シテ、本地ヲ見ス、

(一) 「以」、武内本作「似」。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「心」、武内本作「意」。

(四) 「赴」、武内本作「趣」。

(五) 「也」、武内本無此字。

(六) 「專」上、武内本有「自」字。

(七) 「已」、武内本作「己」。

(八) 「無必」、武内本無此二字。

【經】

子畏於匡、

子匡ニ畏ル、

【疏】

心服曰畏也、匡宋地名也、于時匡人誤以兵圍孔子、故孔子同物畏之、孫綽云、畏匡之說、皆衆家之言而不釋畏名、解書之理爲漫、夫體神知幾、玄定安危者、雖兵圍百重、安若太山、豈有畏哉、雖然、兵事阻險、常情所畏、聖人無心、

故即以物畏爲畏也、

心服スルヲ畏ト曰フ、匡ハ宋ノ地ノ名ナリ、時于匡人誤テ兵以テ孔子ヲ圍ム、故ニ孔子物ニ同シテ之ヲ畏ル、孫綽カ云ク、匡ニ畏ルルノ説、皆衆家ノ言イニ而畏ノ名ヲ釋セ不、書ノ理ヲ解クコト漫ナリト爲、夫レ神ヲ體シ幾ヲ知テ、玄ク安<sup>フカ</sup>危ヲ定メハ、兵ノ圍ムコト百重ナリト雖、安キコト太山ノ若ケン、豈畏ルルコト有ランヤ、然ト雖、兵ノ事ハ阻<sup>いへとも</sup>險ナリ(阻<sup>レ</sup>險シ)、常ノ情ノ畏ルル所ナリ、聖人ハ無<sup>いへとも</sup>心ナリ、故ニ即チ物ノ畏ヲ以<sup>もつて</sup>畏ト爲、

【注】

荀氏曰、匡人誤圍夫子、以爲陽虎、陽虎嘗暴於匡、夫子弟子顔剋時又與虎俱往、後剋爲夫子御至於匡、匡人相與共識剋、又夫子容貌、與虎相似、故匡人以兵圍之、

荀氏カ曰ク、匡人誤テ夫子ヲ圍テ、陽虎ト爲、陽虎嘗<sup>かつ</sup>テ匡ニ暴<sup>シ</sup>ユ、夫子ノ弟<sup>コウ</sup>子顔剋時ニ又虎與俱<sup>ト</sup>ニ往ケリ、後ニ剋夫子ノ御ト爲<sup>シ</sup>テ匡ニ至ル、匡人相ヒ<sup>ト</sup>與ニ共ニ剋ヲ識レリ、又夫子ノ容貌、虎與相ヒ<sup>ト</sup>似タリ、故ニ匡人兵ヲ以テ之ヲ圍ム、

【疏】

釋誤圍之由者也、

誤テ圍ムノ由ヲ釋スル者ナリ、

【經】

曰、文王既沒、文不在茲乎、

曰ク、文王既ニ沒<sup>ノ</sup>シタレトモ、文茲ニ在<sup>ココ</sup>ラ不ヤ、

【疏】

孔子得圍、而自說己德、欲使匡人知己、茲此也、孔子自此己也、言昔文王聖德有文章、以教化天下也、文王今既沒則、文章宜須人傳、傳文章者、非我而誰、故云、文王既沒、文不在茲乎、言此我當傳之也、

孔子圍マルルコトヲ得テ、自己カ德ヲ說テ、匡人ヲ使テ己ヲ知ラ使メント欲ス、茲ハ此ナリ、孔子自己ニ此ソ、言ハ昔文王ノ聖德文章有テ、天下ヲ教化ス、文王今既ニ沒スル則ハ、文章ハ宜ク人ヲ須チテ傳フ宜シ、文一章ヲ傳ルコトハ、我ニ非シテハ誰ソヤ、故ニ

ノたまは  
云ク、文王既ニ没シタレトモ、文茲ニ在ラ不ヤト、言ハ此レ我當ニ之ヲ傳フ當シ、

【注】

孔安國曰、茲此也、言文王雖已没、其文見在此、此自此其身也、

孔安國カ曰ク、茲ハ此、言ハ文王已ニ没シタリト雖モ、其ノ文見ニ此ニ在リ、此トハ自其ノ身ニ此ソ、

【疏】

身夫子身也、

身トハ夫子ノ身ナリ、

【經】

天之將喪斯文也、後死者、不得與於斯文也、

天ノ將ニ斯ノ文ヲ喪サント將マシカハ、後死ノ者、斯ノ文ニ與ルコトヲ得不ラマシ、

【疏】

既云、傳文在我、故更說我不可殺之意也、斯文即文王之文章也、後死孔子自謂也、夫生必有死、文王既没、己亦當終、但文王既没於前則、己方死於後、故自謂爲後死也、言天若將欲喪棄文王之文章、則不應今使我、已得預知識也、

既ニ云ク、文ヲ傳ルコトハ我ニ在リト、故ニ更ニ我ヲ殺ス可<sup>ヘ</sup>不<sup>カ</sup>ルノ意ヲ説ク、斯ノ文トハ即チ文王ノ文一章ナリ、後死トハ孔子ノ自謂イナリ、夫レ生スレハ必ス死有リ、文王既ニ没ス、己亦當ニ終フ當、但タ文王既ニ前ニ没スル則ハ、己方ニ後ニ死セン、故ニ自謂テ後死ト爲、言ハ天若シ將ニ文王ノ文一章ヲ喪棄セント欲セシカハ、今我ヲ使テ、已ニ得預リ知リ識ラ使ム應ラ不、

【注】

孔安國曰、文王既没、故孔子自謂後死也、言天將喪此文者、本不當使我知之、今使我知未欲喪也、

孔安國カ曰ク、文王既ニ没シタリ、故ニ孔子自後死ト謂フ、言ハ天ノ將ニ此ノ文ヲ喪サント將マシカハ、本當ニ我ヲ使テ之ヲ知ラ使ム當カラ不、今我ヲ使テ知ラ使ム

ルトキハ、未タ喪サント欲セ未ルナリ、

【經】

天之未喪斯文也、匡人其如予何、

天ノ未タ斯ノ「文ヲ喪サ未ルニ、匡人其レ予ヲ如何、

【疏】

天今使我知之、是未欲喪斯文也、既未欲喪此文、使己傳之、則匡人豈能違天而害我乎、故云如予何也、衛瓘云、若孔子則自明非陽虎、必謂之詐、晏然而言若是、匡人足知非陽虎、而懼害賢、所以免也、

天「今我ヲ使テ之ヲ知ラ使ム、是レ未タ斯ノ「文ヲ喪サント欲セ未ルナリ、既ニ未タ此ノ「文ヲ喪ント欲セ未、己ヲ使テ之ヲ傳ヘ使ムル、則ハ匡人豈能ク天ニ違テ我ヲ害セン乎、故ニ云ク予ヲ如何ト、衛瓘カ云ク、若シ孔子則チ自陽虎ニ非サルコトヲ明カサハ、必ス之ヲ詐ト謂ハシ、晏然トシテ言フコト是ノ若シ、匡人陽虎ニ非ルコトヲ知ルニ足テ、而シテ賢ヲ害スルコトヲ懼ル、免ルル所以ナリ、

【注】

馬融曰、如予何者、猶言奈我何也、天之未喪此文也、則我當傳之、匡人欲奈我何、言其不能違天而害己也、

馬融カ曰ク、如「予何トハ、猶ヲ奈我何ト言ハンカ猶シ、天ノ未タ此ノ「文ヲ喪サ未ル則ハ、我當ニ之ヲ傳フ當シ、匡人我ヲ奈何トカ欲セントハ、言ハ其レ天ニ違テ己ヲ害スルコト能ハ不、

【疏】

江熙云、言文王之道、爲後代之軌、己未得述上天之明、必不使沒也、

江熙カ云ク、言ハ文王ノ道、後「代ノ軌爲リ、己未タ上「天ノ明ヲ述コトヲ得未、必ス沒セ使メ不、

- (一) 「也」、武内本無此字。
- (二) 「之」下、武内本有「也」字。
- (三) 「曰」、武内本作「云」。
- (四) 「之」下、武内本有「人」字。
- (五) 「虎」下、武内本有「也」字。
- (六) 「虎」上、武内本有「陽」字。

(七) 「之」下、武内本有「也」字。

(八) 「已」下、武内本有「也」字。

(九) 「既」下、武内本有「已」字。

(一〇) 「云」、武内本作「曰」。

(一一) 「身」上、武内本有「其」字。

(一二) 「既」、武内本作「已」。

(一三) 「識」下、武内本有「之」字。

(一四) 「知」下、武内本有「之」字。

(一五) 「也」、武内本作「之」。

(一六) 「斯」、武内本作「此」。

(一七) 「云」、武内本作「曰」。

(一八) 「云」、武内本作「曰」。

(一九) 「則」、武内本無此字。

(二〇) 「足」、武内本作「是」。

(二一) 「也」、武内本無此字。

(二二) 「何」下、武内本有「也」字。

(二三) 「其」、武内本無此字。

【經】

太宰問於子貢曰、夫子聖者與、何其多能也、

太宰子貢二問テ曰ク、夫子ハ聖者カ、何ソ其レ多能ナ

ル、

【疏】

大宰問孔子聖、又問孔子多能、而其心疑、聖人務大不應細碎多能、故問子貢言、孔子既聖、其那復多能乎、

大宰孔子ヲ聖ト聞ク、又孔子ノ多能ナルコトヲ聞テ、而シテ其ノ心疑フ、聖人ハ大ヲ務テ細碎ニシテ多能ナル應不、故ニ子貢ニ問テ言ク、孔子ハ既ニ聖ナリ、其レ那ソ復タ多能ナル乎、

【注】

孔安國曰、大宰大夫官名也、

孔安國カ曰ク、大宰ハ大夫ノ官ノ名ナリ、

【疏】

卿大夫職有冢宰、或云大宰、故云是大夫官也、

卿大夫ノ職ニ冢宰有リ、或ハ大宰ト云フ、故ニ云ク是レ大夫ノ官ナリ、

【注】

或吳或宋、未可分也、

或ハ吳或ハ宋、未タ分ツ可<sup>へから</sup>未<sup>ス</sup>、

【疏】

既唯云大宰、不論名氏、故不知何人、而吳有大宰嚭、宋有大宰華督、故云未可分也、然此應是吳臣、何以知之、魯哀公七年、公會吳于鄆、吳人徵百牢、使子貢辭於大宰嚭、十二年、公會吳師于橐臯、吳子使太宰嚭請苀盟、公不欲、使子貢對、將恐此時、大宰嚭問子貢也、且宋大宰督去孔子世遠、或其至後世、所不論耳、

既ニ唯タ大宰ト云フ、名<sup>ナ</sup>氏ヲ論セ不<sup>ス</sup>、故ニ何<sup>ナニ</sup>人トイフコトヲ知ラ不<sup>ス</sup>、而ルニ吳ニ大宰嚭<sup>ヒ</sup>有リ、宋ニ大宰華督<sup>ト</sup>有リ、故ニ云ク未<sup>いまだ</sup>分ツ可<sup>へから</sup>未<sup>ス</sup>ト、然トモ此レハ是レ吳ノ臣ナル應シ、何ヲ以テカ之ヲ知ルトナラハ、魯ノ哀公七年ニ、公吳ニ鄆<sup>ソフ</sup>ニ會ス、吳<sup>ニ</sup>人百<sup>ニ</sup>牢ヲ徵ス、子貢ヲ使テ大宰嚭<sup>ヒ</sup>ニ辭<sup>ことば</sup>セ使<sup>シ</sup>ム、十<sup>ニ</sup>二年ニ、公吳ノ師<sup>イクサ</sup>ニ橐臯<sup>シヤカフ</sup>ニ會ス、吳<sup>ニ</sup>子貢ヲ使ハシテ、盟<sup>ミツカ</sup>ニ苀<sup>ソフ</sup>メト請フ、公欲セ不<sup>ス</sup>、子貢ヲ使<sup>シ</sup>ム、將ニ恐ラクハ此ノ時ニ、大宰嚭子貢ニ問イケラン、且タ宋ノ大宰督ハ孔子ノ世ヲ去ルコト遠シ、或ハ其

レ後<sup>ノチ</sup>世ニ至テ、論セ不<sup>ス</sup>ル所耳、

【注】

疑孔子多能於小藝也、

孔子ノ小<sup>コ</sup>藝ニ多<sup>タ</sup>能ナルコトヲ疑フ、

【經】

子貢曰、固天縱之將聖、又多能也、

子貢カ曰ク、固<sup>マコトニ</sup>二天ノ縦<sup>ユル</sup>セル將<sup>マコトニ</sup>聖ナリ、又多<sup>タ</sup>能ナリ、

【疏】

子貢答曰、孔子大聖是天所固縱、又使多能也、固故也、將大也、

子貢答テ曰ク、孔子ハ大<sup>マコトニ</sup>聖是レ天ノ固<sup>マコトニ</sup>ニ縦<sup>ユル</sup>ス所ナリ、又多<sup>タ</sup>能ナラ使ム、固ハ故ナリ<sup>マコトニ</sup>、將ハ大ナリ、

【注】

孔安國曰、言天固縱之、大聖之德、又使多能也、

孔安國カ曰ク、言ハ天ノ固ニ縱セル、大聖ノ徳ナリ、又多能ナラ使ム、

【經】

子聞之曰、太宰知我者乎、

子聞テ曰ク、太宰ハ我ヲ知ル者カ、

【疏】

孔子聞大宰之疑、而言知我、則許疑我非聖是也、繆協云、我信多能、故曰知我、江熙云、大宰嫌多能非聖、故云知我、謙之意也、

孔子大宰カ疑ヲ聞テ、我ヲ知レリト言フコトハ、我カ聖ニ非ルコトヲ疑コトヲ許ス是ナリ、繆協カ云ク、我信ニ多能ナリ、故ニ我ヲ知レリト曰フ、江熙カ云、大宰多能ハ聖ニ非ルカト嫌フ、故ニ我ヲ知レリト云フ、謙ノ意ナリ、

【經】

吾少也賤、故多能鄙事、

吾少シテ賤シカリキ、故ニ鄙事ニ多能ナリ、

【疏】

又說我非聖、而所以多能之由也、言我少小貧賤、故多能爲麤鄙之事也、

又我カ聖ニ非シテ、多能ナル所以ノ由ヲ説ク、言ハ我少ク小クシテ貧シク賤シカリキ、故ニ麤鄙ノ事ヲ爲ルニ多能ナリ、

【經】

君子多乎哉、不多也、

君子多ナレヤ、多ナラス、

【疏】

更云、若聖人君子、豈多能鄙事乎、則不多能也、協云、君子從物應務、道達則務簡、務簡則不多能也、江熙云、言君子所存、遠者大者、不應多能、

更ニ云ク、聖人君子ノ若キンハ、豈ニ鄙事ニ多能ナランヤ、則チ多能ナラス、協力云ク、君子ハ物ニ從テ務



ニ應ス、道達スル則ハ務簡ナリ、務簡ナル則ハ多能ナラ不、江熙カ云ク、言ハ君子ノ存スル所ハ、遠キ者大ナル者ナリ、多能ニ應セ不、

【注】

苞氏曰、我少小、貧賤、常自執事、故多能爲鄙人之事、君子固不當多能也、

苞氏カ曰ク、我少小ナツシトキニ、貧ク賤シテ、常ニ自事ヲ執レリ、故ニ鄙人ノ事ヲ爲ルニ多能、君子ハ固ニ當ニ多能ナル當カラ不、

【疏】

樂肇云、周禮百工之事、皆聖人之作也、明聖人兼材備藝過人也、是以太宰見其多能、固疑夫子之聖也、子貢曰、固天縱之將聖、又多能、故承以謙也、且抑排、務言不以多能爲君子也、謂君子不當多能也、明兼才者、自然多能、多能者非所學、所以先道德、後伎藝耳、非謂多能必不聖也、據孔子聖人、而多能、斯伐柯之近鑒也、

樂肇カ云ク、周禮二百工ノ事アリ、皆聖人ノ作ナリ、明ケシ聖人ハ材ヲ兼ネ藝ヲ備テ人ニ過コトヲ、是ヲ以太

宰其ノ多能ヲ見テ、固ニ夫子ノ聖ナルコトヲ疑フ、子貢カ曰ク、固ニ天ノ縱セル將聖ナリ、又多能ナリ、故ニ承ルニ謙ヲ以ス、且タ抑ヘ排ツテ、務テ多能ヲ以君子ト爲不コトヲ言フ、謂ル君子ハ當ニ多能ナル當カラ不、明ケシオヲ兼ヌルコトハ、自然ノ多能ナリ、多能者學フ所ニ非、道德ヲ先シ、伎藝ヲ後ニスル所以耳、多能ヲ必ス聖ニ不ト謂フニ非、孔子聖人ニ據テ、多能ナルハ、斯レ柯ヲ伐ルノ近鑒ナリ、

【經】

牢曰、子云、吾不試、故藝、

牢カ曰ク、子ノ云ク、吾試イラレ不、故ニ藝ナリ、

【疏】

試用也、子牢述孔子言、緣我不被時用、故得多學伎藝也、繆協云、我蓋所以多能之義也、言我若見用、將崇本息末、歸純反素、兼愛以忘仁、遊藝以去藝、豈唯不多能鄙事而已

試ハ用ナリ、子牢孔子ノ言ヲ述フ、我時ニ用ヒ被レ不ルニ緣テ、故ニ多ク伎藝ヲ學フコトヲ得タリ、繆協カ云ク、我蓋シ多能ナル所以ノ義ナリ、言ハ我若シ用ヒ見レ

ハ、將ニ本ヲ崇<sup>タツト</sup>ヒ末ヲ息<sup>ヤ</sup>メ、純ニ歸リ素ニ反テ、兼<sup>ニ</sup>愛シテ以テ仁ヲ忘レ、藝ニ遊テ藝ヲ去ケン、豈ニ唯タ鄙<sup>ニ</sup>事ニ多<sup>ニ</sup>能ナラ不<sup>ル</sup>而<sup>レ</sup>已<sup>ミ</sup>ナランヤ

【注】

鄭玄曰、牢弟子子牢也、試用也、言孔子自<sup>(二八)</sup>云、我不見用、故多能伎藝也、

鄭玄カ曰ク、牢ハ弟子子牢ソ、試ハ用、言<sup>いふことろ</sup>ハ孔子自<sup>みづから</sup>云<sup>のたまは</sup>ク、我用<sup>わ</sup>ヒ見<sup>ら</sup>スレ不<sup>ス</sup>、故ニ伎<sup>し</sup>藝<sup>ぎ</sup>ニ多<sup>ニ</sup>能<sup>ニ</sup>ナリト、

- (一) 「大」、武内本作「太」。
- (二) 「冢」、武内本作「冢」。
- (三) 「鄩」、武内本作「鄩」。
- (四) 「太」、武内本作「太」。
- (五) 「太」、武内本作「大」。
- (六) 「言」、武内本作「云」。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。
- (八) 「云」、武内本作「曰」。
- (九) 「協云」、武内本作「繆協曰」。
- (一〇) 「云」、武内本作「曰」。
- (一一) 「能」下、武内本有「也」字。

- (一二) 「云」、武内本作「曰」。
- (一三) 「備」、武内本作「修」。
- (一四) 「太」、武内本作「大」。
- (一五) 「云」、武内本作「曰」。
- (一六) 「云」、武内本作「曰」。
- (一七) 「多」上、武内本有「不」字。
- (一八) 「云」、武内本作「言」。

【經】

子曰、吾有知乎哉、無知也、

子<sup>のたまは</sup>ノ曰<sup>わ</sup>ク、吾知<sup>わ</sup>レルコト有リヤ、知<sup>わ</sup>レルコト無シ、

【疏】

知謂有私意於其聞之知也、聖人體道爲度、無有用意之知、故先問弟子云、吾有知乎哉也、又云無知也、明己不有知知之意也、即是無意也、

知<sup>し</sup>レルトハ私<sup>し</sup>ニ其<sup>の</sup>ノ聞<sup>きこ</sup>ニ意<sup>い</sup>有<sup>あ</sup>ルノ知<sup>ち</sup>ヲ謂<sup>い</sup>フ、聖人ハ道ヲ體シテ度<sup>ど</sup>(度)ト爲<sup>な</sup>ス、意<sup>い</sup>ヲ用<sup>もち</sup>ルノ知<sup>ち</sup>有<sup>あ</sup>ルコト無シ、故ニ先ツ弟<sup>てい</sup>子<sup>し</sup>ニ問<sup>と</sup>テ云<sup>い</sup>ク、吾知<sup>わ</sup>レルコト有<sup>あ</sup>リ乎<sup>や</sup>、又云<sup>また</sup>ク知<sup>し</sup>レルコト無シ、己<sup>おのれ</sup>知<sup>し</sup>アリト知<sup>し</sup>ルノ意<sup>い</sup>有<sup>あ</sup>ラ不<sup>な</sup>ルコトヲ明<sup>あ</sup>ス

ス、即チ是レ意無キナリ、

【注】

知者、知意之知也、

知レルト<sup>ハ</sup>者、意ヲ知ルノ知ソ、

【疏】

知意、謂故用知爲知也、聖人忘知、故無知知意也、

意ヲ知ルトハ、謂ル<sup>いはゆ</sup>故ニ知ヲ用テ知レリト爲ルナリ、  
聖人ハ知ヲ忘ル、故ニ知ヲ知ルノ意無シ、

【注】

言知者、言未必盡也、

言<sup>いふこと</sup>ハ知ル<sup>し</sup>者ハ、言未タ必モ<sup>コト</sup>盡サ未<sup>ス</sup>、

【疏】

若用知者、則用意有偏、故其言未必盡也、

若シ知ヲ用ル者<sup>も</sup>ハ、則チ意ヲ用ルコト偏有リ、故ニ其ノ<sup>し</sup>

言未タ必シモ<sup>コト</sup>盡サ未<sup>ス</sup>、

【注】

今我誠盡也、

今我誠ニ<sup>いまわ</sup>盡セリ、

【疏】

我以不知知、故於言誠無不盡也、

我知<sup>わ</sup>ヲ知ラ<sup>き</sup>不ルヲ以テノ、故ニ言ニ於テ誠ニ盡サ<sup>コト</sup>不ルコト  
無シ、

【經】

有鄙夫、來問於我、空空如也、

鄙<sup>コト</sup>夫有リ、來テ我ニ問フ(鄙<sup>コト</sup>夫ニ、來テ我ニ問フ有リ)、  
空<sup>コト</sup>空<sup>コト</sup>如タリ、

【疏】

此舉無知而誠盡之事也、鄙夫鄙劣之夫也、空空無識也、言  
有鄙夫、來問我、而心抱空虚如也、

此レハ知ルコト無クシテ誠ニ盡スノ事ヲ擧ク、鄙夫トハ鄙劣ノ夫ナリ、空ハ識ルコト無キナリ、言ハ鄙夫有テ、來テ我ニ問フ、而シテ心抱空虛如タリ、

### 【經】

我叩其兩端、而竭焉、

我其ノ兩ツノ端ヲ叩ゲテ、竭ス、

### 【疏】

兩端事之終始也、雖言復鄙夫、而又虛空來問於我、我亦無隱、不得用知處之、故即爲其發事終始、竭盡我誠也、即是無必也、故李充云、日月照臨不爲愚智易光、聖人善誘不爲賢鄙異教、雖復鄙夫寡識、而率其疑誠、諮疑於聖、必示之以善惡之兩端、已竭心以誨之也、

兩端ハ事ノ終始ナリ、復鄙夫ト言フト雖、又虛空ニシテ來テ我ニ問フ、我亦隱スコト無シ、得テ知ヲ用テ之ニ處ラ不、故ニ即チ其ノ爲ニ事ノ終始ヲ發シテ、我カ誠ヲ竭シ盡ス、即チ是レ必ストナルコト無キナリ、故ニ李充カ云ク、日月ハ照臨シテ愚智ノ爲ニ光ヲ易ヘ不、聖人ハ善ク誘テ賢鄙ノ爲ニ教ヲ異ニセ不、復鄙夫寡識ト

雖、其ノ疑誠ヲ率イテ、疑ヲ聖ニ諮フトキハ、必ス之ニ示スニ善惡ノ兩端ヲ以テ、己心ヲ竭シテ以テ之ヲ誨フ、

### 【注】

孔安國曰、有鄙夫、來問於我、其意空空然、我則發事之終始兩端、以語之、竭盡所知、不爲有所愛也、

孔安國カ曰ク、鄙夫有リ、來テ我ニ問フ、其ノ意空々然タリ、我則チ事ノ終始ノ兩端ヲ（終リ始メノ兩ツノ端ヲ）發シテ、之ニ語テ、知レル所ヲ竭シ盡シテ、爲ニ愛ム所有ラ不、

### 【疏】

繆協云、夫名由迹生、故知從事顯、無爲寂然何知之有、唯其無也、故能無所不應、雖鄙夫、誠問、必爲盡其本末也、

繆協カ云ク、夫レ名ハ迹ニ由テ生ス、故ニ知ハ事ニ從テ顯ル、無爲爲寂然タラハ何ノ知カ有ラン、唯タ其レ無ナリ、故ニ能ク應セ不トイフ所無シ、鄙夫ト雖、誠ニ問フトキハ、必ス爲ニ其ノ本末ヲ盡ス、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「云」、武内本無此字。

(三) 「雖言」、武内本作「言雖」。

(四) 「得」、武内本作「以」。

(五) 「云」、武内本作「曰」。

(六) 「疑」、武内本無此字。

(七) 「已竭」、武内本作「竭已」。

(八) 「之」下、武内本有「也而」二字。

(九) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、鳳鳥不至、河不出圖、吾已矣夫、

子ノ曰ク、鳳鳥至ラ不<sup>ス</sup>、河圖ヲ出タサ不<sup>ス</sup>、吾已<sup>ハ</sup>ン<sup>ヌ</sup>矣<sup>ハ</sup>夫<sup>ト</sup>、

【疏】

夫時人皆願孔子有人主之事、故孔子釋已不得以塞之也、言昔之聖人應王者、必有鳳鳥河圖之瑞、今天無此瑞、故云吾已矣夫、已止也、言吾已止無此事也、故繆協云、夫聖人達命、不復俟此乃知也、方遺知任事、故理至乃言、所以言者、將釋衆庶之望也、

夫レ時ノ人皆孔子ノ人主ノ事有ランコトヲ願フ、故ニ孔子已得<sup>オホシ</sup>不<sup>ス</sup>コトヲ釋シテ之ヲ塞ク、言ハ昔ノ聖人王ニ應スル者ハ、必ス鳳鳥河圖ノ瑞有リ、今天此ノ瑞無シ、故ニ云ク吾已<sup>ハ</sup>ン<sup>ヌ</sup>矣<sup>ハ</sup>夫<sup>ト</sup>、已ハ止ナリ、言ハ吾已ミ止ムトハ此ノ事無キナリ、故ニ繆協カ云ク、夫レ聖人ハ命ニ達ス、復此ヲ俟タ不シテ乃チ知ル、方ニ知ヲ遺レテ事ニ任ス、故ニ理至テ乃チ言フ、言フ所以ハ將ニ衆庶ノ望ヲ釋カント<sup>ス</sup>將、

【注】

孔安國曰、有聖人、受命則、鳳鳥至、

孔安國カ曰ク、聖人有テ、命ヲ受クル則ハ、鳳鳥至リ、

【疏】

麟鳳五靈王者之嘉瑞也、

麟鳳五靈ハ王者ノ嘉瑞ナリ、

【注】

河出圖、今天無此瑞、吾已矣夫者、不得見也、

河圖ヲ出ス、今天ニ此ノ「瑞無シ、吾已ン矣ル夫ト者、見ルコトヲ得サル」

【疏】

聖人王則、有龍馬及神龜、負應王之圖書、從河而出爲瑞也、如龍圖授伏犧、龜書畀姒也、

聖人王タル則ハ、龍馬及ヒ神龜有リ、應王ノ圖書ヲ負テ、河從リ出テ瑞ヲ爲ス、龍圖ヲ伏犧ニ授ケ、龜書ヲ姒ニ畀ウルカ如シ、

【注】

河圖、八卦是也、

河圖ハ、八卦是ナリ、

【疏】

八卦則易乾坤等八方之卦也、龍負之出授伏犧也。又孫綽云、孔子所以乃發此言者、以體大聖之德、弟子皆稟絕異之質、壘落殊才英偉命世之才、蓋王德光于上、將相備乎下、當世之君、咸有忌難之心、故稱此以徵己之不王、絕不達者之疑望也、

八卦トハ則チ易ノ乾坤等ノ八方ノ卦ナリ、龍ノヲ負テ出テ伏羲ニ授ク。又孫綽カ云ク、孔子乃チ此ノ「言ヲ發スル所以ハ、以ルニ大聖ノ德ヲ體シテ、弟子皆絶異ノ質、壘落タル殊才英偉命世ノ才ヲ稟ク、蓋シ王ノ德上ニ光リ、將相下ニ備ル、當世ノ君、咸クニ忌ミ難ルノ心有リ、故ニ此ヲ稱シテ、己カ王タラ不ランコトヲ徵ス、不達ノ者ノ疑望ヲ絶ス、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「犧」、武内本作「義」、下同。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「乃」、武内本作「及」。

【經】

子見齊衰者、

子齊衰ノ者、(冕衣裳ノ者ト、瞽者與ヲ) 見テハ、

【疏】

此記孔子哀人有喪者也、齊衰五服之第二者也、言齊則斬從可知、而大功不預也、

此レハ孔子人ノ喪ニ有ル者ヲ哀<sup>かなしみ</sup>コトヲ記ス、齊<sup>せい</sup>衰<sup>さい</sup>トハ五服ノ第一ノ者ナリ、齊<sup>せい</sup>言フ則ハ斬<sup>せん</sup>ハ從テ知ヌ可シ、而シテ大功ハ預ラ不<sup>ス</sup>、

【經】

冕衣裳者、

冕<sup>も</sup>衣<sup>い</sup>裳<sup>しやう</sup>ノ者ト、

【疏】

記孔子尊敬在位者也、冕衣裳者、周禮大夫以上之服也、大夫以上尊、則士不在列也、

孔子位ニ在ル者ヲ尊<sup>うやまつ</sup>敬スルコトヲ記ス、冕<sup>も</sup>衣<sup>い</sup>裳<sup>しやう</sup>ハ、周禮ニ大夫以上ノ服ナリ、大夫以上ハ尊シ、則チ士ハ列ニ在ラ不<sup>ス</sup>、

【經】

與瞽者、

瞽<sup>こ</sup>者與<sup>と</sup>ヲ、

【疏】

記孔子愍不成人也、瞽盲者也、言與者、盲者卑、故加與字、以別之也、言瞽者則、聾者不預也、聾疾輕於盲也、

孔子人ト成ラ不<sup>さ</sup>ルヲ愍<sup>あはれ</sup>ムコトヲ記ス、瞽ハ盲<sup>めい</sup>者ナリ、與ト言フコトハ、盲<sup>めい</sup>者ハ卑シ、故ニ與ノ字ヲ加ヘテ、以テ之ヲ別ツ、瞽<sup>こ</sup>者ト言フ則ハ、聾<sup>とう</sup>者ハ預ラ不<sup>ス</sup>、聾<sup>とう</sup>疾ハ盲ヨリ輕シ、

【注】

荀氏曰、冕者冕冠也、大夫服也、瞽者盲者也、

荀氏カ曰ク、冕ハ冕冠ソ、大夫ノ服ソ、瞽<sup>こ</sup>ハ盲<sup>めい</sup>タル<sup>も</sup>者ナリ、

【經】

見之、雖少者、必作、

之<sup>まみゆ</sup>ニ見<sup>み</sup>ルニ、少<sup>すく</sup>者ナリト雖、必<sup>いへとも</sup>ス作<sup>たく</sup>ツ、

【疏】

言孔子見此三種人、雖復年少、孔子改坐、而見之、必爲之

起也、

言ハ孔子此ノ三種ノ人ニ見ルニ、復タ年少ナリト雖、孔子坐ヲ改メテ、之ニ見テ、必ス之カ爲ニ起ツ、

【經】

過之必趨、

過クルトキハ必ス趨ル、

【疏】

趨疾行也、又明孔子若行過此三種人、必爲之疾速、不敢自修客也。范寧云、趨就之也、

趨トハ疾ク行クナリ、又孔子ノ若シ此ノ三種ノ人ニ行キ過ルトキハ、必ス之カ爲ニ疾速ニシテ、敢テ自客ヲ修メシメ不ルコトヲ明ス。范寧カ曰ク、趨テ之ニ就ク、

【注】

荀氏曰、作起也、趨疾行也、此夫子哀有喪、尊在位、恤不成人之也、

荀氏カ曰ク、作ハ起、趨ハ疾ク行クソ、此レハ夫子喪ニ有ルモノヲ哀ミ、位ニ在ルモノヲ尊ヒ、人ト成ラ不ルヲ恤ウ、

【疏】

恤憂也、

恤ハ憂、

(一) 「夫」下、武内本有「之」字。

(二) 「敢」、武内本作「取」。

(三) 「客」、武内本作「容」。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

顏淵喟然歎曰、

顏淵喟然トシテ歎シテ曰ク、

【疏】

孔子至聖、顏生上賢、賢聖道絶、故顏致歎也、



孔子ハ至<sup>ミ</sup>聖ナリ、顔生ハ上<sup>ミ</sup>賢ナリ、賢<sup>ミ</sup>聖道<sup>ミ</sup>絶ス、故ニ  
顔歎ヲ致ス、

【注】

喟然、歎聲也、

喟然ハ、歎スル<sup>キ</sup>聲ソ、

【經】

仰之彌高、鑽之彌堅、

仰ケハ、彌<sup>ミ</sup>高ク、鑽<sup>キ</sup>レハ、彌<sup>ミ</sup>堅シ、

【疏】

此所歎之事也、夫物雖高者、若仰瞻則可親也、物雖堅者、  
若鑽<sup>ミ</sup>則可入也、顔於孔子道、愈瞻愈高、彌鑽彌堅、非已  
厝力之能得也、故孫綽云、夫有限之高、雖高岱可陵、有形  
之堅、雖金石可鑽、若乃彌高彌堅、鑽仰所不逮、故知絕域  
之高堅、未可以力至也、

此レハ歎スル所ノ事ナリ、夫レ物ノ高シト雖<sup>ミ</sup>、若シ仰キ  
瞻ル<sup>ミ</sup>則ハ親ツ可シ、物ノ堅シト雖<sup>ミ</sup>、若鑽リ<sup>ミ</sup>鑽ム<sup>ミ</sup>（鑽<sup>ミ</sup>）

則<sup>ミ</sup>ハ入ツ可シ、顔孔子ノ道ニ於テ愈<sup>ミ</sup>瞻レハ愈<sup>ミ</sup>高  
ク、彌<sup>ミ</sup>鑽レハ彌<sup>ミ</sup>堅シ、己力ヲ厝クガ能ク得ルニ非  
ス、故ニ孫綽カ云ク、夫レ限り有ルノ高キハ、高岱ト雖<sup>ミ</sup>  
陵ク可シ、形<sup>ミ</sup>有ノ堅キハ、金石ト雖モ鑽ル可シ、乃チ  
彌<sup>ミ</sup>高ク彌<sup>ミ</sup>堅キカ若キンハ、鑽<sup>ミ</sup>仰ノ逮ハ不<sup>ミ</sup>ル所ナリ、  
故ニ知ヌ絶<sup>ミ</sup>域ノ高<sup>ミ</sup>堅ハ、未タ力ヲ以テ至ル<sup>ミ</sup>可未<sup>ミ</sup>、

【注】

言不可窮盡也、

言ハ窮メ<sup>ミ</sup>盡ス可<sup>ミ</sup>不<sup>ミ</sup>、

【經】

瞻之在前、忽焉在後、

瞻ルニ前<sup>ミ</sup>ニ在ルカトスレハ（前<sup>ミ</sup>ニ在リ）、忽焉トシテ後<sup>ミ</sup>  
ニ在リ、

【疏】

向明瞻鑽上下之絕域、此明四方之無窮也、若四方而瞻復爲  
遼遠、故恍惚非已所定、所以或前或後也、

向ニハ瞻<sup>サキ</sup>鑽<sup>ス</sup>ヲ上<sup>リ</sup>下<sup>リ</sup>ノ絶域ニ明ス、此ニハ四方ノ窮マリ無コトヲ明ス、若シ四方ニシテ瞻ルトキハ復タ遼<sup>ハルカニ</sup>(遼)遠ナリト爲、故ニ怵<sup>フコヘ</sup>惚<sup>マヘ</sup>トシテ已カ定ムル所ニ非ス、所以ニ或ハ前<sup>マヘ</sup>或ハ後<sup>シリヘ</sup>ナリ、

【注】

言忽怵、不可爲形像也、

言ハ忽<sup>いふころ</sup>怵<sup>キヤ</sup>トシテ、形像ヲ爲ス可不<sup>ヘカラス</sup>、

【疏】

亦如向說。又一通云、愈瞻愈遠、故云瞻之在前也、愈顧愈後、故云忽焉在後也、故孫綽云、馳而不及、待而不至、不行不動、孰能測其所妙哉。江熙云、慕聖之道、其殆庶幾、是以欲齊其高、而仰之愈遠、思等其深、而鑽鑿愈堅、尚竝其前、而俛仰塵絕、此其所以喟然者也、

亦向<sup>サキ</sup>ノ說ノ如シ。又一通ニ云ク、愈<sup>いよいよ</sup>瞻<sup>いよいよ</sup>レハ愈<sup>いよいよ</sup>遠<sup>いよいよ</sup>シ、故ニ云ク瞻ルニ前ニ在リ、愈<sup>いよいよ</sup>顧<sup>いよいよ</sup>レハ愈<sup>いよいよ</sup>後<sup>いよいよ</sup>ナリ、故ニ云ク忽焉トシテ後ニ在リ、故ニ孫綽カ云ク、馳<sup>チ</sup>而<sup>ニ</sup>及<sup>ス</sup>ハ不<sup>ス</sup>、待<sup>マテ</sup>テ至<sup>ス</sup>ラ不<sup>ス</sup>、行<sup>ユク</sup>カ不<sup>ス</sup>動<sup>ス</sup>カ不<sup>ス</sup>、孰<sup>ナニ</sup>カ能<sup>ス</sup>ク其<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup>妙

ヲ測ラン哉。江熙カ云ク、聖ノ道ヲ慕コト、其レ庶幾<sup>チカ</sup>(庶幾フ)ニ殆<sup>いた</sup>シ、是ヲ以テ其ノ高キニ齊カラント欲テ、之ヲ仰ケハ愈<sup>いよいよ</sup>遠<sup>ハル</sup>カナリ、其ノ深<sup>ヒトシ</sup>ニ等<sup>ヒトシ</sup>カラシコトヲ思テ、鑽<sup>ス</sup>鑿<sup>ス</sup>スレハ愈<sup>いよいよ</sup>堅<sup>ナ</sup>シ、尚<sup>ナ</sup>其ノ前ニ竝<sup>ナ</sup>テ、俛<sup>フシ</sup>(俛)仰<sup>ウ</sup>スレハ塵<sup>アト</sup>絶ス、此レ其レ喟<sup>キイ</sup>然タル所以<sup>ゆゑん</sup>ノ者ナリ、

【經】

夫子循循然、善誘人、

夫<sup>ス</sup>子循<sup>ス</sup>然トシテ、善ク人ヲ誘ム、

【疏】

又歎聖道雖懸、而令人企慕也、循循序也、誘進也、言孔子以聖道、進<sup>ユ</sup>勸<sup>ム</sup>人、而有次序、故曰善誘人、

又聖<sup>また</sup>道懸<sup>ハル</sup>カナリト雖<sup>いへども</sup>、人ヲ令<sup>シ</sup>テ企<sup>シ</sup>慕<sup>シ</sup>ハ令<sup>シ</sup>ムルコトヲ歎<sup>ス</sup>ス、循<sup>もて</sup>循序ハ次序ナリ、誘ハ進ナリ、言ハ孔子聖道ヲ以、人ヲ進<sup>ス</sup>メ勸<sup>ム</sup>テ、次序有リ、故ニ曰ク善ク人ヲ誘ムト、

## 【注】

循循、次序貌也、誘進也、言夫子正以此道、勸進人、有次序也、

循ハ、次一序ノ貌ソ、誘ハ進、言ハ夫子正シク此ノ

道ヲ以テ、人ヲ勸メ進ムルコト、次一序有リ、

## 【經】

博我以文、約我以禮、

我ヲ博ムルニ文ヲ以テシ、我ヲ約ヤカニスルニ禮ヲ以ス、

## 【疏】

此說善誘之事也、博廣也、文文章也、言孔子廣以文章、誘引於我、故云、博我以文章也、又以禮教約束我、故云約我以禮也、

此レハ善ク誘クノ事ヲ説ク、博ハ廣ナリ、文ハ文章ナリ、言ハ孔子廣ムルニ文一章ヲ以テ、我ヲ誘引ス、故ニ云ク、我ヲ博ムルニ文一章ヲ以テスト、又禮ヲ以テ教ヘテ我ヲ約束ス、故ニ云ク我ヲ約ムルニ禮ヲ以テスト、

## 【經】

欲罷不能、

罷ンナント欲スレトモ能ハ不リキ、

## 【疏】

文博、禮束、故我雖欲罷止、而不能止也、

文ヲモテ博メ、禮ヲモテ束ヌ、故ニ我罷ミ止マント欲スト雖モ、止ムコト能ハス、

## 【經】

既竭吾才、

既クニ吾カ才ヲ竭ス、

## 【疏】

既盡也、才力也、我不能罷、故盡竭我之才力學之也、故孫綽云、既以文章、博我視聽、又以禮節約我以中、俯仰動止、莫不景行、才力已竭、猶不能已、罷猶罷息也、

既ハ盡ナリ、才ハ才力ナリ、我罷ムコト能ハス、故ニ我

カオ<sup>一</sup>力ヲ盡シ<sup>一</sup>竭シテ之ヲ學フ、故ニ孫綽カ云ク、既ニ文<sup>一</sup>章ヲ以<sup>一</sup>、我カ視<sup>一</sup>聽ヲ博メ、又禮<sup>一</sup>節ヲ以テ我ヲ約ニスルニ中ヲ以テス、俯<sup>一</sup>仰動<sup>一</sup>止、景<sup>一</sup>行ナラ不トイフコト莫シ、オ<sup>一</sup>力已ニ竭ス、猶已ムコト能不<sup>一</sup>、罷ハ罷<sup>一</sup>息ノ猶シ、

【經】

如有所立、卓爾、

如シ立ツル所有ルトキハ、卓爾タリ、

【疏】

此明絶地不可得言之處也、卓高遠貌也、言雖自竭才力、以學博文約禮、而孔子更有所言述創立、則卓爾高絶也、

此レハ地ヲ絶シテ（絶）<sup>（これをいふやうへからさ）</sup>之言得可不ルノ處ヲ明ス、卓ハ高<sup>一</sup>遠ノ貌ナリ、言<sup>ハ</sup>自<sup>オ</sup>力ヲ竭シテ、博<sup>一</sup>文約<sup>一</sup>禮ヲ學フト雖モ、而トモ孔子更ニ言<sup>一</sup>述シテ創<sup>メ</sup>テ立<sup>ル</sup>所有ル、則ハ卓爾トシテ高<sup>一</sup>絶ナリ、

【經】

雖欲從之、末由也已、

從ハマク欲スト雖モ、由<sup>シ</sup>末カラマク已、

【疏】

末無也、言其好妙高<sup>（一）</sup>已絶、雖已欲從之、而無由可及也、故孫綽云、常事皆循<sup>（二）</sup>而行之、若有所興立、卓然出視聽<sup>（三）</sup>之表、猶天之不可階而升、從之將何由也、此顏孔所絶處也、

末ハ無ナリ、言<sup>ハ</sup>其<sup>レ</sup>好<sup>一</sup>妙<sup>ニ</sup>シテ高シテ已ニ絶ス、已<sup>（一）</sup>之ニ從ハント欲スト雖モ、而モ及フ可キニ由無シ、故ニ孫綽カ云ク、常ノ事ハ皆循<sup>（二）</sup>テ之ヲ行フ、若シ興<sup>（三）</sup>シ立ツル所有レハ、卓然トシテ視<sup>一</sup>聽ノ表ニ出ツ、天ノ階<sup>（四）</sup>タテ<sup>一</sup>而升ル可ラ不ルカ猶シ、之ニ從フニ將ニ何ノ<sup>（五）</sup>由アラントカ將ル、此レ顏孔ノ絶スル所ノ處ナリ、

【注】

孔安國曰、言夫子既以文章、開博我、又以禮節節約我、使我欲罷而不能、已竭我才矣、其有所立則、又卓然不可及、言<sup>（一）</sup>已<sup>（二）</sup>雖蒙夫子之善誘、猶不能及夫子之所立<sup>（三）</sup>、

孔安國カ曰ク、言ハ夫子既ニ文一章ヲ以テ、我ヲ開キ、  
博メ、又禮節ヲ以テ我ヲ節約シテ（節約ス）、我ヲ使テ  
罷ンナント欲トモ能ハヌラ使ム、已ニ我カオヲ竭ス、其  
レ立ツル所有ル則ハ、又卓然トシテ及フ可不、言ハ  
已ニ夫子ノ善誘ヲ蒙ルト雖モ、猶夫子ノ立ツル所ニ及フ  
コト能ハヌ、

- (一) 「鏟」、武内本作「鏟」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「鑽」、武内本作「仰」。
- (四) 「復」、武内本作「後」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「所妙」、武内本作「妙所」。
- (八) 「進勸」、武内本作「勸進」。
- (九) 「人」下、武内本有「也」字。
- (一〇) 「既」、武内本作「竭」。
- (一一) 「云」、武内本作「曰」。
- (一二) 「已」、武内本無此字。
- (一三) 「云」、武内本作「曰」。
- (一四) 「循」、武内本作「脩」。
- (一五) 「出」下、武内本有「乎」字。

- (一六) 「已」、武内本作「己」。
- (一七) 「立」下、武内本有「也」字。

【經】  
子疾病、

子ノ疾病ナリ、

【疏】

孔子病甚也、

孔子ノ病甚シ、

【注】

苞氏曰、疾甚曰病也、

苞氏カ曰ク、疾ノ甚キヲ病ト曰フ、

【經】

子路使門人、爲臣、

子路門人ヲ使テ、臣爲ラ使ム、

【疏】

子路以孔子聖人、宜爲人君、且嘗爲大夫、大夫亦有家臣、今疾病、恐忽終亡、故使弟子行臣禮也、故江熙云、子路以聖人君道足、宜有臣、猶禱上下神祇也、

子路孔子ノ聖人ナルヲ以、宜ク人君爲ル宜シトス、且タ嘗テ大夫爲リ、大夫ハ亦家臣有リ、今ヒ疾ニ病ニシテ、恐ラクハ忽ニ終ニ亡セン、故ニ弟子ヲ使テ臣ノ禮ヲ行ハ使ム、故ニ江熙カ云ク、子路聖人ハ君道足ルヲ以テ、宜ク臣有ル宜シトス、上下ノ神祇ニ禱ルカ猶シ、

【注】

鄭玄曰、孔子嘗爲大夫、故子路欲使弟子、行其臣之禮也、

鄭玄カ曰ク、孔子嘗テ大夫爲リ、故子路弟子ヲ使テ其ノ臣ノ禮ヲ行ハ使メマク欲ス、

【經】

病間曰、久矣哉由之行詐也、

病ノ間アルトキニシテ曰ク、久シイ矣由カ詐ヲ行フコト、

【疏】

孔子病少差也、小差曰間、謂少差爲間者、若病不差、則病病相續、無間斷也、若小差則、病勢斷絶、有間隙也、當孔子病困時、不覺子路爲立臣、至於小差、乃覺而歎子路行詐也、言子路有此行詐之心、非復一日、故曰久矣也、

孔子ノ病少シ差ユ、小シ差ユルヲ間ト曰フ、少シ差ルヲ謂テ間ト爲ルコトハ、若シ病差ヘ不ル、則ハ病病相ヒ續テ、間斷無シ、若シ小シ差ル則ハ、病ノ勢ヒ斷絶シテ、間隙有リ、孔子病困ノ時ニ當テ、子路カ臣ヲ立テント爲ルコトヲ覺ヘ不、小シ差ルニ至テ、乃チ覺而子路カ詐ヲ行コトヲ歎ス、言ハ子路此ノ詐ヲ行フノ心有ルコト、復一日ニ非ス、故ニ曰ク久シイ矣ト、

【經】

無臣、而爲有臣、

臣無シ、而ルヲ臣有リト爲ス、

【疏】

無臣而爲有、所以是行詐也、

臣無シテ而シテ有リト爲<sup>ス</sup>、是レ詐ヲ行フ所<sup>ユ</sup>以ナリ、

## 【經】

吾誰欺、欺天乎、

吾誰<sup>わしたレ</sup>ヲカ欺カン、天ヲ欺<sup>あさま</sup>カン乎、

## 【疏】

我實無臣、今汝詐立之、持此詐、欲欺誰乎、天下人、皆知我無臣、則人不可欺、今日立之、此政是遠欲欺天、故云欺天乎、

我實<sup>わじ</sup>ニ臣無シ、今汝<sup>なんす</sup>詐テ之ヲ立ツ、此ノ詐ヲ持シテ、誰ヲ欺カントカ欲スル乎、天<sup>ヤ</sup>下ノ人ハ、皆我カ臣無キコトヲ知ル、則<sup>とん</sup>ハ人ヲハ欺<sup>へから</sup>ク可不<sup>ス</sup>、今<sup>ミナ</sup>日之ヲ立ツ、此レ政ニ是レ遠ク天ヲ欺ント欲<sup>ほつす</sup>、故ニ云ク天ヲ欺カンカ、

## 【注】

孔安國曰、病少<sup>四</sup>差曰閒也、言子路久有是心、非唯今日也、

孔安國カ曰ク、病ノ少シ差ルヲ閒ト曰フ、言<sup>いふことろ</sup>ハ子路久ク是ノ心有ルコト、唯<sup>ケ</sup>今日<sup>フ</sup>ノミニ非ス、

## 【疏】

夫立臣事大、非卒可定、汝今立之、是知有其心、已久故也、

夫レ臣ヲ立ルノ事<sup>一</sup>大ナリ、卒<sup>ミラ</sup>カニ定ム可キニ非ス、汝<sup>なんす</sup>今之ヲ立ツ、是レ知ヌ其ノ心有ルコト、已ニ久<sup>一</sup>故ナルコトヲ、

## 【經】

且予與其死於臣之手也、無寧死於二三子之手乎、

且ツ予其レ臣ノ手ニ死ナン與ハ、無<sup>ムシロ</sup>寧<sup>ヨリ</sup>二三子ノ手ニ死ナンカ、

## 【疏】

又以理喻之、言在三事同、若以親密、而言則、臣不及弟子也、予我也、二三子諸弟子也、無寧寧也、言設使與我死於臣手、則我寧死弟子手也、臣禮就養有方、有方則隔、弟子無方、無方則親也、

又理ヲ以テ之ヲ喻<sup>サト</sup>ス、言<sup>いふことろ</sup>ハ三ニ在テ事同シ、若シ親密ヲ以テ、言フ則ハ、臣ハ弟子ニ及ハス、予ハ我ナリ、二三子トハ諸弟子ナリ、無寧ハ寧ナリ、言<sup>いふことろ</sup>ハ

設<sup>タトヒ</sup>使我<sup>シ</sup>臣<sup>ノ</sup>手<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>ナン與<sup>ヨリ</sup>ハ、我<sup>ワレ</sup>寧<sup>ニ</sup>口<sup>ニ</sup>弟<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>手<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>ナン、臣<sup>ノ</sup>禮<sup>ハ</sup>就<sup>キ</sup>養<sup>ニ</sup>方<sup>ミチ</sup>有<sup>リ</sup>、方<sup>ミチ</sup>有<sup>ル</sup>則<sup>トギン</sup>ハ隔<sup>ル</sup>、弟<sup>ノ</sup>子<sup>ハ</sup>方<sup>ミチ</sup>無<sup>シ</sup>、方<sup>ミチ</sup>無<sup>キ</sup>則<sup>トギン</sup>ハ親<sup>シ</sup>、

【注】

馬融曰、無寧寧也、一三子門人也、就使我<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup>臣<sup>ノ</sup>、而死其手<sup>ニ</sup>、我<sup>ワレ</sup>寧<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>弟子<sup>ノ</sup>之手<sup>ニ</sup>乎也、

馬融カ曰ク、無寧寧ハ寧、二一三子ハ門人ソ、就<sup>タトヒ</sup>使我<sup>シ</sup>臣有<sup>リ</sup>テ、其ノ手<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>ナンヨリハ、我<sup>ワレ</sup>寧<sup>ニ</sup>口<sup>ニ</sup>弟<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>手<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>ナンカ、

【經】

且予縱、不得大葬、

且ツ予縱<sup>ワレタト</sup>ヒ、大ナル葬ヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ト</sup>モ、

【疏】

又明在三同也、大葬臣禮葬君也、君葬禮大、故曰大葬也、

又三ニ在テ同キコトヲ明ス、大葬トハ臣ノ禮君ヲ葬ルナリ、君ノ葬ハ禮大ナリ、故ニ曰ク大ナル葬ト、

【注】

孔安國曰、君臣禮葬也、

孔安國カ曰ク、君臣ノ禮葬ソ、

【經】

予死於道路乎、

予道<sup>ワレ</sup>路<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>ナン乎、

【疏】

若縱<sup>セ</sup>不得君臣禮葬、有二三子在、我豈復被棄擲於道路乎、言亦必得葬也、

若シ縱<sup>タトヒ</sup>ヒ君臣ノ禮葬ヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ト</sup>モ、二一三子ノ在ル有<sup>リ</sup>、我豈<sup>ワレ</sup>二復道路ニ棄擲<sup>ヲ</sup>被<sup>レ</sup>レン乎、言ハ亦必葬ヲ得<sup>ス</sup>ン、

【注】

馬融曰、就使我<sup>シ</sup>不得<sup>ス</sup>以<sup>テ</sup>君臣之禮葬、有二三子在、我寧、當憂棄於道路乎、

馬融カ曰ク、就<sup>タトヒ</sup>使我<sup>シ</sup>君臣ノ禮葬ヲ以テスルコトヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>



トモ、二二三子ノ在ル有リ、我<sup>わ</sup>寧<sup>び</sup>口、當ニ道路ニ棄ラル  
ルコトヲ憂フ當ケンヤ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「少」、武内本作「小」。

(三) 「也」、武内本作「哉」。

(四) 「少」、武内本作「小」。

(五) 「之」、武内本無此字。

(六) 「君」下、武内本有「臣」字。

(七) 「若」、武内本作「君」。

【經】

子貢曰、有美玉於斯、

子貢カ曰ク、美玉斯ニ有リ、

【疏】

子貢欲觀孔子聖德藏用何如、故託事以諮衰否也、美玉譬孔  
子聖道也、言孔子有聖道可重、如世間有美玉、而在此也、

子貢孔子聖德ノ藏<sup>い</sup>用<sup>かん</sup>何<sup>い</sup>如<sup>かん</sup>ト觀マク欲、故ニ事ニ託シテ  
衰<sup>い</sup>否<sup>い</sup>ヲ諮フ、美玉ハ孔子ノ聖道ニ譬フ、言ハ孔子

聖道有テ重<sup>おも</sup>ス可<sup>べ</sup>コトハ、世間ノ美玉有テ、此ニ在ルカ  
如シ、

【經】

韞匱而藏、諸求善賈而沽諸、

匱<sup>ヒツ</sup>ニ韞<sup>ヲサ</sup>メテ藏<sup>かく</sup>シタリ、善<sup>い</sup>キ賈<sup>あたひ</sup>ヲ求メテ沽<sup>ウ</sup>ラメヤ、

【疏】

諸之也、韞裹之也、匱謂匣櫃之也、善賈貴賈也、沽賣也、  
言孔子聖道如美玉在此、爲當韞匣而藏之、爲當得貴價、而  
賣之不平、假有人請求聖道、爲當與之不耶、

諸ハ之ナリ、韞<sup>ヨシ</sup>トハ之ヲ裹<sup>ツツ</sup>ムソ、匱<sup>コウ</sup>トハ匣<sup>カフ</sup>櫃<sup>キ</sup>ヲ謂フ、善  
キ賈<sup>あたひ</sup>トハ貴<sup>あたひ</sup>キ賈<sup>あたひ</sup>ナリ、沽<sup>バイ</sup>ハ賣、言ハ孔子ノ聖道美  
玉ノ此ニ在ルカ如シ、爲<sup>ハタ</sup>當<sup>に</sup>匣<sup>ヲサ</sup>ニ韞<sup>い</sup>メテ之ヲ藏<sup>かく</sup>シタリ、  
爲<sup>ハタ</sup>當<sup>に</sup>貴<sup>あたひ</sup>キ賈<sup>あたひ</sup>ヲ得<sup>い</sup>テ、之ヲ賣<sup>い</sup>ランヤ不<sup>い</sup>ヤ、假<sup>タト</sup>イ人有<sup>い</sup>テ聖  
道ヲ請<sup>タト</sup>ヒ求<sup>い</sup>メハ、爲<sup>ハタ</sup>當<sup>に</sup>之ニ與<sup>い</sup>センヤ不<sup>い</sup>ヤ、

【注】

馬融曰、韞藏也、匱匱也、藏諸匱中也、沽賣也、得善賈<sup>③</sup>  
寧<sup>④</sup>賣之耶也、

馬融カ曰ク、韞ハ藏、匱ハ匱、匱ノ中ニ藏シタリ、沽ハ賣、善キ價ヲ得テ、寧ロ之ヲ賣ラメ耶、

【經】

子曰、沽之哉、沽之哉、

子ノ曰ク、沽ラメヤ（沽ランカナ）、沽之哉、

【疏】

答云、我不銜賣之者也、故重云、沽之哉、明不銜賣之深也、

答テ云ク、我銜ヒ賣ラ不ル者ナリ、故ニ重テ云ク、沽之哉、銜ヒ賣ラ不ルコトノ深コトヲ明ス、

【經】

我待價者也、

我ハ價ヲ待ツ者ナリ、

【疏】

又言、我雖不銜賣、然我亦待貴賈耳、有求者則、與之也、

又言ク、我ハ銜ヒ賣ラ不ト雖、然トモ我ハ亦貴キ賈ヲ待ラク耳、求ル者有ル則ハ、之ニ與セン、

【注】

荀氏曰、沽之哉、不銜賣之辭也、我居而待賣者也、

荀氏カ曰ク、沽之哉トハ、銜ヒ賣ラ不ルノ辭ソ、我ハ居テ賈ヲ待ツ者ナリ、

【疏】

王弼云、重言沽之哉、我賣之不疑也、故孔子乃聘諸侯、以急行其道也、

王弼カ云ク、重テ沽之哉ト言フコトハ、我之ヲ賣ルコト疑ハ不、故ニ孔子乃チ諸侯ニ聘シテ、急ニ其ノ道ヲ行フ、

(一) 「衰」、武内本作「臧」。

(二) 「賈」、武内本作「價」。

(三) 「價」、武内本作「賈」。

(四) 「寧」下、武内本有「肯」字。

(五) 「價」、武内本作「賈」。

(六) 「云」、武内本作「曰」。  
(七) 「我」、武内本無此字。

【經】

子欲居九夷、

子九夷二居ラマク欲ス、

【疏】

孔子聖道不行於中國、故託欲東往居於九夷也、亦如欲乘桴浮海也、

孔子ノ聖道中一國ニ行ハレ不<sup>ず</sup>、故ニ東カタ<sup>ラ</sup>往テ九夷ニ居ラマク欲スルニ託ス、亦桴ニ乗テ海ニ浮ハント欲スルカ如シ、

【注】

馬融曰、九夷東方之夷、有九種也、

馬融方曰ク、九夷ハ東方ノ夷ニ、九種有リ、

【疏】

四方。東有九夷、一玄兔、二樂浪、三高麗、四滿飾、五島夷、六索家、七東屠、八倭人、九天鄙。南有八蠻、一天竺、二次首、三焦薨、四跂踵、五穿胸、六僂耳、七狗邦、八虎春。西有六戎、一羌夷、二依貊、三織皮、四耆羌、五鼻息、六天罡。北有五狄、一月支、二穢貊、三匈奴、四單于、五白屋也、

【經】

或曰、陋如之何、

或ヒトノ曰ク、陋シ如<sup>い</sup>之<sup>い</sup>何<sup>カン</sup>、

四方。東ニ九夷有リ、一ニハ玄兔<sup>ト</sup>、二ニハ樂浪<sup>ラウ</sup>、三ニハ高麗<sup>リ</sup>、四ニハ滿飾<sup>シヨウ</sup>、五ニハ島夷<sup>ユ</sup>、六ニハ索家<sup>サク</sup>、七ニハ東屠<sup>チヨ</sup>、八ニハ倭人<sup>ワイ</sup>、九ニハ天鄙<sup>ヒ</sup>。南ハ一蠻有リ、一ニハ天竺<sup>セン</sup>、二ニハ次首<sup>ケウ</sup>、三ニハ焦薨<sup>タシ</sup>、四ニハ跂踵<sup>キ</sup>、五ニハ穿胸<sup>セン</sup>、六ニハ僂耳<sup>タシ</sup>、七ニハ狗邦<sup>ク</sup>、八ニハ虎春<sup>シヨウ</sup>。西ニ六戎有リ、一ニハ羌夷<sup>キヤウ</sup>、二ニハ依貊<sup>カウ</sup>、三ニハ織皮<sup>シ</sup>、四ニハ耆羌<sup>キ</sup>、五ニハ鼻息<sup>カウ</sup>、六ニハ天罡<sup>カウ</sup>。北ニ五狄有リ、一ニハ月支<sup>シ</sup>、二ニハ穢貊<sup>シ</sup>、三ニハ匈奴<sup>ケウ</sup>、四ニハ單于<sup>ゼム</sup>、五ニハ白屋<sup>シ</sup>、

【疏】

或人不達孔子意、謂之實居、故云、陋如之何、言夷狄鄙陋、不可居也、

或ル人ハ孔子ノ意ニ達セ<sup>ス</sup>不、謂ラク之ヲ實ニ居ントイフト（之ヲ實ニ居ントイフト謂ヘリ）、故ニ云ク、陋シ<sup>い</sup>如<sup>い</sup>之<sup>い</sup>何<sup>い</sup>ト、言ハ夷狄ハ鄙陋ニシテ、居ル可<sup>へ</sup>不<sup>ふ</sup>、

【經】

子曰、君子居之、何陋之有、

子ノ曰ク、君子居ラハ、何ノ陋シキコトカ有ラン、

【疏】

孔子答<sup>四</sup>云、君子所居、即化、豈以鄙陋爲疑乎、不復遠申己意也、孫綽云、九夷所以爲陋者、以無禮義也、君子所居者化、則陋有泰也、

孔子答<sup>ノたまは</sup>云ク、君子ノ居ル所ハ、即チ化ス、豈ニ鄙陋ヲ以テ疑ヲ爲サン乎、復タ遠ク己カ意ヲ申ヘ<sup>ス</sup>不、孫綽カ云ク、九夷ヲ陋シト爲ル所以ハ、禮義無キヲ以テナリ、君子ノ居ル所ハ化ス、則チ陋トモ泰ナルコト有リ、

【注】

馬融曰、君子所居者、皆化也、

馬融カ曰ク、君子ノ居ル所ハ、皆化ス、

【疏】

聖人所在則化、九夷變中夏也、

聖人ノ在ル所ハ則チ化ス、九夷モ中夏ニ變セン、

- (一) 「次」、武内本作「吹」。
- (二) 「罍」、武内本作「岡」。
- (三) 「穢」、武内本作「濺」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「化」上、武内本有「德」字。

【經】

子曰、吾自衛反於魯、然後樂正、雅頌各得其所、

子ノ曰ク、吾衛自<sup>わ</sup>り魯ニ反テ、然シテ後ニ樂正シ、雅頌各其ノ所ヲ得タリ、

## 【疏】

孔子去魯後而魯禮樂崩壞、孔子以魯哀公十一年、從衛還魯而刪詩書、定禮樂、故樂音得正、樂音得正、所以雅頌之詩、各得其本所也、

孔子魯ヲ去テ後而シテ魯ノ禮樂崩レ壞ル、孔子魯ノ哀公十一年ヲ以、衛從リ魯ニ還テ詩書ヲ刪リ、禮樂ヲ定ム、故ニ樂音正ヲ得タリ、樂音正ヲ得、所以ニ雅頌ノ詩、各其ノ本所ヲ得タリ、

## 【注】

鄭玄曰、反魯魯哀公十一年冬也、是時、道衰樂廢、孔子來還乃正之也、故曰雅頌各得其所也、

鄭玄カ曰ク、魯ニ反ルコトハ魯ノ哀公十一年ノ冬ナリ、是ノ時、道衰ヘ樂廢ル、孔子來リ還テ乃シ之ヲ正ス、故ニ雅頌各其ノ所ヲ得タリト曰フ、

## 【疏】

雅頌是詩義之美者、美者既正則、餘者正亦可知也、

雅頌ハ是レ詩ノ義ノ美ナル者ナリ、美ナル者既ニ正キ

則ハ、餘ノ者正キコトハ亦知ヌ可シ、

## 【經】

子曰、出則事公卿、

子ノ曰ク、出テテハ公卿ニ事リ、

## 【疏】

公君也、卿長也、人子之禮、移事父孝、以事於君則忠、移事兄悌、以事於長則從也、故出仕朝廷、必事公卿也、

公ハ君ナリ、卿ハ長ナリ、人ノ子ノ禮、父ニ事ル孝ヲ移シテ、君ニ事ル則ハ忠ナリ、兄ニ事ルノ悌ヲ移シテ、長ニ事ル則ハ從ナリ、故ニ朝廷ニ出テ仕ルハ、必ス公卿ニ事ルナリ、

## 【經】

入則事父兄、

入テハ父兄ニ事ル、

【疏】

孝以事父、悌以事兄、還入閨門宜盡其禮<sup>(二)</sup>、先言朝廷、後云閨門者、勗已仕者也、猶仕而優則學也、

孝ハ父ニ事<sup>ツカふまつ</sup>リ、悌ハ<sup>もて</sup>以兄ニ事ル、還テ閨<sup>い</sup>門ニ入テハ宜ク其ノ<sup>レ</sup>禮ヲ盡ス宜シ、先ツ朝廷ヲ言テ、後ニ閨<sup>い</sup>門ヲ云フコトハ、已ニ仕ル者ヲ勗ムルナリ、仕ヘテ優ナル<sup>ユウナ</sup>則ハ學フトイフカ猶<sup>もと</sup>シ、

【經】

喪事不敢不勉、

喪<sup>モ</sup>ノ事ハ敢テ勉<sup>ツト</sup>メ不<sup>ス</sup>シハアラ不<sup>ス</sup>、

【疏】

勉強也、父兄天性、續莫大焉、公卿義合、厚莫重焉、若有喪事則、不敢不勉強也、

勉ハ強ナリ、父<sup>レ</sup>兄ハ天<sup>レ</sup>性ナリ、續クコト焉<sup>コレ</sup>ヨリ大ナルハ莫シ、公<sup>レ</sup>卿ハ義トシテ合フ、厚キコト焉<sup>コレ</sup>ヨリ重キハ莫シ、若シ喪<sup>モ</sup>ノ事<sup>コト</sup>有ル<sup>トキ</sup>則ハ、敢テ勉<sup>ツト</sup>強セ不<sup>ス</sup>シハ不<sup>ス</sup>、

【經】

不爲酒困

酒<sup>ミタ</sup>ノ困<sup>セ</sup>レヲ爲<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>

【疏】

雖唯酒無量不及亂、時多沈酗、故戒之也。衛瓘云<sup>(三)</sup>、三事爲酒興也、侃按如瓘意、言朝廷閨門及有喪者、竝不爲酒所困、故云、三事爲酒興也、

唯タ酒ハ量<sup>はかり</sup>無シト雖<sup>いへとも</sup>亂ニ及ハ不<sup>ス</sup>、時ニ沈<sup>シ</sup>酗<sup>ク</sup>多シ、故ニ之ヲ戒ム。衛瓘カ云ク、三<sup>一</sup>事ハ酒ノ爲ニ興ル、侃按スルニ瓘カ意ノ如キンハ、言<sup>いふこと</sup>ハ朝廷閨<sup>い</sup>門及ヒ喪有ル者<sup>モノ</sup>ハ、竝ニ酒ノ爲ニ困<sup>ミタ</sup>ラ所不<sup>レ</sup>、故ニ云ク、三<sup>一</sup>事ハ酒ノ爲ニ興ルト、

【經】

何有於我哉、

何ソ我ニ有ル哉<sup>ヤ</sup>、

【疏】

言我何能行此三事、故云何有於我哉。又一云、人若能如此則、何復須我、故云、何有於我哉也、緣人不能、故有我應世耳、

言ハ我何ソ能ク此ノ三事ヲ行フ、故ニ云ク何ソ我ニ有ルヤ。又一ニ云ク、人若シ能ク此ノ如キンハ、何ソ復タ我ヲ須イン、故ニ云ク、何ソ我ニ有ル哉、人ノ能ハ不<sup>レ</sup>ルニ縁テ、故ニ我世ニ應フ有<sup>レ</sup>ラク耳、

【注】

馬融曰、困亂也、

馬融力曰ク、困ハ亂、

(一) 「禮」下、武内本作「也」字。

(二) 「已」、武内本作「己」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「瓘」、武内本作「衛」。

【經】

子在川上曰、逝者如斯夫、不舍晝夜、

子川ノ上ニ在シテ曰ク、逝ク者ハ斯ノ如キカ、晝夜ヲ舍テ不<sup>ス</sup>、

【疏】

逝往去之辭也、孔子在川水之上、見川流、迅速未嘗停止、故嘆人年往去、亦復如此、向我非今我、故云、逝者如斯夫者也、斯此也、夫語助也、日月不居、有如流水、故云、不捨晝夜也、江熙云、言人非南山、立德立功、俛仰時過、臨流興懷、能不慨然、聖人以百姓心、爲心也、孫綽云、川流不舍、年逝不停、時已晏矣、而道猶不興、所以憂嘆也、

逝ハ往去ノ辭ナリ、孔子川上ニ在シテ、川ノ流ヲ見レハ、迅<sup>シ</sup>（迅）邁<sup>ス</sup>（邁）ニシテ未タ嘗テ停止セ未<sup>ス</sup>、故ニ人ノ年ノ往キ去ルコト、亦復此ノ如シト嘆ス、向ノ我ハ今ノ我ニ非ス、故ニ云ク、逝ク者ハ斯ノ如キカト、斯ハ此ナリ、夫ハ語ノ助ナリ、日月ハ居ラ不<sup>ス</sup>、流水ノ如ナルコト有リ、故ニ云ク、晝夜ヲ捨テ不<sup>ス</sup>、江熙力云ク、言ハ人ハ南山ニ非ス、德ヲ立テ功ヲ立テ、俛仰スレハ時過ソ、流ニ臨テ懷ヲ興シテ、能ク慨<sup>ス</sup>（慨）然セ不<sup>ス</sup>ラシヤ、聖人ハ百姓ノ心ヲ以<sup>テ</sup>、心ト爲<sup>ス</sup>、孫綽力云ク、川ハ流テ舍テ不<sup>ス</sup>、年ハ逝テ停ラ不<sup>ス</sup>、時已ニ晏ヌ、而シテ道

猶なヲ興すラ不ず、憂ゆ嘆えんスル所こ以もつナリ、

【注】

鄭玄曰、逝往也、言凡往者、如川之流也、

鄭玄カ曰ク、逝ハ往、言ハ凡ソ往ク者ハ、川ノ流ルルカ如シ、

(一) 「者」、武内本無此字。

(二) 「捨」、武内本作「舍」。

(三) 「然」下、武内本有「乎」字。

【經】

子曰、吾未見、好德如好色者也、

子ノ曰ク、吾未わタ見み未ス、德とくヲ好ムコト色しきヲ好ムカ如クスル者ものヲ、

【疏】

時人多好色而無好德、孔子患之、故云未見以厲之也、

時ノ人多ク色ヲ好テ德ヲ好ムコト無シ、孔子之ヲ患テ、

故ニ未タ見未ト云テ之ヲ厲ハケマス、

【注】

疾時人薄於德、而厚於色二、故以發此言也、

時ノ人德ニ薄シテ、色ニ厚キコトヲ疾ム、故ニ此ノ言ヲ發ス、

【疏】

本注三云責其心也、

本ハ注ニ云ク其ノ心ヲ責ム、

(一) 「色」下、武内本有「也」字。

(二) 「注」、武内本作「註」。

【經】

子曰、譬如爲山、未成一簣止、吾止也、

子ノ曰ク、譬ヘハ山ヲ爲ルカ如シ、未タ一簣ツクヲ成サ未シテ止ヤンナハ、吾モ止やんナン、



## 【疏】

此戒人爲善垂成而止者也、簣土籠也、言人作善垂足而止則、善事不成、如爲山、垂足、唯少一籠土而止、則山不成、此是建功不篤、與不作無異、則吾亦不以其前功多爲善、如爲善不成、吾亦不美其前功多也、故云吾止也、

此レハ人ノ善ヲ爲シテ成ルニ垂ントシテ止ム者ヲ戒ム、簣ハ土籠、言ハ人善ヲ作シテ足レルニ垂ントシテ止ム則ハ、善事成ラ不ルコト、山ヲ爲ルカ、足ルニ垂トシテ、唯タ一籠ノ土ヲ少イテ而シテ止ム、則ハ山ノ成ラ不ルカ如シ、此レハ是レ功ヲ建ルコト篤ラ不、作サ不ル與異ナルコト無シ、則チ吾亦其ノ前ノ功ノ多キヲ以善ト爲不、如シ善ヲ爲シテ成ラ不ンハ、吾亦其ノ前ノ功ノ多ヲ美メ不、故ニ云ク吾モ止ンナン、

## 【注】

苞氏曰、簣土籠也、此勸人進於道德也、爲山者、其功雖已多、未成一籠、而中道止者、我不以其前功多、而善之也、見其志不遂、故不與也、

苞氏カ曰ク、簣ハ土籠、此ハ人ヲ勸メテ道德ニ進マシムルソ、山ヲ爲ル者、其ノ功已ニ多シト雖モ、未タ一籠ヲ

成サ未シテ、中道ニシテ止マン者ハ、我其ノ前ノ功ノ多キヲ以テ、之ヲ善セ不、其ノ志ノ遂ケ不ルヲ見ル、故ニ與セ不、

## 【經】

譬如平地、雖覆一簣、進吾往也、

譬ハハ平地ノ如シ、一簣ヲ覆ツト雖モ、進マハ吾モ往カン、

## 【疏】

此獎人始爲善而不住者也、譬如平地作山、山乃須多土、而始覆一籠、一籠雖少、交是其有欲進之心、可嘉、如人始爲善、善乃未多、交求進之志可重、吾不以其功少而不善之、善之有勝於垂成而止者、故云吾往也、

此レハ人ノ始メテ善ヲ爲シテ住マラ不ル者ヲ獎ム、譬如平地ニ於山ヲ作ルニ、山ハ乃チ多土ヲ須フ、而ルヲ始テ一籠ヲ覆ス、一籠少キト雖モ、交是レ其レ進マント欲スルノ心有リ、嘉ス(嘉ス)可シ、人ノ始テ善ヲ爲スカ如シ、善乃チ未タ多カラ未、交進ント求ムルノ志

重<sup>ヲもん</sup>ス可<sup>ヘ</sup>シ、吾<sup>われ</sup>其<sup>ナんなん</sup>ノ功<sup>コウ</sup>ノ少<sup>モト</sup>ヲ以<sup>もて</sup>之<sup>ノ</sup>ヲ不<sup>レ</sup>善<sup>セ</sup>トセ不<sup>レ</sup>、之<sup>ノ</sup>ヲ善<sup>ヨミ</sup>セ  
ン成<sup>ナ</sup>ルニ垂<sup>ナン</sup>トシテ止<sup>ヤ</sup>ムニ勝<sup>カ</sup>レルコト有<sup>モ</sup>ル者<sup>モノ</sup>ナリ、故<sup>ユ</sup>ニ  
云<sup>ノたまは</sup>ク吾<sup>われ</sup>モ往<sup>わレ</sup>カント、

【注】

馬融曰、平地者、將進加功、雖始覆一簣、我不以其見功  
少、而薄之也、據其欲進、而與之也、

馬融カ曰ク、平<sup>ヘ</sup>地ハ、將<sup>ス</sup>ニ進<sup>ス</sup>テ功<sup>コウ</sup>ヲ加<sup>カ</sup>ヘント將<sup>ス</sup>、始<sup>ハツ</sup>テ一<sup>イチ</sup>  
簣<sup>ハツ</sup>ヲ覆<sup>フ</sup>ツト雖<sup>モ</sup>、我<sup>われ</sup>其<sup>ノ</sup>見<sup>ミ</sup>功<sup>コウ</sup>ノ少<sup>シ</sup>キナルヲ以<sup>も</sup>テ、之<sup>ノ</sup>ヲ薄<sup>ウス</sup>  
ンセ不<sup>レ</sup>、其<sup>ノ</sup>進<sup>ス</sup>ント欲<sup>ヨリ</sup>スルニ據<sup>ク</sup>テ、之<sup>ノ</sup>ニ與<sup>ユ</sup>セン、

【經】

子曰、語之而不惰者、其回也與、

子ノ曰ク、語<sup>コトヲ</sup>ルニ而<sup>シテ</sup>モ惰<sup>ワガタ</sup>ラ不<sup>レ</sup>ルハ、其<sup>ノ</sup>レ回<sup>ヘ</sup>カ、

【疏】

惰疲懈也、餘人不能盡解、故聞孔子語、而有疲懈、唯顏回  
體之、故聞語即解、所以云、語之而不惰、其回也與、

惰<sup>ワガタ</sup>ルトハ疲<sup>ツカ</sup>レ、懈<sup>ワガタ</sup>ルソ、餘<sup>サド</sup>人ハ盡<sup>サド</sup>ニ解<sup>サド</sup>ルコト能<sup>ス</sup>ハ不<sup>ス</sup>、

故<sup>ユ</sup>ニ孔子ノ語ヲ聞<sup>ヒ</sup>テ、疲<sup>ヒ</sup>懈<sup>カイ</sup>スルコト有<sup>リ</sup>、唯<sup>タ</sup>顏回ハ之<sup>ノ</sup>  
ヲ體<sup>ス</sup>ス（體<sup>ス</sup>ル）、故<sup>ユ</sup>ニ語ヲ聞<sup>ヒ</sup>テ即<sup>ス</sup>チ解<sup>サド</sup>ル、所<sup>コノ</sup>以<sup>ユ</sup>ニ云<sup>ノたまは</sup>ク、  
語<sup>コトヲ</sup>ルニ而<sup>シテ</sup>モ惰<sup>ワガタ</sup>ラ不<sup>レ</sup>ルハ、其<sup>ノ</sup>レ回<sup>ヘ</sup>カ、

【注】

顏淵則解、故語之不惰、餘人不解、故有惰語之時也、

顏淵ハ則<sup>ス</sup>チ解<sup>サド</sup>ル、故<sup>ユ</sup>ニ之<sup>ノ</sup>ニ語<sup>コトヲ</sup>ルニ惰<sup>ワガタ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、餘<sup>サド</sup>人ハ解<sup>サド</sup>ラ  
不<sup>ス</sup>、故<sup>ユ</sup>ニ語<sup>コトヲ</sup>ルニ惰<sup>ワガタ</sup>ルノ時<sup>トキ</sup>有<sup>リ</sup>、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「惰」下、武内本有「者」字。

(三) 「則」、武内本無此字。

【經】

子謂顏淵曰、惜乎、吾見其進也、未見其止也、

子顏淵ヲ謂<sup>イひ</sup>テ曰<sup>ノたまは</sup>ク、惜<sup>カタ</sup>ヒ乎<sup>ヤ</sup>、吾<sup>われ</sup>其<sup>ノ</sup>進<sup>ス</sup>ムヲ見<sup>ミ</sup>ル、未<sup>レ</sup>タ  
其<sup>ノ</sup>止<sup>ヤ</sup>ムヲ見<sup>ミ</sup>未<sup>ス</sup>、

【疏】

顏淵死後、孔子有此歎也、云見進未見止、惜其神識猶不長

也、然顏淵分已滿、至於屢空、而此云未見其止者、勸引之言也、故殷仲湛云、夫賢之所假、一悟而盡、豈有彌進勗實乎、蓋其軌物之行、日見於迹、夫子從而喏嗟以盛德之業也、

顏淵死シテ後、孔子此ノ歎有リ、云ク進ムヲ見ル未タ止ムヲ見未、其ノ神識猶ヲ長セサルヲ惜ム、然ルニ顏淵ハ分「已」ニ滿テ、屢「空」ニ至ル、此ニ云ク未タ其ノ止ムヲ見未者、勸メ引クノ言ナリ、故ニ殷仲湛カ云ク、夫レ賢ノ假ル（假ス）所、一悟ニシテ盡ス、豈ニ彌進ミ勗ムルノ實有ラン乎、蓋シ其レ物ニ軌タルノ行、日ニ迹ニ見ハル、夫子從テ喏嗟スルニ盛德ノ業ヲ以ス、

【注】

馬融曰、孔子謂顏淵曰、進益未止、故痛惜之甚也、

馬融カ曰ク、孔子顏淵ヲ謂テ曰ク、進益シテ未タ止マストハ、故ニ痛惜ムコトノ甚キノ、

- (一) 「勸」、武内本作「勗」。
- (二) 「湛」、武内本作「堪」。

- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「勗」、武内本作「之」。
- (五) 「馬融」、武内本作「苞氏」。
- (六) 「曰」、武内本無此字。

【經】

子曰、苗而不秀者有矣夫、秀而不實者有矣夫、

子ノ曰ク、苗ニシテ秀テ不ル者有リ、秀テ實ラ不ル者有リ、

【疏】

又爲嘆顏淵爲譬也、萬物草木、有苗稼蔚茂不經秀穗、遭風霜而死者、又亦有雖能秀穗而值冷悍氣、不能有粒實者、故竝云有是夫也、物既有然、故人亦如此、所以顏淵摧芳蘭於早年矣、

又顏淵ヲ嘆スルカ爲ニ譬ヲ爲ス、萬物草木、苗稼蔚茂シテ秀穗（穗）ヲ經不シテ、風霜ニ遭テ死ル者有リ、又亦能ク秀穗スト雖而トモ冷（冷）悍（悍）ノ氣ニ値テ、粒實有ルコト能ハ不ル者有リ、故ニ竝ニ云ク是レ

有リト、物ノ既ニ然ルコト有リ、故ニ人モ亦此ノ如シ、  
所以ニ顔淵ハ芳蘭ヲ早年ニ摧ク、

【注】

孔安國曰、言萬物有生而不育成者、喻人亦然也、

孔安國カ曰ク、言ハ萬物生シテ育成セ<sup>さ</sup>不<sup>も</sup>ル者有リ、  
人モ亦然ルニ喩フ、

(一) 「嘆」、武内本作「歎」。

(二) 「是」下、武内本有「矣」字。

(三) 「矣」、武内本作「也」。

【經】

子曰、後生可畏也、

子ノ曰ク、後生ヲハ畏ル可シ、

【疏】

後生、謂年少在己後生者也、可畏、謂有才學可心服者也、

後生トハ、年少ニシテ己ヨリ後ニ在テ生タル者ヲ謂フ、

畏ル可シトハ、才學有テ心服セシム可キ者ヲ謂フ、

【經】

焉知來者之不如今也、

焉ソ來者ノ今ニ如カ不<sup>さ</sup>ルコトヲ知ラン、

【疏】

焉安也、來者未來事也、今謂我今師徒也、後生既可畏、亦  
安知未來之人師徒教化、不如我之今日乎、曰不可誣也、

焉ハ安ナリ、來者トハ未來ノ事ナリ、今トハ我カ今ノ  
師徒ヲ謂フ、後生ハ既ニ畏ル可シ、亦安ソ未來ノ人ノ  
師徒ノ教化ノ、我カ今日ニ如カ不<sup>さ</sup>ルコトヲ知ランヤ、  
曰ク誣フ可不<sup>へ</sup>、

【注】

後生、謂年少也、

後生トハ、年少ヲ謂フ、

## 【經】

四十五十、而無聞焉、斯亦不足畏也已矣、

四十五<sup>一</sup>十二<sup>ニ</sup>シテ、聞ウルコト無キハ、斯レ亦タ畏ルルニ足ラ不<sup>さ</sup>ラク已<sup>ノミ</sup>、

## 【疏】

又言、後生雖可畏、若年四十五十、而無聲譽聞達於世者、則此人亦不足可畏也、孫綽云、年在知命、蔑然無聞、不足畏也、

又言<sup>ノたまは</sup>ク、後<sup>一</sup>生畏ル可シト雖<sup>いへとも</sup>、若シ年四十五<sup>とシ</sup>十二<sup>ニ</sup>シテ、聲<sup>一</sup>譽世二聞<sup>一</sup>達スルコト無キ者ハ、則チ此ノ人亦畏ル可<sup>へ</sup>キニ足不<sup>たらず</sup>、孫綽力云ク、年知<sup>とし</sup>命二在テ、蔑<sup>べつ</sup>然トシテ聞ルコト無キハ、畏ルルニ足不<sup>たらず</sup>、

(一) 「來」下、武内本有「之」字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

## 【經】

子曰、法語之言、能無從乎、改之爲貴、

子ノ曰ク、法<sup>コト</sup>語ノ言ニ、能ク從フコト無ランヤ、改ムルヲ貴シト爲<sup>ス</sup>、

## 【疏】

言彼人有過失、若我以法則語之、彼人聞法、當時無不口從而云止當不敢復爲者也、故云、能無從乎、但若口雖從而身爲失不止者、則此口從不足爲貴也、我所貴者、在於口從而行亦改者耳、故云、改之爲貴也、

言<sup>いふこと</sup>ハ彼ノ人過<sup>一</sup>失有リ、若シ我法<sup>わ</sup>則<sup>もて</sup>ヲ以之ニ語ルトキハ、彼ノ人法ヲ聞テ、當時口ニ從テ止メテ當ニ敢テ復爲不<sup>せ</sup>ル當シト云ハ不<sup>さ</sup>ル者無ケン、故ニ云ク、能ク從フコト無ランヤ、但タ若シ口ニハ從フト雖モ而トモ身ニ失ヲ爲スコト止マ不<sup>ず</sup>シハ、則チ此レ口ニ從フハ貴シト爲ルニ足ラ不<sup>ず</sup>、我カ貴フ所ハ、口ニ從テ而シテ行モ亦タ改ムル<sup>あらう</sup>者ニ在ルラク耳、故ニ云ク、改ムルヲ貴シト爲ト、

## 【注】

孔安國曰、人有過、以正道告之、口無所不順從之、能必改乃爲貴也、

孔安國カ曰ク、人過チ有ルトキ、正道ヲ以テ之ニ告ルニ、

口ニ順ヒ<sup>ス</sup>從ハ不トイフ所無シ、能ク必ス改ムルヲ乃シ貴シト爲<sup>ス</sup>、

【經】

巽與之言、能無說乎、繹之爲貴、

巽<sup>ソシ</sup>與<sup>コト</sup>ノ言ヲ、能ク說<sup>ヨロコ</sup>フコト無ラン乎、繹<sup>ツ</sup>クヲ貴シト爲<sup>ス</sup>、

【疏】

巽恭遜也、繹尋續也、言有彼人不遜、而我謙遜與彼恭言、故云遜與之言也、彼不遜者、得我遜言遜彼、彼必亦特遜爲悅、故云能無悅乎、然雖悅人遜己、而已不能尋續行此遜事、是雖悅不足爲貴也、我所貴者、在尋續行遜耳、故云、繹之爲貴也、

キ<sup>ツキ</sup>續テ遜ヲ行フニ在ルラク耳、故ニ云ク、之ヲ繹<sup>ツ</sup>グヲ貴シト爲<sup>ス</sup>ト、

【注】

馬融曰、巽恭也、謂恭巽謹敬之言也、聞之無不悅者也、能尋繹行之、乃爲貴也、

馬融カ曰ク、巽ハ恭、恭<sup>コト</sup>巽謹敬ノ言ヲ謂、之ヲ聞テ悅ヒ不トイフコト無キ者ナリ、能ク尋<sup>ツ</sup>キ<sup>ツ</sup>繹<sup>ツ</sup>イテ之ヲ行フヲ、乃シ貴シト爲<sup>ス</sup>、

【經】

悅而不繹、從而不改、吾末如之何也已矣、

悅ヘトモ繹<sup>ツ</sup>カ不、從ヘトモ改メ不ルヲハ、吾<sup>ワレ</sup>之ヲ如何トモスルコト末カラマク已<sup>ミ</sup>矣、

【疏】

不繹不改、聖所不教、故孔子云、末如之何也、末無也、孫綽云、疾夫形服心不化也、

巽ハ恭<sup>エキ</sup>遜ナリ、繹ハ尋<sup>イカ</sup>續ナリ、言ハ彼ノ人不<sup>ノ</sup>遜ニシテ、我<sup>ワレ</sup>謙<sup>カシ</sup>遜ニシテ彼與恭<sup>カシ</sup>言スルコト有リ、故ニ云ク遜與ノ言ト、彼ノ不<sup>モ</sup>遜ナル者、我力遜<sup>ノ</sup>言ニシテ彼二遜フコトヲ得テ、彼必ス亦特ニ遜フヲ悅ヒト爲<sup>ス</sup>、故ニ云ク能ク悅フコト無ランヤ、然ル二人ノ己ヲ遜フヲ悅フト雖モ、而トモ己<sup>オノレツ</sup>尋<sup>ツキ</sup>キ<sup>ツ</sup>續テ此ノ遜ノ事ヲ行フコト能ハ不<sup>ス</sup>ンハ、是レ悅ト雖貴シト爲ルニ足ラ不、我力貴フ所ハ、尋<sup>ツ</sup>

繹<sup>ツ</sup>カ不改メ不ルハ、聖ノ教ヘ不<sup>ス</sup>ル所ナリ、故ニ孔子ノ云<sup>ノ</sup>

ク、之ヲ如何トモスルコト末カラマクノミ、末ハ無ナリ、  
孫綽カ云ク、夫ノ形服シテ心化セ不ルコトヲ疾ム、

- (一) 「也」、武内本無此字。
- (二) 「尋繹」、武内本作「尋繹」、下同。
- (三) 「也」、武内本無此字。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、主忠信、無友不如己者、過則勿憚改、

子ノ曰ク、忠信ヲ主トシテ、己ニ如カ不ル者ヲ友トスル  
コト無シ、過テ則チ改ムルニ憚ルコト勿レ、

【疏】

此事再出也、所以然者、范寧云、聖人應於物、作教一事、  
時或再言、弟子重師之訓、故又書而存焉、

此ノ事再ヒ出ツ、然ル所以ハ、范寧カ云ク、聖人ハ物  
ニ應シテ、教ヲ作スコト一事ナリ、時ニ或ハ再ヒ言フ、  
弟子ハ師ノ訓ヲ重ンス、故ニ又書テ存ス、

【注】

慎其所主所友、有過務改、皆所以爲益者也、

其ノ主トスル所友トスル所ヲ慎ム、過チ有ルトキハ務メ  
改ム、皆益ト爲ル所以ナリ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「者」、武内本無此字。

【經】

子曰、三軍可奪師、匹夫不可奪志也、

子ノ曰ク、三軍ヲハ師ヲ奪ツ可シ、匹夫ヲハ志ヲ奪フ  
可ナシ、

【疏】

此明人能守志雖獨夫亦不可奪、若其心不堅、雖衆必傾、故  
三軍可奪、匹夫無回也、謂爲匹夫者、言其賤、但夫婦相配  
匹而已也、又云、古人質、衣服短狹、二人衣裳唯共用一  
匹、故曰匹夫匹婦也、

此レハ人ノ能ク志ヲ守ルトキハ獨夫ト雖モ亦奪フ可ナシ、

若シ其ノ心堅カラ不ルトキハ、衆ト雖モ必ス傾ケンコトヲ明ス、故ニ三軍ヲハ奪ツ可シ、匹夫ヲハ回フルコト無し、謂ル匹夫爲ル者ハ、言ハ其レ賤シ、但タ夫夫婦相ヒ配匹スル而已、又タ云ク、古ニハ人質ニシテ、衣服短狹（狹）ナリ、二人ノ衣裳唯タ共ニ一匹ヲ用フ、故ニ匹夫匹婦ト曰フ、

【注】

孔安國曰、三軍雖衆、人心非一則、其將師可奪之而取、匹夫雖微、苟守其志、不可得而奪也、

孔安國カ曰ク、三軍ハ衆ナリト雖モ、人ノ心一ニ非ル則ハ、其ノ將師ヲハ奪テ取ツ可シ、匹夫ハ微ナリト雖、苟モ其ノ志ヲ守ルトキハ、得テ奪フ可<sup>ヘカ</sup>ス、

(一) 「師」、武内本作「帥也」。

(二) 「師」、武内本作「帥」。

【經】

子曰、衣弊緼袍、與衣狐貉者、立而不恥者、其由也與、

子ノ曰ク、弊<sup>キ</sup>レタル緼<sup>キ</sup>袍ヲ衣テ、狐<sup>キ</sup>貉ヲ衣ケル者與、立

テ恥<sup>キ</sup>チ不ルハ、其レ由<sup>カ</sup>與、

【疏】

衣猶著也、弊敗也、緼<sup>キ</sup>臬著也、狐貉輕裘也、由子路也、當時人尚奢華、皆以惡衣爲恥、唯子路能果敢、率素、雖服敗麻臬著袍裘、與服狐貉輕裘者、竝立而不爲羞恥、故云其由也與、

【注】

孔安國曰、緼臬著也、

孔安國カ曰ク、緼<sup>キ</sup>ハ臬<sup>キ</sup>著、

【疏】

臬麻也、以碎麻著裘也、碎麻曰緼、故絮亦曰緼、玉藻曰、

衣ハ著<sup>キ</sup>ヲ猶シ、弊ハ敗ナリ、緼ハ臬（臬）著<sup>キ</sup>ソ、狐貉ハ輕裘ナリ、由ハ子路ナリ、當時ノ人奢<sup>キ</sup>華ヲ尚シテ、皆惡<sup>キ</sup>衣ヲ以恥ト爲、唯タ子路能ク果敢ニシテ、素ニ率<sup>キ</sup>フ、敗<sup>キ</sup>麻臬著<sup>キ</sup>ノ袍裘ヲ服スト雖、狐貉ノ輕裘ヲ服スル者與、竝<sup>キ</sup>ヒ立<sup>キ</sup>而羞<sup>キ</sup>（羞）恥ト爲不、故ニ云ク其レ由與、



縑爲袍是也、顔延之云、狐貉縑袍、誠不足以策恥、然自非  
勇於見義者、或以心戰、不能素泰也、

臬ハ麻ナリ、碎ハ麻ヲ以テ裘ニ著ルナリ、碎ハ麻ヲ縑ト曰  
フ、故ハ絮モ亦縑ト曰フ、玉藻ニ曰ク、縑ヲ袍ト爲トイフ  
（袍ニ爲ルトイフ）是ナリ、顔延之カ云ク、狐貉縑袍ハ、  
誠ニ恥ヲ策ルニ足ラ不、然トモ義ヲ見ルニ勇ム（勇ナル）  
（勇ンテ義ヲ見ル）者ニ非ス自リンハ、或ハ心戰イテ、  
素ハ泰ナル能ハ不、

【經】

不伎不求、何用不臧、

伎ラ不<sup>ス</sup>求メ不、何ヲ用テカ臧カラ不、

【疏】

孔子更引疾貪惡之詩、證子路德美也、伎害也、求貪也、臧  
善也、言子路之人身不害物、不貪求、德行如此、何用不謂  
之爲善乎、言其善也、

孔子更ニ貪<sup>タシ</sup>惡ヲ疾ムノ詩ヲ引テ、子路カ德<sup>イデ</sup>美ヲ證ス、伎  
ハ害ナリ、求ハ貪ナリ、臧ハ善ナリ、言ハ子路カ人<sup>イニ</sup>身

物ヲ害セ不、貪リ求メ不、德<sup>イデ</sup>行此ノ如シ、何ヲ用テカ之  
ヲ謂テ善シト爲不ラン乎、言ハ其レ善ナリ、

【注】

馬融曰、伎害也、臧善也、言不伎害、不貪求、何用爲不  
善、疾貪、惡伎害之詩也、

馬融カ曰ク、伎ハ害、臧ハ善、言ハ伎リ<sup>イデ</sup>害セ不、貪リ  
求メ不、何ヲ用テカ善カラ不ト爲ントハ、貪<sup>タシ</sup>疾ミ、  
伎<sup>イデ</sup>害ヲ惡ムノ詩ナリ、

【經】

子路終身誦之、

子路身ヲ終ルマテ之ヲ誦ス、

【疏】

子路得孔子美己才以爲美、故終身長誦不伎不求何以不臧之  
言也、

子路孔子己カ<sup>イデ</sup>オヲ美ルコトノ（美ムルヲ）美ト爲ルコト

ヲ得タリ、故ニ身ヲ終ルマテ長ク伎ヲ不求メ不何ヲ以カ  
臧カラ不ラントイフノ言ヲ誦ス、

【經】

子曰、是道之、何足以爲臧、

子ノ曰ク、是レ道ナリ、何ソ臧ト爲ルニ足ラン、

【疏】

孔子見子路誦之不止、故抑之也、言此不伎不求、乃可是  
道、亦何足過爲善、而汝誦之不止乎、言尚復有勝於此者  
也、顏延之云、懼其伐善也、

孔子子路カ之ヲ誦テ止マ不ルヲ見ル、故ニ之ヲ抑フ、  
言ハ此レ伎ヲ不求メ不ルハ、乃チ是レ道ト可シ、亦何  
ソ過キテ善シト爲ルニ足ラン、而ルヲ汝之ヲ誦シテ止マ  
不、言ハ尚ヲ復此ニ勝レル者有リ、顏延之カ云ク、其  
ノ善ニ伐ルコトヲ懼ル、

【注】

馬融曰、臧善也、尚復有美於是者、何足以爲善也、

馬融カ曰ク、臧ハ善、尚ヲ復是ヨリ美ナル者有リ、何ソ善  
シト爲ルニ足ランヤ、

【經】

子曰、歲寒然後、知松柏之後凋也、

子ノ曰ク、歲寒シテ然シテ後ニ、松柏ノ後ニ凋ムコ  
トヲ知ル、

【疏】

此欲明君子德性與小人異也、故以松柏匹於君子、衆木偶乎  
小人矣、言君子小人、若同居聖世、君子性本自善、小人服  
從教化、是君子小人、竝不爲惡、故堯舜之民比屋可封、如  
松柏與衆木同處春夏、松柏有心、故本鬱鬱、衆木從時亦盡  
其茂美者也、若至無道之主、君子秉性無回、故不爲惡、而  
小人無復忌憚、即隨世變改、桀紂之民比屋可誅、譬如松柏

衆木同在秋冬、松柏不改柯易葉、衆木枯零先盡、而此云、歲寒然後知松柏後凋者、就如平叔之註意、若如平歲之寒、衆木猶有不死、不足致別、如平世之小人、亦有修飾而不變者、唯大寒歲、則衆木皆死、大亂則小人悉惡、故云、歲寒也、又云、然後知松柏後凋者、後非俱時之目、凋非枯死之名、言大寒之後、松柏形小凋衰、而心性猶存、如君子之人、遭值積惡、外逼闇世、不得不遜迹隨時、是小凋矣、而性猶不變、如松柏也、而琳公曰、夫歲寒別木、遭困別士、寒嚴霜降、知松柏之後凋、謂異凡木也、遭亂世、小人自變、君子不改其操也、

此レハ君子ノ德性ト小人ノ與異ナルコトヲ明サント欲ス、故ニ松一柏ヲ以テ君子ニ匹ヘ、衆一木ヲ小人ニ偶フ、言ハ君子小人、若シ同ク聖一世ニ居ルトキハ、君子ノ性ハ本自善シ、小人ハ教化ニ服從ス、是レ君子小人、竝ニ惡ヲ爲ス、故ニ堯舜ノ民ハ比屋封シツ可シ、松一柏ト衆一木同シク春夏ニ處ルカ如シ、松一柏ハ心有リ、故ニ本翁鬱タリ、衆一木ハ時ニ從テ亦其ノ茂美ヲ盡ス者ナリ、若シ無道ノ主ニ至ルトキハ、君子ハ性ヲ秉ルコト回ラスコト無シ、故ニ惡ヲ爲ス、而ルヲ小人ハ復忌ミ、憚ルコト無シ、即世ニ隨テ變改ス、桀紂カ民ハ比屋誅シツ可シ、譬ハ松一柏衆一木同ク秋冬ニ在ルカ如シ、

松一柏ハ柯ヲ改メ葉ヲ易ヘ、衆一木ハ枯零シテ先ツ盡ク、而ルヲ此ニ云ク、歲寒シテ然シテ後ニ松一柏ノ後ニ凋ムコトヲ知ルトハ、就ヘハ平叔カ註ノ意ノ如キンハ、若シ平歲ノ寒ノ如キンハ、衆木モ猶ヲ死レ不ルコト有リ、別ツニ致ルニ足ラ不、平世ノ小人ノ如シ、亦修メ飾リテ變セ不ル者有リ、唯大寒ナル歲ハ、則チ衆一木皆死ル、大亂ニハ則チ小人悉ニ惡シ、故ニ云ク、歲寒シテト、又云ク、然シテ後ニ松一柏ノ後ニ凋ムコトヲ知ルトハ、後トハ時ヲ俱ニスルノ目ニ非ス、凋トハ枯レ死ルルノ名ニ非ス、言ハ大寒ノ後ニ、松一柏ハ形小シ凋ミ衰テ、心性猶ヲ存ス、君子ノ人ノ、積惡ニ遭ヒ値テ、外闇一世ニ逼テ、迹ヲ遜ヘ時ニ隨ハ不ルコトヲ得不ルカ如シ、是レ小シ凋ナリ、而トモ性猶ヲ變セ不ルコト、松一柏ノ如シ、而レハ琳公カ曰ク、夫レ歲寒シテ木ヲ別チ、困ニ遭コトヲ別ツ、寒嚴シク霜降テ、松一柏ノ後ニ凋コトヲ知ル、凡一木ニ異ルコトヲ謂フ、亂一世ニ遭テ、小人自變ス、君子ハ其ノ操ヲ改メ不、

【注】

大寒之歲、衆木皆死、然後知松柏之小凋傷、平歲則衆木亦有不死者、故須歲寒、而後別之、喻凡人處治世、亦能自修整、與君子同、在濁世、然後、知君子之正、不苟容也、

大寒ノ歳ハ、衆木皆<sup>みづ</sup>死<sup>カ</sup>ル、然シテ<sup>レ</sup>後ニ松<sup>ノ</sup>柏<sup>ノ</sup>小シ凋<sup>ミ</sup>傷ムコトヲ知ル、平歳ニハ衆木モ亦死<sup>カ</sup>レ不<sup>サ</sup>ル者有リ、故ニ歳ノ寒キヲ須<sup>マ</sup>チテ、而シテ<sup>レ</sup>後ニ之ヲ別ツ、凡人ノ治<sup>ト</sup>世ニ處スルトキハ、亦タ能ク自修メ<sup>ミツカラ</sup>整ヘテ、君子與同シ、濁<sup>ト</sup>世ニ在テ、然シテ<sup>レ</sup>後ニ、君子ノ正シク<sup>マサ</sup>、苟<sup>イヤシク</sup>モ容レ<sup>イ</sup>ラレ不<sup>サ</sup>ルコトヲ知ルニ喻フ、

(一) 「凋」、武内本作「彫」、下同。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「本」、武内本作「木」。

(四) 「回」、武内本作「過」。

(五) 「桀」上、武内本有「故」字。

(六) 「註」、武内本作「注」。

(七) 「士」、武内本作「土」。

(八) 「嚴」、武内本作「麗」。

(九) 「傷」下、武内本有「也」字。

### 【經】

子曰、智者不惑、

子ノ曰ク、智<sup>チ</sup>者ハ惑<sup>ス</sup>ハ不<sup>ス</sup>、

### 【疏】

此章談人性分不同也、智以照了爲用、故於事無疑惑也、故孫綽云、智能辨物、故不惑也、

此ノ章ハ人ノ性<sup>ノ</sup>分<sup>ノ</sup>同シカラ不<sup>サ</sup>ルコトヲ談ス、智ハ照了ヲ以用ト爲、故ニ事ニ於疑<sup>オウ</sup>惑無シ、故ニ孫綽力云ク、智ハ能ク物ヲ辨ス、故ニ惑ハ不<sup>ス</sup>、

### 【注】

苞氏曰、不惑亂也、

苞氏力曰ク、惑<sup>ゴク</sup>亂セ不<sup>ス</sup>ルソ、

### 【經】

仁者不憂、

仁<sup>ノ</sup>者ハ憂<sup>ス</sup>ヘ不<sup>ス</sup>、

### 【疏】

憂患也、仁人常救濟爲務、不嘗侵物、故不憂物之見侵患也、孫綽云、安於仁、不改其樂無憂也、

憂ハ患ナリ、仁一人ハ常ニ救ヒ<sup>ス</sup>濟ウヲ務ト爲、嘗ヨリ物ヲ侵サ不<sup>ス</sup>、故ニ物ニ侵シ<sup>ス</sup>患ヘ見ルコトヲ憂ヘ不<sup>ス</sup>、孫綽カ云ク、仁ヲ安シテ、其ノ樂ヲ改メ不<sup>ス</sup>憂ルコト無シ、

【注】

孔安國曰、不憂患也、

孔安國カ曰ク、憂ヘ<sup>ス</sup>患ヘ不<sup>ス</sup>、

【疏】

内省不疾、故無憂患也、

内ニ省ルニ疾シカラ不<sup>ス</sup>、故憂ヘ<sup>ス</sup>患ルコト無シ、

【經】

勇者不懼、

勇者ハ懼レ不<sup>ス</sup>、

【疏】

勇以多力爲用、故無怯懼於前敵也、繆協云、見義而爲不<sup>ス</sup>畏強禦、故不懼也、

勇ハ多力ヲ以テ用ト爲、故ニ前敵ヲ怯レ<sup>ス</sup>懼ルルコト無シ、繆協カ云ク、義ヲ見テ強禦<sup>キョ</sup>（禦）ヲ畏レ不<sup>ス</sup>ルコトヲ爲、故ニ懼レ不<sup>ス</sup>、

（一）「云」、武内本作「曰」。

（二）「云」、武内本作「曰」。

（三）「不」、武内本作「無」。

（四）「云」、武内本作「曰」。

（五）「爲不」、武内本作「不爲」。

【經】

子曰、可與共學、未可與適道、

子ノ曰ク、與ニ共ニ學フ可シ、未タ與ニ二道ニ適ク可ラ未<sup>ス</sup>、

【疏】

此章明權道之難也、夫正道易行、權事難達、既欲明權、故先從正起也、道謂所學之道也、言凡人乃可與同處師門共學而已、既未得彼性、則未可便與爲友共適所志之道也、

此ノ章ニハ權道ノ難コトヲ明ス、夫レ正道ハ行ヒ易シ、權事ハ達シ難シ、既ニ權ヲ明サント欲ス、故ニ先ツ正從<sup>カ</sup>

り起ス、道トハ學フ所ノ道ヲ謂フ、言ハ凡ソ人ハ乃チ  
與ニ同ク師門ニ處テ共ニ學フ可キ而已、既ニ未タ彼ノ  
性ヲ得未ル、則ハ未タ便チ與ニ友ト爲テ共ニ志ス所ノ道  
ニ適ク可ラ未、

【注】

適之也、雖學或得異端、未必能之道者也、

適ハ之、學フト雖モ或ハ異端ヲ得、未タ必シモ能ク道ニ  
之カ未ル者ナリ、

【疏】

異端非正典也、人各自有性、彼或不能寧學正道、而唯能讀  
史子、故未可便與之共、之於正道也、

異端ハ正典ニ非ス、人各自性有リ、彼或ハ寧口正  
道ヲ學フコト能ハ不シテ、唯タ能ク史子ヲ讀ム、故ニ未  
タ便チ之レ與共ニ、正道ニ之ク可ラ未、

【經】

可與適道、未可與立、

與ニ道ニ適ク可シ、未タ與ニ立ツ可未、

【疏】

立謂謀議之立事也、亦人性各異、或能學問、而未必能建立  
世中正事者、故可與共適所學之道、而未便可與共立事也、

立トハ謀議シテ事ヲ立ルヲ謂、亦人各異ナリ、或ハ  
能ク學問スレトモ、而トモ未タ必シモ世ノ中正ノ事ヲ建  
テ立ルコト能未、故ニ與ニ共ニ學フ所ノ道ニ適ク可シ、  
未タ便チ與ニ共ニ事ヲ立ツ可ラ未、

【注】

雖能之道、未必能以有所成立者也、

能ク道ニ之クト雖モ、未タ必シモ能ク以テ成シ立ツル所  
有ラ未ル者ナリ、

【經】

可與立、未可與權、

與ニ立ツ可シ、未タ與ニ權ル(權ス)可ラ未、

【疏】

權者反常而合於道者也、自非通變達理、則所不能、故雖可共立於正事、而未可使與之爲權也、故王弼曰、權者道之變、變無常體、神而明之、存乎其人、不可豫設、尤至難者也、

權ト者者常ニ反シテ道ニ合フ者ナリ、變ニ通シ理ヲ達スルニ非ス自リンハ、能ハ不ル所ナリ、故ニ正事ヲ共ニ立ツ可シト雖、未タ便チ之レ與權ヲ爲ス可ラ未、故ニ王弼カ曰ク、權者道ノ變ナリ、變ハ常ノ體無シ、神ニシテ之ヲ明ニス、其ノ人ニ存ス、豫メ設ク可ラ不、尤モ至難ナル者ナリ、

【注】

雖有能所立、未必能權量其輕重之極也、

能ク立ツル所有リト雖モ、未タ必シモ其ノ輕重ノ極ヲ權量ルコト能ハ未、

【疏】

能權量輕重、即是曉權也、張憑云、此言學者漸進階級之次耳、始志於學、求發其蒙、而未審所適也、既向方矣、而信

道未篤、則所立未固也、又既固、又未達變通之權也、明知反而合道者、則日勸之業、臺臺之功其幾乎此矣、

能ク輕重ヲ權リ量テ、即チ是レ權ヲ曉ル、張憑カ云ク、此レハ學者ノ漸ク進ム階級ノ次ヲ言フ耳、始メ學ニ志スコト、其ノ蒙ヲ發求テ、未タ適ク所ヲ審ニセ未、既ニ方ニ向フ、而シテ道ヲ信スル未タ篤カラ未ル、則ハ立ツル所未タ固カラ未、又既ニ固シテ、又未タ變通ノ權ニ達セ未、明ケシ反ヲ知テ道ニ合フ者ハ、則チ日ニ勸ムルノ業、臺臺之功其レ此ニ幾シ、

(一) 「者」、武内本無此字。

(二) 「者」、武内本無此字。

(三) 「尤」、武内本作「最」。

(四) 「有能」、武内本作「能有」。

(五) 「方」、武内本作「道」。

【經】

唐棣之華、偏其反而、

唐棣ノ華、偏ニ其レ反セリ、

【疏】

引明權之逸詩、以證權也、唐棣(一)樹也、華花也、夫樹木之花、皆先合而後開、唐棣之花、則先開而後合、譬如正道、則行之有次、而權之爲用、先反後至於大順、故云偏其反、而言偏者、明唯其道偏與常反也、

權ヲ明スノ逸詩ヲ引テ、權ヲ證ス、唐棣ハ棣樹ナリ、華ハ花ナリ、夫レ樹ノ木ノ花ハ、皆先ツ合シテ後ニ開ク、唐棣ノ花ハ、則チ先ツ開テ後ニ合ス、譬ハ正道ノ如キンハ、之ヲ行フコト次テ有リ、權ノ用爲ルコト、先ツ反シテ後ニ大順ニ至ル、故ニ云ク偏ニ其レ反セリト、而ルヲ偏ト言フコトハ、明ケシ唯タ其ノ道偏ニシテ常與反スルナリ、

【經】

豈不爾思、室是遠而、

豈ニ爾ヲ思ハ不ランヤ、室是レ遠ケレハナリ、

【疏】

言凡思其人、而不得見者、其居室遼遠故也、人豈不思權、權道玄邈、如其室奧遠故也、

言ハ凡ソ其ノ人ヲ思ヘトモ、見コトヲ得不ルコトハ、

其ノ居ニ室遼遠ナルカ故ナリ、人豈ニ權ヲ思ハ不ランヤ、權道玄邈ナルコト(玄ク邈カナリ)、其ノ室ノ奧遠ナルカ如キ故ナリ、

【注】

逸詩也、唐棣移也、華反而後合、賦此詩、以言權道反而後、至於大順也、

逸詩ソ、唐棣ハ移ナリ、華反シテ而シテ後ニ合フ、此ノ詩ヲ賦シテ、權道ノ反シテ而シテ後ニ大順ニ至ルコトヲ言フ、

【疏】

初逆而後從也、

初ハ逆ツテ後ニ從、

【注】

思其人、而不得見者、其室遠也、以言思權道、而不得見者、其道遠也、



其ノ<sup>レ</sup>人ヲ思ヘトモ、見ルコトヲ得<sup>さ</sup>不<sup>レ</sup>ルコトハ、其ノ<sup>レ</sup>室遠  
ケレハナリ、以テ言ハ權<sup>レ</sup>道ヲ思ヘトモ、見コトヲ得<sup>さ</sup>不<sup>レ</sup>  
コトハ、其ノ<sup>レ</sup>道遠ケレハナリ、

## 【疏】

如前釋、

前ノ釋ノ如シ、

## 【經】

子曰、未之思也、夫何遠之有哉、

子ノ曰ク、未<sup>ス</sup>タ思ハ未<sup>ス</sup>、夫<sup>レ</sup>何ノ遠シトイフコト有ラン  
哉、

## 【疏】

又引孔子言、證權可思也、言權道易思、但未有思之者耳、  
若反道而思之、則必可得、故云、夫何遠之有也、

又孔子ノ言ヲ引<sup>ト</sup>テ、權ノ思フ可キコトヲ證<sup>アカ</sup>ス、言<sup>いふこと</sup>ハ權<sup>ハ權</sup>  
道ハ思ヒ易シ、但<sup>モ</sup>タ未<sup>ス</sup>タ之ヲ思フ者有<sup>ル</sup>未<sup>ル</sup>耳、若シ反<sup>シ</sup>

道<sup>シカ</sup>而<sup>レ</sup>モ之ヲ思フ、則<sup>ト</sup>ハ必得<sup>ヘ</sup>可シ、故ニ云ク、夫レ何ノ  
遠シトイフコトカ有ラン、

## 【注】

未<sup>六</sup>思者、當思其反、反是不思、所以爲遠也、能思其反、何  
遠之有、言權可知、唯不知思耳、思之有次序斯可知矣、

未<sup>トハ</sup>タ思ハ未<sup>ス</sup>者、當ニ其ノ<sup>レ</sup>反ヲ思フ當シ、反<sup>レ</sup>是ヲ思ハ不<sup>ス</sup>、  
遠シト爲<sup>ス</sup>ル所以ナリ、能ク其ノ反ヲ思ハハ、何ノ遠シト  
イフコトカ有ラン、言<sup>いふこと</sup>ハ權ハ知ヌ可シ、唯<sup>レ</sup>タ思フヲ知  
ラ不<sup>ス</sup>ラク耳、之ヲ思フコト次序有<sup>ラ</sup>ハ斯レ知ヌ可シ、

- (一) 「唐」、武内本作「康」。
- (二) 「棣樹」、武内本作「逸詩」。
- (三) 「而」下、武内本有「也」字。
- (四) 「道」下、武内本有「或」字。
- (五) 「於」、武内本無此字。
- (六) 「未」、武内本作「夫」。
- (七) 「矣」、武内本作「之耳」。

(子罕篇担当 影山輝國)

郷黨第十 疏

(一) 「郷」上、武内本有「論語」二字。

(二) 「十」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡一章」三字(小字單行)。

(三) 「疏」、武内本別行。

【疏】

郷黨者、明孔子教訓在於郷黨之時也、所以次前者、既朝廷感希、故退還應方郷黨也、故郷黨次於子罕也、

郷黨ハ、孔子教訓シテ郷黨ニ在ルノ時ヲ明ス、前二次ツル所以ハ、既ニ朝廷感希ナリ、故ニ退キ還テ郷黨ニ應ス、故ニ郷黨ヲ子罕ニ次ツ、

【經】

孔子於郷黨、

孔子郷黨ニ於テシテ、

【疏】

此一篇至末、竝記孔子平生德行也、於郷黨、謂孔子還家教化於郷黨中時也、天子郊内有郷黨、郊外有遂鄙、孔子居魯、魯是諸侯、今云郷黨、當知諸侯亦郊内爲郷、郊外爲遂也、孔子家當在魯郊内、故云於郷黨也、

此ノ一篇ハ末ニ至ルマテ、竝ニ孔子ノ平生ノ德行ヲ記ス、郷黨ニ於テトハ、孔子家ニ還テ郷黨ノ中ヲ教化スルノ時ヲ謂フ、天子ノ郊内ニ郷黨有リ、郊外ニ遂鄙有リ、孔子魯ニ居ル、魯是レ諸侯ナリ、今郷黨ト云フハ、當ニ知ル當シ諸侯モ亦タ郊内ヲ郷ト爲、郊外ヲ遂ト爲ルコトヲ、孔子ノ家ハ當ニ魯ノ郊内ニ在ル當シ、故ニ云ク郷黨ニ於テシテト、

【經】

恂恂如也、

恂恂如タリ、

【疏】

恂恂温恭貌、既還郷黨、郷黨宜須和恭以相接、故恂恂如也、

恂恂ハ温恭ノ貌、既ニ郷黨ニ還ル、郷黨ハ宜ク和恭ヲ須イテ相ヒ接ス(接ハル)宜シ、故ニ恂恂如タリ、

## 【經】

似不能言者、

言<sup>そのいふ</sup>コト能ハ不<sup>さ</sup>ル者ニ似<sup>もつ</sup>レリ、

## 【疏】

既其温恭則、言語寡少、故一往觀之、如似不能言者也、

既ニ其レ温恭ナル則ハ、言<sup>こと</sup>語寡(寡)一少ナリ、故ニ一往之ヲ觀レハ、言<sup>そのいふ</sup>コト能ハ不<sup>さ</sup>ル者ニ似<sup>もつ</sup>レルカ如シ、

## 【注】

王肅曰、恂恂温恭貌也、

王肅カ曰ク、恂恂ハ温恭ノ貌ソ、

## 【經】

其在宗廟朝廷、便便言唯謹爾、

其レ宗廟朝廷ニ在テハ、便便トシテ言フコト唯タ謹メリ(謹爾タリ)、

## 【疏】

謂孔子助君祭、在宗廟及朝廷也、既在君朝、應順酬答、及入大廟、每事須問、竝不得不言也、言須流哽、故云便便言也、言雖流哽、而必謹敬、故云唯謹爾、

孔子君ノ祭ヲ助テ、宗廟及ヒ朝廷ニ在ルヲ謂フ、既ニ君朝ニ在テハ、應順酬答ス、大廟ニ入ルニ及テハ、事毎ニ問コトヲ須フ、竝ニ言ハ不<sup>さ</sup>ルコトヲ得<sup>さ</sup>不<sup>さ</sup>ルナリ、コトハ流哽ヲ須フ、故ニ云ク便便トシテ言フト、言<sup>そのいふ</sup>コト流哽ナリト雖、而トモ必ス謹敬ス、故ニ云ク唯<sup>た</sup>タ謹メリト、

## 【注】

鄭玄曰、便便、言辨貌、雖辨而謹敬、

鄭玄カ曰ク、便便ハ、言辨ノ貌、辨ナリト雖モ謹ミ敬メリ、

(二)「方」、武内本作「於」。

(二) 「哽」、武内本作「哽」、下同。

(三) 「爾」下、武内本有「也」字。

(四) 「辨」、武内本作「辯」。

【經】

朝與下大夫言、侃侃如也、

朝ニシテ下大夫與言<sup>トモイフ</sup>トキハ、侃侃如タリ、

【疏】

侃侃和樂貌也、下大夫賤、孔子與之言、宜用將接、故和樂如也、

侃侃ハ和樂ノ貌ナリ、下大夫ハ賤シ、孔子之レ與言<sup>トモイフ</sup>トキハ、宜ク將イ接スルコトヲ用フ宜シ、故ニ和樂如タリ、

【注】

孔安國曰、侃侃和樂貌也、

孔安國カ曰ク、侃侃ハ和樂ノ貌ソ、

【經】

與上大夫言、闇闇如也、

上大夫與言<sup>トモイフ</sup>トキハ、闇闇如タリ、

【疏】

上大夫卿也、闇闇中正貌也、卿貴、不敢和樂接之、宜以謹正相對、故闇闇如也、

上大夫ハ卿ナリ、闇闇ハ中正ノ貌、卿ハ貴シ、敢テ和樂シテ之ニ接ラ<sup>マシハス</sup>不<sup>ス</sup>、宜ク以テ謹正ニシテ相ヒ對ス<sup>ヘ</sup>宜シ、故ニ闇闇如タリ、

【注】

孔安國曰、闇闇中正貌也、

孔安國カ曰ク、闇闇ハ中正ノ貌ソ、

【經】

君在踧踧如也、

君<sup>マ</sup>在<sup>マ</sup>ストキハ踧<sup>シケ</sup>踧<sup>セキ</sup>如タリ、

## 【疏】

君在、謂君出視朝時也、蹶こ蹶恭敬貌也、禮君每日旦、諸臣列在路門外、以朝君、君至日出、而出視之、視之則、一一揖卿大夫、而都一揖士、當此君視朝之時、則臣皆起恭敬之貌、故孔子蹶蹶如也、

君マ在ストハ、君マ出テ朝ヲ視ルノ時ヲ謂フ、蹶こ蹶ハ恭こ敬ノ貌ナリ、禮ニ君日マ旦毎ニ、諸臣ヲ列れつ路門ノ外ニ在テ、君ニ朝ス、君日ノ出ルニ至テ、出テ之視ニ、之ヲ視ル則ハ、一一ニ卿大夫ヲ揖ス、都テ一ツニ士ヲ揖ス、此レ君ノ朝ヲ視ル時ニ當テハ、則チ臣み皆恭敬ノ貌ヲ起ス、故ニ孔子蹶こ蹶こ如タリ、

## 【經】

與與如也、

與マ與マ如タリ、

## 【疏】

雖須蹶蹶、又不得急速、所以形容舉動、每須與與如也、與與猶徐徐也、所以恭而安也、

蹶こ蹶こヲ須もちルト雖、又急いへとも速ナルコトヲ得不、所以ニ

形容舉動、毎ニ與ま與ま如まヲ須もちフ、

與マ與マハ徐ま徐まノ猶シ、恭クシテ安キ所以ナリ、

## 【注】

馬融曰、君在者、君視朝也、蹶蹶恭敬貌也、與與威儀中適之貌也、

馬融カ曰ク、君マ在ストハ、君朝ヲ視ルソ、蹶こ蹶こハ恭敬ノ

貌ソ、與マ與マハ威儀

中ま適まノ貌、

(一) 「出」、武内本無此字。

## 【經】

君召使擯、

君マ召シテ擯セマ使ムルトキハ、

## 【疏】

擯者爲君接賓也、謂有賓來、君召已迎接之也、

擯<sup>ト</sup>者君ノ爲ニ賓ヲ接スルソ、賓有テ來ルトキニ、君已召シテ之ヲ迎ヘ、接セシムルヲ謂フ、

【注】

鄭玄曰、君召使擯者、有賓客使迎之也、

鄭玄カ曰ク、君<sup>レ</sup>召シテ擯セ使ムトハ、賓<sup>一</sup>客有ルトキニ迎ヘ使<sup>レ</sup>ルソ、

【疏】

聘禮云、卿爲上擯、大夫爲承擯、士爲紹擯、是也、

聘禮ニ云ク、卿ハ上<sup>一</sup>擯爲リ、大夫ハ承<sup>一</sup>擯爲リ、士ハ紹<sup>一</sup>擯爲リトイフ、是レナリ、

【經】

色勃如也、

色勃<sup>ホツ</sup>如タリ、

【疏】

既召已接賓<sup>ニ</sup>、故已宜變色起敬、故勃然如也、

既ニ已ヲ召シテ賓ヲ接セシム、故ニ已<sup>おのレ</sup>宜ク色ヲ變シテ敬ヲ起ス宜シ、故ニ勃<sup>一</sup>然<sup>一</sup>如タリ、

【注】

孔安國曰、必變色也、

孔安國カ曰ク、必ス色ヲ變スルソ、

【經】

足躍如也、

足<sup>キヤク</sup>躍<sup>一</sup>如タリ、

【疏】

躍盤辟貌也、既被召不敢自容、故速行而足盤辟也、故江熙云、不暇閒步、躍速貌也、

躍ハ盤<sup>一</sup>辟<sup>一</sup>ノ貌ナリ、既ニ召サ被敢テ自<sup>カクテ</sup>容ツクリセ不<sup>ス</sup>、故ニ速ニ行テ足盤<sup>一</sup>辟<sup>一</sup>ス、故ニ江熙カ云ク、閒<sup>一</sup>步スルニ暇<sup>いとマキ</sup>アラ不<sup>ス</sup>、躍ハ速ナル<sup>一</sup>貌ナリ、

## 【注】

荀氏曰、盤辟貌也、

荀氏カ曰ク、盤辟ノ貌ナリ、

## 【疏】

盤辟、即足轉速也、

盤辟ハ、即チ足轉タ<sup>あつた</sup>速ナリ、

## 【經】

揖所與立、左右其手、衣前後襜如也、

與ニ立テル所ヲ揖<sup>イ</sup>(揖)スルトキハ、其ノ手ヲ左ニシ、  
右ニス、衣ノ前<sup>まへ</sup>後<sup>うしろ</sup>襜<sup>ロ</sup>如タリ、

## 【疏】

此謂君出迎賓已爲君副、列擯時也、賓副曰命介、主人副曰  
擯、副且作敵國、而言、若公詣公法也、賓至主人大門外、  
西邊<sup>ニ</sup>向北、去門九十步、而下車、面向北而倚、賓則九副、  
在賓北而東向、遷迤而西北、在四十五步之中、主人出門東  
邊、南向而倚、主人是公則五擯、主人是侯伯則四擯、主人

是子男則三擯、不隨命數、主人謙、故竝用強半數也、公陳  
擯在公之南、而西向遷迤而東南、亦在四十五步中、使主人  
下擯與賓下介相對、而中間相去三丈六尺、列賓主介擯、既  
竟、主人語上擯、使就賓請辭、問所以來之意、於是上擯相  
傳、以至於下擯、下擯進前、揖賓之下介、而傳語問之、下  
介傳問、而上以次至賓、賓答語使上介傳以次而下至下介、  
下介亦進揖下擯、下擯傳而上以至主人、凡相傳雖在列位、  
當授受言語之時、皆半轉身戾手相揖、既竝立而相揖、故  
曰、揖所與立也、若揖左人則、移其手向左、若揖右人則、  
移其手向右、故云、左右其手也、既半廻身左右廻手、當使  
身上所着之衣、必襜<sup>ふさ</sup>襜有容儀如也、故江濤云、揖兩手、  
衣裳襜如動也、

此レハ君出テ賓ヲ迎ルトキニ己君ノ副<sup>おのレ</sup>(副ケ)ト爲<sup>シ</sup>テ、  
擯ニ列スル時ヲ謂フ、賓ノ副ヲ命介ト曰ヒ、主人ノ副ヲ  
擯ト曰フ、副且タ敵國ヲ作シテ、言ハン、公ノ公ニ詣ス  
ル法ノ若<sup>ごと</sup>キンハ、賓ハ主人ノ大門ノ外ニ至テ、西邊ニ  
北ニ向フ、門ヲ去ルコト九十步ニシテ、車ヨリ下テ、面<sup>おもて</sup>  
北ニ向テ倚ル、賓ハ則チ九副、賓ノ北ニ在テ東ニ向テ、  
遷迤<sup>イツ</sup>トシテ西ニシテ北四十五步ノ中ニ在リ、主人カ門  
ノ東邊ニ出テ、南ニ向テ倚ル、主人ハ是レ公ハ則チ五  
擯、主人ハ是レ侯伯ハ則<sup>すなはち</sup>四擯、主人ハ是レ子男ハ

則チ三擯、命數二隨ハ不<sup>ス</sup>、主人ハ謙ス、故ニ竝ニ強半數ヲ用フ、公ハ擯ヲ陳スルコト公ノ南ニ在テ、西ニ向テ遷<sup>リ</sup>（遷<sup>タツナル</sup>）迄<sup>イ</sup>トシテ東ニシテ南ス、亦四十五歩ノ中ニ在リ、主人ノ下ニ擯ヲ使<sup>シ</sup>テ賓ノ下ニ介與<sup>ト</sup>相對セ使メテ、中ニ開相ヒ去ルコト三丈六尺ナリ、賓主ノ介擯ヲ列スルコト、既ニ竟テ、主人上ニ擯語テ、賓ニ就テ辭ヲ請<sup>ウケ</sup>テ、來ル所以ノ意ヲ問ハ使ム、是ニ於テ上ニ擯相ヒ傳テ、以テ下ニ擯ニ至ル、下ニ擯進ミ前テ、賓ノ下ニ介ヲ揖シテ、語ヲ傳<sup>ツタヘ</sup>テ之ヲ問フ、下ニ介問ヲ傳テ、上<sup>アゲ</sup>テ次ヲ以テ賓ニ至ス、賓語ニ答テ上ニ介ヲ使<sup>シ</sup>テ傳テ次ヲ以テ下シテ下ニ介ニ至ラ使ム、下ニ介亦進<sup>また</sup>テ下ニ擯ヲ揖ス、下ニ擯傳テ上ケテ主人ニ至ラシム、凡ソ相ヒ傳ルコト列位ニ在リト雖、言<sup>イヘとも</sup>語ヲ授ケ受ルノ時ニ當テ、皆半ハ身ヲ轉シ手ヲ戻<sup>モト</sup>ラシテ相ヒ揖スヘシ、既ニ竝ヒ立テ相ヒ揖ス、故ニ曰ク、與ニ立ツ所ヲ揖スト、若シ左ノ人ヲ揖スル則ハ、其ノ手ヲ移シテ左ニ向フ、若シ右ノ人ヲ揖スル則ハ、其ノ手ヲ移シテ右ニ向フ、故ニ云ク、其ノ手ヲ左ニシ右ニス、既ニ半ハ身ヲ廻<sup>メ</sup>ラシ左右手ヲ廻<sup>めぐ</sup>ス、當ニ身上ニ着<sup>ツ</sup>クル所ノ衣ヲ使<sup>シ</sup>テ、必ス檐<sup>エ</sup>檐<sup>エ</sup>トシテ容儀如ト有ラ使ム當シ、故ニ江熙カ云ク、兩手ヲ揖スレハ、衣裳檐<sup>し</sup>如トシテ動ク、

【注】

鄭玄曰、揖左人左其手、揖右人右其手、一俛一仰、故衣前後則檐<sup>エ</sup>如也、

鄭玄カ曰ク、左ノ人ヲ揖スルトキハ其ノ手ヲ左ニシ、右ノ人ヲ揖スルトキハ其ノ手ヲ右ニス、一ハ俛<sup>ひたヒ</sup>シ一ハ仰<sup>ひたヒ</sup>ク、故ニ衣ノ前後則チ檐<sup>エ</sup>如タリ、

【經】

趨進翼如也、

趨<sup>ハシ</sup>リ進ムトキニ翼<sup>ハシ</sup>如タリ、

【疏】

謂擯迎賓進在庭行時也、翼如謂端正也、徐趨衣裳端正、如鳥欲翔舒翼時也、

擯トシテ賓ヲ迎テ進テ庭ニ在テ行ク時ヲ謂フ、翼如タリトハ端<sup>ハシ</sup>正ナルヲ謂フ、徐<sup>ヤフヤ</sup>クニ趨<sup>ツレリ</sup>テ衣裳端<sup>ハシ</sup>正ニシテ、鳥ノ翔<sup>カケ</sup>ラント欲<sup>シ</sup>テ翼ヲ舒フル時ノ如シ、



【注】  
孔安國曰、言端正也、

孔安國カ曰ク、言ハ端正ナリ、

【經】  
賓退必復命、曰賓不顧矣、

賓退キヌルトキニ必ス復命シテ、賓顧不ト曰ス、

【疏】  
謂君使己送賓時也、復命反命也、反命謂初受君命以送賓、賓退、故反還君命、以白君、道賓已去、云不顧者、舊云、主人若禮送賓、未足則、賓猶廻顧、若禮已足、送則賓直去不復廻顧、此明則送賓禮足、故云不顧也、

君己ヲ使テ賓ヲ送ラ使ムル時ヲ謂フ、復命トハ反命ナリ、反命トハ謂ル初メ君命ヲ受テ以テ賓ヲ送ル、賓退ク、故ニ君命ヲ反シ還テ、君ニ白シテ、賓已ニ去ルト道フ、顧ミ不ト云フコトハ、舊云ク、主人若シ賓ヲ禮送スルコト、未タ足ラ未ル則ハ、賓猶ラ廻顧ス、若シ禮已ニ足テ、送ル則ハ賓直ニ去テ復廻顧セ不、此レ賓ヲ

送ルニ禮足ルコトヲ明ス、故ニ顧不ト云フ、

【注】  
孔安國曰、復命、白君賓已去也、

孔安國カ曰ク、復命シテ、君ノ賓已ニ去ヌト白スソ、

【疏】  
言反白君、道賓已去也、然云賓已去、亦是不復來見顧也、

言ハ君ニ反シ白シテ、賓已ニ去ト道フ、然ルニ賓已ニ去ルト云フコトハ、亦是レ復タ來テ顧見レ不ルナリ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「賓」、武内本作「擯」。
- (三) 「躍」、武内本作「躍」、下同。
- (四) 「即」下、武内本有「是」字。
- (五) 「邊」下、武内本有「而」字。
- (六) 「而上以次」、武内本作「而以上」。
- (七) 「擯」、武内本作「賓」。
- (八) 「着」、武内本作「著」。
- (九) 「檐」下、武内本有「如」字。

(一〇)「如」、武内本無此字。

(一一)「已」、武内本無此字。

(一二)「孔安國」、武内本作「鄭玄」。

【經】

入公門、鞠躬如也、如不容、

公一門ニ入ルトキニ、鞠一躬一如タリ、容レ不ルカ如クス、

【疏】

公君也、謂孔子入君門時也、鞠躬斂也、躬身也、臣入君門、自由斂身也、君門雖大、而已恒曲斂、如君門之狹、不見容受爲也、

公ハ君ナリ、孔子君一門ニ入ル時ヲ謂フ、鞠ハ曲一斂ナリ、躬ハ身ナリ、臣君一門ニ入ルトキハ、自一ラ身ヲ曲メ一斂ム、君一門大シト雖、而トモ己恒二曲一斂シテ、君一門ノ狹フシテ、容レ受ケ見レ不ルカ爲ルカ如シ(爲ノ如クス)、

【注】

孔安國曰、斂身也、

孔安國カ曰ク、身ヲ斂ムルソ、

【經】

立不中門、

立テルトキハ中一門セ不、

【疏】

謂在君門倚立時也、中門謂棖闌之中也、門中央有闌、闌以碯門兩扇之交處也、門左右兩撻邊、各豎一木、名之爲棖、棖以禦車過、恐觸門也、闌東是君行之道、闌西是賓行之道也、而臣行君道、示係屬於君也、臣若倚門立時、則不得當君所行棖闌之中央、當中是不敬、故云不中門也、

君一門ニ在テ倚リ立ツ時ヲ謂フ、中一門トハ棖一闌ノ中ヲ謂フ、門ノ中一央ニ闌有リ、闌ハ門ノ兩一扇ノ交ハル處ヲ碯ル、門ノ左右ノ兩一撻ノ邊ニ、各一木ヲ豎テテ、之ヲ名ケテ棖ト爲、棖ハ車ノ過クルヲ禦ク、門ニ觸シコトヲ恐テソ、闌ノ東ハ是レ君ノ行クノ道ナリ、闌ノ西ハ是レ賓ノ行クノ道ナリ、而ルヲ臣君ノ道ヲ行クコトハ、君ニ係ケ屬スルコトヲ示ス、臣若シ門ニ倚テ立ツ時ハ、則チ君ノ行ク所ノ棖一闌ノ中一央ニ當コトヲ得不、中ニ當ルハ是レ不

敬ナリ、故ニ云ク中門セ不ト、

【經】

行不履闕、

行クトキニ闕ヲ履マ不、

【疏】

履踐也、闕限也、若出入時、則不得踐君之門限也、所以然者、其義有二、一則忽上界限似自高矜、二則人行跨限、己若履之則汚限、汚限則、汚跨者之衣也、

履ハ踐ナリ、闕ハ限ナリ、若シ出入スル時ハ、則チ君ノ門限ヲ踐ムコトヲ得不、然ル所<sub>一</sub>以ハ、其ノ義ニツ有リ、一二ハ則チ忽ニ限ニ上リ升ルトキハ、自高ブリ矜ルニ似タリ、二ニハ則チ人行クハ限ニ跨ル、己若シ之ヲ履ム則ハ限ヲ汚ス、限ヲ汚ス則ハ、跨ル者ノ衣ヲ汚ス、

【注】

孔安國曰、闕門限也、

孔安國カ曰ク、闕ハ門限ノ、

【經】

過位、色勃如也、足躍如也、

位ヲ過ルトキニ、色勃<sub>一</sub>如タリ、足躍<sub>一</sub>如タリ、

【疏】

謂臣入朝君時也、位君常所在外之位也、謂在宁屏之間揖賓之處也、即君雖不在此位、此位可尊、故臣行入、從位之邊過、而色勃然、足躍爲敬也、

臣<sub>一</sub>入テ君ニ朝スル時ヲ謂フ、位トハ君ノ常ノ在ル所ノ外ノ位ナリ、中屏ノ間ニ在テ賓ヲ揖スルノ處ヲ謂フ、即チ君此ノ位ニ在ラ不ト雖、此位尊フ可シ、故二臣行テ入テ、位ノ邊從リ過クルトキハ、色勃然タリ、足躍トシテ敬ヲ爲ス、

【注】

荀氏曰、過君之空位也、

荀氏カ曰ク、君ノ空位ヲ過クルノ、

(二)「扇」、武内本作「扉」。

(二) 「撻」、武内本作「撻」。

(三) 「躍」、武内本作「躍」、下同。

(四) 「從」、武内本有「君」字。

(五) 「之」、武内本無此字。

(六) 「也」、武内本有「如前釋也」四字。

【經】

其言似不足者、

其ノ言<sup>モのいふ</sup>コト足<sup>さ</sup>ラ不<sup>もつ</sup>ル者ニ似<sup>に</sup>レリ、

【疏】

既入過位、漸以近君、故言語細下、不得多言、如言不足之  
状也、不足少若不能也、

既ニ入テ位ヲ過ルトキハ、漸ニ君ニ近シ、故ニ言<sup>モのいふ</sup>語細<sup>カタチ</sup>下  
シテ、多言ナルコトヲ得不<sup>す</sup>、言<sup>モのいふ</sup>コト足<sup>さ</sup>ラ不<sup>もつ</sup>ルノ状ノ如  
シ、足<sup>す</sup>ラ不<sup>もつ</sup>トハ少<sup>すくなく</sup>シテ能ハ不<sup>さ</sup>ルカ若シ、

【經】

攝齋升堂、鞠躬如也、

齋<sup>モスツ</sup>ヲ攝<sup>カキヲサ</sup>メテ堂ニ升ルトキハ、鞠<sup>カキヲサ</sup>躬<sup>カキヲサ</sup>如タリ、

【疏】

至君堂也、攝攝也、齋衣裳下縫也、既至君堂當升之、未升  
之前、而攝提裳前、使齋下去地一尺、故云、攝齋升堂也、  
升堂將近君、故又自斂鞠躬如也、必攝齋者、爲妨履輟行故  
也、

君ノ堂ニ至ルソ、攝<sup>コフ</sup>ハ攝<sup>カキツクロ</sup>フ<sup>カキヲサ</sup>（攝<sup>カキヲサ</sup>ム）、齋<sup>シ</sup>ハ衣<sup>シ</sup>裳<sup>シ</sup>  
ノ下ノ縫<sup>ヌイ</sup>ソ、既ニ君ノ堂ニ至テ之ニ升ルニ當ル、未タ升  
ラ未<sup>マヘ</sup>ルノ前ニ、裳<sup>カキヲサ</sup>ノ前ヲ攝<sup>ヒキケ</sup>メテ、齋<sup>カキヲサ</sup>ノ下ヲ使<sup>シ</sup>テ地  
ヲ去<sup>サ</sup>ルコト一尺ハカリナラ使ム、故ニ云ク、齋ヲ攝<sup>カキヲサ</sup>  
テ堂ニ升ルト、堂ニ升ルトキハ將ニ君ニ近カント將、故ニ  
又自<sup>ミづから</sup>斂<sup>カキヲサ</sup>メテ鞠<sup>カキヲサ</sup>躬<sup>カキヲサ</sup>如タリ、必ス齋ヲ攝<sup>カキヲサ</sup>ルコトハ、履<sup>フミ</sup>  
ヲ妨<sup>サマシ</sup>ケ行<sup>ヤメシ</sup>ヲ輟<sup>ト</sup>カ（輟<sup>ト</sup>ムル）爲ノ故ナリ、

【經】

屏氣似不息者、

氣ヲ屏<sup>シリフ</sup>ケテ息<sup>イキ</sup>セ不<sup>もつ</sup>ル者ニ似<sup>に</sup>レリ、

【疏】

屏疊除貌、息亦氣也、已至君前、當疊除藏其氣、如似無氣息者也、不得咆咻張君也、

屏トハ疊ミ除ルノ貌ナリ、息ハ亦氣ナリ、已ニ君ノ前ニ至ル、當ニ疊ミ除ケテ其ノ氣ヲ藏メテ、氣息無キ者ニ似ルカ如クナル當シ、咆咻トシテ君ニ張ルコトヲ得不、

【注】

孔安國曰、皆重慎也、衣下曰齋、攝者攝衣也、

孔安國カ曰ク、皆重ク慎ムソ、衣ノ下ヲ曰フ齋ト、攝者衣ヲ攝ルソ、

【疏】

曲禮云、兩手攝衣去齋尺、是也、

曲禮ニ云ク、兩手衣ヲ攝メテ齋ヲ去ルコト尺ハカリストイフ、是ナリ、

【經】

出降一等、逞顏色怡怡如也、

出テ一等ヲ降ルトキニ、顏色ヲ逞テ怡怡如タリ、

【疏】

降下也、逞申也、出降一等、謂見君已竟、而下堂至階第一級時也、初對君時既屏氣、故出降一等而申氣、氣申則顏色亦申、故顏容怡悅也、

降ハ下ナリ、逞ハ申ナリ、出テ一等ヲ降ルトハ、君ニ見ルコト已ニ竟テ、堂ヲ下テ階ノ第一級ニ至ル時ヲ謂フ、初メ君ニ對スル時二既ニ氣ヲ屏ク、故ニ出テ一等ヲ降テ氣ヲ申フ、氣申フル則ハ顏色モ亦申フ、故ニ顏容怡悅ナリ、

【注】

孔安國曰、先屏氣、下階舒氣、故怡怡如也、

孔安國カ曰ク、先ツ氣ヲ屏ケテ、階ヲ下テ氣ヲ舒フ、故ニ怡怡如タリ、

【經】

沒階、趨進、翼如也、

階ヲ沒<sup>ツク</sup>シテ、趨<sup>はし</sup>リ進ムトキニ、翼如タリ、

也、

【疏】

沒猶盡也、盡階謂下諸級盡至平地時也、既去君遠、故又徐趨而翼如也、

【注】

位トハ初メ入ル時ニ過ル所ノ君ノ空位ヲ謂フ、今出テ此ノ位ニ至テ、更ニ蹀<sup>ス</sup>蹀トシテ敬ヲ爲ス、

孔安國曰、來時所過位也、

沒ハ盡ノ猶シ、階ヲ盡ストハ諸級ヲ下コト盡シテ平地ニ至ル時ヲ謂フ、既ニ君ヲ去ルコト遠シ、故ニ又徐<sup>やうやく</sup>ニ趨<sup>はしり</sup>テ翼如タリ、

孔安國カ曰ク、來ル時過クル所ノ位ソ、

【注】

孔安國曰、沒盡也、下盡階<sup>セ</sup>、

(一) 「貌」下、武内本有「也」字。

(二) 「咻」、武内本作「煦」。

(三) 「張」、武内本作「棖」。

(四) 「攝」下、武内本有「齋」字。

(五) 「時」、武内本無此字。

(六) 「諸」、武内本作「階」。

(七) 「階」下、武内本有「也」字。

(八) 「如」下、武内本有「也」字。

【經】

復其位蹀蹀如<sup>ハ</sup>、

其ノ位ニ復ルトキニ蹀<sup>シク</sup>蹀<sup>サキ</sup>如タリ、

【疏】

位謂初入時所過君之空位也、今出至此位、而更蹀蹀爲敬

執圭鞠躬如、如不勝、

【經】

圭ヲ執ルトキニ鞠躬如タリ、勝ヘ不ルカ如クス、

【疏】

謂爲君出使聘問鄰國時也、圭瑞玉也、周禮五等諸侯各受王者之玉、以爲瑞信、公桓圭九寸、侯信圭七寸、伯躬圭七寸、子穀璧五寸、男蒲璧五寸、五等若自執朝王則、各如其寸數、若使其臣出聘鄰國、乃各執其君之玉、而減其君一寸也、今云執圭、魯是侯、侯執信圭、則孔子所執、執君之信圭也、初在國及至他國、執圭皆爲敬慎、圭雖輕、而已執之、恆如圭重似己不能勝、故曲身如不勝、

君ノ爲ニ使ニ出テ鄰國ニ聘問スル時ヲ謂フ、圭ハ瑞玉ナリ、周禮ニ五等ノ諸侯各王ノ玉ヲ受テ、瑞信ト爲、公ハ桓圭九寸、侯ハ信圭七寸、伯ハ躬圭七寸、子ハ穀璧五寸、男ハ蒲璧五寸、五等若シ自執テ王ニ朝スル則ハ、各其ノ寸數ノ如シ、若シ其ノ臣ヲ使テ出タシテ鄰ノ國ニ聘セ使ルトキハ、乃チ各其ノ君ノ玉ヲ執ル、而トモ其ノ君ニ一寸ヲ減ス、今圭ヲ執ルト云フハ、魯ハ是レ侯ナリ、侯ハ信圭ヲ執ル、則ハ孔子ノ執ル所ハ、君ノ信圭ヲ執ルナリ、初メ國ニ在リ及ヒ他國ニ至リ、圭ヲ執ルトコト皆敬慎ヲ爲ス、圭ハ輕シト雖、之ヲ執ルトキハ己ニ、恆ニ圭ノ重キカ如クシテ己ニ勝ルト能ハ不ルニ似

リ、故ニ身ヲ曲メテ勝ヘ不ルカ如クニス、

【注】

苞氏曰、爲君使、以聘問鄰國、執持君之圭、鞠躬者敬慎之至也、

苞氏カ曰ク、君ノ爲ニ使シテ、鄰國ニ聘問スルトキ、君ノ圭ヲ執リ持タリ、鞠躬ハ敬慎ノ至ソ、

【經】

上如揖、

上ルトキニ揖スルカ如ク、

【疏】

謂欲授受圭之容儀也、上如揖、謂就下取玉、上授與人時也、俯身爲敬、故如揖時也、

圭ヲ授ケ受ケント欲スルノ容儀ヲ謂フ、上ルトキニ揖スルカ如シトハ、下ニ就チ玉ヲ取、上テ人ニ授ケ與ルノ時ヲ謂フ、身ヲ俯シテ敬ヲ爲ス、故ニ揖スル時ノ如シ、

【經】

下如授、

下ストキニ授ルカ如クス、

【疏】

謂奠玉置地時也、雖奠置地、亦徐徐俯僂、如授與人時也、

玉ヲ奠テ地ニ置ク時ヲ謂、地ニ奠テ置クト雖、亦徐徐トシテ俯僂シテ、人ニ授ケ與ル時ノ如シ、

【經】

勃如戰色、

勃一如トシテ戰色アリ、

【疏】

通謂執行及授時之顏色也、臨陣鬪戰、則色必懼怖、故今重君之玉、使己顏色、恆如戰時也、

通シテ執リ行キ及ヒ授ル時ノ顏色ヲ謂フ、陣ニ臨テ鬪ヒ戰フ、則ハ色必ス懼レ怖ル、故ニ今君ノ玉ヲ重ンス、己

カ顏色ヲ使テ、恆ニ戰フ時ノ如クナラ使ム、

【經】

足蹠蹠、如有循也、

足蹠蹠トシテ、循フコト有ルカ如シ、

【疏】

謂舉玉行時之容也、蹠蹠猶蹠蹠也、循猶緣循也、言舉玉行時、不敢廣步速進、恆如足前有所蹠有所緣循也、

玉ヲ舉ケテ行ク時ノ容ノ謂フ、蹠蹠ハ蹠蹠ノ猶シ、循ハ緣（緣リ）ノ循ノ猶シ、言ハ玉ヲ舉ケテ行ク時ニ、敢テ廣ク歩ミ速ニ進マ不、恆ニ足ノ前ニ蹠ム所有テ緣リ循フ所有ルカ如シ、

【注】

鄭玄曰、上如揖、授玉宜敬也、下如授、不敢忘禮也、戰色敬也、足蹠蹠如有循、拳前曳踵行也、

鄭玄カ曰ク、上ルトキニ揖スルカ如クストハ、玉ヲ授ルコト宜ク敬ス宜シ、下ストキニ授ルカ如クストハ、敢テ



禮ヲ忘レ不<sup>さ</sup>ルソ、戰<sup>い</sup>色ストハ敬スルソ、足踏<sup>フ</sup>踏<sup>ト</sup>シテ循<sup>ル</sup>フコト有ルカ如シトハ、前ヲ挙テ踵<sup>ヒ</sup>ヲ曳<sup>ス</sup>イテ行クソ、

## 【疏】

解踏踏有循之事也、舉足前、恆使不至地、而踵<sup>ヒ</sup>成不離地、如車輪也、

踏<sup>フ</sup>踏<sup>ト</sup>シテ循<sup>ル</sup>フコト有ルノ事ヲ解ス、足ノ前ヲ舉テ、恆ニ地ニ至ラ不<sup>さ</sup>ラ使<sup>し</sup>メテ、踵<sup>ヒ</sup>ノ地ヲ離レ不<sup>さ</sup>ルコト、車輪ノ如クナルコトヲ成サ使ム、

## 【經】

享禮有容色、

享<sup>レ</sup>禮ニハ容<sup>レ</sup>色有リ、

## 【疏】

享者、聘後之禮也、夫諸侯朝天子、及五等更相朝、聘禮初至皆先單執玉行禮、禮王、謂之爲朝、使臣禮主國之君。謂之爲聘、聘問也、政言久不相見、使臣來問於安否也、既是初至、其禮質敬、故無他物、唯有瑞玉、表至誠而已、行朝聘既竟、次行享禮、享者獻物也、亦各有玉、玉不與聘玉同

也、又皆有物、將之、或用皮馬、或用錦綉、又獻土地所生、羅列滿庭、謂之庭實、其中差異、不復曲論、但既是次後行禮、以多爲貴則、質敬之事、猶稍輕、故有容貌、采章、及楊以行事、故云有容色也、

享トハ、聘シテ後ノ禮ナリ、夫レ諸侯天子ニ朝スルコト、及ヒ五<sup>カハルカハル</sup>等<sup>ヒトヘ</sup>更<sup>カハル</sup>相ヒ朝スルコト、聘禮ニ初テ至ルトキハ皆ナ先ツ單<sup>ヒトヘ</sup>ニ玉ヲ執テ禮ヲ行<sup>ヲコナフ</sup>テ、王ヲ禮ス、之ヲ謂テ朝ト爲<sup>ス</sup>、臣ヲ使テ主國ノ君ヲ禮セ使ム、之ヲ謂テ聘ト爲<sup>ス</sup>、聘ハ問ナリ、政ニ言ハ久ク相ヒ<sup>ミ</sup>見ヘ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、臣ヲ使テ來シテ安<sup>ク</sup>否ヲ問ハ使ム、既ニ是レ初テ至ルトキニ、其ノ禮質<sup>ア</sup>敬ナリ、故ニ他物無シ、唯タ瑞<sup>ア</sup>玉有<sup>アリ</sup>、至<sup>ツ</sup>誠ヲ表<sup>ス</sup>ス而<sup>レ</sup>已<sup>ハ</sup>、朝聘ヲ行フコト既ニ<sup>マタ</sup>竟<sup>ス</sup>テ、次ニ享<sup>ス</sup>禮ヲ行フ、享ハ物ヲ獻スルナリ、亦<sup>マタ</sup>各玉有リ、玉ハ聘<sup>ス</sup>玉與同カラ不<sup>ス</sup>、又皆<sup>マタ</sup>ナ物有リ、之ヲ將<sup>ヲ</sup>ル、或ハ皮馬ヲ用ヒ、或ハ錦<sup>ス</sup>綉ヲ用フ、又土<sup>マタ</sup>地ノ生<sup>ス</sup>スル所ヲ獻シテ、羅列シテ庭ニ滿ツ、之ヲ庭<sup>マタ</sup>實ト謂フ、其ノ中ノ差異、復タ曲<sup>ツツサ</sup>ニ論セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、但タ既ニ是レ次テ後ニ禮ヲ行フ、多ヲ以テ貴シト爲ル則ハ、質<sup>ス</sup>敬ノ事ハ、猶ヲ稍<sup>ヤ</sup>輕シ、故ニ容<sup>ス</sup>貌<sup>ス</sup>、采章<sup>カタハタス</sup>有リ、及ヒ楊<sup>ス</sup>イテ以テ事ヲ行フ、故ニ云ク容<sup>ス</sup>色<sup>ス</sup>有リ、

【注】

鄭玄曰、享献也、聘禮既聘而享、享用圭璧、有庭實也、

鄭玄カ曰ク、享ハ献ナリ、聘禮ニ既ニ聘シテ享ス、享ニハ圭璧ヲ用テ、庭實有リ、

【疏】

亦有圭璧。所執不同聘時也、

亦圭璧有リ。執ル所聘ノ時ニ同カラ不、

【經】

私觀、愉愉如也、

私ニ觀ルトキニ、愉愉如タリ、

【疏】

私非公也、觀見也、愉愉顔色和也、謂行聘享、公禮已竟、別日使臣私齎已物、以見於主君、故謂爲私觀也、既私見非公、故容儀轉以自若、故顔色谷貌有和悦之色、無復勃戰之容者也、

私トハ公ニ非ス、觀ハ見ナリ、愉愉ハ顔色ノ和スルソ、謂ル聘享ヲ行コト、公ノ禮已ニ竟テ、別日ニ使ノ臣私ニ己カ物ヲ齎テ、主君ニ見ユ、故ニ謂テ私ニ觀ルト爲ス、既ニ私ニ見ユ公ニ非、故ニ容儀轉タ自若ナリ、故ニ顔色谷貌和悦ノ色有、復勃戰ノ容無キ者ナリ、

【注】

鄭玄曰、觀見也、既享、乃以私禮見、愉愉顔色和也、

鄭玄カ曰ク、觀ハ見、既ニ享シテ、乃シ私ノ禮ヲ以テ見ユ、愉愉ハ顔色ノ和スルソ、

【疏】

私禮、謂束帛乘馬之屬也、

私ノ禮トハ、束帛乗馬ノ屬ヲ謂フ、

(一) 「已」、武内本作「己」。

(二) 「勝」下、武内本有「也」字。

(三) 「之」、武内本作「時」。

(四) 「人」、武内本作「之」。

(五) 「執」下、武内本有「受」字。

(六) 「之」、武内本無此字。

(七) 「踵」下、武内本有「曳」字。

(八) 「錦」、武内本作「綿」。

(九) 「者」、武内本無此字。

(一〇) 「色」下、武内本有「之」字。

(一一) 「乘」、武内本作「棄」。

【經】

君子不以紺緌飾、

君<sup>一</sup>子<sup>ハ</sup>紺<sup>カン</sup>緌<sup>シユウ</sup>ヲ以テ飾<sup>モトラシ</sup>ニセ不<sup>ス</sup>、

【疏】

君子者、自士以上<sup>③</sup>、士以上衣服有法、不可雜色也、紺緌者、孔意言紺是玄色也、緌是淺絳色也、飾者衣之領袖緣也、所以不用紺緌爲衣領袖緣者、玄是齋服、若用紺爲衣飾、是似衣齋服、故不用也、又三年之喪、練而受淺絳爲緣也、若用緌爲衣飾、是似衣喪服、故不敢用也、故云、君子不以紺緌飾也、

君<sup>一</sup>子<sup>ト</sup>ハ、士自<sup>より</sup>以<sup>一</sup>上<sup>ソ</sup>、士ヨリ以<sup>一</sup>上<sup>ハ</sup>衣服法有<sup>リ</sup>、

雜<sup>ヘ</sup>色アル可不<sup>サス</sup>、紺<sup>カン</sup>緌<sup>シユウ</sup>ハ、孔カ意ニ言ク紺ハ是レ玄<sup>一</sup>色ナリ、緌ハ是レ淺<sup>一</sup>絳<sup>一</sup>ノ色ナリ、飾<sup>モトラシ</sup>トハ衣ノ領<sup>一</sup>（領）袖

ノ緣<sup>モトラシ</sup>ナリ、紺<sup>一</sup>緌<sup>一</sup>ヲ用テ衣ノ領<sup>一</sup>袖ノ緣<sup>一</sup>ニ爲<sup>セ</sup>ル所以<sup>レ</sup>ハ、玄ハ是レ齋<sup>一</sup>服ナリ、若シ紺<sup>一</sup>ヲ用テ衣ノ飾<sup>一</sup>ト爲<sup>ル</sup>ルトキハ、是レ齋<sup>一</sup>服ヲ衣ケルニ似、故ニ用ヒ不<sup>ス</sup>、又三年ノ喪

ニ、練<sup>一</sup>シテ淺<sup>一</sup>絳<sup>一</sup>（淺絳）ヲ受テ緣<sup>一</sup>ト爲<sup>ス</sup>、若シ緌<sup>一</sup>ヲ用テ衣<sup>一</sup>飾<sup>一</sup>ト爲<sup>ル</sup>ルトキハ、是レ喪<sup>一</sup>服ヲ衣ケルニ似<sup>リ</sup>、故ニ敢テ

用ヒ不<sup>ス</sup>、故ニ云ク、君<sup>一</sup>子<sup>ハ</sup>紺<sup>一</sup>緌<sup>一</sup>ヲ以テ飾<sup>ニ</sup>セ不<sup>ス</sup>、

【注】

孔安國曰、一入曰緌、飾者不以爲領袖緣也、紺者齋服盛色、以爲飾似衣齋服也、緌者三年練、以緌飾衣、爲其似衣喪服也、故皆不以飾衣也、

孔安國カ曰ク、一入ヲ緌ト曰フ、飾<sup>モトラシ</sup>トハ領<sup>一</sup>袖ノ緣<sup>一</sup>ニ爲<sup>セ</sup>ズ、紺<sup>一</sup>ハ齋<sup>一</sup>服ノ盛ナル色<sup>一</sup>ソ、飾<sup>モトラシ</sup>ニ爲<sup>ル</sup>ルトキハ齋<sup>一</sup>服ヲ衣ケルニ似<sup>レ</sup>リ、緌ハ三年ノ練<sup>一</sup>ニ、緌<sup>一</sup>ヲ以テ衣<sup>ニ</sup>飾<sup>ニ</sup>ス、其喪<sup>一</sup>服ヲ衣ケルニ似<sup>ル</sup>ルカ爲<sup>タ</sup>メ、故ニ皆以テ衣<sup>ニ</sup>飾<sup>ニ</sup>セ不<sup>ス</sup>、

【疏】

然<sup>（五）</sup>按孔以紺爲齋服盛色、或可言紺深於玄、爲似齋服、故不

用也而禮家、三年練以縗爲深衣領緣、不云用輓、且檢考工記、三人爲纁、五人爲緇、七入爲緇、則緇非復淺絳明矣、故解者相承皆云、孔此注誤也、

然ラハ按スルニ孔紺ヲ以齋服ノ盛色ト爲、或ハ紺ハ玄ヨリ深シト言ツ可シ、齋服ニ似タルカ爲ノ、故ニ用ヒ不而ルヲ禮家ニ、三年ノ練ニ縗ヲ以深衣ノ領ノ緣ト爲、輓ヲ用フヲ云ハ不、且タ考工記ヲ檢フルニ、三人入ヲ纁ト爲、五人入ヲ緇ト爲、七人入ヲ緇ト爲ル、則ハ緇ハ復淺絳（絳）ニ非ルコトハ明ケシ、故ニ解者相ヒ承ケテ皆云、孔カ此ノ注誤レリト、

### 【經】

紅紫、不以爲褻服、

紅紫ヲハ、褻服ニ爲不、

### 【疏】

紅紫非正色也、褻服私褻之服、非正衣也、褻尚不衣則、正服故宜不用也、所以言此者、爲時多重紅紫棄正色、故孔子不衣之也、故後卷云、惡紫之奪朱也、

紅紫ハ正色ニ非、褻服トハ私褻ノ服ナリ、正衣ニ非ス、褻ニモ尚ヲ衣不ル則ハ、正服ニハ故ニ宜ク用ヒ不ル宜シ、此ヲ言フ所以ハ、時ニ多ク紅紫ヲ重シテ正色ヲ棄コトヲ爲ス、故ニ孔子之ヲ衣不、故ニ後ノ卷ニ云ク、紫ノ朱ヲ奪コトヲ惡ムト、

### 【注】

王肅曰、褻服、私居、非公會之服者也、皆不正、褻尚不衣、正服無所施、

王肅カ曰ク、褻服トハ、私ノ居ニシテ、公會ノ服ニ非ル者ソ、皆不正ナリ、褻ニモ尚ヲ衣不トナラハ、正服ニハ施ス所無ケン、

### 【疏】

鄭玄注論語云、紺緇紫玄之類也、紅纁之類也、玄纁所以爲祭服、尊其類也、紺緇木染、不可爲衣飾、紅紫草染、不可爲褻服而已、飭謂純緣也、侃按五方正色、青、赤、白、黑、黃、五方間色、綠爲青之間、紅爲赤之間、碧爲白之間、紫爲黑之間、緇爲黃之間也、故不用紅紫、言是間色也、所以爲間者、顓子嚴云、東方木、木色青、木尅於土、土色黃、以青加黃、故爲綠、綠爲東方之間也、又南方火、

火色赤、火尅金、金色白、以赤加白、故爲紅、紅爲南方間也、又西方金、金色白、金尅木、木色青、以白加青、故爲碧、碧爲西方間也、又北方水、水色黑、水尅火、火色赤、以黑加赤、故爲紫、紫爲北方間也、又中央土、土色黃、土尅水、水色黑、以黃加黑、故爲緇黃、緇黃爲中央間也、緇黃黑之色也。又一註云、東甲乙木、南丙丁火、中央戊己土、西庚辛金、北壬癸水、以木尅土、戊以妹已、嫁於木甲、是黃入於青、故爲綠也、又火尅金、庚以妹辛、嫁於丙、是白入於赤、故爲紅也、又金尅木、甲以妹乙、嫁於庚、是青入於白、故爲碧也、又水尅火、丙以妹丁、嫁於壬、是赤入於黑、故爲紫也、又土尅水、壬以妹癸、嫁於戊、是黑入黃、故爲緇黃者也、

鄭玄力注ノ論語ニ云ク、紺緹ハ紫ノ類ナリ、紅ハ纁ノ類ナリ、玄ノ纁ハ祭服ト爲ルカ所以ニ、其ノ類ヲ尊フ、紺緹ハ木ノ染ナリ、衣ノ飾ニ爲可不、紅紫ハ草ノ染ナリ、褻ノ服ニ爲可不<sup>スヘカ</sup>不<sup>ス</sup>ル而<sup>モト</sup>已<sup>シ</sup>、飾トハ純<sup>モトシ</sup>(純)ノ緣ヲ謂フ、侃按スルニ五ノ方ノ正色ハ、青、赤、白、黑、黃ナリ、五ノ方ノ間色ハ、綠ハ青ノ間ト爲、紅ハ赤ノ間ト爲、碧ハ白ノ間ト爲、紫ハ黒ノ間ト爲、緇ハ黄ノ間ト爲、故ニ紅紫ヲ用ヒ不<sup>ス</sup>、言ハ是レ間色ナリ、間ト爲ル所以ハ、穎子嚴カ云ク、東方ハ木ナリ、木ノ色ハ青シ、木ハ土ニ

尅ツ、土ノ色ハ黄ナリ、青ヲ以テ黄ニ加フ、故ニ綠ト爲、綠ハ東方ノ間爲リ、又南方ハ火ナリ、火ノ色ハ赤シ、火ハ金ニ尅ツ、金ノ色ハ白シ、赤ヲ以テ白ニ加フ、故ニ紅ト爲、紅ハ南方ノ間ト爲、又西方ハ金ナリ、金ノ色ハ白シ、金ハ木ニ尅ツ、木ノ色ハ青シ、白ヲ以テ青ニ加フ、故ニ碧ト爲、碧ハ西方ノ間ト爲、又北方ハ水ナリ、水ノ色ハ黒シ、水ハ火ニ尅ツ、火ノ色ハ赤シ、黒ヲ以テ赤ニ加フ、故ニ紫ト爲、紫ハ北方ノ間ト爲、又中央ハ土ナリ、土ノ色ハ黄ナリ、土ハ水ニ尅ツ、水ノ色ハ黒シ、黄ヲ以テ黒ニ加フ、故ニ緇ト爲、緇ハ中央ノ間ト爲、緇ハ黄ハ黄ノ色ナリ。又一註ニ云ク、東ハ甲乙木ナリ、南ハ丙丁火ナリ、中央ハ戊己土ナリ、西ハ庚辛金ナリ、北ハ壬癸水ナリ、以レニ木ハ土ニ尅ツ、戊ノ妹ト已ヲ以テ、木ノ甲ニ嫁ス、是レ黄青ニ入ル、故ニ綠ト爲、又火ハ金ニ尅ツ、庚ノ妹ト辛ヲ以テ、丙ニ嫁ス、是レ白赤ニ入ル、故ニ紅ト爲、又金ハ木ニ尅ツ、甲ノ妹ト乙ヲ以テ、庚ニ嫁ス、是レ青白ニ入ル、故ニ碧ト爲、又水ハ火ニ尅ツ、丙ノ妹ト丁ヲ以テ、壬ニ嫁ス、是レ赤黒ニ入ル、故ニ紫ト爲、又土ハ水ニ尅ツ、壬ノ妹ト癸ヲ以テ、戊ニ嫁ス、是レ黒黄ニ入ル、故ニ緇ト爲ル者ナリ、

【經】

當暑纈絺綌、必表而出、

暑ニ當テハ纈<sup>ヒトヘ</sup>ニ絺<sup>チ</sup>綌<sup>ケキ</sup>ニ、必ス表<sup>ウワライ</sup>シテ出ツ、

【疏】

暑熱也、纈單也、絺細練葛也、綌大練葛也、表謂加上衣也、古人冬則衣裘、夏則衣葛也、若在家則、裘葛之上亦無別加衣、若出行接賓、皆加上衣、當暑雖熱絺綌可單、若出不可單、則必加上衣也、<sup>(二二)</sup>故云必表而出也。然裘上出亦必加衣、而獨云當暑絺綌者、嫌暑熱不加、故特明之也、然又衣裏之裘、必隨上衣之色、使衣裘相稱、則葛之爲衣、亦未必隨上服色也、<sup>(二三)</sup>

暑ハ熱ナリ、纈<sup>シシ</sup>ハ單ナリ、絺<sup>チ</sup>ハ細練葛ナリ、綌<sup>ケキ</sup>ハ大練葛ナリ、表トハ上<sup>イ</sup>衣ヲ加ルヲ謂、古人ハ冬ハ則チ裘ヲ衣、夏ハ則チ葛ヲ衣ル、若シ家ニ在ル則ハ、裘葛ノ上ニ亦別ニ加<sup>キ</sup>衣無シ、若シ出テ行キ賓ニ接<sup>ミ</sup>ルトキハ、皆<sup>みな</sup>上<sup>うへ</sup>衣ヲ加フ、暑ニ當テハ熱シテ絺<sup>ヒトヘ</sup>綌<sup>ケキ</sup>ナル可シト雖、若シ出ルトキハ單ナル可<sup>ヘ</sup>不<sup>ヘ</sup>ル、則ハ必<sup>いへども</sup>上<sup>いへども</sup>衣ヲ加フ、故ニ云ク必ス表シテ出ツト。然ルニ裘<sup>かならず</sup>上<sup>かならず</sup>モ出ルトキハ亦必<sup>かならず</sup>衣ヲ加フ、而ルヲ獨リ云ク暑ニ當テハ絺<sup>ヒトヘ</sup>綌<sup>ケキ</sup>トハ、暑<sup>ヒトヘ</sup>熱ハ

加<sup>さ</sup>ヘ不<sup>ス</sup>ルニ嫌<sup>ウツカイ</sup>アリ、故ニ特ニ之ヲ明ス、然シテ又衣ノ裏ノ裘ハ、必ス上<sup>カサ</sup>衣ノ色ニ隨テ、衣裘相ヒ<sup>ヒ</sup>稱<sup>カサ</sup>ヘ使ム、則チ葛ノ衣爲<sup>タ</sup>ルコトハ、亦未タ必シモ上<sup>ス</sup>服ノ色ニ隨ハ未<sup>ス</sup>

【注】

孔安國曰、暑<sup>(二四)</sup>則單服、絺綌葛也、必表而出、加上衣也、

孔安國カ曰ク、暑<sup>アツキ</sup>則ハ單<sup>ヒトヘ</sup>ノ服ス、絺<sup>ウハモウ</sup>綌<sup>ウハモウ</sup>ハ葛ソ、必ス表<sup>シテ出ツトハ、上<sup>ヒトヘ</sup>衣ヲ加ルソ、</sup>

【經】

緇衣羔裘、

緇<sup>シ</sup>衣ニハ羔<sup>ヒツシ</sup>ノ裘、

【疏】

裘色既隨衣、故此仍明裘上之衣也、緇染黑、七入者也、玄則六入色也、羔者烏羊也、裘與上衣相稱、則緇衣之内、故曰羔裘也、緇衣服者玄冠、十五升緇布衣、素積裳也、素積者、用素爲之裳、積攝之無數、故云素積也、此是諸侯日視朝服也、諸侯視朝、與群臣同服、孔子是魯臣、故亦服此服、以日朝君之也、<sup>(二五)</sup>

裘ノ色ハ既ニ衣ニ随フ、故ニ此ニ仍テ裘上ノ衣ヲ明ス、  
 緇ハ黒ニ染ルコト、七ノ入スル者也、玄ハ則チ六ノ入ノ色  
 ナリ、羔ハ烏羊ナリ、裘ハ上ノ衣與相ヒ稱フ、則ハ緇衣  
 ノ内ナルカ、故ニ羔裘ト曰フ、緇衣ノ服ハ玄冠、十  
 五ノ升ノ緇布ノ衣ニ、素積裳ナリ、素積ハ、素ヲ用テ  
 之カ襞ヲ爲ツテ、之ヲ積攝スルコト數無シ、故ニ素積ト  
 云フ、此レハ是レ諸侯ノ日ニ朝ヲ視ルノ服ナリ、諸侯ノ朝  
 ヲ視ルコト、群臣與服ヲ同フス、孔子ハ是レ魯ノ臣ナリ、  
 故ニ亦此ノ服ヲ服シテ、日ニ君ニ朝ス、

## 【經】

素衣麕裘、

素衣ニハ麕ノ裘、

## 【疏】

素衣、謂衣裳竝用素也、麕鹿子也、鹿子色近白、與素微相  
 稱也、謂國有凶荒、君素服、則群臣從之、故孔子魯臣、亦  
 服之也、喪服則大鹿爲裘也、故檀弓云、鹿裘橫長袂是也、  
 此凶荒之服、既輕、故裘用鹿子、鹿子文勝於大鹿也、或  
 云、大蜡祭百物之神、皮弁素服也、故鄭玄註郊特牲云、  
 皮弁素服、而祭以送終也、注云、素服、衣裳皆素也、

素衣トハ、衣衣裳竝ニ素（素）ヲ用ルコトヲ謂フ、麕ハ  
 鹿ノ子ナリ、鹿子ノ色ハ白ニ近シ、素與微シ相ヒ稱フ、  
 謂ル國ニ凶荒有レハ、君素服ス、則チ群臣之ニ從フ、  
 故ニ孔子魯ノ臣トシテ、亦タ之ヲ服ス、喪服スル則ハ大  
 鹿ノ裘ヲ爲ス、故ニ檀弓ニ云ク、鹿ノ裘ハ横ニ長シテ  
 袂アリトイフ是レナリ、此レハ凶荒ノ服ナリ、既ニ輕  
 シ、故ニ裘ニ鹿子ヲ用フ、鹿子ハ文アリ大鹿ニ勝レリ、  
 或ハ云ク、大蜡ニハ百物ノ神ヲ祭ル、皮弁素服ナリ、  
 故ニ鄭玄力註ノ郊特牲ニ云ク、皮弁素服シテ、祭テ以テ  
 終リヲ送ル、注ニ云ク、素服トハ、衣裳皆素シ、

## 【經】

黃衣狐裘、

黃衣ニハ狐ノ裘、

## 【疏】

此服謂蜡祭宗廟五祀也、歲終大蜡報功、象物色黃落、故著  
 黃衣黃冠也、而狐貉亦黃、故特爲裘、以相稱也、孔子爲臣  
 助蜡祭、亦隨君著之黃衣也、故禮運云、昔者仲尼預於蜡  
 賓是也、鄭玄注郊特牲云、黃衣黃冠而祭、注云、祭謂既蜡  
 臠先祖五祀也、又云、論語云、黃衣狐裘、按鄭以論語黃

衣、即<sup>(二二)</sup>是郊特牲蜡<sup>(二三)</sup>臠祭廟服也、

此ノ服ハ蜡ニ宗廟五祀ヲ祭ルヲ謂フ、歲終テ大蜡ニ功ヲ報ス、物ノ色黃落ニ象ル、故ニ黃衣黃冠ヲ著ク、而ルニ狐貉亦黃ナリ、故ニ特ニ裘ト爲テ、相ヒ稱フ、孔子臣ト爲テ蜡祭ヲ助ク、亦君ニ隨テ之ノ黃衣ヲ著ク、故ニ禮運ニ云ク、昔ハ仲尼蜡ノ賓ニ預ルトイフ是ナリ、鄭玄カ注ノ郊特牲ニ云ク、黃衣黃冠シテ祭ル、注ニ云ク、祭トハ既ニ蜡ニ先祖ノ五祀ヲ臠スルヲ謂フ、又云ク、論語ニ云ク、黃衣ニハ狐ノ裘、鄭ヲ按スルニ以テ論語ノ黃衣ハ、即チ是レ郊特牲ニ蜡ニ廟ヲ臠祭スル服ナリ、

【注】

孔安國曰、服皆中外之色、相稱也、

孔安國カ曰ク、服ハ皆中外色、相ヒ稱フ、

【經】

褻裘、長短右袂、

褻ノ裘ハ、長シテ右ノ袂ヲ短ス、

【疏】

褻裘、謂家中常著之裘也、上無加衣、故不云衣也、家居主溫暖、故長爲之也、而右臂是有事之用、故短爲右袂、使作事便也、袂謂衣袖屬身者也、若手閒屬袂者、則名袂、亦曰袖也、

褻ノ裘トハ、家中ニ常ニ著ルノ裘ヲ謂フ、上ニ衣ヲ加ルコト無シ、故ニ衣ヲ云ハ不、家居ハ溫暖ヲ主トス、故ニ長ク之ヲ爲ル、而ルニ右ノ臂ハ是レ事ノ用有リ、故ニ短ク右ノ袂ヲ爲テ、作事ヲ使テ便アラシム、袂トハ衣ノ袖身ニ屬スル者ヲ謂フ、若シ手ノ閒袂ニ屬スル者ヲハ、袂ト(袂ト)名ク、亦ハ袖ト曰フ、

【注】

孔安國曰、私家裘長、主溫也、短右袂、便作事也、

孔安國カ曰ク、私ノ家ノ裘ノ長キコトハ、溫ヲ主トスレハナリ、右ノ袂ヲ短スルコトハ、作事ニ便ストナリ、

【經】

必有寢衣、長一身有半、



必ス寢ヌルトキノ<sup>（二）</sup>衣有リ、長サ一<sup>（一）</sup>身有<sup>（一）</sup>半、

【疏】

寢衣、謂被也、<sup>（二）</sup>宜長、故長一身有半也、

寢ル衣トハ、被ヲ謂フ、宜ク長カル宜シ、故ニ長サ一<sup>（一）</sup>身有<sup>（一）</sup>半、

【注】

孔安國曰、今被也、<sup>（二）</sup>

孔安國カ曰ク、今ノ被<sup>（一）</sup>ソ、

【經】

狐貉之厚、以居、

狐<sup>（一）</sup>貉ノ厚キ、以<sup>（二）</sup>テ居ル、<sup>（三）</sup>

【疏】

此謂在家接賓客之裘也、家居主溫、故厚爲之也、既接賓客、則其上亦應有衣也、

此レハ家ニ在テ賓<sup>（一）</sup>客ヲ接スルノ裘ヲ謂フ、家ニ居ルニハ溫ヲ主トス、故ニ厚ク之ヲ爲ス、既ニ賓<sup>（一）</sup>客ニ接ハル、則ハ其ノ上ニ亦タ衣有ル應シ、

【注】

鄭玄曰、在家以接賓客也、

鄭玄カ曰ク、家ニ在テ以テ賓<sup>（一）</sup>客ヲ接スルソ、

【疏】

然前襲裘、亦應是狐貉之厚也、

然レハ前ノ襲ノ裘ハ、亦是レ狐貉ノ厚キナル應シ、

【經】

去喪、無所不佩、

喪<sup>（一）</sup>ヲ去イテハ、佩ヒ不トイフ所無シ、

【疏】

去喪、謂三年喪畢、喪服已除也、無所不佩、謂佩、已今吉、所宜得佩者、悉佩之也、嫌既經喪親、恐除服後猶宜有

異、故特明之者也、

喪ヲ去トハ、三年ノ喪<sup>スレ</sup>畢テ、喪<sup>スレ</sup>服已<sup>スレ</sup>除ヲ謂フ、佩ヒ不トイフ所無シトハ、佩ルヲ謂フ、已ニ今<sup>イマ</sup>吉ナリ、宜ク佩フルコトヲ得宜キ所ノ者、悉ニ之ヲ佩フ、既ニ親ヲ喪スルコトヲ經、恐クハ服ヲ除テノ後<sup>ノチ</sup>猶<sup>ナ</sup>宜ク異ナルコト有ル宜キニ嫌<sup>ツタカ</sup>イアリ、故ニ特ニ之ヲ明ス者ナリ、

### 【注】

孔安國曰、去除也、非喪則、備佩所宜佩也、

孔安國カ曰ク、去ハ除、喪ニ非ル則ハ、備<sup>ツカ</sup>ニ宜ク佩フ宜キ所ヲ佩フ、

### 【疏】

備佩所宜佩、若爲大夫而玄冕、公侯袞鷩之屬、及佩玉佩之飾也、

備ニ宜ク佩フ宜キ所ヲ佩フトハ、若シ大夫ト爲テハ玄冕、公侯ハ袞<sup>ヘツ</sup>鷩<sup>ヘン</sup>ノ屬、及ヒ玉<sup>カダリ</sup>佩ノ飾ヲ佩フ、

### 【經】

非帷裳、必殺之、

帷裳ニ非レハ、必ス殺<sup>ツ</sup>グ、

### 【疏】

帷裳、謂帷幔之屬也、殺謂縫之也、若非帷幔裳、則必縫殺之、以殺縫之面、置裏、不殺之面在外、而帷裳但刺連之、如今眠褄、不有裏外、殺縫之異也、所以然者、帷幔内外竝爲人所見、必須飾、故刺連之而已也。所以喪服云、凡裳内削幅、裳外不削幅、鄭注云、削猶殺也、而鄭注<sup>(三〇)</sup>此云、帷裳謂朝祭之服、其制正幅如帷也、非者、謂餘衣也、殺之者、削其幅、使縫<sup>(三二)</sup>齊<sup>(三三)</sup>倍腰者也、

帷<sup>タ</sup>裳トハ、帷<sup>タ</sup>幔ノ屬ヲ謂フ、殺<sup>セ</sup>クトハ之ヲ縫<sup>ヌ</sup>ヲ謂フ、若シ帷<sup>タ</sup>幔<sup>タ</sup>裳ニ非ル、則ハ必ス之ヲ縫<sup>ヌ</sup>ヒ<sup>ツ</sup>殺<sup>ツ</sup>ク、殺<sup>ツ</sup>キ<sup>ツ</sup>縫<sup>ツ</sup>ノ面ヲ以テ、裏<sup>ウラ</sup>ニ置テ、殺<sup>セ</sup>不<sup>ス</sup>ルノ面ハ外ニ在リ、而シテ帷<sup>タ</sup>裳ハ但<sup>タ</sup>之ヲ刺<sup>サ</sup>シ<sup>ツ</sup>連<sup>ツ</sup>ヌク、今ノ眠<sup>ハ</sup>褄<sup>ハ</sup>(服褄)ノ、裏<sup>ウラ</sup>外<sup>ソト</sup>殺<sup>セ</sup>キ<sup>ツ</sup>縫<sup>ツ</sup>ノ異有ラ不<sup>ス</sup>ルカ如シ、然ル所以ハ、帷<sup>タ</sup>幔ハ内外竝<sup>ツ</sup>ニ人ノ爲ニ見<sup>ミ</sup>ル所、必ス須<sup>ス</sup>ク飾<sup>カ</sup>ル<sup>ル</sup>須<sup>ス</sup>、故ニ之ヲ刺<sup>サ</sup>シ<sup>ツ</sup>連<sup>ツ</sup>ヌル而<sup>ニ</sup>已<sup>ミ</sup>。所以ニ喪服ニ云ク、凡<sup>ハ</sup>ソ<sup>ハ</sup>裳ノ内ハ幅<sup>ハタバリ</sup>ヲ削<sup>サ</sup>ク、裳ノ外ハ幅<sup>ハタバリ</sup>ヲ削<sup>サ</sup>ガ不<sup>ス</sup>、鄭カ注ニ云ク、削<sup>サ</sup>ハ殺<sup>セ</sup>ノ猶

シ、而ルヲ鄭此ヲ注シテ云ク、帷裳トハ朝祭ノ服ヲ謂フ、其ノ制正幅ナルコト帷ノ如シ、非ストハ、餘衣ヲ謂フ、殺トハ、其ノ幅ヲ削テ、齊縫テ腰ニ倍セ使ムル者ナリ、

【注】

王肅曰、衣必有殺縫、唯帷裳無殺也、

王肅カ曰ク、衣ハ必殺キ縫フコト有リ、唯タ帷裳ハ殺クコト無シ、

【經】

羔裘玄冠、不以弔、

羔<sup>カウ</sup>裘玄冠シテ、以テ弔<sup>ス</sup>セ不、

【疏】

弔弔喪也、喪凶主素、故羔玄不用弔也、

弔トハ喪ヲ弔<sup>トビラ</sup>ウソ、喪凶ハ素ヲ主トス、故ニ羔玄シテ用テ弔<sup>ス</sup>セ不、

【注】

孔安國曰、喪主素、吉主玄、吉凶異服、故不相弔也、

孔安國カ曰ク、喪ハ素キヲ主トシ、吉ハ玄ヲ主トス、吉凶服ヲ異ニス、故ニ相ヒ弔<sup>テ</sup>セ不、

【經】

吉月必朝服而朝、

吉月ニハ必ス朝服シテ朝ス、

【疏】

吉月者、月朔也、朝服者、凡言朝服、唯是玄冠緇布衣、素積裳、今此云朝服、謂皮弁、十五升白布衣、素積裳也、所以亦謂爲朝服者、天子用之、以日視朝、今云朝服、是從天子受名也、諸侯用之、以視朔、孔子魯臣、亦得與君同服、故月朔必服之也、然魯自文公不視朔、故子貢欲去告朔之餼羊、而孔子是哀公之臣、應無隨君視朔之事、而云必服之者、當是君雖不視朔、而孔子月朔必服、而以朝、是我愛其禮也、

吉月トハ、月朔ナリ、朝服トハ、凡ソ朝服ト言フハ、

唯タ<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>玄<sup>一</sup>冠<sup>一</sup>縹<sup>一</sup>布<sup>一</sup>ノ衣<sup>二</sup>、素<sup>一</sup>積<sup>一</sup>裳<sup>ス</sup>、今<sup>レ</sup>此<sup>二</sup>朝服<sup>一</sup>ト云フハ、皮<sup>一</sup>弁、十<sup>一</sup>五<sup>一</sup>升<sup>一</sup>ノ白<sup>一</sup>布<sup>一</sup>ノ衣<sup>二</sup>、素<sup>一</sup>積<sup>一</sup>裳<sup>ヲ</sup>謂フ、亦謂<sup>テ</sup>朝服<sup>ト</sup>爲<sup>ル</sup>所<sup>以</sup>ハ、天<sup>一</sup>子<sup>一</sup>ハ之<sup>ヲ</sup>用<sup>テ</sup>、以<sup>テ</sup>日<sup>二</sup>朝<sup>一</sup>ヲ視<sup>ル</sup>、今朝服<sup>ト</sup>云フコトハ、是<sup>レ</sup>天<sup>一</sup>子<sup>一</sup>ニ從<sup>テ</sup>名ヲ受<sup>ク</sup>、諸侯<sup>ハ</sup>之<sup>ヲ</sup>用<sup>テ</sup>、朔<sup>ヲ</sup>視<sup>ル</sup>、孔子<sup>ハ</sup>魯<sup>ノ</sup>臣<sup>ナリ</sup>、亦君<sup>與</sup>同<sup>ク</sup>服<sup>スル</sup>コトヲ得、故<sup>ニ</sup>月<sup>一</sup>朔<sup>二</sup>ニ必<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>服<sup>ス</sup>、然<sup>ル</sup>ニ魯<sup>ハ</sup>文公<sup>自</sup>リ朔<sup>ヲ</sup>視<sup>不</sup>、故<sup>ニ</sup>子貢<sup>告</sup>朔<sup>ノ</sup>饗<sup>一</sup>羊<sup>ヲ</sup>去<sup>ス</sup>テマク欲<sup>ス</sup>、而<sup>ル</sup>ヲ孔子<sup>ハ</sup>是<sup>レ</sup>哀公<sup>ノ</sup>臣<sup>ナリ</sup>、君<sup>ニ</sup>隨<sup>テ</sup>朔ヲ視<sup>ル</sup>ノ事<sup>無</sup>カル應<sup>シ</sup>、而<sup>ル</sup>ヲ必<sup>之</sup>ヲ服<sup>スト</sup>云フコトハ、當<sup>ニ</sup>是<sup>レ</sup>君<sup>朔</sup>ヲ視<sup>不</sup>ト雖、而<sup>ト</sup>モ孔子<sup>ハ</sup>月<sup>一</sup>朔<sup>二</sup>ニ必<sup>ス</sup>服<sup>シ</sup>テ、朝<sup>ス</sup>當<sup>シ</sup>、是<sup>レ</sup>我<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>禮<sup>ヲ</sup>愛<sup>スル</sup>ナリ、

【注】

孔安國曰、吉月月朔也、朝服皮弁服也、

孔安國カ曰ク、吉月月朔ソ、朝服ハ皮弁服ソ、

【疏】

皮弁以鹿皮爲弁、弁形如今祭酒道士扶容冠、而無邊葉也、身着十五升白布衣、素積裳、而頭着皮弁也、天子皮弁服、内則着素錦衣狐白裘、諸侯皮弁服、内着狐黃裘黃錦衣也、<sup>(三六)</sup>外大夫不得衣錦、而皮弁服、内當着麕裘、青豸裘、絞衣

以楊之者也、

皮弁ハ鹿皮ヲ以<sup>モ</sup>弁<sup>ト</sup>爲、弁ノ形今ノ祭酒道士ノ扶容冠ノ如シ、而シテ邊葉無シ、身二十五升ノ白布ノ衣、素積裳ヲ着テ、頭ニ皮弁ヲ着ス、天子ノ皮弁服ハ、内ニハ則チ素錦衣狐白裘ヲ着ク、諸侯ノ皮弁服ハ、内ニハ狐黃裘黃錦衣ヲ着ク、外大夫ハ錦ヲ衣ルコトヲ得<sup>不</sup>、而シテ皮弁服ハ、内ニハ當<sup>ニ</sup>麕<sup>ノ</sup>裘<sup>ヲ</sup>着<sup>ク</sup>當<sup>ヘ</sup>シ、青豸ノ裘アリ、絞衣以<sup>コレを</sup>テ之<sup>ニ</sup>楊<sup>スル</sup>者ナリ、<sup>ウハラフヒ</sup>

- (一) 「者」、武内本作「有」。
- (二) 「上」下、武内本有「也」字。
- (三) 「緣」、武内本作「飾」。
- (四) 「也」、武内本無此字。
- (五) 「按」、武内本作「案」。
- (六) 「輒」、武内本作「輒」。
- (七) 「者也」、武内本無此二字。
- (八) 「施」下、武内本有「也」字。
- (九) 「木」、武内本作「石」。
- (一〇) 「按」、武内本作「案」。
- (一一) 「註」、武内本作「注」。
- (一二) 「也」、武内本無此字。

- (一三) 「服」下、武内本有「之」字。
- (一四) 「暑」上、武内本有「當」字。
- (一五) 「之」、武内本無此字。
- (一六) 「註」、武内本作「注」。
- (一七) 「服」下、武内本有「者」字。
- (一八) 「之」、武内本無此字。
- (一九) 「臙」、武内本作「而臙」。
- (二〇) 「按」、武内本作「案」。
- (二一) 「即」、武内本無此字。
- (二二) 「臙」、武内本作「臘」。
- (二三) 「之」、武内本無此字。
- (二四) 「若」、武内本無此字。
- (二五) 「袂」下、武内本有「者」字。
- (二六) 「宜」上、武内本有「被」字。
- (二七) 「今」、下、武内本有「之」字。
- (二八) 「者」、武内本無此字。
- (二九) 「佩」下、武内本有「者」字。
- (三〇) 「注」、武内本無此字。
- (三一) 「齊」、武内本作「齋」。
- (三二) 「者」、武内本無此字。
- (三三) 「云」、武内本作「言」。
- (三四) 「視」、武内本作「見」。

(三三) 「愛」、武内本作「受」。  
(三六) 「外」、武内本作「卿」。

【經】

齋必有明衣布也、

齋スルトキハ必ス明衣ノ布有リ、

【疏】

謂齋浴時所着之衣也、浴竟身未燥、未堪着好衣、又不可露肉、故用布爲衣。如衫、而長身也、着之以待身燥、故玉藻云、君衣布晞身是也、

齋浴ノ時ニ着クル所ノ衣ヲ謂フ、浴シ竟テ身未タ燥カ未レハ、未タ好衣ヲ着クルニ堪ヘ未、又肉ヲ露ス可<sub>ヘカ</sub>不<sub>ス</sub>、故ニ布ヲ用テ衣ト爲<sub>ス</sub>。衫ノ如クニシテ、身ヲ長クス、之ヲ着テ身ノ燥クヲ待ツ、故ニ玉藻ニ云ク、君布ヲ衣テ身ヲ晞カストイフ是ナリ、

【注】

孔安國曰、以布爲沐浴衣也、

孔安國カ曰ク、布ヲ以テ沐<sup>一</sup>浴ノ衣ニ爲ルソ、

【疏】

然浴時乃用布、使乎待肉燥、江熙云、沐者當是沐浴時、亦衣此服、置衣上以辟身濕也、

然レハ浴ノ時ニ布ヲ用テ、肉ノ燥<sup>カ</sup>クヲ待タ使ム、江熙カ云ク、沐スル<sup>一</sup>者是レ沐<sup>一</sup>浴ノ時ニ當テ、亦此ノ服ヲ衣テ、衣ノ上ニ置テ以テ身ノ濕ヲ辟ク、

【經】

齋必變食、

齋スルトキニ必食ヲ變ス、

【疏】

方應接神、欲自潔淨、故變其常食也、

方<sup>マ</sup>ニ神ニ接<sup>マシ</sup>ハル應シ、自<sup>ミツ</sup>潔淨ナラント欲ス、故ニ其ノ常ノ食ヲ變ス、

【注】

孔安國曰、改常食也、

孔安國カ曰ク、常ノ食ヲ改ム、

【經】

居必遷坐、

居ルトキハ必坐ヲ遷ス、

【疏】

亦不坐恆居之坐也、故於祭前、先散齋於路寢門外、七日、又致齋於路寢中、三日也、故范寧云、齋以敬潔爲主、以期神明之享、故改常之食、遷居齋室也、

亦恆ノ居ノ坐ニ坐セ不<sup>ス</sup>、故ニ祭ノ前ニ於テ、先ツ路<sup>一</sup>寢門ノ外ニ散<sup>一</sup>齋スルコト、七日、又路<sup>一</sup>寢ノ中ニ致<sup>一</sup>齋スルコト、三日、故ニ范寧カ云ク、齋ハ敬<sup>一</sup>潔ヲ以主ト爲<sup>シ</sup>テ、神明ノ享<sup>ウ</sup>ヲ期ス、故ニ常ノ食ヲ改メテ、遷<sup>ウツ</sup>テ齋<sup>サイ</sup>室ニ居ル、

【注】

孔安國曰、易常處也、

孔安國カ曰ク、常ノ處ヲ易ウ、

(一) 「浴」下、武内本有「之」字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「置」下、武内本有「衣」字。

(四) 「坐」、武内本作「座」。

(五) 「日」、武内本作「月」。

(六) 「云」、武内本作「曰」。

(七) 「室」下、武内本有「者」字。

【經】

食不厭精、

食ハ精<sup>イイ</sup>シキヲ厭<sup>クハ</sup>ハ不<sup>いとす</sup>、

【疏】

此兼明平常禮也、食若麤則、誤人生病、故調和不厭精潔也、

此レハ平常ノ禮ヲ兼<sup>かね</sup>明ス、食若シ麤ナル則ハ、人ヲ誤テ病ヲ生ス、故ニ調<sup>い</sup>和シテ精<sup>せい</sup>潔ヲ厭<sup>いとす</sup>ハ不<sup>す</sup>、

【經】

膾不厭細、

膾<sup>ナマス</sup>ハ細<sup>ほそ</sup>キヲ厭<sup>いとす</sup>ハ不<sup>す</sup>、

【疏】

細切魚及完<sup>〇</sup>、皆曰膾也、既腥食之、故不厭細者也、

細ニ魚及ヒ完ヲ切ルヲ、皆膾ト曰フ、既ニ腥ニシテ<sup>〇</sup>（腥<sup>ナククサ</sup>ク）之ヲ食フ、故ニ細キヲ厭<sup>いとす</sup>ハ不者ナリ、

【經】

食饅而餲、

食ノ饅<sup>イイ</sup>シテ餲<sup>アイ</sup>シテ、

【疏】

饅謂飲食經久而腐臭也、餲謂經久而味惡也、如乾魚乾完久而味惡也、

饅トハ飲<sup>イ</sup>食<sup>ひさしき</sup>久<sup>ひさしき</sup>ヲ經テ腐<sup>く</sup>チ臭<sup>イ</sup>キヲ謂フ、餲ハ久ヲ經テ味<sup>イ</sup>ノ惡<sup>あしき</sup>コトヲ謂フ、乾<sup>イ</sup>魚乾<sup>イ</sup>完ノ久シテ味<sup>イ</sup>ノ惡<sup>あしき</sup>キカ如シ、

【注】

孔安國曰、饅餲臭味變也、

孔安國カ曰ク、饅餲ハ臭<sup>イ</sup>味<sup>イ</sup>ノ變スルソ、

【疏】

饅臭變也、餲味變也、爾雅云、食饅謂之餲、李充注云、皆飲食壞敗之名也、

饅ハ臭<sup>イ</sup>ノ變スルソ、餲ハ味<sup>イ</sup>ノ變スルソ、爾雅ニ云ク、食ノ饅スル之ヲ餲ト謂フ、李充カ注ニ云ク、皆飲<sup>イ</sup>食<sup>イ</sup>ノ壞<sup>イ</sup>レ敗<sup>イ</sup>ルルノ名ナリ、

【經】

魚餛、

魚ノ餛<sup>アサ</sup>レテ、

【疏】

餛謂魚臭壞也、魚敗而餛餛然也、

餛<sup>タイ</sup>ハ魚ノ臭<sup>イ</sup>ク壞タルヲ謂フ、魚ノ敗テ餛<sup>アサ</sup>レテ餛<sup>タイ</sup>然タルナリ、

【經】

而完敗、

完<sup>シシ</sup>ノ敗レタルヲハ、

【疏】

完臭壞也、爾雅云、完謂之敗、魚謂之餛、李巡云、完敗久則、臭、魚餛完爛、

完臭ク壞タルナリ、爾雅ニ云ク、完之ヲ敗ト謂ヒ、魚之ヲ餛ト謂フ、李巡カ云ク、完敗テ久キ則ハ、臭<sup>イ</sup>ク、魚餛<sup>アサ</sup>レテ完ノ爛<sup>タタ</sup>レタルヲハ、

【經】

不食、



食ハ不<sup>くら</sup>ス、

【疏】

自<sup>二</sup>食饘而餲以下、竝不可食也、

食ノ饘<sup>イ</sup>シテ餲<sup>アイ</sup>スル自リ以下ハ、竝ニ食フ可<sup>へからず</sup>不<sup>す</sup>、

【注】

孔安國曰、魚敗曰餲也、

孔安國カ曰ク、魚ノ敗<sup>タイ</sup>レタルヲ餲ト曰フ、

【經】

色惡不食、

色ノ惡キヲハ食ハ不<sup>くら</sup>ス、

【疏】

食失常色、是爲色惡、色惡則、不可食也、

食<sup>ヘからず</sup>常ノ色ヲ失スル、是レ色惡ト爲<sup>ス</sup>、色惡キ則ハ、食フ可<sup>ヘからず</sup>不<sup>す</sup>、

【經】

臭惡不食、

臭ク惡キヲハ食ハ不<sup>くら</sup>ス、

【疏】

臭惡謂饌臭。不宜食、故不食也、

臭ク惡トハ饌ノ臭キヲ謂フ。宜ク食フ宜<sup>ヘか</sup>ラ不<sup>す</sup>、故ニ食ハ不<sup>す</sup>、

【經】

失飪不食、

飪<sup>ジム</sup>ヲ失スルヲハ食ハ不<sup>くら</sup>ス、

【疏】

飪謂失生熟節也、煮食或未熟、或已過熟、竝不食也、

飪トハ生熟ノ節ヲ失スルヲ謂フ、食ヲ煮テ或ハ未タ熟セ未<sup>ス</sup>、或ハ已ニ過キ熟スル、竝ニ食ハ不<sup>す</sup>、

【注】

孔安國曰、失飪、失生熟之節也、

孔安國カ曰ク、飪ヲ失スルトハ、生熟ノ節ヲ失スルソ、

【經】

不時不食、

時二不<sup>あらそ</sup>レハ食<sup>くら</sup>ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

不時、非朝夕日中時也、非其時則、不宜食、故不食也。江  
熙<sup>(二)</sup>云、不時、謂生非其時、若冬梅李實也、

時二不<sup>あらス</sup>トハ、朝<sup>イ</sup>夕日<sup>イ</sup>中ノ時二非ルソ、其ノ時二非ル則  
ハ、宜ク食ス宜<sup>サ</sup>ラ不<sup>サ</sup>、故ニ食ハ不<sup>ス</sup>。江熙カ云ク、時二不<sup>あらス</sup>  
トハ、生<sup>ハ</sup>スルコト其ノ時二非ルヲ謂フ、冬梅<sup>ヘ</sup>李ノ實<sup>ミ</sup>ルカ  
若シ、

【注】

鄭玄曰、不時、非朝夕日中時也、

鄭玄カ曰ク、時二不<sup>あらス</sup>トハ、朝<sup>イ</sup>夕日<sup>イ</sup>中ノ時二非ルソ、

【經】

割不正不食、

割<sup>キリメ</sup>（割<sup>キリメ</sup>スルコト）正カラ不<sup>ス</sup>ルヲハ食<sup>くら</sup>ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

一云、古人割完、必方正、若不方正割之、故不食也。<sup>(二)</sup>  
熙<sup>(二)</sup>云、殺不以道、爲不正也、

一二云ク、古ノ人ハ完ヲ割<sup>サ</sup>クコト、必ス方<sup>イ</sup>正ナリ、若シ  
方<sup>イ</sup>正ニ之割<sup>サ</sup>カ不<sup>ス</sup>ルカ、故ニ食ハ不<sup>ス</sup>。江熙カ云ク、殺<sup>コロ</sup>スコ  
ト道ヲ以テセ不<sup>ス</sup>ルヲハ、正カラ不<sup>ス</sup>ト爲<sup>ス</sup>、

【經】

不得其醬不食、

其ノ<sup>アエモノ</sup>醬ヲ得不<sup>ス</sup>レハ食ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

食味、各有所宜、<sup>(四)</sup>羶醢菰食、魚膾芥醬竝相宜也、故若食

不得所宜之醬、則不食也、

食ノ味ヒ、各宜クスル所有リ、羸<sup>ラ</sup>醯<sup>カ</sup>菰<sup>ゴ</sup>食<sup>シ</sup>、魚膾<sup>イ</sup>芥醬<sup>サイ</sup>  
 (醬)竝ニ相ヒ<sup>ス</sup>宜シ、故ニ若シ食宜クスル所ノ醬ヲ得<sup>キ</sup>不<sup>レ</sup>ハ、食ハ不<sup>ス</sup>、

【注】

馬融曰、魚膾非芥醬不食、

馬融力曰ク、魚ノ膾ハ芥<sup>カ</sup>ノ醬<sup>シ</sup>ニ非レハ食ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

古者、醬齊<sup>(二七)</sup>菹三者通名也、芥醬即芥齊也、

古<sup>コ</sup>者、醬<sup>シヤウ</sup>齊<sup>サイ</sup>菹<sup>ソ</sup>ハ三ノ者ノ名ヲ通ス、芥<sup>シヤウ</sup>醬<sup>ヤウ</sup>ハ即チ芥<sup>シヤウ</sup>齊<sup>サイ</sup>ナリ、

【經】

完雖多、不使勝食氣、

完ハ多シト雖<sup>いへとも</sup>、食<sup>イ</sup>ノ氣<sup>キ</sup>ニ勝タ使メ不<sup>ス</sup>、

【疏】

勝猶多也、食謂他饌也、食氣<sup>(二八)</sup>多完少則、完美、若完多、他食少則、完不美、故不使完勝食氣也、亦因殺止多殺也、

勝ハ多ノ猶シ、食トハ他ノ饌ヲ謂フ、食ノ氣多ク完<sup>レ</sup>少キ則ハ、完<sup>レ</sup>美ナリ、若シ完<sup>レ</sup>多ク、他ノ食<sup>レ</sup>少キ則ハ、完美ナラ不<sup>ス</sup>、故ニ完ヲ使<sup>シ</sup>テ食ノ氣ニ勝タ使メ不<sup>ス</sup>、亦殺<sup>サツ</sup>ニ因テ多<sup>ク</sup>殺ヲ止ム、

【經】

唯酒無量、不及亂、

唯<sup>ハ</sup>酒ハ量<sup>ハカリ</sup>無ケレトモ(無シ)、亂ニ及ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

一云、酒雖多、無有限量、而人宜隨己能而飲、不得及至於醉亂也、一云、不格人爲量、而隨人所能而莫亂也、

一ニ云ク、酒ハ多シテ、限<sup>リ</sup>量有ルコト無シト雖モ、人ノ宜ク己カ能ニ隨テ飲ム宜シ、醉テ亂スルニ至ルニ及コトヲ得<sup>シ</sup>不<sup>ス</sup>、一ニ云ク、人ヲ格<sup>タタ</sup>シテ量ト爲<sup>セ</sup>不<sup>ス</sup>、人ノ能クスル所ニ

隨テ亂コト莫シ、

【經】

沽酒市脯不食、

沽<sup>ウ</sup>ル酒市<sup>ホシシ</sup>ノ脯ハ食ハ不、

【疏】

酒不自作、則未必清淨、脯不自作、則不知何物之完、故沽市所得、竝所不食也。或問曰、沽酒不飲則、詩那云無酒沽我乎、答曰、論所明、是祭神不用、詩所明、是人得用也、

酒ハ自作<sup>ミツカラ</sup>ラ不<sup>ス</sup>ル、則ハ未必清<sup>イマタ</sup>淨ナラ未、脯ハ自作<sup>ミツカラ</sup>ラ不<sup>ス</sup>ル、則ハ何物<sup>ナニ</sup>ノ完<sup>ナ</sup>トイフコトヲ知<sup>ス</sup>ラ不、故ニ沽<sup>ウ</sup>市<sup>シ</sup>ノ得<sup>ル</sup>所、竝ニ食ハ不<sup>ス</sup>ル所ナリ。或ヒト問テ曰ク、沽<sup>ウ</sup>ル酒ヲ飲マ不<sup>ス</sup>ル則ハ、詩ニ那ソ酒ノ我ニ沽<sup>ウ</sup>ル無シト云フ乎、答テ曰ク、論ノ明ス所ハ、是レ神ヲ祭ルニ用ヒ不<sup>ス</sup>、詩ニ明ス所ハ、是レ人ノ用ルコトヲ得ルナリ、

【經】

不<sup>ス</sup>徹<sup>ニ</sup>薑食、

薑<sup>ハシカミ</sup>ヲ徹シテハ食ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

徹除也、齋禁薑物、薑辛而不薰、嫌亦禁之、故明食時不除薑者也、

徹ハ除ナリ、齋ニハ薰<sup>サヒ</sup>物ヲ禁ス、薑ハ辛シテ薰<sup>サヒ</sup>セ不<sup>ス</sup>、亦之ヲ禁スルニ嫌<sup>ウタカヒ</sup>アリ、故ニ食スル時ニシテ薑ヲ除ケ不<sup>ス</sup>コトヲ明<sup>モト</sup>ス者ナリ、

【注】

孔安國曰、徹<sup>(一三)</sup>去也、齋禁薑物、薑辛而不<sup>(一四)</sup>薰、故不<sup>(一五)</sup>徹也、

孔安國カ曰ク、徹ハ去ナリ、齋ニハ薰<sup>サヒ</sup>物ヲ禁ス、薑ハ辛シテ薰<sup>サヒ</sup>セ不<sup>ス</sup>、故ニ徹<sup>サ</sup>セ不<sup>ス</sup>、

【經】

不多食、

多ク<sup>ス</sup>食ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

多則傷廉、故不多也、

多キ則ハ廉ヲ傷ル、故ニ多カラ不<sup>ス</sup>、

【注】

孔安國曰、不過飽也、

孔安國カ曰ク、過キ飽マテニセ不<sup>ス</sup>、

【疏】

江熙云、少所啖也、

江熙カ云ク、少シ啖ラウ所ナリ、

【經】

祭於公、不宿完、

公ニ祭ル、完ヲ宿ニセ不<sup>ス</sup>、

【疏】

祭於公、謂孔子仕時助君祭也、助祭必得賜俎、得賜俎、還

即分賦食之、不得留置經宿、經宿是慢鬼神餘也、

公ニ祭ルトハ、孔子仕ル時ニ君ノ祭ヲ助クルヲ謂フ、祭  
 ヲ助ルトキハ必<sup>かならず</sup>俎ヲ賜コトヲ得、俎ヲ賜コトヲ得テ、還  
 テ即チ分チ賦ツテ之ヲ食セシム、留メ置テ宿ヲ經コトヲ  
 得不<sup>ス</sup>、宿ヲ經ルハ是レ鬼神ノ餘ヲ慢ルナリ、

【注】

周生烈曰、助祭於君、所得牲體、歸則以班賜、不留神惠  
 也、

周生烈カ曰ク、祭ヲ君ニ助クルトキニ、得ル所ノ牲體、  
 歸テ則チ班チ賜フ、神ノ惠ヲ留メ不トナリ、

【疏】

牲體、謂隨臣貴賤、以牲骨體爲俎、賜士之、祭統云、  
 貴者得貴骨、賤者得賤骨、是也、

牲體トハ、臣ノ貴賤ニ隨テ、牲骨ノ體ヲ以テ俎ト爲テ、  
 之ヲ士ニ賜フヲ謂フ、祭統ニ云ク、貴キ者ハ貴骨ヲ得  
 テ、賤キ者ハ賤骨ヲ得トイフ、是ナリ、

【經】

祭完不出三日、出三日不食之矣、

祭ノ完ハ三日ヲ出サ不<sup>ス</sup>、三日ヲ出テヌルヲ食ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

謂家自祭也、自祭完多、故許經宿、但不得出三日、出三日、是褻慢鬼神之餘、故人亦不得後食之也、

家ニ自<sup>ミツから</sup>祭ルヲ謂フ、自<sup>ミツから</sup>祭ルトキハ完多シ、故二宿ヲ<sup>へる</sup>經コトヲ許ス、但タ三日ヲ出ルコトヲ得不<sup>ス</sup>、三日ヲ出ルハ、是レ鬼神ノ餘ヲ褻<sup>ケル</sup>シ、慢ルナリ、故二人亦後二之ヲ食コトヲ得不<sup>ス</sup>、

【注】

鄭玄曰、自其家祭完也、過三日、不食<sup>(三)</sup>、是褻鬼神之餘也、

鄭玄カ曰ク、自<sup>ミツから</sup>其ノ家ノ祭ノ完ソ、三日ヲ過ヌルヲハ、食ハ不<sup>ス</sup>、是レ鬼神ノ餘ヲ褻<sup>ケル</sup>ストナリ、

【經】

食不語、寢不言、

食<sup>レ</sup>スルトキニ語リセ不<sup>ス</sup>、寢ヌルトキニ言ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

言是宜出己、語是答述也、食須加益、故許言、而不許語、語則口可惜、亦不敬也、寢是眠臥、眠臥須靜、若言則驚鬧於人、故不言之也、

言ハ是レ宜ク己ヨリ出ツ宜シ、語ハ是レ答<sup>おのレ</sup>述スルナリ、食ハ須ク加ヘ益ス須シ、故ニ言ヲ許ス、而シテ語ヲ許サ不<sup>ス</sup>、語ハ口惜ム可シ、亦不敬ナリ、寢ハ是レ眠<sup>そのい</sup>臥ナリ、眠<sup>そのい</sup>臥ハ須ク靜ナル須シ、若シ言フ則ハ人ヲ驚<sup>おど</sup>鬧<sup>な</sup>（鬧<sup>カマヒンシ</sup>）ス、故ニ言ハ不<sup>ス</sup>、

【經】

雖蔬食菜羹苽、祭必齋如也、

蔬<sup>シ</sup>食<sup>シ</sup>菜羹苽ト雖、祭ルトキハ必ス齋<sup>シ</sup>如タリ、

【疏】

蔬食麤食也、菜羹苽、祭謂用麤食菜羹及苽、持此三物、供祭也、三物雖薄、而必宜盡齋敬之理、鬼神饗德、不饗味故

也、

蔬<sup>ソ</sup>食ハ麤<sup>ロ</sup>食ナリ、菜羹<sup>サイカウ</sup>苽<sup>カ</sup>トハ、祭リニ麤<sup>ロ</sup>食菜羹及ヒ苽ヲ用フ、此ノ三<sup>ミ</sup>物ヲ持テ、祭ニ供スルヲ謂フ、三<sup>ミ</sup>物ハ薄シト雖、必ス宜ク齋<sup>サイ</sup>敬ノ理ヲ盡ス宜シ、鬼神ハ德ヲ饗<sup>ウ</sup>ケテ、味ヲ饗<sup>ウ</sup>ケ不<sup>ズ</sup>ル故ナリ、

【注】

孔安國曰、齋嚴敬貌也、三物雖薄、祭之必敬也、

孔安國カ曰ク、齋ハ嚴敬ノ貌、三<sup>ミ</sup>物ハ薄シト雖モ、祭ルトキハ必ス敬ス、

- (一) 「完」、武内本作「肉」。「完」、疑「六」字之訛。
- (二) 「者」、武内本無此字。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「魚」、武内本作「肉」。
- (六) 「肉臭壤也」、武内本無此四字。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。
- (八) 「餒」、武内本作「腰」。
- (九) 「爛」下、武内本有「也」字。

- (一〇) 「自」上、武内本有「不食者」三字。
- (一一) 「云」、武内本作「曰」。
- (一二) 「故」、武内本作「則」。
- (一三) 「云」、武内本作「曰」。
- (一四) 「羸」、武内本作「羸」。
- (一五) 「之」、武内本無此字。
- (一六) 「食」下、武内本有「也」字。
- (一七) 「齊」、武内本作「薺」、下同。
- (一八) 「多」下、武内本有「而」字。
- (一九) 「也」、武内本無此字。
- (二〇) 「徹」、武内本作「撤」、下同。
- (二一) 「者」、武内本無此字。
- (二二) 「徹」下、武内本有「者」字。
- (二三) 「而」、武内本無此字。
- (二四) 「薰」、武内本作「臭」。
- (二五) 「徹」、武内本作「去」。
- (二六) 「云」、武内本作「曰」。
- (二七) 「牲」上、武内本有「謂之」二字。
- (二八) 「謂」、武内本無此字。
- (二九) 「士」、武内本無此字。
- (三〇) 「亦」、武内本無此字。
- (三一) 「食」下、武内本有「也」字。

(三二) 「也」下、武内本有「(寢子鳩切)」四字。

(三三) 「敬」下、武内本有「之」字。

【經】

席不正不坐、

席正カラ不レハ坐ラ不、

【疏】

舊説云、鋪之不周正、則不坐之也、故范寧云、正席所以恭敬也。或云、如禮所言、諸侯之席三重、大夫再重、是各有其正者也、

舊説ニ云ク、之ヲ鋪クコト周正ナラ不ル、則ハ之ニ坐ラ不、故ニ范寧カ云ク、席ヲ正スルハ恭敬スル所以ナリ。或ハ云ク、禮ニ言フ所ノ如ハ、諸侯ノ席ハ三重、大夫ハ再重、是レ各其ノ正キコト有ル者ナリ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「者」、武内本無此字。

【經】

鄉人飲酒、杖者出斯出矣、

郷人ノ飲酒ニ、杖者出テヌルトキハ斯ニ出ツ、

【疏】

鄉人飲酒、謂鄉飲酒之禮也、杖者老人也、禮五十杖於家、六十杖於鄉、故呼老人爲杖者也、鄉人飲酒者、貴齡崇年、故出入以老人者爲節也、若飲酒禮畢、杖者先出則、同飲之人、乃從之而出、故云、杖者出斯出矣、

郷人ノ飲酒トハ、郷飲酒ノ禮ヲ謂フ、杖者ハ老人ナリ、禮ニ五十二シテ家ニ杖キ、六十二シテ郷ニ杖ク、故ニ老人ヲ呼テ杖者ト爲、郷人ノ飲酒ニハ、齡ヲ貴ヒ年ヲ崇フ、故ニ出入老人ヲ以テ節ト爲、若シ飲酒ノ禮畢テ、杖者先ツ出ルトキハ、同飲ノ人、乃チ之ニ從テ出ツ、故ニ云ク、杖者出ルトキハ斯ニ出ツト、

【注】

孔安國曰、杖者老人也、鄉人飲酒之禮、主於老者、老者禮畢出、孔子從而後出也、



孔安國カ曰ク、杖<sup>一</sup>者ハ老人<sup>一</sup>ソ、郷人<sup>一</sup>ノ飲酒ノ禮ハ、老者<sup>一</sup>ヲ主トス、老者<sup>一</sup>禮畢テ出ルトキハ、孔子從テ而シテ<sup>一</sup>後ニ出ツ、

【經】

郷人讎、

郷人<sup>一</sup>ノ讎<sup>ダ</sup>（讎<sup>ニヤライ</sup>）スルトキニ、

【疏】

讎者、逐疫鬼也、爲陰陽之氣、不即時退、癘鬼<sup>四</sup>隨而爲人作禍、故天子使方相氏黃金四目、蒙熊皮、執戈揚楯、玄衣朱裳、口作讎讎之聲、以驅疫鬼也、一年三過爲之、三月、八月、十二月也、故月令季春云、命國讎、鄭玄云、此讎陰陰氣也、陰氣至此不止、害將及人、厲鬼隨之而出行、至仲秋又云、天子乃讎、鄭玄云、此讎陽陽氣也、陽暑至此不衰、害亦將及人、厲鬼亦隨人而出行、至季冬又云、命有司大讎、鄭玄云、此讎陰陰氣也、至此不止、害將及人、厲鬼將隨強陰出害人也、侃按三讎、二是讎陰、一是讎陽、陰陽乃異、俱是天子所命、春是一年之始、彌畏災害、故命國民、家家悉讎、八月讎陽、陽是君法、臣民不可讎君、故稱天子乃讎也、十二月讎、雖是陰、既非一年之急、故民亦不得同

讎也、今云、郷人讎、是三月<sup>二</sup>之也、

讎<sup>ト</sup>者、疫鬼ヲ逐フソ、陰陽ノ氣、即時ニ退カ<sup>ス</sup>ルカ爲ニ、癘<sup>レ</sup>鬼隨テ人ノ爲ニ禍ヲ作ス、故二天子方相氏ヲ使テ黃金四<sup>一</sup>目シテ、熊<sup>一</sup>皮ヲ蒙リ、戈ヲ執リ楯ヲ揚ケ、玄<sup>一</sup>衣朱<sup>一</sup>裳シテ、口ニ讎<sup>一</sup>讎ノ聲ヲ作サシメテ、疫<sup>一</sup>鬼ヲ驅ハシム、一<sup>一</sup>年二三<sup>一</sup>過之ヲ爲ス、三月、八月、十一月ナリ、故二月令二季<sup>一</sup>春ニ云ク、國ニ命シテ讎セシム、鄭玄カ云ク、此ノ讎ハ陰<sup>一</sup>氣ヲ讎ス、陰<sup>一</sup>氣此ニ至テ止マ<sup>ス</sup>、害將二人ニ及ハント將、厲<sup>一</sup>鬼之ニ隨テ出テ<sup>一</sup>行ク、仲秋ニ至テ又云ク、天子乃讎<sup>ス</sup>、鄭玄カ云ク、此ノ讎ハ陽氣ヲ讎ス、陽暑此ニ至テ衰ヘ<sup>ス</sup>、害亦將二人ニ及ハント將、厲<sup>一</sup>鬼亦人ニ隨テ出テ<sup>一</sup>行ク、季冬ニ至テ又云ク、有司ニ命シテ大ニ讎ス、鄭カ云ク、此ノ讎ハ陰<sup>一</sup>氣ヲ讎ス、此ニ至テ止マ<sup>ス</sup>、害將二人ニ及ハント將、厲<sup>一</sup>鬼將ニ強陰ニ隨テ出テ人ヲ害セント將、侃三<sup>一</sup>讎ヲ按スルニ、二ハ是レ陰ヲ讎ス、一ハ是レ陽ヲ讎ス、陰陽乃チ異ナリ、俱ニ是レ天子ノ命スル所ナリ、春ハ是レ一年ノ始ナリ、彌<sup>一</sup>災<sup>一</sup>害ヲ畏ル、故二國民ニ命シテ、家家悉ニ讎ス、八月ハ陽ヲ讎ス、陽ハ是レ君<sup>一</sup>法ナリ、臣<sup>一</sup>民君ヲ讎ス可<sup>ハ</sup>、故二天子乃チ讎スト稱ス、十一月ノ讎ハ、是レ陰ナリト雖、既二一年ノ急ニ非ス、故二民亦同ク讎スルコトヲ得

不<sup>す</sup>、今<sup>いま</sup>云ク、郷<sup>い</sup>人ノ讎スルトキトハ、是レ三<sup>い</sup>月ナラン、

【經】

朝服而立於阼階、

朝服シテ阼階ニ立ツ、

【疏】

阼階、東階主人之階也、孔子聞郷人逐鬼、恐見驚動宗廟、故著朝服、而立於阼階、以待先祖、爲孝之心也、朝服者、玄冠緇布衣、素積裳、是卿大夫之祭服也、禮唯孤卿爵弁自祭、若卿大夫以下、悉玄冠、以自齋祭、齋祭不異冠服也、

阼階トハ、東階主人ノ階ナリ、孔子郷人ノ鬼ヲ逐フヲ聞テ、宗廟ヲ驚動セ見レンコトヲ恐ル、故ニ朝服ヲ著テ、阼階ニ立テ、先祖ニ侍テ、孝ノ心ヲ爲ス、朝服トハ、玄冠緇布ノ衣、素積裳ナリ、是レハ卿大夫ノ祭服ナリ、禮ニ唯タ孤卿ハ爵弁シテ自祭ル、若シ卿大夫ヨリ以下ハ、悉ニ玄冠シテ、自齋祭ス、齋祭スルコト冠服ヲ異ニセ不<sup>す</sup>、

【注】

孔安國曰、讎驅逐疫鬼也、恐驚先祖、故朝服立廟之阼階也、

孔安國カ曰ク、讎ハ疫鬼ヲ驅リ逐フ、先祖ヲ驚サンコトヲ恐ル、故ニ朝服シテ廟ノ阼階ニ立テリ、

- (一) 「齡」、武内本作「齒」。
- (二) 「人」、武内本無此字。
- (三) 「矣」下、武内本有「也」字。
- (四) 「癘」、武内本作「厲」。
- (五) 「朱」、武内本作「未」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。
- (八) 「鄭」下、武内本有「玄」字。
- (九) 「云」、武内本作「曰」。
- (一〇) 「按」、武内本作「案」。
- (一一) 「之」、武内本無此字。
- (一二) 「之祭」、武内本作「自祭之」。
- (一三) 「立」下、武内本有「於」字。

## 【經】

問人於他邦、再拜而送之、

人ヲ他邦ニ問フトキニ、再拜シテ而送ル、

## 【疏】

問者、謂更相聘問也、他邦謂鄰國之君也、謂孔子與鄰國交遊、而遣使往彼聘問時也、既敬彼君、故遣使、使者去、則再拜送之也。爲人臣、禮乃無外交、而孔子聖人應聘東西、無疑也、

問トハ、更ニ(更)相ヒ聘問スルヲ謂フ、他邦トハ鄰國ノ君ヲ謂フ、孔子與鄰國交遊シテ、使遣テ彼ニ往カ遣メテ聘問スル時ヲ謂フ、既ニ彼ノ君ヲ敬ス、故ニ使ヲ遣ハシテ、使者去ルトキニ、再拜シテ之ヲ送ル。人ノ臣ト爲テ、禮ニ乃チ外ニ交無シ、而ルヲ孔子聖人ニシテ東ニ西ニ應ニ聘スルコト、疑ヒ無シ、

## 【注】

孔安國曰、拜送使者、敬之也、

孔安國カ曰ク、拜シテ使者ヲ送ルコトハ、之ヲ敬ストナリ、

## 【經】

康子饋藥、拜而受之、

康子藥ヲ饋レリ、拜シテ之ヲ受ク、

## 【疏】

饋餉也、魯季康子餉孔子藥也、孔子得彼餉、而拜受是禮也、

饋ハ餉ナリ、魯ノ季康子孔子ニ藥ヲ餉ル、孔子彼ノ餉ヲ得テ、拜シテ受ルハ是レ禮ナリ、

## 【注】

荀氏曰、遺孔子藥也、

荀氏カ曰ク、孔子ニ藥ヲ遺レリ、

## 【經】

曰丘未達不敢嘗、

ノたまは  
曰ク丘未タ達セ未トイヒテ敢テ嘗メ不<sup>ス</sup>、

【疏】

達猶曉解也、孔子雖拜受、而不遂飲、故稱名云、丘未曉此藥治何病、故不敢飲嘗之也、

達ハ曉<sup>サト</sup>解<sup>サト</sup>（曉<sup>サト</sup>リ解<sup>サト</sup>ル）ノ猶シ、孔子拜受クト雖、而トモ遂ニ飲マ不<sup>ス</sup>、故ニ名ヲ稱シテ云ク、丘未<sup>イミ</sup>此<sup>コノ</sup>藥<sup>ヤク</sup>ノ何<sup>ナニ</sup>ノ病ヲ治スルトイフコトヲ曉<sup>サト</sup>ラ未<sup>ス</sup>、故ニ敢テ飲<sup>シ</sup>嘗セ不<sup>ス</sup>、

【注】

孔安國曰、未知其故、故不嘗禮也、

孔安國カ曰ク、未<sup>イミ</sup>其<sup>コノ</sup>故ヲ知<sup>シラ</sup>未<sup>ス</sup>、故ニ嘗メ不<sup>ス</sup>ルハ禮ナリ、

（一）「使」、武内本無此字。

（二）「嘗」下、武内本有「之」字。

【經】

廋焚、

ムマヤヤ  
廋焚ケタリ、

【疏】

廋養馬之處也、焚燒也、孔子家養馬處、被燒也、

廋<sup>コ</sup>ハ馬ヲ養フノ處ナリ、焚ハ燒ナリ、孔子ノ家ニ馬ヲ養フ處、燒カ被<sup>ル</sup>ル、

【經】

子退朝、

子朝ヨリ退<sup>マカ</sup>ツテ、

【疏】

孔子早上朝、朝竟而退還家也、少義云、朝廷曰退也、

孔子早ニ朝ニ上<sup>ノボリ</sup>テ、朝シ竟テ退テ家ニ還ル、少義ニ云ク、朝廷ニ退ト曰フ、

【經】

曰傷人乎、不問馬、

ノたまは  
曰ク人ヲ傷<sup>ヤラ</sup>レリ乎トイヒテ、馬ヲ問ハ不<sup>ス</sup>、

## 【疏】

從朝還退、見廐遭火、廐是養馬處、而孔子不問傷馬、唯問傷人之乎、是重人賤馬、故云不問馬也、王弼曰、孔子時爲魯司寇、自公朝、退而之火所、不問馬者、矯時重馬者也、

朝從り還り退テ、廐ノ火ニ遭フヲ見、廐ハ是レ馬ヲ養フ處ナリ、而ルヲ孔子馬ヲ傷フヲ問ハ不、唯タ人ヲ傷レリ乎ト問フハ、是レ人ヲ重ンシテ馬ヲ賤ス、故馬ヲ問ハ不ト云フ、王弼カ曰ク、孔子時ニ魯ノ司寇爲リ、公朝自リ、退テ火ノ所ニ之テ、馬ヲ問ハ不ルトハ、時ニ馬ヲ重ンスルコトヲ矯ス者ナリ、

## 【注】

鄭玄曰、重人賤畜也、退朝者、自魯君之朝、來歸也、

鄭玄カ曰ク、人ヲ重ンシテ畜ヲ賤ス、朝ヨリ退ルトハ、魯ノ君ノ朝自リ、來リ歸ルソ、

(一) 「之」、武内本無此字。

(二) 「義」、武内本作「儀」。

(三) 「傷」、武内本無此字。

(四) 「所」、武内本作「處」。

(五) 「魯」下、武内本有「之」字。

## 【經】

君賜食、必正席先嘗之、

君食ヲ賜フトキハ、必ス席ヲ正シテ先ツ嘗ム、

## 【疏】

席猶坐也、君賜孔子食、孔子雖不嗜食、必正坐先嘗之、敬君之惠也、

席ハ坐ノ猶シ、君孔子ニ食ヲ賜フトキハ、孔子食ヲ嗜マ不ト雖、必坐ヲ正フシテ先ツ之ヲ嘗ムルトハ、君ノ惠ヲ敬ストナリ、

## 【注】

孔安國曰、敬君惠也、既嘗之乃以班賜也、

孔安國カ曰ク、君ノ惠ヲ敬ス、既ニ之ヲ嘗メテ乃シ班チ賜フ、

【經】

君賜腥、必熟而薦之、

君生<sup>イ</sup>ケルヲ賜フトキ、必之ヲ畜<sup>カ</sup>フ、

【疏】

生謂活物也、得所賜活物、當養畜之、待至祭祀時、充牲用也、

君腥ヲ賜フトキハ、必熟シテ之ヲ薦<sup>ス</sup>ム、

【疏】

謂君賜孔子腥肉也、薦薦宗廟也、孔子受之、煮熟、而薦宗廟、重榮君賜也、賜熟食不薦者、熟爲藝<sup>ニ</sup>也、

生トハ活<sup>カ</sup>物ヲ謂フ、賜フ所ノ活<sup>カ</sup>物ヲ得テ、當ニ之ヲ養ヒ畜<sup>カ</sup>フテ、祭<sup>イ</sup>祀<sup>ニ</sup>時ニ至ルヲ待テ、牲<sup>ニ</sup>用ニ充ツ當<sup>ヘ</sup>シ、

君孔子ニ腥<sup>キ</sup>肉ヲ賜フヲ謂フ、薦トハ宗<sup>ノ</sup>廟ニ薦ムルソ、孔子之ヲ受テ、煮<sup>シ</sup>熟シテ、宗<sup>ノ</sup>廟ニ薦ム、君ノ賜ヲ重榮スルナリ、熟スル食<sup>シ</sup>ヲ賜フトキ薦メ不<sup>ス</sup>ルコトハ、熟ハ藝<sup>ケ</sup>ルルト爲<sup>ス</sup>、

【經】

侍食於君、

食ニ君ニ侍<sup>ハシ</sup>ルトキニ、

【注】

孔安國曰、薦薦其先祖也、

【疏】

謂孔子侍君共食<sup>ニ</sup>之時也、

孔安國カ曰ク、薦トハ其ノ先祖ニ薦ムルソ、

孔子君ニ侍テ共<sup>ニ</sup>食<sup>ス</sup>ルノ時ヲ謂フ、

【經】

君賜生、必畜之、

【經】

君祭先飯、

君<sup>レ</sup>祭スルトキハ先ツ<sup>レ</sup>飯ス、

## 【疏】

祭謂祭食之先也、夫禮食必先取食種種、出片子、置俎豆邊地、名爲祭、祭者報昔初造此食者也、君子得惠不忘報、故將食而先出報也、當君政祭食之時、而臣先取飯食之、故云先飯、飯食也、所以然者、示爲君先嘗食、先知調和之是非者也、

祭トハ食<sup>シ</sup>ノ先<sup>レ</sup>ヲ祭ルヲ謂フ、夫レ禮ニ食スルトキハ必ス先ツ食<sup>シ</sup>ノ種<sup>一</sup>種ヲ取テ、片<sup>一</sup>子ヲ出タシテ、俎<sup>一</sup>豆ノ邊<sup>一</sup>地ニ置クヲ、名テ祭ト爲<sup>ス</sup>、祭ルトハ昔<sup>むかし</sup>初メテ此ノ食ヲ造ル者ニ報ス、君<sup>一</sup>子ハ惠ヲ得テ報ヲ忘レ<sup>ず</sup>不、故ニ將ニ食セント將テ先ツ出シテ報ス、君<sup>レ</sup>政ニ食ヲ祭ルノ時ニ當テ、而シテ臣先ツ飯ヲ取テ之ヲ食ス、故ニ云ク先ツ飯ストハ、飯ハ食ナリ、然ル所以ハ、君ノ爲ニ先ツ食ヲ嘗メテ、先ツ調和ノ是非ヲ知ルコトヲ示ス者ナリ、

## 【注】

鄭玄曰、於君祭、先飯矣、若爲君先嘗食然也、

鄭玄カ曰ク、君ノ祭スルトキニ於テ、先ツ飯ス、君ノ爲ニ

先ツ食ヲ嘗ムルカ若ク然リ、

## 【經】

疾、

疾スルトキニ、

## 【疏】

疾謂孔子疾病時也、

疾トハ孔子ノ疾病アル時ヲ謂フ、

## 【經】

君視之、

君視ルトキハ、

## 【疏】

孔子病、而魯君來視之也、此君是哀公也、

孔子病ス、而ルヲ魯ノ君來テ之ヲ視ル、此ノ君ハ是レ哀公ナリ、

【經】

東首、

東首シテ、

【疏】

病者欲生、東是生陽之氣、故頭眠首東也、故玉藻云、君子之居、恆當于戶、寢恆東首者是也、

病スル者ハ生コトヲ欲ス、東ハ是レ生陽ノ氣ナリ、故ニ頭眠ネテ東ニ首ス、故ニ玉藻ニ云ク、君子ノ居ハ、恆ニ戸ニ當ル、寢コトハ恆ニ東首ストハ是ナリ、

【經】

加朝服拖紳、

朝服ヲ加ヘテ紳ヲ拖ク、

【疏】

加覆也、朝服謂健時從君日視朝之服也、拖猶牽也、紳大帶也、孔子既病、不能復着衣、而見君、不宜私服、故加朝服、覆於體上、而牽引大帶於心下、至足如健時着衣之爲

也、

加ハ覆（覆）ナリ、朝服トハ健ヤカナル時ニ君ニ從テ日ニ朝ヲ視ルノ服ヲ謂フ、拖ハ牽ノ猶シ、紳ハ大帶ナリ、孔子既ニ病シテ、復衣ヲ着ルコト能ハ不、而トモ君ニ見ルコトハ、宜ク私服ス宜カラ不、故ニ朝服ヲ加テ、體上ニ覆テ、大帶ヲ心ノ下ヨリ牽キ引テ、足ニ至シテ健ナル時ニ衣ヲ着ル爲ノ如クニス、

【注】

苞氏曰、夫子病也、處南牖之下、

苞氏カ曰ク、夫子病スルトキニ、南牖ノ下ニ處シテ、

【疏】

病本當戸、在北壁下東首、君既來、而君不宜北面、故移處南窓之下、令君入戸、而西轉面得南向也、故樂肇云、南牖下、欲令南面、視之者也、

病ムトキハ本ト戸ニ當テ、北壁ノ下ニ在テ東首ス、君既ニ來ル、而ルニ君ハ宜ク北面ス宜カラ不、故ニ移テ南



窓ノ下ニ處テ、君ヲ令テ戸ニ入レテ、而シテ西ニ轉シテ  
 面南ニ向コトヲ得令ム、故ニ欒肇カ云ク、南牖ノ下ニス  
 ルコト、南面シテ、之ヲ視セ令メント欲スル者ナリ、

## 【注】

東首加其朝服拖紳、紳大帶、不敢不衣朝服也、見君也、

東首シテ其ノ朝服ヲ加ヘテ紳ヲ拖ク、紳ハ大帶ナリ、  
 敢テ朝服ヲ衣不<sup>キ</sup>ンハ不<sup>ス</sup>、君ニ見ユレハナリ、

## 【經】

君命召、

君命シテ召ストキハ、

## 【疏】

謂君有命召見孔子時也、

君命有リテ召シテ孔子ニ見ル時ヲ謂フ、

## 【經】

不俟駕行矣、

駕俟タ不<sup>ス</sup>シテ行ク、

## 【疏】

君尊、命重、故得召不俟駕車、而即徒趨<sup>(二六)</sup>而往也、故玉藻  
 云、君命召、以三節、一節以趨、二節以走、在官不俟  
 履、在外不俟車、是也、

君ハ尊ク、命ハ重シ、故ニ召サルコトヲ得テハ駕車ヲ  
 俟タ不<sup>ス</sup>シテ、即チ徒ヨリ趨<sup>カチ</sup>而往ク、故ニ玉藻ニ云ク、君  
 命シテ召ストキハ、三節ヲ以テス、一節ハ以テ趨リ、  
 二節ハ以テ走ル、官ニ在テハ履ヲ俟タ不<sup>ス</sup>、外ニ在テハ車  
 ヲ俟タ不<sup>ス</sup>トイフ、是レナリ、

## 【注】

鄭玄曰、急趨君命也、出行而車既駕隨<sup>(一九)</sup>之、

鄭玄カ曰ク、急ニ君命ニ趨ルソ、出テ行テ車既ニ駕シ  
 テ之ニ隨フ、

## 【疏】

大夫不可徒行、故後人駕車、而隨之使乘之也、

大夫ハ徒ヨリ<sup>カ</sup>行ク可<sup>ヘ</sup>不<sup>カ</sup>、故ニ後ノ<sup>シ</sup>人ノ車ヲ駕、之ニ隨テ之ヲ乗ラ使ム、

- (一) 「藝」、武内本作「藝」。
- (二) 「其」、武内本無此字。
- (三) 「之」、武内本無此字。
- (四) 「先」、武内本作「物」。
- (五) 「者」、武内本無此字。
- (六) 「祭」下、武内本有「則」字。
- (七) 「頭」、武内本無此字。
- (八) 「于」、武内本無此字。
- (九) 「衣」、武内本作「之」。
- (一〇) 「病」、武内本作「疾」。
- (一一) 「也」、武内本無此字。
- (一二) 「君」、武内本無此字。
- (一三) 「牖」、武内本作「窓」。
- (一四) 「者」、武内本無此字。
- (一五) 「而」、武内本作「以」。
- (一六) 「云」、武内本作「曰」。
- (一七) 「履」、武内本作「屨」。
- (一八) 「外」、武内本作「家」。
- (一九) 「出行」、武内本作「行出」。

- (二一〇) 「隨」、武内本作「從」。
- (二一一) 「之」下、武内本有「也」字。

【經】

入大廟每事問、

大<sup>一</sup>廟ニ入テ事毎ニ問フ、

【疏】

或云、此句煩重、舊通云、前是記孔子對或人之時、此是錄平生常行之行、故兩出也、

或ヒトノ云ク、此ノ句煩<sup>一</sup>重ナリ、舊<sup>一</sup>通ニ云ク、前ハ是レ孔子或ル<sup>一</sup>人ニ對スルノ時ヲ記ス、此レハ是レ平生常<sup>一</sup>行ノ行ヲ録ス、故ニ兩ヒ出ツ、

【注】

鄭玄曰、爲君助祭也、大廟周公廟也、

鄭玄カ曰ク、君ノ爲ニ祭ヲ助クルソ、大<sup>一</sup>廟ハ周公ノ廟ソ、

- (二) 「行」、武内本作「事」。

## 【經】

朋友死無所歸、曰於我殯、

朋友死シテ歸ル所無キトキハ、曰ク我ニ於テ殯（殯）  
セヨ、  
ノたまは  
アラキガリ

## 【疏】

殯謂停喪於寢以待葬也、時孔子有朋友、在孔子之家死、而此朋友無親情來奔喪者、故云、無所歸也、既未有所歸、故曰於我家殯也、

殯トハ喪ヲ寢ニ停メテ葬ヲ待ヲ謂フ、時ニ孔子朋友有リ、孔子ノ家ニ在テ死ス、而シテ此ノ朋友親情ノ來テ喪ニ奔ル者無シ、故ニ云ク、歸スル所無シト、既ニ未タ歸スル所有ラ未、故ニ曰ク我カ家ニ於テ殯セヨト、  
ナマハ

## 【注】

孔安國曰、重朋友之恩也、無所歸、無親昵也、

孔安國カ曰ク、朋友ノ恩ヲ重シス、歸ル所無トハ、親昵（昵）  
ナルル  
チカツク  
（昵）無キソ、  
ヱツ

## 【經】

朋友之饋、

朋友ノ饋（饋）ハ、  
ヲクリモノ

## 【疏】

謂朋友有物見餉也、

朋友物有リ餉（餉）ヲ見ルヲ謂フ、  
モノ  
ヲク

## 【經】

雖車馬非祭肉不拜、

車馬ト雖祭ノ肉ニ非レハ拜セズ、  
いへとも

## 【疏】

車馬家財之大者也、朋友有通財之義、故雖復見餉車馬、而我不可拜也、所可拜者、若朋友見餉其家之祭完、雖小亦拜受之、敬祭故也、故云、雖車馬、非祭完不拜也、  
（完）

車馬ハ家財ノ大ナル者ナリ、朋友ハ財ヲ通スルノ義有リ、故ニ復車馬ヲ餉（餉）ヲ見ルト雖、我拜謝セズ、拜ス可キ  
（餉）  
ヲク  
ナルル  
（わし）

所ハ、若シ朋<sup>イヘとも</sup>友其ノ家ノ祭ノ完ヲ餉<sup>ワケ</sup>ラ見ルハ、小ナリト雖<sup>イヘとも</sup>亦拜シテ之ヲ受ク、祭ヲ敬スル故ナリ、故ニ云ク、車<sup>イヘとも</sup>馬ト雖、祭ノ完ニ非レハ拜セ<sup>ス</sup>ト、

【注】

孔安國曰、不拜、有通財之義也、

孔安國カ曰ク、拜セ<sup>ズ</sup>不<sup>ル</sup>コトハ、通<sup>ス</sup>財ノ義有レハナリ、

(一) 「在」上、武内本有「既」字。

(二) 「完」、武内本作「肉」、下同。

【經】

寢不尸、

寢ヌルトキニ尸<sup>ウツフシネス</sup>不<sup>ス</sup>、

【疏】

寢眠也、尸謂死尸也、眠當小歛、不得直脚申布、似<sup>ニ</sup>於死人者也、

寢ハ眠ナリ、尸トハ死<sup>イ</sup>尸ヲ謂フ、眠ヌルトキハ當ニ小シ

歛<sup>ソウタ</sup>ツ當シ、脚ヲ直クシテ申<sup>イ</sup>布シテ(申<sup>イ</sup>ヘ布イテ)、死<sup>イ</sup>人ニ似タルコトヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>者ナリ、

【注】

荀氏曰、不偃臥四體、布展手足、似死人也、

荀氏カ曰ク、四<sup>イ</sup>體ヲ偃セ<sup>イ</sup>臥セテ、手<sup>イ</sup>足ヲ布<sup>シ</sup>キ展フルハ、死<sup>イ</sup>人ニ似<sup>レ</sup>レリ、

【疏】

偃却眠也、展舒也、曲禮云、寢無伏、此云不偃臥四體、展舒手足、似死人、則不得覆脚、唯當歛而小展也、

偃ハ却<sup>ウツフシネ</sup>眠ナリ、展ハ舒ナリ、曲禮ニ云ク、寢ルトキニ伏<sup>ウツフシネ</sup>スルコト無シ、此ニ云ク四<sup>イ</sup>體ヲ偃セ<sup>イ</sup>臥テ、手<sup>イ</sup>足ヲ展<sup>イ</sup>ヘ舒フルハ、死<sup>イ</sup>人ニ似タリ、則チ覆<sup>イ</sup>脚スルコトヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、唯タ當ニ歛<sup>イ</sup>テ小シ展<sup>カガ</sup>マル當シ、

【經】

居不容、

居ルトキニ容<sup>カタチ</sup>ツクリセ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

## 【疏】

謂家中常居也、家主和恬、燕居貌温温、故不爲容自處者<sup>(三)</sup>也、

家中二常二居ヲ謂フ、家ハ和<sup>やわら</sup>キ恬<sup>しん</sup>カ(恬)ナルヲ主トス、燕<sup>い</sup>居スルトキハ貌<sup>かた</sup>温<sup>かた</sup>温<sup>かた</sup>タリ、故ニ容<sup>てん</sup>ツクリ爲<sup>せ</sup>不<sup>す</sup>シテ自<sup>みづか</sup>處<sup>ち</sup>ル<sup>り</sup>者ナリ、

## 【注】

孔安國曰、爲室家之敬難久也、

孔安國カ曰ク、室<sup>い</sup>家ノ敬ハ久シフシ難<sup>た</sup>キカ爲<sup>な</sup>ナリ、

## 【經】

子見齊衰者、雖狎必變、

子<sup>シ</sup>齊<sup>サイ</sup>衰<sup>モウ</sup>ノ者ヲ見テハ、狎<sup>ナ</sup>レタリト雖<sup>いへとも</sup>必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>變<sup>ハ</sup>ス、

## 【疏】

狎謂素相親狎也、哀有喪、故必變、必變、謂必作必趨也、

狎トハ素<sup>モト</sup>ヨリ相ヒ親<sup>シ</sup>狎スルヲ謂フ、喪有ルヲ哀ム、故ニ

必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>變<sup>ハ</sup>ス、必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>變<sup>ハ</sup>ストハ、必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>作<sup>タ</sup>チ必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>趨<sup>ハ</sup>ヲ謂フ、

## 【注】

孔安國曰、狎者、素相親狎也、

孔安國カ曰ク、狎トハ、素<sup>モト</sup>ヨリ相ヒ親<sup>アツ</sup>狎スルソ、

## 【經】

見冕者與瞽者、雖褻必以貌、

冕<sup>コ</sup>者ト瞽<sup>ト</sup>者與ヲ見テハ、褻<sup>ナ</sup>レタリト雖<sup>いへとも</sup>必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>貌<sup>かた</sup>ヲ以テス、

## 【疏】

褻謂無親而卑數者也、尊在位、恤不成人、故必以貌、以貌變色對之也。變重貌輕、親狎重、故言變、卑褻輕、故以貌也、

褻トハ親ムコト無シテ卑<sup>イ</sup>ミ<sup>ヤシ</sup>數<sup>シハシハ</sup>スル者ヲ謂フ、位ニ在ルヲ尊ヒ、人ト成ラ不<sup>さ</sup>ルヲ恤<sup>アハレ</sup>ム、故ニ必<sup>い</sup>ス<sup>へとも</sup>貌<sup>かた</sup>ヲ以テス、貌ヲ以ストハ色ヲ變シテ之ニ對スルソ。變ハ重シ貌ハ輕シ、親<sup>シ</sup>狎ハ重シ、故ニ變ト言ヒ、卑<sup>ヒ</sup>褻<sup>セツ</sup>ハ輕シ、故ニ貌ヲ以テ

ス、

【注】

周生烈曰、褻謂數相見也、必當以貌禮也、

周生烈カ曰ク、褻トハ<sup>シハシハ</sup>數相ヒ<sup>シ</sup>見ルヲ謂フ、必ス當ニ貌ヲ以禮ス當シ、

【疏】

然前篇、必作必趨、謂見疎者也、

然ルニ前篇ニハ、必ス<sup>レ</sup>作チ必ス趨ルトハ、疎者<sup>（疎キ者）</sup>ニ見ルヲ謂フ、

【經】

凶服者式之、

凶服ノ者<sup>（もウ）</sup>ニ式シ、

【疏】

凶服、送死人衣物也、孔子見他人送死之衣物、必爲敬而式之也、式者、古人乘露車、如今龍旂車、皆於車中倚倚立立

難久、故於車箱上、安一橫木、以手隱憑之、謂之爲較、詩云、倚重較是也、又於較之下、未至車床半計、安一橫木、名爲軾<sup>（二）</sup>、若在車上、應爲敬、時則落手憑軾、憑軾則、身俯僂、故云式之。式軾也、

凶服トハ、死一人ヲ送ル衣物ナリ、孔子他一人ノ死ヲ送ル衣物ヲ見テハ、必ス敬ヲ爲シテ而シテ之ニ式ス、式トハ、古ノ人ハ露車<sup>（露ナル車）</sup>ニ乗ル、今ノ龍旂車ノ如シ、皆車中ニ於テ倚リ倚リ立ツ立ツコトハ久シフシ難シ、故ニ車ノ箱<sup>（箱）</sup>上ニ於テ、一ノ橫木ヲ安イテ、手ヲ以テ之ニ隱リ憑ル、之ヲ謂テ較ト爲ス、詩ニ云ク、重較ニ倚ルトイヘル是ナリ、又較ノ下ニ於テ、未タ車ノ床ニ至ラ未ルコト半ハ計ニシテ、一ノ橫木ヲ安ク、名ケテ軾ト爲ス、若シ車上ニ在テ、敬ヲ爲ス應キ、時ニハ則チ手ヲ落シテ軾ニ憑ル、軾ニ憑ル則ハ、身俯僂ス、故ニ式スト云フ。式ハ軾ナリ、

【經】

式負板者、

負板ノ者ニ式ス、

## 【疏】

負謂擔(三)揚也、板謂邦國圖籍也、古未有紙、凡所書畫、皆於板、故云板也、孔子見人擔揚國之圖板者、皆式敬之也、

負トハ擔タム揚ヲ謂フ、板トハ邦國ノ圖籍ヲ謂フ、古ニ未タ紙有ラ未、凡ソ書シ畫ク所、皆板ニ於テス、故ニ板ト云フ、孔子人ノ國ノ圖板ヲ擔ヒ揚ル者ヲ見テハ、皆式ミナシテ之ヲ敬ス、

## 【注】

孔安國曰、凶服者、送死之衣物也、(四)

孔安國カ曰ク、凶服ノ者トハ、死ヲ送ルノ衣物ソ、

## 【疏】

此釋式凶服也、

此レハ凶服ニ式スルコトヲ釋ス、

## 【注】

負板持邦國之圖籍者也、(五)

負板ハ邦國ノ圖籍ヲ持タル者ナリ、(モ)

## 【疏】

鄭司農注宗伯職云、板名籍也、以板爲之、今時郷戸籍、謂之戸版、鄭康成注內宰云、版謂宮中閹寺之屬、及其子弟(六)錄籍也、圖王及后世子之宮、宮中史官形象也、

鄭司農カ注ノ宗伯職ニ云ク、板ハ籍ト名ク、板ヲ以テ之ヲ爲ル、今一時ノ郷戸ノ籍、之ヲ戸版ト謂フ、鄭康成カ注ノ內宰ニ云ク、版トハ宮中ノ閹寺ノ屬、及ヒ其ノ子弟(七)ヲ錄籍スルヲ謂フ、王及ヒ后世子ノ宮ノ、宮中ノ史官ノ形象ヲ圖ス、

## 【經】

有盛饌、必變色而作、

盛饌有ルトキハ、必色ヲ變シテ作ツ、

## 【疏】

作起也、孔子見主人食饌有盛平常、故變色而起也、所以然者、主人自親饋、故容起敬也、(八)

作ハ起ナリ、孔子主人ノ食<sup>シ</sup>饌平常ヨリ盛ナル有ルヲ見ル、故ニ色ヲ變シテ起ツ、然カル所以ハ、主人自<sup>ミツカ</sup>親<sup>ラ</sup>饋<sup>ル</sup>、故ニ容<sup>カタチ</sup>敬ヲ起ス、

【注】

孔安國曰、作起也、敬主人之親饋也、

孔安國カ曰ク、作ハ起、主人ノ親<sup>ミツカラ</sup>饋<sup>ル</sup>コトヲ敬ス、

【疏】

親饋、謂主人自執食設之、<sup>(一九)</sup>

親<sup>ミツカラ</sup>饋<sup>ル</sup>トハ、主人自<sup>ミツカラ</sup>食<sup>シ</sup>ヲ執<sup>ツ</sup>テ設<sup>セ</sup>ルヲ謂フ、

【經】

迅雷風烈、必變、

迅<sup>ト</sup>ク<sup>イカツチ</sup>雷<sup>ナリ</sup>テ風<sup>カゼ</sup>フイテ烈<sup>タル</sup>トキハ、必ス變ス、

【疏】

迅疾也、風而雷疾急、名爲烈也、風疾而雷、此是陰陽氣激、爲天之怒、故孔子自整變顏谷、以敬之也、故玉藻云、

若<sup>(二二)</sup>疾風迅雷甚雨、則必變、雖夜必興、衣服冠而坐是也、

迅<sup>ジン</sup>ハ疾ナリ、風<sup>フイ</sup>而<sup>デ</sup>雷<sup>イカツチ</sup>疾<sup>スミ</sup>ヤカニ急ナルヲ、名ケテ烈ト爲<sup>ス</sup>、風疾<sup>トクシテ</sup>而雷ナルハ、此レハ是レ陰陽ノ氣激<sup>ゲキ</sup>ス、天ノ怒ルト爲<sup>ス</sup>、故ニ孔子自<sup>ミツカラ</sup>顏<sup>リ</sup>容<sup>ヲ</sup>整<sup>シ</sup>變<sup>シ</sup>テ、之ヲ敬ス、故ニ玉藻ニ云ク、若シ疾風迅雷甚雨スル、則ハ必ス變ス、夜<sup>イトモ</sup>ト雖<sup>モ</sup>必ス興<sup>ス</sup>テ、衣服冠シテ坐ストイフ是ナリ、

【注】

鄭玄曰、敬天之怒也、<sup>(二三)</sup>風疾雷爲烈也、

鄭玄カ曰ク、天ノ怒ヲ敬ス、風フイテ疾<sup>ト</sup>ク<sup>レ</sup>雷ナルヲ烈ト爲<sup>ス</sup>、

- (一) 「於」、武内本無此字。
- (二) 「脚」、武内本作「却」。
- (三) 「者」、武内本無此字。
- (四) 「室家」、武内本作「家室」。
- (五) 「者」、武内本無此字。
- (六) 「者」下、武内本有「必」字。
- (七) 「人」下、武内本有「之」字。
- (八) 「倚立」、武内本作「立倚」。



(九)「云」、武内本作「曰」。

(一〇)「較」下、武内本有「兮」字。

(一一)「計」、武内本作「許」。

(一二)「軾」、武内本作「式」。

(一三)「揚」、武内本作「揭」、下同。

(一四)「也」、武内本無此字。

(一五)「板」下、武内本有「者」字。

(一六)「版」、武内本作「板」。

(一七)「弟」、武内本作「第」。

(一八)「容」、武内本作「客」。

(一九)「之」下、武内本有「也」字。

(二〇)「而」、武内本作「雨」。

(二一)「子」下、武内本有「必」字。

(二二)「若」下、武内本有「有」字。

(二三)「也」、武内本無此字。

【經】

升車必正立執綏、

車二升ルトキハ必ス正シク立テ綏ヲ執ル、

【疏】

謂孔子升車禮也、綏牽以上車之繩也、若升車時、則正立而執綏、以上。所以爲安也、

孔子車二升ル禮ヲ謂フ、綏ハ牽キ以テ車ニ上ルノ繩ナリ、若シ車二升ル時ハ、正シク立テ綏ヲ執テ、以テ上<sub>のほ</sub>。安シト爲ル所以ナリ、

【注】

周生烈曰、正立執綏、所以爲安也、

周生烈カ曰ク、正シク立テ綏ヲ執ルコトハ、安シト爲ル所以ナリ、

【經】

車中不内顧、

車ノ中ニテ内ニ顧ミ不、

【疏】

内猶後也、顧廻頭也、升在車上、不廻頭後顧也、所以然者、後人從己者、不能常正、若轉顧見之則、掩人私不備、

非大德之所爲、故不爲也、故衛瓘云、不掩人之不備也、

内ハ後ノ猶シ、顧トハ頭ヲ廻スソ、升テ車ノ上ニ在テ、頭ヲ廻シテ後ニ顧ミ不、然ル所<sup>レ</sup>以ハ、後一人己ニ從フ者、常ニ正キコト能ハ不、若シ轉タ顧テ之ヲ見ル則ハ、人ノ私ニ備ハラ不ルヲ掩フ、大德ノ爲ル所ニ非ス、故ニ爲不、故ニ衛瓘カ云ク、人ノ備ハラ不ルヲ掩ハ不レ、

【注】

荀氏曰、輿中不内顧者、前視不過衡扼也、

荀氏カ曰ク、輿ノ中ニシテ内ニ顧ミ不トハ、前ハ視ルコト衡<sup>ヤウ</sup>扼<sup>キス</sup>ニ過キ不、

【疏】

車床名輿、故云輿中也、衡扼轅端也、若前視不得遠、故曲禮云、立視五<sup>ノ</sup>輿、五<sup>ノ</sup>輿九丈九尺地也、式視馬尾、馬尾近在車床欄間也、竝是不過衡扼之類也、

車ノ床ヲ輿ト名ク、故ニ輿<sup>中</sup>ト云フ、衡<sup>一</sup>扼<sup>（扼）</sup>ハ轅<sup>なか</sup>ノ端ナリ、若シ前ニ視ルトキハ遠コトヲ得不、故ニ曲禮ニ云ク、立テ五<sup>ノ</sup>輿<sup>ケイ</sup>ヲ視ル、五<sup>ノ</sup>輿ハ九丈九尺ノ地ナリ、式

スルトキハ馬<sup>一</sup>尾ヲ視ル、馬<sup>一</sup>尾ハ近ク車床ノ欄ノ間ニ在リ、竝ニ是レ衡<sup>一</sup>扼<sup>一</sup>ニ過キ不トイフ類ナリ、

【注】

旁視不過轎轂、

旁<sup>カタハ</sup>視ルコト轎<sup>キ</sup>轂<sup>コク</sup>ニ過キ不、

【疏】

旁謂兩邊也、轎豎在車箱兩邊、三分居前之一、承較者也、轂在箱外、當人兩邊、故云、旁視不過轎轂也、

旁トハ兩邊ヲ謂フ、轎ハ豎<sup>タチ</sup>テ車箱ノ兩邊ニ在テ、三分ニシテ前ノ一二居テ、較<sup>カウ</sup>ヲ承クル者ナリ、轂ハ箱ノ外ニ在リ、人ノ兩邊ニ當ル、故ニ云ク、旁ハ視ルコト轎<sup>一</sup>轂<sup>一</sup>ニ過キ不、

【經】

不疾言、

疾<sup>ト</sup>ク言ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

疾高急也、在車上、言易高、故不疾言、爲驚於人也、故繆協云、車行、則言傷疾也、

疾ハ高急ナリ、車ノ上ニ在テ、言ハ高カリ易シ、故ニ疾ク言ハ不ト、人ヲ驚スカ爲ナリ、故ニ繆協力云ク、車行スル、則ハ言コト疾キコトヲ傷ム、

【經】

不親指、

親指サ不、

【疏】

車上既高、亦不得手、有所親指點、爲惑下人也、

車ノ上ハ既ニ高シ、亦手ヲ、親指シ點スル所ヲ有コトヲ得不、下人ヲ惑スカ爲ナリ、

(一) 「正」上、武内本有「必」字。

(二) 「廻」、武内本作「回」、下同。

(三) 「者」、武内本作「有」。

(四) 「掩」上、武内本有「不」字。

(五) 「人」下、武内本有「之」字。

(六) 「故」、武内本無此字。

(七) 「云」、武内本作「曰」。

(七) 「扼」、武内本作「扼」、下同。

(八) 「轂」下、武内本有「也」字。

(九) 「於」、武内本無此字。

(一〇) 「云」、武内本作「曰」。

(一一) 「手」、武内本作「乎」。

【經】

色斯舉矣、

色ノママニ斯ニ舉ス、

【疏】

謂孔子在處觀人顔色、而舉動也、

孔子在ル處人ノ顔色ヲ觀テ、舉動スルヲ謂フ、

【注】

馬融曰、見顔色、不善則去之、

馬融カ曰ク、顔一色ヲ見ルニ、善カラ不ルトキハ去ル、

【疏】

繆協云、自親指以上、郷黨恂恂之禮、應事適用之迹詳矣、有其禮、而無其時、蓋天運之極也、將有遠感高興、故色斯舉矣也、

繆協カ云ク、親指ストイフ自リ以<sup>ミツからゆひ</sup>上ハ、郷黨ニシテ恂恂タルノ禮、事ニ應シ用ニ適<sup>カキ</sup>フノ迹詳ナリ、其ノ禮有テ、其ノ時無シ、蓋シ天運ノ極ナリ、將ニ遠感高興有ラント將<sup>ス</sup>、故ニ色ノママニ斯ニ舉ス、

【經】

翔而後集、

翔<sup>フルマ</sup>ツテ而シテ後ニ集<sup>イ</sup>ル、

【疏】

謂孔子所至之處也、必廻翔審觀之、後乃下集也、

孔子至ル所ノ處ヲ謂フ、必ス廻翔審觀シテ、後ニ乃チ下リ集<sup>イ</sup>ル、

【注】

周生烈曰、廻翔審觀、而後下止也、

周生烈カ曰ク、廻翔審觀シテ、而シテ後ニ下<sup>タ</sup>リ止<sup>イ</sup>ル、

【經】

曰山梁雌雉、時哉時哉、

曰ク山梁ノ雌雉、時ナル哉<sup>カキ</sup>（時ナル哉<sup>シ</sup>）時哉、

【疏】

此記者記孔子因所見、而有嘆也、山梁者、以木架水上、可踐渡水之處也、孔子從山梁間、過見山梁間、有此雌雉也、時哉者、言雉逍遙得時<sup>五</sup>所也、所以有嘆者、言人遭亂世翔集、不得其所、是失時矣、而不如山梁間之雉、十步一啄、百步一飲、是得其時、故嘆之也、獨云雌者因所見而言也、<sup>七</sup>

此レハ記者孔子ノ見ル所ニ因テ、嘆有ルコトヲ記ス、山梁トハ、木ヲ以水<sup>ミ</sup>上ニ架シテ、踐<sup>フ</sup>ンテ水ヲ渡ルノ處ナル可シ、孔子山梁ノ間從リ、過<sup>ヨ</sup>キテ山梁ノ間ヲ見レハ、此ノ雌雉有リ、時哉トハ、言ハ雉ハ逍<sup>シム</sup>（逍）遙シテ時ト所トヲ得<sup>ウ</sup>、嘆有ル所以ハ、言ハ人ハ亂世ニ遭テ翔テ集

ル、其ノ所ヲ得不<sup>+</sup>、是レ時ヲ失ス、而シテ山梁ノ閒ノ雉ノ、十歩ニシテ一ヒ<sup>レ</sup>啄ミ、百歩シテ一ヒ<sup>レ</sup>飲シテ、是レ其ノ時ヲ得ルニ如カ不<sup>+</sup>、故ニ之ヲ嘆ス、獨リ雌ヲ云フコトハ見ル所ニ因テ言フ、

【經】

子路供之、

子路供ス、

【疏】

子路不達孔子時哉時哉之歎<sup>ハ</sup>、而謂歎雌雉是時月之味、故馳逐駢拍、遂得雌雉、煮熟而進、以供養孔子、故云子路供之也、

子路孔子ノ時<sup>カ</sup>哉時<sup>カ</sup>哉ノ歎ニ達セ不<sup>+</sup>、而ルニ雌<sup>レ</sup>雉ハ是レ時<sup>レ</sup>月ノ味ヲ歎スルト謂フ、故ニ馳セ逐ヒ駢<sup>カ</sup>リ<sup>ッ</sup>拍ツテ、遂ニ雌<sup>レ</sup>雉ヲ得テ、煮<sup>レ</sup>熟シテ進テ、以テ孔子ニ供<sup>レ</sup>養ス、故ニ云ク子路之ヲ供スト、

【經】

三嗅而作、

三タヒ嗅イテ作ツ、

【疏】

嗅謂<sup>ニ</sup>鼻<sup>ニ</sup>歆翫其氣也、作起也、子路不達孔子意、而供此熟雉、乖孔子本心、孔子若直爾不<sup>レ</sup>食<sup>ニ</sup>、則恐子路生怨、若遂而食之則、又乖我本意<sup>ニ</sup>、故先三嗅氣而後乃起、亦如得食不食之間也、

嗅トハ鼻其ノ<sup>レ</sup>氣ヲ歆<sup>ッ</sup>ケ<sup>ア</sup>翫ムルヲ謂フ、作ハ起ナリ、子路孔子ノ意ニ達セ不<sup>+</sup>、而シテ此ノ熟<sup>レ</sup>雉ヲ供ス、孔子ノ本<sup>レ</sup>心ニ乖<sup>ク</sup>ク、孔子若シ直<sup>ニ</sup>爾<sup>ニ</sup>食ハ不<sup>ル</sup>、則ハ子路怨ヲ生センコトヲ恐ル、若シ遂ニ之ヲ食ム則ハ、又タ我カ本<sup>レ</sup>意ニ乖<sup>ク</sup>ク、故ニ先<sup>ニ</sup>三タヒ氣ヲ嗅テ後ニ乃チ起ツ、亦食スルコト食セ不<sup>ル</sup>ノ閒ヲ得ルカ如シ、

【注】

言山梁雌雉、得其時、而人不得時、故歎之、子路<sup>ニ</sup>以其時物、故供具之、非其本意、不苟食、故三嗅而起也、

言ハ山<sup>レ</sup>梁ノ雌<sup>レ</sup>雉ハ、其ノ<sup>レ</sup>時得タリ、人ハ時ヲ得不<sup>ス</sup>、故ニ之ヲ歎ス、子路其ノ<sup>レ</sup>時ノ物ナルヲ以テノ、故ニ之ヲ供<sup>レ</sup>具ス、其ノ本意ニ非レハ、苟クモ<sup>レ</sup>食ハ不<sup>ス</sup>、故ニ三タヒ嗅

テ起ツ、

【疏】

顧歡云、夫栖遲一丘、雉之道適也、不以剛武傷性、雌

之德也、故於翔集之下、繼以此歎、而伸由之獻、偶與嘆

諧、若即饗之則、事與情反、若棄而弗御則、似由也、有失、

故三嗅而起、則心事雙合。虞氏贊曰、色斯舉矣、翔而後

集、此以人事、喻於雉也、雉之爲物、精微難狎、譬人在亂

世、去危就安、當如雉也、曰山梁雌雉時哉、以此解上義

也、時者是也、供猶設也、言子路見雉在山梁、因設食物、

以張之、雉性明微、知其非常、三嗅而作去、不食其供也、

正言雌者、起子路所見也、

顧歡力云ク、夫レ一丘ニ栖遲スルハ、雉ノ道適フ、剛

武ヲ以テ性ヲ傷ラ不ルハ、雌ノ德ナリ、故ニ翔ツテ集ル

ノ下ニ於テ、繼クニ此ノ歎ヲ以テス、而ルヲ伸由カ獻

偶嘆與諧ヘリ、若シ即チ之ヲ饗クル則ハ、事ト情與反

ス、若シ棄テ御セ弗ル則ハ、由也失有ルニ似レリ、故ニ三

タヒ嗅而起ツ、則ハ心事雙ヒニ合フ。虞氏力贊ニ曰

ク、色ノママニ斯ニ舉シ、翔ツテ而シテ後ニ集ル、此ノ

人事ヲ以、雉ニ喩フ、雉ノ物爲ルコト、精微ニシテ狎レ

難シ、人ノ亂世ニ在ルニ譬フ、危ヲ去ケ安キニ就クト、

當ニ雉ノ如クナル當シ、曰ク山梁ノ雌雉時哉、此ヲ  
以テ上ノ義ヲ解ス、時ハ是ナリ、供ハ設ノ猶シ、言ハ子路  
雉ノ山梁ニ在ルヲ見テ、因テ食物ヲ設テ、之ヲ張ル、雉  
ノ性ハ明微ナリ、其ノ常ニ非ルコトヲ知テ、三タヒ嗅而  
作テ去ル、其ノ供ヲ食セ不、正シク雌ヲ言コトハ、子路  
カ見ル所ヲ起ス、

(一) 「之」下、武内本有「也」字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「也」、武内本無此字。

(四) 「過見山梁間」、武内本作「見」。

(五) 「所」、武内本無此字。

(六) 「山」、武内本無此字。

(七) 「也」、武内本作「矣」。

(八) 「歎」、武内本作「嘆」。

(九) 「云」、武内本作「曰」。

(一〇) 「鼻」、武内本無此字。

(一一) 「食」下、武内本有「者」字。

(一二) 「意」、武内本作「心」。

(一三) 「嗅」、武内本作「歎」。

(一四) 「路」下、武内本有「雖」字。

(一五) 「云」、武内本作「曰」。

- (一六) 「道」、武内本無此字。
- (一七) 「雌」、武内本作「雉」。
- (一八) 「此」、武内本作「斯」。
- (一九) 「也」、武内本作「之」。
- (二〇) 「去」、武内本作「者」。
- (二一) 「起」、武内本作「記」。

論語義疏卷第五

- (一) 「卷」、武内本無此字。
- (二) 「五」下、武内本有「經一千四百六十二字／注二千二百九十七字」十八字（小字雙行）。

（郷党篇担当 下村泰三）

論語義疏卷第六先進／顔淵<sup>①</sup> 梁國子助教吳郡皇侃撰  
先進第十一<sup>②③</sup> 疏<sup>④</sup>

(一) 「先進／顔淵」、小字雙行。

(二) 「先」上、武内本有「論語」二字。

(三) 「二」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡二十三章」五字(小字雙行)。

(四) 「疏」武内本別行跳格。

### 【疏】

先進者、此篇明弟子進受業者先後也、所以次前者、既還教鄉黨、則進受業者、宜有先後、故先進次鄉黨也、

先進ハ、此ノ篇ハ弟子ノ進テ業ヲ受ル者ノ先<sup>ち</sup>後ヲ明ス、前ニ次ツル所以ハ、既ニ還テ鄉黨ヲ教ル、則ハ進テ業ヲ受ル者、宜ク先<sup>ち</sup>後有ル宜シ、故ニ先進ヲ鄉黨ニ次ツ、

### 【經】

子曰、先進於禮樂野人也、後進於禮樂君子也、

子ノ曰ク、先ツ禮一樂ニ進ムハ野一人ナリ、後ニ禮一樂ニ

進ム君子ナリ、

### 【疏】

此孔子將欲還淳反素、吾重古賤今、故稱禮樂有君子野人之異也、先進後進者、謂先後輩人也、先輩謂五帝以上也、後輩謂三王以還也、進於禮樂者、謂其時輩人進行於禮樂者也、野人質朴之稱也、君子會時之目也、孔子言、以今人文、觀古、古質而今文、文則能隨時之中、此故爲當世之君子也、質則朴素而違俗、此故爲當世之野人也、

此レハ孔子將ニ淳ニ還リ素ニ反ラント欲、吾古ヲ重シテ今ヲ賤ンス、故ニ禮樂ニ君子野人ノ異有ルコトヲ稱ス、先進後進トハ、先後ノ輩ノ人ヲ謂フ、先輩トハ五帝以上ヲ謂フ、後輩トハ三王ヨリ以テ還ヲ謂フ、禮樂ニ進ムト者、其ノ時ノ輩ノ人ノ進テ禮樂ヲ行フ者ヲ謂フ、野人トハ質朴ノ稱ナリ、君子トハ時ニ會フノ目ナリ、孔子ノ言ク、今ノ人ノ文ナルヲ以テ、古ヲ觀レハ、古ハ質ニシテ今ハ文ナリ、文ナル則ハ能ク時ノ中ニ隨フ、此ノ故ニ當世ノ君子爲リ、質ナル則ハ朴素ニシテ俗ニ違フ、此ノ故ニ當世ノ野人爲リ、



【注】

孔安國曰、先進後進、謂士先後輩也、禮樂因世損益、

孔安國カ曰ク、先進後進トハ、士ノ先後ノ輩ヲ謂フ、禮樂ハ世ニ因テ損益ス、

【疏】

時淳則禮樂損、時澆則禮樂益、若以益觀損、損時則爲野人、若以損行益、益則爲君子也、

時淳ナル則ハ禮樂損シ、時澆(澆)ル則ハ禮樂益ス、若シ益ヲ以損ヲ觀レハ、損ナル時ハ則チ野人爲リ、若シ損ヲ以益ヲ行ヘハ、益ハ則チ君子爲リ、

【注】

後進與禮樂、俱得時之中、斯君子矣、

後進ト禮樂ト、俱ニ時ノ中ヲ得タリ、斯レ君子ナリ、

【疏】

此謂以益行益、俱得時中、故謂爲君子也、

此レハ益ヲ以益ヲ行フ、俱ニ時ノ中ヲ得ルコトヲ謂フ、故ニ謂テ君子ト爲ス、

【注】

先進有古風、斯野人也、

先進ハ古風有リ、斯レ野人ナリ、

【疏】

以今觀昔時、則有古風、以古比今、故爲野人、

今ヲ以昔時ヲ觀レハ、則チ古風有リ、古ヲ以今ニ比スレハ、故ニ野人爲リ、

【經】

如用之則吾從先進、

如シ之ヲ用ヒハ吾ハ先進ニ從ハン、

【疏】

如猶若也、若比方先後二時、而用爲教則、我從先進者也、所以然者、古爲純素、故可從式、

如ハ若ノ猶シ、若シ先<sup>一</sup>後ノ二<sup>一</sup>時ヲ比方シテ（比<sup>ナラ</sup>ヘ方<sup>ナラ</sup>フ）、用テ教ヲ爲サハ、我ハ先<sup>一</sup>進ニ從ハン者ナリ、然ル所<sup>ナラ</sup>以ハ、古ヲハ純素ト爲<sup>ス</sup>、故ニ從ヒ<sup>一</sup>式ル可シ、

【注】

苞氏曰、將移風易俗、歸之純素、先進猶近古風、故從之、

苞氏カ曰ク、將ニ風ヲ移シ俗ヲ易ヘテ、之ヲ純素ニ歸セ<sup>ル</sup>ント將、先<sup>一</sup>進ハ猶ヲ古<sup>一</sup>風ニ近シ、故ニ從フ、

【疏】

先進比三王、乃爲古、比結繩、則爲今、故云近古也、

先進ハ三<sup>一</sup>王ニ比スレハ、乃チ古<sup>いにしへ</sup>爲リ、結繩ニ比スレハ、則チ今<sup>タ</sup>爲リ、故ニ古ニ近シト云フ、

(一) 「吾」、武内本無此字。

(二) 「稱」、武内本無此字。

(三) 「之」下、武内本有「人」字。

(四) 「孔安國曰」、武内本無此四字。

(五) 「時」、武内本無此字。

(六) 「人」下、武内本有「也」字。

(七) 「式」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、從我於陳蔡者、皆不及門者也。

子ノ曰<sup>たまは</sup>ク、我ニ陳蔡ニ從ヒシ者ハ、皆門ニ及ハ<sup>み</sup>ズ<sup>ル</sup>者ナリ。

【疏】

孔子言、時世亂離、非唯我道不行、只我門徒經從我、在陳蔡者亦失于時、不復及仕進門也、張憑云、道之不行命也、唯聖人、安時而處從、故不期於通塞、然從我於陳蔡者、何能不以窮達爲心耶、故感於天地將閉君子道消、而恨二三子不及開泰之門也、

孔子ノ言<sup>のたまは</sup>ク、時<sup>一</sup>世亂離ニシテ、唯<sup>ただ</sup>我カ<sup>一</sup>道ノ行ハレ<sup>ル</sup>不<sup>ま</sup>ルノミニ非ス、只<sup>ただ</sup>我カ門徒ノ我ニ經<sup>へ</sup>從テ、陳蔡ニ在<sup>ル</sup>者モ、亦<sup>また</sup>時ヲ失シテ、復仕進ノ門ニ及ハ<sup>ま</sup>ズ、張憑カ云ク、道ノ行ハレ<sup>ル</sup>不<sup>ま</sup>ルハ命ナリ、唯<sup>ただ</sup>聖人ハ、時ヲ安シ<sup>やす</sup>テ處<sup>よ</sup>リ從フ、故ニ通塞ヲ期セ<sup>ま</sup>ズ、然ルニ我ニ陳蔡ニ從<sup>フ</sup>者ハ、何ソ能ク窮達ヲ以テ心ト爲<sup>せ</sup>ズ<sup>ル</sup>ヤ、故ニ天<sup>一</sup>地將ニ

「閉テ君<sup>一</sup>子ノ道<sup>一</sup>消スルニ感アリテ、二<sup>一</sup>三<sup>一</sup>子ノ開泰ノ門<sup>一</sup>ニ及ハ不<sup>ル</sup>コトヲ恨ム、

## 【注】

鄭玄曰、言弟子之從我、而厄於陳蔡者皆、不及仕進之門、而失其所也、

鄭玄カ曰ク、言<sup>いふこと</sup>ハ弟子ノ我ニ從テ、陳蔡ニ厄<sup>タシナ</sup>メラレシ者ハ、皆仕<sup>みナ</sup>進ノ門ニ及ハ不<sup>シテ</sup>、其ノ所ヲ失ス、

## 【經】

德行顏淵閔子騫冉伯牛仲弓

德<sup>一</sup>行<sup>一</sup>二ハ顏淵閔子騫冉伯牛仲弓

## 【疏】

此章初無子曰者、是記者所書、竝從孔子印可而錄在論之中也、孔子門徒三千、而唯有此以下十人名爲四科、四科者、德行也、言語也、政事也、文學也、德行爲人生之本也、故爲第一、以冠初也、而顏閔及二冉合其名矣、王弼云、此四科者、各舉其才長也、顏淵德行之後、尤兼之矣、范寧云、德行謂百行之美也、四子俱雖在德行之日、而顏子爲其冠、

此ノ章二初メニ子曰無キコトハ、是レ記者ノ書ス所ニシテ、竝ニ孔子ノ印可ニ從テ、録シテ論ノ中ニ在リ、孔子ノ門徒三千ニシテ、唯タ此ヨリ以下ノ十人有テ、名四科爲リ、四科ハ、德行、言語、政事、文學ナリ、德行ハ人ノ生ノ本爲リ、故ニ第一ト爲テ、初メニ冠シム、而シテ顏閔及ヒ二冉其ノ名ニ合ヘリ、王弼カ云ク、此ノ四科ハ、各其ノ才ノ長スルヲ舉ク、顏淵ハ德行ノ俊ニシテ、尤モ之ヲ兼タリ、范寧カ云ク、德行トハ百ノ行ノ美ヲ謂フ、四子俱ニ德行ノ目ニ在リト雖、而トモ顏子其ノ冠爲リ、

## 【經】

言語宰我子貢

言<sup>一</sup>語<sup>一</sup>二ハ宰我子貢

## 【疏】

第二科也、宰我及端木二人合其目也、范寧云、言語謂賓主相對之辭也、

第一ノ科ナリ、宰我及ヒ端木二人其ノ目ニ合ヘリ、范寧カ云ク、言<sup>一</sup>語<sup>一</sup>トハ賓主相ヒ對シテ辭スルヲ謂フ、

【經】

政事冉有季路

政事二ハ冉有季路

【疏】

第三科也、冉仲二人、合其目也、范寧云、政事謂治國之政也、

第三ノ科ナリ、冉仲ノ二人、其ノ目ニ合ヘリ、范寧カ云ク、政事トハ國ヲ治ムルノ政ヲ謂フ、

【經】

文學子游子夏

文一學二ハ子游子夏

【疏】

第四科也、言及卜商二人、合其目也、范寧云、文學謂善先王典文也、王弼云、弟子才不徒十、蓋舉其美者、以表業分名、其餘則各以所長、從四科之品也、侃案四科次第、立德行爲首、乃爲所可解、而言語爲次者、言語君子樞機、爲德

行之急、故次德行也、而政事是人事之別、比言語爲緩、故次言語也、文學指是博學古文、故比三事爲泰、故最後也、

第四ノ科ナリ、言及ヒト商二人、其ノ目ニ合ヘリ、范寧カ云ク、文一學トハ先王ノ典文ヲ善クスルヲ謂フ、王弼カ云ク、弟子ノ才徒タ十ノミニ不シ、蓋シ其ノ美ナル者ヲ舉テ、業ヲ表シ名ヲ分ツ、其ノ餘ハ則チ各長スル所ヲ以、四科ノ品ニ從フヘシ、侃四科ノ次第ヲ案スルニ、德行ヲ立テテ首位ト爲ルコトハ、乃チ解ス可キ所爲リ、而シテ言語ヲ次ト爲ルコトハ、言語ハ君子ノ樞機ニシテ、德行ノ急爲リ、故ニ德行ニ次ツ、而シテ政事ハ是レ人事ノ別、言語ニ比スレハ緩シト爲、故ニ言語ニ次ツ、文學ハ是レ古ノ文ヲ博ク學フヲ指ス、故ニ三事ニ比スレハ泰ナリト爲、故ニ最モ後ナリ、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「冠」下、武内本有「也」字。

(三) 「也」、武内本無此字。

(四) 「所」、武内本無此字。

(五) 「之別」、武内本作「則」字。

【經】

子曰、回也非助我者也、於吾言無所不說、

子ノ曰ク、回ハ我ヲ助ス者ニ非ス、吾カ言ニ於テ說ヒ  
不トイフ所無シ、

【疏】

聖人爲教、須賢啓發、游參之徒、聞言輒問、是助益於我以  
增曉導、而顏淵默識、聞言悅解不嘗口諮、於我教化無益、  
故云、非助我者、於吾言無所不悅也、

聖人ノ教ヲ爲スコト、賢ヲ須チテ啓キ發ス、游參之徒  
ハ、言ヲ聞テ輒チ問フ、是レ我ヲ助シ益シテ曉(サトシ)導ヲ増ス、而ルヲ顏淵ハ默識シテ、言ヲ聞テ悅ヒ解テ嘗  
テ口ニ諮ハ不、我カ教化ニ益スコト無シ、故ニ云ク、  
我ヲ助ス者ニ非ス、吾カ言ニ於テ悅ヒ不トイフ所無シ、

【注】

孔安國曰、助猶益也、言回聞言即解、無可發起增益於己  
也、

孔安國カ曰ク、助ハ益ノ猶シ、言ハ回ハ言ヲ聞テ即チ解

ル、己ヲ發起シ増益スコト無シ、

【疏】

孫綽云、所以每悅吾言理自玄同耳、非爲助我也、言此欲以  
曉衆且明理也、

孫綽カ云ク、毎ニ吾カ言ヲ悅フ所以ハ理自玄マ同シ  
キ耳、我ヲ助コトヲ爲ルニ非、此ヲ言テ衆ニ曉シテ且タ  
理ヲ明ント欲、

(一) 「游」、武内本作「於」。

(二) 「導」、武内本作「道」。

(三) 「而」、武内本無此字。

【經】

子曰、孝哉閔子騫。人不問於其父母昆弟之言、

子ノ曰ク、孝ナルカナ閔子騫。人其ノ父ノ母昆弟ノ言ヲ  
聞テ不、

【疏】

問猶非也、昆兄也、謂兄爲昆、昆明也、尊而言之也、言子

騫至孝。事父母兄弟、盡於美善、故凡人物論無有非聞之言於子騫者也、故顏延之云、言之無聞謂盡美也、

聞ハ非<sup>レ</sup>（非ル）ノ猶シ、昆ハ兄ナリ、兄ヲ謂テ昆ト爲<sup>ス</sup>ルコトハ、昆ハ明ナリ、尊テ之ヲ言フ、言<sup>ハ</sup>子騫至孝アリ。父<sup>ハ</sup>母兄弟ニ事ルコト、美<sup>キ</sup>善ヲ盡セリ、故ニ凡ソ人物ノ論非聞ノ言<sup>コト</sup>子騫ニ有ル者無シ、故ニ顏延之カ云ク、之ヲ言テ聞ツルコト無シトハ美盡セルヲ謂フ、

【注】

陳群曰、言閔子騫、爲人、上事父母、下順兄弟、動靜盡善、故人不得有非聞之言也、

陳群カ曰ク、言<sup>ハ</sup>閔子騫カ、人ト爲<sup>ナ</sup>リ、上父<sup>カミ</sup>母ニ事ツリ、下兄<sup>シモ</sup>弟ニ順ニシテ、動靜善ヲ盡セリ、故ニ人非<sup>コト</sup>聞ノ言有ルコトヲ得不<sup>ス</sup>、

【經】

南容三復白圭、

南容三タヒ白圭ヲ復<sup>カヘツサフ</sup>ス、

【疏】

復猶反也、詩云、白圭之玷尚可磨也、斯言之玷不可爲也、是白圭有所玷缺、尚可磨治令其全好、若人言忽有瑕玷、則駟馬不及、故云不可爲也、南容慎言語、讀詩至白圭之句、乃三過反覆修翫無已之意也、

復ハ反ノ猶シ、詩ニ云ラク、白<sup>ハ</sup>圭ノ玷<sup>カ</sup>ケタルヲハ尚ヲ磨シツ可シ、斯ノ言<sup>コト</sup>ノ玷<sup>カ</sup>ケタルヲハ爲ム可不トイヘリ、是レ白<sup>ハ</sup>圭ノ玷<sup>カ</sup>ケタル所有ルハ、尚ヲ磨シ治メテ其令テ全<sup>ハ</sup>好ナラ令メツ可シ、若シ人ノ言<sup>コト</sup>忽<sup>ニ</sup>瑕<sup>キス</sup>ツキ<sup>ハ</sup>玷ルコト有ル、則ハ駟馬モ及ハ不<sup>ス</sup>、故ニ云ク爲ム可不ト、南容言<sup>ハ</sup>語ヲ慎ム、詩ヲ讀テ白<sup>ハ</sup>圭ノ句ニ至テ、乃チ三<sup>ミタヒ</sup>過<sup>ミタヒ</sup>反<sup>ミタヒ</sup>覆<sup>ミタヒ</sup>修<sup>ミタヒ</sup>翫ス已ムコト無キノ意ナリ、

【注】

孔安國曰、詩云、白圭之玷尚可磨也、斯言之玷不可爲、南容讀詩至此、三反覆之、是其心慎言也、

孔安國カ曰ク、詩ニ云ラク、白<sup>ハ</sup>圭ノ玷<sup>カ</sup>ケタルヲハ尚ヲ磨シツ可シ、斯ノ言<sup>コト</sup>ノ玷<sup>カ</sup>タルヲハ爲ム可不トイヘリ、南容詩ヲ讀テ此ニ至テ、三タヒ反<sup>ミタヒ</sup>覆<sup>ミタヒ</sup>ス、是レ其ノ心言<sup>コト</sup>ヲ慎メ

【經】

孔子以其兄之子妻之、

孔子其ノ兄ノ子ヲ以テ之ニ妻ハス、

【疏】

重明南容蒙孔子之姻、其善非一、故更記之也、苞述云、南容深味白圭、擬志無玷、豈與縹緹非罪同其流致、猶夫子之情、實深天屬、崇義弘教、必自親始、觀二女攸歸、見夫子之讓心也、侃已有釋、在公治長篇中也、

重テ南容孔子ノ姻<sup>イシ</sup>ヲ蒙ルコトヲ明ス、其ノ善一ニ非ス、故ニ更ニ之ヲ記ス、苞述カ云ク、南容深ク白<sup>ニ</sup>圭ヲ味ルコトハ、志<sup>ニ</sup>玷<sup>ニ</sup>ルコト無キニ擬ス、豈ニ縹<sup>ルイセツ</sup>緹<sup>ニ</sup>繼セラレテ罪ニ非ル與<sup>ト</sup>其ノ流<sup>（流）</sup>一致ヲ同センヤ、猶ヲ夫<sup>（夫）</sup>子ノ情、實ニ天<sup>（天）</sup>屬ニ深シ、義ヲ崇ヒ教ヲ弘ルコト、必ス親<sup>（親）</sup>自<sup>（自）</sup>リ始マル、二<sup>（二）</sup>女ノ歸<sup>（歸）</sup>グ攸<sup>（攸）</sup>ヲ觀ルニ、夫<sup>（夫）</sup>子ノ讓<sup>（讓）</sup>心ヲ見ル、侃已ニ釋有リ、公治長ノ篇ノ中ニ在リ、

(一) 「爲」下、武内本有「也」字。

【經】

季康子問、弟子孰爲好學、孔子對曰、有顏回者、好學、不幸短命死矣、今也則亡、未聞好學者也、

季康子問ハク、弟<sup>（弟）</sup>子孰<sup>（孰）</sup>カ學好ムコトヲ爲ル、孔子對ヘテ曰<sup>（曰）</sup>ク、顏回トイフ者有リテ、學ヲ好ム、不<sup>（不）</sup>幸短<sup>（短）</sup>命ニシテ死シキ、今ハ則チ亡シ、未<sup>（未）</sup>タ聞<sup>（聞）</sup>未學好ムトイフ者ヲ、

【疏】

孫綽云、不應生而生爲幸、不應死而死曰不幸、侃謂此與哀公問同、而答異者、舊有二通、一云、緣哀公有遷怒貳過之事、故孔子因答以箴之也、康子無此事是故不煩言也、又一云、哀公是君之尊、故須具答、而康子是臣爲卑、故略以相酬也、故江熙云、此與哀公問同、哀公雖無以賞、要以極對、至於康子則、可量其所及而答也、

孫綽カ云ク、生<sup>（生）</sup>ス應<sup>（應）</sup>ラ不<sup>（不）</sup>シテ生<sup>（生）</sup>ルヲ幸ト爲、死<sup>（死）</sup>ス應<sup>（應）</sup>ラ不<sup>（不）</sup>シテ死<sup>（死）</sup>スルヲ不<sup>（不）</sup>幸ト曰フ、侃謂<sup>（侃謂）</sup>ラク此レ哀公與問<sup>（哀公與問）</sup>同フシテ、答<sup>（答）</sup>異ナルコトハ、舊<sup>（舊）</sup>ニ通有リト（此レ哀公與問<sup>（哀公與問）</sup>同フシテ、答<sup>（答）</sup>異ナルコトハ、舊<sup>（舊）</sup>ニ通有リト謂<sup>（謂）</sup>ヘリ）、一ニ云ク、哀公怒ヲ遷シ貳ヒ<sup>（遷シ貳ヒ）</sup>過スルノ事有ルニ緣テ、故ニ孔子答ニ因テ之ヲ箴ス、康子ニ此ノ事無シ是ノ故ニ言ヲ煩

セ不<sup>ス</sup>、又一ニ云ク、哀公ハ是レ君ノ尊ナリ、故ニ須ク具<sup>ツカ</sup>ニ答フ須シ、而ルニ康子ハ是レ臣ナリ卑シト爲<sup>ス</sup>、故ニ略シテ以テ相<sup>あ</sup>酬フ、故ニ江熙カ云ク、此レハ哀公與<sup>ト</sup>問同シ、哀公ハ以「賞スルコト無シト雖<sup>いとも</sup>、以テ對ヲ極メンコトヲ要ス、康子ニ至テハ、其ノ及フ所ヲ量テ答フ可シ、

(一)「好學」下、有「不遷怒、不貳過」六字、以線削除之。

(二)「二」、武内本作「三」。

(三)「是」、武内本無此字。

### 【經】

顏淵死、顏路請子之車以爲之槨、

顏淵死ツ、顏路子ノ車ヲ請テ槨ニ爲<sup>ツク</sup>ラントス、

### 【疏】

顏路顏淵父也、淵家貧死無槨、故其父就孔子請車、賣以營槨也、

顏路ハ顏淵カ父ナリ、淵カ家貧ノ死シテ槨無シ、故ニ其ノ

父孔子ニ就テ車ヲ請テ、賣テ以テ槨ヲ營セントス、

### 【注】

孔安國曰、顏路顏淵之父也、家貧、故欲請孔子之車賣以營槨、

孔安國カ曰ク、顏路ハ顏淵カ父ナリ、家貧シ、故ニ孔子ノ車ヲ請テ賣テ以テ槨ヲ營セント欲ス、

### 【疏】

繆協曰、顏路之家貧無以備禮、而顏淵之德美、稱於聖師、喪予之感、痛之愈深、二三子之徒、將厚其禮、路率情而行、恐有未允、而未審制義之輕重、故託請車、以求聖教也、

繆協カ曰ク、顏路カ家貧シテ禮ヲ備ルコト無シ、而ルニ顏淵カ德美ニシテ、聖師ニ稱<sup>カサ</sup>フ、喪予ノ感、之ヲ痛ムコト愈<sup>いよいよ</sup>深シ、二三子ノ徒、將ニ其ノ禮ヲ厚クセント將、路情ニ率<sup>シタカ</sup>ツテ行フ、未タ允ハ未ルコト有<sup>カサ</sup>ンコトヲ恐テ、未タ制義ノ輕重ヲ審ニセ未<sup>ス</sup>、故ニ車ヲ請フニ託シテ、聖教ヲ求ム、



【經】

子曰、才不才、亦各言其子也、

子ノ曰ク、オアルモオアラ不ルモ、亦各其ノ子ヲ言フ、

【疏】

孔子將不以車與之、故先說此、以拒之、才謂顏淵也、不才謂鯉也、言才與不才、誠當有異、若各本天屬、於其父、則同是其子也、

孔子將ニ車ヲ以之ニ與ヘ不ント將、故ニ先ツ此ヲ說テ、之ヲ拒ク、オトハ顏淵ヲ謂フ、不才トハ鯉ヲ謂フ、言ハオト不才與、誠ニ當ニ異有ル當シ、若シ各天屬ニ本ケハ、其ノ父ニ於テハ、同シク是レ其ノ子ナリ、

【經】

鯉死有棺而無槨、

鯉死スルトキニ棺有テ槨無シ、

【疏】

既天屬各深、昔我子死、我自有車、尚不賣之營槨、今汝子

死、寧欲請我之車耶、繆協云、子雖才不可貧求備、雖不才、而豐儉亦各有禮、制之由父、故鯉也無槨也、

既ニ天屬各深シ、昔我カ子死ス、我自車有レトモ、尚ヲ之ヲ賣テ槨ヲ營マ不、今汝ノ子死ス、寧口我カ車ヲ請ハント欲スル耶、繆協カ云ク、子オアリト雖モ貧シテ備コトヲ求ム可ラ不、不才ト雖、而トモ豐儉ハ亦タ各禮有リ、之ヲ制スルコト父ニ由ル、故ニ鯉槨無シ、

【經】

吾不可徒行以爲之槨、

吾徒ヨリ行テ以テ槨ヲ爲ル可不、

【疏】

又解所以不爲鯉作槨之由也、徒猶歩也、言我不賣車而行歩、爲子作槨也、

又鯉ノ爲ニ槨ヲ作ラ不ル所以ノ由ヲ解ク、徒ハ歩ノ猶シ、言ハ我車ヲ賣テ行歩シテ、子ノ爲ニ槨ヲ作ラ不、

【經】

以吾從大夫之後、吾以不可徒行、

吾大夫ノ後ニ從ヘル以テ、吾徒ヨリ行ク可不、

【疏】

又解不步行意也、言大夫爵位已尊、不可步行故也。然實爲大夫、而云從大夫後者、孔子謙也、猶今人爲府國官、而云在府末國末也、

又歩ヨリ行カ不意ヲ解ス（解ク）、言ハ大夫ハ爵位已ニ尊シ、歩ヨリ行ク可不ル故ナリ。然ルニ實ニ大夫爲リ、而ルヲ大夫ノ後ニ從フト云フコトハ、孔子ノ謙ナリ、今ノ人府國ノ官ト爲テ、府末國末ニ在リト云フカ猶シ、

【注】

孔安國曰、鯉孔子之子伯魚也、孔子時爲大夫、故言、吾從大夫之後、不可以徒行、是謙之辭也、

孔安國カ曰ク、鯉ハ孔子ノ子伯魚ナリ、孔子時ニ大夫爲リ、故ニ言ク、吾大夫ノ後ニ從ヘリ、徒ヨリ行ク可不トハ、是レ謙ノ辭ナリ、

【疏】

江熙云、不可徒行、拒之辭也、可則與、故仍脫左驂、賁於舊館、不可則拒、故不許路請也、鯉也無柳、將以悟之且塞厚葬也、

江熙カ云ク、徒ヨリ行ク可ラ不トハ、之ヲ拒ク辭ナリ、可ナル則ハ與フ、故ニ仍テ左驂ヲ脱イテ、舊館ニ賁ル（賁ク）、不可ナル則ハ拒ク、故ニ路カ請フヲ許サ不、鯉柳無シ、將ニ之ヲ悟ラシテ且タ厚ク葬コトヲ塞カント將、

- (一) 「鯉」下、武内本作「死」字。
- (二) 「行歩」、武内本作「步行」。
- (三) 「行」下、武内本有「之」字。
- (四) 「爵位」、武内本作「位爵」。
- (五) 「拒」、武内本作「距」。
- (六) 「賁」、武内本作「贈」。
- (七) 「拒」、武内本作「距」。

【經】

顏淵死、子曰噫、

顏淵死ツ、子ノ曰ク噫（噫）、

【疏】

噫痛傷之聲也、淵死。遣使報孔子、孔子傷痛之、故云噫也、

噫ハ痛傷ノ聲ナリ、淵死ス。使ヲ遣ハシテ孔子ニ報ス、孔子之ヲ傷ミ痛ム、故ニ噫ト云フ、

【注】

荀氏曰、噫痛傷之聲也、

荀氏カ曰ク、噫ハ痛傷ノ聲ソ、

【經】

天喪予。天喪予、

天ヲ喪ス。天ヲ喪ス、

【疏】

喪猶亡也、予我也、夫聖人出世、必須賢輔、如天將降雨必先山澤出雲、淵未死則、孔道猶可冀、縱不爲君、則亦得共爲教化、今淵既死、是孔道亦亡、故云天喪我也、劉歆云、顏是亞聖人之偶、然則顏孔自然之對物、一氣之別形、玄妙

所以藏寄、道旨所由讚明、敘顏淵死、則夫子體缺、故曰天喪予、噫諒率實之情、非過痛之辭、將求聖賢之域、宜自此覺之也、繆播曰、夫投竿測深、安知江海之有懸也、何者、俱不究其極也、是以西河之人、疑子夏爲夫子、武叔賢子貢於仲尼、斯非其類耶、顏回盡形、形外者神、故知孔子理在回、知淵亦唯孔子也、

喪ハ亡ノ猶シ、予ハ我ナリ、夫レ聖人ハ世ニ出テ、必ス賢ノ輔ヲ須ツコト、天ノ將ニ雨ヲ降ント將テ必<sup>タス</sup>先ツ山澤ヨリ雲ヲ出スカ如シ、淵未タ死セ未ル<sup>タス</sup>則、孔道猶ヲ冀フ可シ、縱ヒ君爲ラ不<sup>キ</sup>ンハ、則チ亦タ共ニ教化ヲ爲スコトヲ得ン、今淵既ニ死ス、是レ孔道亦亡ヒナン、故ニ云ク天我ヲ喪スト、劉歆カ云ク、顏ハ是レ亞<sup>ノたまは</sup>（亞ク）聖人ノ偶ナリ（偶）、然レハ則チ顏孔ハ自<sup>タクイ</sup>然ノ對物、一氣ノ別形、玄妙ノ以テ藏寄スル所、道旨ノ由テ讚明スル所ナリ、顏淵死ヲ敘フル、則ハ夫子ノ體缺ク、故ニ曰ク天予ヲ喪スト、噫ハ諒ニ實ヲ率ウルノ情、過<sup>ノたまは</sup>痛ノ辭ニ非ス、將ニ聖賢ノ域ヲ求メント將ハ、宜ク此レ自<sup>サカイ</sup>リ（此レニ自ツテ）之ヲ覺ル宜シ、繆播カ曰ク、夫レ竿ヲ投シテ深ヲ測ラハ、安ソ江海ノ懸ルコト有ルコトヲ知ラン、何<sup>ハルカナ</sup>者、俱ニ其ノ極ヲ究メ不<sup>イカニテ</sup>、是ヲ以テ西河ノ

人ハ、子夏ヲ疑テ夫<sup>レ</sup>子ト爲<sup>ス</sup>、武叔ハ子貢ヲ仲尼ヨリ賢<sup>マサ</sup>レリトス、斯レ其ノ類ニ非ス耶<sup>ヤ</sup>、顔回ハ形ヲ盡ス、形<sup>ハ</sup>外ハ神ナリ、故ニ孔子ノ理ヲ知ルコトハ回ニ在リ、淵ヲ知ルコトハ亦唯タ孔子ナリ、

【注】

天喪予者、若喪已也、再言之者、痛惜之甚也、

天子ヲ喪ストハ、己<sup>おのレ</sup>ヲ喪スカ若シ、再ヒ之ヲ言フコトハ、痛ミ惜ムコトノ甚シキナリ、

(一) 「世」下、武内本有「也」字。

(二) 「者」、武内本作「則」。

【經】

顏淵死、子哭之慟、

顏淵死ツ、子<sup>ハ</sup>哭シテ慟ス、

【疏】

謂顏淵死、孔子往顏家、哭之也、慟謂哀甚也、既如喪已、所以慟也、郭象云、人哭亦哭、人慟亦慟、蓋無情者與物化

也、繆協曰、聖人體、無哀樂、而能以哀樂、爲體不失過也、

顏淵死ス、孔子顔カ家ニ往テ、哭スルヲ謂フ、慟トハ哀ノ甚キヲ謂フ、既ニ己<sup>おのレ</sup>ヲ喪スカ如シ、慟スル所以ナリ、郭象カ云ク、人哭スレハ亦哭ス、人慟スレハ亦慟ス、蓋シ無<sup>も</sup>情<sup>も</sup>ノ者<sup>モノ</sup>物<sup>モノ</sup>與<sup>ト</sup>化ス、繆協カ曰ク、聖人ノ體ニ、哀<sup>サ</sup>樂<sup>ス</sup>無シ、而ルヲ能ク哀<sup>も</sup>樂<sup>も</sup>ヲ以<sup>も</sup>、體ト爲<sup>ス</sup>ルコト失<sup>ス</sup>過トセ不<sup>ス</sup>、

【注】

馬融曰、慟哀過也、

馬融カ曰ク、慟ハ哀ノ過<sup>ス</sup>キタルソ、

【經】

從者曰、子慟矣、子曰有慟乎、

從<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>曰ク、子<sup>ノ</sup>慟ス、子<sup>ノ</sup>曰ク慟スルコト有<sup>アリ</sup>ツルカ、

【疏】

從者謂諸弟子也、隨孔子往顏淵家者、見孔子哀甚、故云子慟矣、

從<sub>レ</sub>者トハ諸<sub>レ</sub>弟子ノ、孔子ニ隨テ顏淵カ家ニ往ク者ヲ謂フ、孔子ノ哀ノ甚キヲ見ル、故ニ子<sub>レ</sub>慟スト云フ、

【注】

孔安國曰、不自知己之悲哀過也、

孔安國カ曰、自<sub>ミツカ</sub>己カ悲<sub>レ</sub>哀ノ過キタルコトヲ知ラ不<sub>ス</sub>、

【經】

非夫人之爲慟、而誰爲慟、

夫<sub>カ</sub>ノ<sub>レ</sub>人ノ爲ニ慟スルニ非スシテ、誰カ爲ニカ慟セン、

【疏】

初既不自知、又向諸弟子、明所以慟意也、夫人指顏淵也、言若不爲顏淵哀慟、而應爲誰耶、言慟也、

初メ既ニ自<sub>ミツカ</sub>知ラ不<sub>ス</sub>、又諸<sub>レ</sub>弟子ニ向テ、慟スル所以<sub>レ</sub>意ヲ明ス、夫<sub>カ</sub>ノ<sub>レ</sub>人トハ顏淵ヲ指ス、言<sub>いふことろ</sub>ハ若シ顏淵カ爲ニ哀<sub>ス</sub>慟セ<sub>ス</sub>シテ、誰カ爲ニカ應<sub>ス</sub>キヤ、言<sub>いふことろ</sub>ハ慟セン、

【經】

顏淵死、門人欲厚葬之、

顏淵死ツ、門<sub>レ</sub>人厚ク葬ラマク欲ス、

【疏】

顏淵之門徒也、見師貧、而已<sub>二</sub>欲厚葬之也<sub>一</sub>。一云、是孔子門人欲厚葬朋友、

顏淵カ門<sub>レ</sub>徒ナリ、師ノ貧ヲ見ル、而ルヲ已<sub>ス</sub>ニ<sub>二</sub>己<sub>一</sub>厚ク葬ント欲ス。一二云ク、是レ孔子ノ門<sub>レ</sub>人ナリ厚ク朋<sub>おのレ</sub>友ヲ葬ント欲ス、

【經】

子曰。不可、

子ノ曰ク。不<sub>レ</sub>可ナリ、

【疏】

孔子止門人之厚葬、故云不可也、王弼云、有財死則有禮、無財則已止焉、無而備禮則、近厚葬矣、故云、孔子不聽也、

孔子門一人ノ厚ク葬ルコトヲ止ム、故ニ云ク不可ナリト、王弼カ云ク、財有テ死スル則ハ禮有リ、財無キ則ハ已ミ止ム、無クシテ禮ヲ備ル則ハ、厚ク葬ルニ近シ、故ニ云ク、孔子聽サ不、

【注】

禮貧富各有宜、顏淵家貧、而門人欲厚葬之、故不聽也、

禮ニ貧富各宜キコト有リ、顏淵家貧シ、而ルヲ門一人厚ク葬ント欲ス、故ニ聽サ不、

【經】

門人厚葬之、

門一人厚ク之ヲ葬ル、

【疏】

不從孔子言也、范寧云、厚葬非禮、故不許也、門人欲厚葬何也、緣回父有厚葬之意、故欲遂門人之深情也、

孔子ノ言ニ從ハ不、范寧カ云ク、厚ク葬ルハ禮ニ非ス、故ニ許サ不、門一人厚ク葬ント欲ス何ソヤ、回カ父厚ク葬ル

ノ意有ルニ緣テ、故ニ門一人ノ深情ヲ遂ケント欲、

【經】

子曰、回也視予、猶父也、予不得視猶子也、

子曰ク、回カ予ヲ視ルコト、猶シ父ノ猶クニス、予ハ視ルコト子ノ猶クスルコトヲ得不、

【疏】

回事我在三如一、故云、視予猶父也、我葬鯉無槨、而不能止回無槨、是視回不得猶子也、

回カ我ニ事ルコト三ニ在テ一ノ如シ、故ニ云ク、予ヲ視ルコト猶シ父ノ猶シト、我鯉ヲ葬ルニ槨無シ、而ルヲ回ヲ止メテ槨無カラシムルコト能ハ不、是レ回ヲ視ルコト子ノ猶クスルコトヲ得不ルナリ、

【經】

非我也、夫二三子也、

我ニハ非ス、夫ノ二三子ナラン、

【疏】

言此貧、而過禮厚葬、非是我意也、政是夫二三子意也、二三子則顏路亦在其中也、范寧云、言回雖以父事我、我不得以子遇回、雖曰師徒、義輕天屬、今父欲厚葬、豈得制止、言厚葬非我之教、出乎門人之意耳、此以抑門人、而救世弊也、

いふこと

言ハ此レ貧シ、而ルヲ禮ニ過テ厚ク葬ル、是レ我カ意

ニハ非ス、政ニ是レ夫ノ二三子ノ意ナラン、二三子ト

ハ則チ顏路亦其ノ中ニ在リ、范寧カ云ク、言ハ回父ヲ

以テ我ニ事ルト雖モ、我子ヲ以回ニ遇スルコトヲ得、

師徒ト曰フト雖、義天屬ヨリ輕シ、今父厚ク葬ント

欲、豈ニ制シテ止ルコトヲ得ンヤ、言ハ厚ク葬ルコト

我カ教ニ非ス、門人ノ意ヨリ出ツラク耳、此レ以テ門

人ヲ抑ヘテ、世ノ弊(弊)ヲ救フ、

ツイエ

【注】

馬融曰、言回自有父、父意欲聽門人厚葬之、我不得制止也、非其厚葬、故云爾也、

馬融カ曰ク、言ハ回自父有リ、父ノ意門人ノ厚ク葬

ルコトヲ聽サント欲ス、我制シ止ムルコトヲ得、其ノ

厚ク葬ルコトヲ非ル、故ニ爾云フ、

【疏】

非猶鄙薄、

非ハ鄙薄ノ猶シ、

【經】

季路問事鬼神、

季路鬼神ニ事ヘンコトヲ(事ヘシコトヲ)問フ、

【疏】

外教無三世之義、見乎此句也、周孔之教、唯說現在、不明過去未來、而子路此問事鬼神、政言鬼神在幽冥之中、其法云何也、此是問過去耳、

外教(外教)三世ノ義無シトイフコトハ、此ノ句ニ見

ヘタリ、周孔ノ教ヘモ、唯タ現ニ在ヲ說テ、過去未來ヲ

明サ不、而ルヲ子路此ニ鬼神ニ事ヘンコトヲ問フ、政ニ

言ハ鬼神ハ幽冥ノ中ニ在リ、其ノ法云何、此レハ是

レ過去ヲ問フ耳、

【經】

子曰。未能事人、焉能事鬼、

子ノ曰ク、未タ人ニ事ルコト能ハ未、焉ソ能ク鬼ニ事  
ヘン、

【疏】

孔子言、人事易、汝尚未能、則何敢問幽冥之中、故云焉能  
事鬼、

孔子ノ言ク、人ニ事ルコトハ易シ、汝尚ヲ能クセ未  
シテ、何ソ敢テ幽冥ノ中ヲ問フ、故ニ云ク焉ソ能ク  
鬼ニ事ヘント、

【經】

曰。敢問事死

曰ク、敢テ死ニ事ヘンコトヲ（事ヘシコトヲ）問フ

【疏】

此又問當來之事也、言問今日後死事、復云何也、

此レハ又當來ノ事ヲ問フ、言ハ今日ヨリ後死ノ事ヲ  
問フ、復云何、

【經】

曰。未知生、焉知死、

曰ク、未タ生ヲ知ラ未、焉ソ死ヲ知ラン、

【疏】

亦不答之也、言汝尚未知即見生之事難明、焉能豫問知死後  
也、

亦之ヲ答ヘ、言ハ汝尚ヲ未タ即チ見生ノ事ヲ知ラ  
未明メ難、焉ソ能ク豫メ死ノ後ヲ知ランコトヲ問  
フ、

【注】

陳群曰、鬼神及死事難明、語之無益、故不答也、

陳群カ曰ク、鬼神及ヒ死ノ事ハ明メ難シ、之ヲ語ルニ益  
無シ、故ニ答ヘ、



【疏】

顧歎曰、夫從生可以善死、盡人可以應神、雖幽顯路殊、而誠恆一、苟未能此、問之無益、何處問彼耶、

顧歎カ曰ク、夫レ生<sub>レ</sub>從<sub>レ</sub>リ死<sub>ヲ</sub>善<sub>ス</sub>可<sub>シ</sub>、人ニ盡<sub>シ</sub>テ神ニ應<sub>ス</sub>可<sub>シ</sub>、幽<sub>ニ</sub>顯<sub>ニ</sub>路<sub>ニ</sub>殊<sub>ナリト</sub>雖<sub>モ</sub>、誠ニ恆<sub>ニ</sub>一<sub>ナリ</sub>、苟モ未<sub>タ</sub>此<sub>ヲ</sub>能<sub>ク</sub>セ未<sub>ス</sub>、之<sub>ヲ</sub>問<sub>フ</sub>ニ益<sub>無シ</sub>、何<sub>ノ</sub>處<sub>ニ</sub>カ彼<sub>ヲ</sub>問<sub>ハ</sub>ン耶、

(一) 「已」、武内本作「己」。

(二) 「耳」、武内本作「也」。

(三) 「中」下、武内本有「乎」字。

(四) 「鬼」下、武内本有「也」字。

(五) 「後」上、武内本有「以」字。

【經】

閔子騫侍側、閭閻如也、

閔子騫<sub>かたはら</sub>側<sub>はた</sub>ニ侍<sub>ハ</sub>リ、閭<sub>は</sub>閻<sub>は</sub>如<sub>ハ</sub>タリ、

【疏】

卑者在尊者之側曰侍、此明子騫侍於孔子座側也、閭閻中正

也、子騫性中正也、

卑<sub>もろ</sub>キ<sub>レ</sub>者<sub>もろ</sub>尊<sub>もろ</sub>者<sub>もろ</sub>ノ側<sub>かたはら</sub>ニ在<sub>ル</sub>ヲ侍<sub>ト</sub>曰<sub>フ</sub>、此レハ子騫孔子ノ座<sub>は</sub>ノ側<sub>は</sub>ニ侍<sub>ハ</sub>コトヲ明<sub>ス</sub>、閭<sub>は</sub>閻<sub>は</sub>ハ中<sub>は</sub>ニ正<sub>ナリ</sub>、子騫力性中<sub>は</sub>正<sub>ナリ</sub>、

【經】

子路行行如也、

子路行<sub>ハ</sub>行<sub>ハ</sub>如<sub>ハ</sub>タリ、

【疏】

亦侍孔子座側也、行行剛強貌也、子路性剛強也、

亦孔子ノ座<sub>は</sub>ノ側<sub>は</sub>ニ侍<sub>ハ</sub>リ、行<sub>ハ</sub>行<sub>ハ</sub>ハ剛<sub>ハ</sub>強<sub>ハ</sub>ノ貌<sub>ハ</sub>、子路力性剛<sub>ハ</sub>強<sub>ハ</sub>ナリ、

【經】

冉有子貢侃侃如也、

冉有子貢侃<sub>ハ</sub>侃<sub>ハ</sub>如<sub>ハ</sub>タリ、

【疏】

此二人亦侍側也、侃侃和樂也、二子竝和樂也、

此ノ二人亦側ニ侍リ、侃侃ハ和樂ナリ、二子竝ニ和樂ナリ、

【經】

子樂、

子樂ム、

【疏】

孔子見四子各極其性、無所隱情、故我亦懽樂也、

孔子四子ノ各其ノ性ヲ極メテ、情ヲ隱ス所無コトヲ見ル、故ニ我亦タ懽ヒ樂ム、

【注】

鄭玄曰、樂各盡其性也、行行剛強貌也、

鄭玄カ曰ク、各其ノ性ヲ盡クスコトヲ樂ム、行行ハ剛強ノ貌、

【經】

曰。若由也、不得其死然、

ノたまは  
曰ク。由カ若キハ、其ノ死然ヲ得シ、

【疏】

孔子見子路獨剛強、故發此言也、由子路名也、不得其死然、謂必不得壽終也、後果死衛亂也、

孔子子路カ獨リ剛強ナルヲ見ル、故ニ此ノ言ヲ發ス、由ハ子路カ名ナリ、其ノ死然ヲ得トハ、謂ル必壽ヲ得テ終ヘ不、後ニ果シテ衛ノ亂ニ死ス、

【注】

孔安國曰、不得以壽終也、

孔安國カ曰ク、壽ヲ以終ルコトヲ得不、

【疏】

袁氏曰、道直時邪、自然速禍也、

袁氏カ曰ク、道直シテ時邪ナリ、自然ニ禍ヲ速ク、

(一) 「子」下、武内本有「之」字。

(二) 「得」、武内本作「待」。

【經】

魯人爲長府、

魯人長<sub>一</sub>府ヲ爲ル、<sup>ツク</sup>

【疏】

魯人、魯君臣爲政者、爲作也、長府<sup>(三)</sup>府藏名也、魯人爲政、更造作長府也、

魯<sub>一</sub>人トハ、魯ノ君<sub>一</sub>臣ノ政ヲ爲ル者ナリ、爲ハ作ナリ、長<sub>一</sub>府ハ府藏ノ名ナリ、魯<sub>一</sub>人政ヲ爲テ、更ニ長<sub>一</sub>府ヲ造リ<sub>一</sub>作ル、

【經】

閔子騫曰、仍舊貫如之何、何必改作、

閔子騫カ曰ク、舊<sub>一</sub>貫ニ仍<sub>一</sub>ラハ如<sub>一</sub>之<sub>一</sub>何、何ソ必シモ改メ<sub>一</sub>作ラン、

【疏】

子騫譏魯人也、仍因也、貫事也、言爲政之道、因舊事自足如之何、何必須更有所改作耶、如之何猶奈何也、

子騫魯<sub>一</sub>人ヲ譏ル、仍<sub>一</sub>ハ因ナリ、貫ハ事ナリ、言<sub>一</sub>ハ政ヲ爲ルノ道、舊<sub>一</sub>事ニ因ルハ自<sub>一</sub>足レリ如<sub>一</sub>之<sub>一</sub>何、何ソ必シモ須ク更ニ改<sub>一</sub>作ル所有<sub>一</sub>須ケンヤ、如<sub>一</sub>之<sub>一</sub>何ハ奈何ノ猶シ、

【注】

鄭玄曰、長府藏名也、藏貨曰府、

鄭玄カ曰ク、長<sub>一</sub>府ハ藏ノ名ナリ、貨<sub>一</sub>ヲ藏ムルヲ府ト曰フ、

【疏】

貨錢帛也、藏錢帛曰府、藏兵甲曰庫也、

貨ハ錢<sub>一</sub>帛ナリ、錢<sub>一</sub>帛ヲ藏ムルヲ府ト曰ヒ、兵<sub>一</sub>甲ヲ藏ムルヲ庫ト曰フ、

【注】

仍因也、貫事也、因舊事則可、何乃復更改作也、

仍ハ因<sup>シヨ</sup>、貫ハ事、舊事ニ因ラハ則チ可ナリ、何ソ乃チ復タ更ニ改メ作ラン、

【經】

子曰、夫人不言、言必有中、

子ノ曰<sup>ク</sup>、夫ノ人ハ言ハ不<sup>ス</sup>、言フトキハ必<sup>カ</sup>中ルコト有リ、

【疏】

夫人指子騫也、言子騫性少言語、言語必中於事理也、

夫ノ人トハ子騫ヲ指ス、言ハ子騫カ性言<sup>コト</sup>語少シ、言語スルトキハ必ス事理<sup>コト</sup>（事ノ理）ニ中ル、

【注】

王肅曰、言必有中、善其不欲勞民、更改作也、

王肅カ曰ク、言フトキハ必ス中ルコト有リ、其ノ民ヲ勞

シテ、更ニ改メ作ランコトヲ欲セ不コトヲ善スルソ、

（二）「府」、武内本無此字。

【經】

子曰、由之鼓瑟奚爲於丘之門、

子ノ曰<sup>ク</sup>、由カ瑟ヲ鼓スルコト奚<sup>ナ</sup>ソ丘カ門ニ於テ爲ル、

【疏】

子路性剛、其鼓琴瑟亦有壯氣、孔子知其必不得以壽終、故每抑之、言汝鼓瑟、何得在於我門、我門文雅、非用武之所也、故自稱名以抑之也、奚何也、侃謂此門非謂孔子所住之門、政是聖德深奧之門也、故子貢答武叔云、得其門者、或寡也、

子路カ性剛ニシテ、其レ琴瑟ヲ鼓スルニ亦壯氣有リ、孔子其ノ必壽ヲ以終ルコトヲ得不コトヲ知ル、故ニ毎ニ之ヲ抑フ、言ハ汝瑟ヲ鼓シテ、何ソ我カ門ニ在ルコトヲ得ン、我カ門ハ文雅ナリ、武ヲ用ルノ所ニ非ス、故ニ自名ヲ稱シテ之ヲ抑フ、奚ハ何ナリ、侃謂ラク此ノ門ハ孔子ノ住スル所ノ門ヲ謂フニ非、政ニ是レ聖德深奧ノ

門ナリ、故ニ子貢武叔ニ答テ云ク、其ノ門ヲ得ル者ハ、或ハ寡シ、

## 【注】

馬融曰、子路鼓瑟、不合雅頌也、

馬融カ曰ク、子路瑟ヲ鼓スルコト、雅頌ニ合ハ不、

## 【經】

門人不敬子路、

門人子路ヲ敬セ不、

## 【疏】

門人見孔子譏瑟、便不復敬子路也、

門人孔子ノ瑟ヲ譏ルヲ見テ、便チ復子路ヲ敬セ不、

## 【經】

子曰。由也升堂矣、未入於室也、

子ノ曰ク。由ハ堂ニ升テ(升レトモ)、未タ室ニ入ラ

未、

## 【疏】

孔子見門人不敬子路、故又爲解之也、古人當屋棟下、隔斷爲窓戸、窓戸之外曰堂、窓戸之内曰室、孔子言、子路爲弟子、才德已大、雖未親入我室、亦已登升我堂、未易可輕慢也、若近而言之、即以屋之堂室爲喻、若推而廣之、亦謂聖人妙處爲室、麤處爲堂、故子路得堂、顏子入室、故下章說善人云、亦不入於室是也、所以此前言入於門、而門人不敬、爲其不敬故、引之於堂也、

孔子門人ノ子路ヲ敬セ不ルヲ見ル、故ニ又爲ニ之ヲ解ス、古ノ人屋ノ棟下ニ當テ、隔斷シテ窓戸ヲ爲ス、窓戸ノ外ヲ堂ト曰ヒ、窓戸ノ内ヲ室ト曰フ、孔子ノ言ク、子路弟ト爲テ、才德已ニ大シ、未タ親我カ室ニ入ラ未ト雖モ、亦タ已ニ我カ堂ニ登リ升ル、未タ易ク輕シク慢ル可ラ未、若シ近而之ヲ言フトキハ、即チ屋ノ堂ニ室ヲ以テ喻ヲ爲ス、若シ推シテ之ヲ廣ルトキハ、亦聖人ノ妙處ヲ謂テ室ト爲、麤處ヲ堂ト爲、故ニ子路ハ堂ヲ得、顏子ハ室ニ入ル、故ニ下ノ章ニ善人ヲ說テ云ク、亦室ニシモ入ラ不トイヘル是ナリ、所以ニ此ノ前ニ言ク門

ニ入ルト、而ルヲ門人敬セ不<sup>ず</sup>、其ノ敬セ不<sup>さ</sup>ルカ爲<sup>たま</sup>ノ故ニ、之ヲ引テ堂ニ於テス、

【注】

馬融曰、升我堂矣、未入室耳、門人不解、謂孔子言爲賤子路、故復解之也、

馬融カ曰ク、我カ堂ニ升レトモ、未タ室ニ入ラ未ラク耳、門人解<sup>き</sup>ラ不<sup>ず</sup>、謂ラク孔子ノ言子路ヲ賤シト爲<sup>す</sup>（孔子ノ言子路ヲ賤シト爲<sup>す</sup>ト謂ヘリ）、故ニ復タ之ヲ解ク、

【疏】

孔子譏瑟、本非謂子路可輕、政在於行行耳、而門人不達斯意、承而慢之、故孔子解說之也、

孔子瑟ヲ譏ル、本子路ヲ輕<sup>かろ</sup>ス可シト謂フニ非<sup>あらず</sup>、政ニ行行タルニ在ルラク耳、而ルヲ門人斯ノ意ニ達セ不<sup>ず</sup>、承テ之ヲ慢<sup>アヒ</sup>ル、故ニ孔子之ヲ解キ「説ク、

（四）「爲」、武内本無此字。

【經】

子貢問曰、師與商也、孰賢乎、

子貢問テ曰ク、師ト商ト與ハ、孰<sup>イッ</sup>レカ賢<sup>マサ</sup>レル、

【疏】

師子張、商子夏也、孰誰也、子貢問孔子欲辨師商誰爲賢勝也、

師ハ子張、商ハ子夏ナリ、孰ハ誰ナリ、子貢孔子ニ問テ師商誰カ賢<sup>マサ</sup>（賢リ）勝<sup>タ</sup>爲リト辨セント欲<sup>ほつ</sup>、

【經】

子曰。師也過、

子曰。師ハ過<sup>ナマ</sup>キタリ、

【疏】

過謂子張性繁冗爲事、好在僻過而不止也、

（一）「也」、武内本無此字。

（二）「子」下、武内本有「之」字。

（三）「政」、武内本作「正」。

過トハ子張カ性繁<sup>シヨウ</sup>冗<sup>ニ</sup>シテ事爲スコト、好<sup>コノミ</sup>テ僻<sup>ニ</sup>過ニ在  
テ止マ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>ヲ謂フ、

## 【經】

商也不及、

商ハ及ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

## 【疏】

言子夏性疏闊、行言好不及而止也、

言<sup>いふこと</sup> ハ子夏ハ性疏闊ニシテ、言ヲ行コト好<sup>コノミ</sup>テ及ハ<sup>ス</sup>不<sup>シ</sup>  
テ止ム、

## 【注】

孔安國曰、言俱不得中也、

孔安國カ曰ク、言<sup>ことば</sup>ハ俱ニ中ヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

## 【經】

曰、然則師愈與、

曰<sup>いは</sup>ク、然ラハ師ハ愈<sup>マサ</sup>レリヤ、

## 【疏】

愈勝也、子貢又問、若師爲事好過、好過則爲勝耶、

愈ハ勝ナリ、子貢又問フ、師カ若シハ事ヲ爲ルコト好<sup>ス</sup>テ  
過キタリ、好<sup>ス</sup>テ過キタル則ハ勝レリト爲<sup>セ</sup>ン耶、

## 【經】

子曰、過猶不及也、

子ノ曰<sup>いふ</sup>ク、過キタルハ猶ヲ及ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>ルカ猶シ、

## 【疏】

答言、既俱不得中、則過與不及無異也、故云、過猶不及  
也。江熙云、聖人動爲物軌、人之勝否未易輕言、兩既俱未  
得中、是不明其優劣、以貽於來者也、

答<sup>こたへ</sup>テ言<sup>いふ</sup>ク、既ニ俱ニ中ヲ得<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>ル、則ハ過ト不<sup>ト</sup>及<sup>ト</sup>與<sup>ト</sup>異ナ  
ルコト無シ、故ニ云ク、過タルハ及ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>ルカ猶シト。江  
熙カ云ク、聖人ノ動物ノ軌<sup>り</sup>爲<sup>ル</sup>リ、人ノ勝<sup>カ</sup>否<sup>ハ</sup>未<sup>タ</sup>易<sup>ク</sup>輕<sup>ク</sup>  
シク言ハ<sup>ス</sup>未<sup>ス</sup>、兩リナカラ既ニ俱ニ未<sup>タ</sup>中ヲ得<sup>ス</sup>未<sup>ス</sup>、是レ其ノ

優<sup>レ</sup>劣<sup>ヲ</sup>明サ不<sup>ス</sup>シテ、來<sup>ル</sup>者ニ貽<sup>レ</sup>スナリ、

【注】

愈猶勝也、

愈ハ勝ノ猶シ、

(一) 「言」、武内本作「事」。

【經】

季氏富於周公、

季氏周公ヨリ富メリ、

【疏】

季氏魯臣也、周公天子臣、食采<sup>ニ</sup>於周、爵爲公、故謂爲周公也、蓋是公旦之後也、天子之臣、地廣祿大、故周公宜富、諸侯之臣、地狹祿小、季氏宜貧、而今僭濫、遂勝天子臣、故云、季氏富於周公也、

季氏ハ魯ノ臣ナリ、周公ハ天子ノ臣ナリ、采ヲ周二食ム、爵公爲リ、故ニ謂テ周公ト爲、蓋シ是レ公旦ノ後ナラン、

天子ノ臣ハ、地廣ク祿<sup>ヲ</sup>大ナリ、故ニ周公ハ宜ク富ム宜シ、諸侯ノ臣ハ、地狹ク祿小シキナリ、季氏ハ宜ク貧ナル宜シ、而ルヲ今僭濫シテ、遂ニ天子ノ臣ニ勝レリ、故ニ云ク、季氏周公ヨリ富メリ、

【注】

孔安國曰、周公天子之宰卿士也、

孔安國カ曰ク、周公ハ天子ノ宰卿士ナリ、

【疏】

天子之宰、即謂冢宰也、冢宰是有事之職、故云卿士、士事也、

天子ノ宰トハ、即冢<sup>ヲ</sup>宰ヲ謂フ、冢宰ハ是レ事有ルノ職ナリ、故ニ卿士ト云フ、士ハ事ナリ、

【經】

而求爲之聚斂而附益、

而ルヲ求之カ爲ニ聚斂<sup>シ</sup>シテ附ケ<sup>ル</sup>益ス、



【疏】

求冉求也、季氏已富、而求時仕季氏爲季氏邑宰、又助斂聚、急賦稅、以附益季氏之富也、

求ハ冉求ナリ、季氏已ニ富メリ、而ルヲ求時ニ季氏ニ仕ヘテ季氏カ邑宰ト爲テ、又斂聚ヲ助シ、賦稅ヲ急ケンシテ、季氏カ富メルニ附ケ益ス、

【注】

孔安國曰、冉求爲季氏宰、爲之急賦稅、

孔安國カ曰ク、冉求季氏カ宰ト爲テ、之カ爲ニ賦稅ヲ急ケンス、

【疏】

急賦稅、謂斂民下財帛也、

賦稅ヲ急スルトハ、民下ノ財帛ヲ斂ムルヲ謂フ、

【經】

子曰、非吾徒也、

子ノ曰ク、吾カ徒ニハ非ス、

【疏】

徒門徒也、孔子言、冉求昔雖是我門徒、而我門徒皆尚仁義、今冉求遂爲季氏急聚斂則、非復吾門徒也、故禮云、孟獻子曰、百乘之家不畜聚斂之臣、與其畜聚斂之臣、寧有盜臣、言盜臣乃傷財、而聚斂之臣則傷仁義、傷財不如傷仁義、

徒ハ門徒ナリ、孔子ノ言ク、冉求ハ昔是レ我カ門徒ト雖、而トモ我カ門徒ハ皆仁義ヲ尚フ、今冉求遂ニ季氏カ爲ニ聚斂ヲ急スル則ハ、復吾カ門徒ニ非ス、故ニ禮ニ云ク、孟獻子カ曰ク、百乘ノ家ニハ聚斂ノ臣ヲ畜ハ不、其レ聚斂ノ臣ヲ畜ハハシテ、寧口盜臣有ンカ、言ハ盜臣ハ乃チ財ヲ傷ル、而シテ聚斂ノ臣ハ則チ仁義ヲ傷ル、財ヲ傷ルハ仁義ヲ傷ルニ如カ不、

【經】

小子鳴鼓而攻之可也、

小子鼓ヲ鳴シテ之攻メンコト可ナリ、

【疏】

小子門徒諸弟子也、攻治也、求既爲季氏聚斂、故孔子先云、非復我門徒、又使諸弟子、鳴鼓治之也、所以鳴鼓者、若直爾而治不言其過、則聞之者局、故鳴鼓而且言之、則聞者衆也。繆協云、季氏不能納諫、故求也莫得匡救、匡救不存、其義屈、故曰非吾徒也、致譏於求、所以深疾季氏子然也聞、明其義也、

小子ハ門徒ノ諸弟子ナリ、攻ハ治ナリ、求既ニ季氏カ爲ニ聚斂ス、故ニ孔子先ツ云ク、復我カ門徒ニ非、又諸弟子ヲ使テ、鼓ヲ鳴ラシテ之ヲ治メ使ム、鼓ヲ鳴ラス所以ハ、若シ直爾治テ其ノ過ヲ言ハ不ル、則ハ之ヲ聞ク者ハ局ル、故ニ鼓ヲ鳴シテ且タ之ヲ言フ、則ハ聞ク者衆シ。繆協カ云ク、季氏諫ヲ納ルルコト能ハ不、故ニ求匡（匡）救スルコトヲ得ルコト莫シ、匡救スルコト存セ不、其ノ義屈ス、故ニ曰ク吾カ徒ニハ非スト、譏ヲ求ニ致シテ、深ク季氏子然カ聞ヲ疾テ、其ノ義ヲ明ス所以ナリ、

【注】

鄭玄曰、小子門人也、鳴鼓、聲其罪以責也、

鄭玄カ曰ク、小子ハ門人ソ、鼓ヲ鳴スコトハ、其ノ罪ヲ聲カシメテ以テ責メントナリ、

(一) 「采」、武内本作「業」。

(二) 「益」、下、武内本有「也」字。

(三) 「税」、下、武内本有「也」字。

(四) 「也聞」、武内本作「之間」。

【經】

柴也愚、

柴ハ愚ナリ、

【疏】

此以下、評數子各有累也、紫弟子也、其累在於愚也、王弼云、愚好仁過也、

此ヨリ以下ハ、數子ノ各累（累）有ルコトヲ評ス、紫ハ弟子ナリ、其ノ累愚ニ在リ、王弼カ云ク、愚ハ仁ヲ好ムコト過タリ、

【注】

弟子高柴也、字子羔、愚愚直愚也、

弟子高柴ソ、字ハ子羔<sup>カフ</sup>、愚ハ愚<sup>カフ</sup>直ノ愚ソ、

【經】

參也魯、

參ハ魯ナリ、

【疏】

參曾參也、魯遲鈍也、言曾子性遲鈍也、王弼云、魯文勝質也、

參曾參ナリ、魯ハ遲<sup>いふころ</sup>鈍ナリ、言ハ曾子カ性遲<sup>いふころ</sup>鈍ナリ、

王弼カ云ク、魯ハ文質ニ勝ツナリ、

【注】

孔安國曰、魯鈍也、曾子遲鈍也、

孔安國カ曰ク、魯ハ鈍ナリ、曾子遲<sup>いふころ</sup>鈍ナリ、

【經】

師也僻、

師ハ僻ナリ、

【疏】

師子張也、子張好文其過、故云僻也、王弼云、僻飾過差也、

師ハ子張ナリ、子張好<sup>このみ</sup>テ其ノ過<sup>アやまち</sup>ヲ文ル、故ニ云ク僻ナリト、王弼カ云ク、僻ハ過<sup>サ</sup>差<sup>タカフ</sup>(差)ヲ飾ル、

【注】

馬融曰、子張才過人、失在邪僻文過、

馬融カ曰ク、子張カ才人ニ過キタリ、失ハ邪<sup>カサ</sup>僻ニシテ過

ヲ文ルニ在リ、

【經】

由也嘒、

由ハ嘒<sup>ゲ</sup>(嘒)ナリ、

【疏】

由子路也、子路性剛、失在嘖嘖也、王弼云、嘖剛猛也、

由ハ子路ナリ、子路カ性剛ナリ、失ハ嘖嘖ニ在リ、王弼カ云ク、嘖ハ剛猛ナリ、

【注】

鄭玄曰、子路之行失於嘖嘖也、

鄭玄カ曰ク、子路カ行嘖嘖ニ失ス、

【經】

子曰、回也其庶乎屢空、

子ノ曰ク、回ハ其レ庶<sup>コイネカツテハシハ</sup>乎屢<sup>のたまは</sup>空シ、

【疏】

記者上列四子病重於先、自此以下、引孔子更舉顏子精能於後、解此義者、凡有二通、一云、庶庶幾也、屢每也、空窮匱也、顏子庶慕於幾、故匱忽財利、所以家每空貧、而簞瓢陋巷也、故王弼云、庶幾慕聖、忽忘財業、而數空匱也、又一通云、空猶虛也、言聖人體寂、而心恆虛無累、故幾動即

見、而賢人不能體無、故不見幾、但庶幾慕聖、而心或時而虛、故曰屢空、其虛非一、故屢名生焉、故顏特進云、空非回所體、故庶而數得、故顧歡云、夫無欲於無欲者、聖人之常也、有欲於無欲者、賢人之分也、二欲同無、故全空、以目聖、一有一無、故每虛以稱賢、賢人自有觀之則、無欲於可欲、自無觀之、則有欲於無欲、虛而未盡、非屢如何。大史叔明申之云、顏子上賢、體具而微則精也、故無進退之事、就義上以立屢名。按其遺仁義、忘禮樂、墮支體黜聰明、坐忘大通、此忘有之義也、忘有頓盡、非空如何、若以聖人驗之、聖人忘忘、大賢不能忘忘、不能忘忘、心復爲未盡、一未一空、故屢名生也焉、

記者上二四子ノ病ノ重キヲ先ニ列ス、此自リ以下ハ、孔子ヲ引テ更ニ顏子カ精<sup>シリヘ</sup>能ヲ後ニ舉ク、此ノ義ヲ解スル者、凡ソ二通有リ、一ニ云ク、庶ハ庶幾、屢ハ每ナリ、空ハ窮マリ匱シキナリ、顏子庶<sup>コヒネカフ</sup>テ幾ヲ慕フ、故ニ財利ヲ匱<sup>キ</sup>忽<sup>ス</sup>（忽<sup>ワスル</sup>）ス、所以ニ家<sup>コフネ</sup>毎ニ空ク貧シテ、陋<sup>トモ</sup>巷ニ簞瓢ス、故ニ王弼カ云ク、幾ヲ庶ヒ聖ヲ慕テ、財業ヲ忽忘シテ（忽<sup>ワス</sup>レ忘ル）、數<sup>シバ</sup>空匱ナリ（空ク匱シ）、又一通ニ云ク、空ハ虛ノ猶シ、言ハ聖人ハ寂ヲ體シテ、心恆<sup>コネ</sup>二虛ニシテ累<sup>ル</sup>（累<sup>ハツライ</sup>）無シ、故ニ幾動スレハ即チ見ル、而ルヲ賢人ハ無ヲ體スルコト能ハ不<sup>ス</sup>、故ニ幾ヲ

見不<sup>ス</sup>、但二幾ヲ庶ヒ聖ヲ慕テ、心時或テ虚ナリ、故二屢<sup>トキアツ</sup>空シト曰フ、其ノ虚<sup>一</sup>二非ス、故二屢ノ名生ス、故二顔<sup>一</sup>特進カ云ク、空ハ回カ體スル（體ル）所二非、故二庶<sup>シハシハウ</sup>テ數得、故二顧歎カ云ク、夫レ無<sup>サド</sup>欲ニ欲無キハ、聖一人ノ常ナリ、無欲ニ欲有ルハ、賢一人ノ分ナリ、二一欲同ク<sup>一</sup>無シ、故ニ全ク空シ、以テ聖ト目ク、一タヒハ有ナリ一ヒハ無ナリ、故ニ毎<sup>ニ</sup>二虚ナリ<sup>コレモ</sup>以テ賢ト稱ス、賢一人有自リ之ヲ觀ル則ハ、可<sup>一</sup>欲ニ欲無シ、無自リ之ヲ觀ル、則ハ無<sup>一</sup>欲ニ欲有リ、虚ニシテ未タ盡サ未<sup>シハ</sup>、屢ニ非ス如<sup>イカン</sup>何。大史叔明之ヲ申ヘテ云ク、顔子ハ上<sup>ス</sup>賢ニシテ、體具<sup>ツナ</sup>ハリテ微ニシテ（微シキナリ）則チ精ナリ、故ニ進退ノ事無シ、義<sup>一</sup>上ニ就テ屢ノ名ヲ立ス。按スルニ其レ仁義ヲ遺レ、禮樂ヲ忘レ、支體ヲ廢リ、聰明ヲ黜ケテ、坐忘シテ大ニ通ス、此レ有ヲ忘ルルノ義ナリ、有ヲ忘スルコト頓ニ盡ク、空ニ非シテ如何、若シ聖一人ヲ以テ之ヲ驗ムルトキハ（驗ス）、聖人ハ忘ヲ忘ス、大賢ハ忘ヲ忘スルコト能ハ不<sup>ス</sup>、忘ヲ忘スルコト能ハ不レハ、心<sup>アラハ</sup>復ス未タ盡サ未ト爲<sup>ス</sup>、一ヒハ未タシ一ヒハ空ナリ、故ニ屢ノ名生ス、

【經】

賜不受命、而貨殖焉、

賜ハ命ヲ受ケ不<sup>ス</sup>、貨<sup>クラ</sup>殖<sup>シヨク</sup>ス、

【疏】

此孔子又詳子貢累也、亦有二通。一云、不受命者、謂子貢性動不能信天命、是不受命也、而貨殖者財物曰貨、種藝曰殖、子貢家富不能清素、所以爲惡也。又一通云、殷仲湛云、不受<sup>二</sup>嬌君命<sup>一</sup>、江熙云、賜不榮濁世之祿、亦幾庶道者也、雖然有貨殖之業、恬愉不足、所以不敢望回耳。亦曰、不受命者、謂子貢不受孔子教命、故云不受命也、

此レハ孔子又子貢カ累（累）ヲ詳ニス、亦二一通有リ。一ニ云ク、命ヲ受ケ不トハ、謂ル子貢カ性動スレハ天ヲ信シ命ニ任スルコト能ハ不<sup>ス</sup>、是レ命ヲ受ケ不ルナリ、而シテ貨殖ストハ財物ヲ貨ト曰フ、種藝スルヲ殖ト曰フ、子貢カ富テ清素ナルコト能ハ不<sup>ス</sup>、所以ニ惡シト爲<sup>ス</sup>。又一通ニ云ク、殷仲湛カ云ク、嬌君ノ命ヲ受ケ不<sup>ス</sup>、江熙カ云ク、賜ハ濁世ノ祿ヲ榮トセ不<sup>ス</sup>、亦タ道ヲ幾庶スル者ナリ、然ト雖モ貨殖ノ業有<sup>アリ</sup>、恬<sup>シツ</sup>愉<sup>ク</sup>シム足ラ不<sup>ス</sup>、所以ニ敢テ回ニ望マ不ル耳。亦曰ク、命ヲ受ケ不トハ、

謂ル子貢孔子ノ教<sup>カ</sup>命ヲ受ケ不<sup>ス</sup>、故ニ云ク命ヲ受ケ不ト、

### 【經】

憶則屢中、

憶フ則ハ屢<sup>シハシハ</sup>中<sup>アタ</sup>ル、

### 【疏】

此亦有二通。一云、憶謂心憶度事宜也、言子貢性、好憶度是非、而屢幸中亦是失也、故君子不憶不信也。又一通云、雖不虛心如顔、而憶度事理、必亦能每中也、故左傳邾隱公朝魯執玉高、其容仰、魯定公受玉卑、其容俯、子貢曰、以禮觀之、二君皆有死亡、君爲主、其先亡乎、是歲定公卒、仲尼曰、賜不幸而言中、是賜多言也、此憶中之類也。王弼云、命爵命也、憶憶度也、子貢雖不受爵命、而能富、雖不窮理、而幸中、蓋不逮顔之庶幾、輕四子所病、故稱子曰、以異之也、

此レ亦二通有リ。一二云ク、憶ハ心ニ事ノ宜<sup>レ</sup>ヲ憶<sup>レ</sup>度スルヲ謂フ、言<sup>ハ</sup>子貢カ性、好テ是非ヲ憶<sup>レ</sup>度シテ、屢<sup>ハ</sup>幸ニシテ中<sup>ル</sup>亦<sup>ハ</sup>是レ失ナリ、故ニ君子ハ憶<sup>カ</sup>ス信<sup>レ</sup>アラ不<sup>ラ</sup>ラントセ不<sup>ス</sup>（憶ハ不信アラ不<sup>ス</sup>）。又一通ニ云ク、心ヲ虚

フスルコト顔カ如クナラ不ト雖<sup>ハ</sup>、事<sup>ハ</sup>理ヲ憶<sup>レ</sup>度スルトキハ、必ス亦タ能ク毎ニ中<sup>ル</sup>、故ニ左傳二邾ノ隱公魯ニ朝<sup>ス</sup>玉ヲ執ルコト高シ、其ノ容仰<sup>ク</sup>、魯ノ定公玉ヲ受クルコト卑<sup>シ</sup>、其ノ容俯<sup>ス</sup>、子貢カ曰ク、禮ヲ以テ之ヲ觀レハ、二君ハ皆死<sup>亡</sup>有ラン、君ハ主<sup>爲</sup>リ、其レ先ツ亡<sup>シ</sup>ナンカ、是<sup>コノ</sup>歲定公卒ス、仲尼ノ曰ク、賜ハ幸アラ不<sup>ス</sup>シテ言フコト<sup>中</sup>ル、是レ賜多<sup>言</sup>ナリ、此レ憶トキハ中<sup>ル</sup>ノ類ナリ。王弼カ云ク、命ハ爵<sup>命</sup>ナリ、憶ハ憶<sup>レ</sup>度<sup>ナリ</sup>、子貢<sup>命</sup>ヲ受ケ不ト雖<sup>ハ</sup>、能ク富メリ、理ヲ窮メ不ト雖<sup>ハ</sup>、幸ニシテ中<sup>ル</sup>、蓋シ顔カ庶<sup>幾</sup>ニ逮ハ不<sup>ス</sup>、四<sup>子</sup>ノ病トスル所ヨリ輕シ、故ニ子<sup>貢</sup>曰ヲ稱シテ、之ヲ異ニス、

### 【注】

言回庶幾聖道、雖數空匱、而樂在其中矣、賜不受教命、唯財貨是殖、憶度是非、蓋美回所以厲賜也、

言<sup>ハ</sup>回ハ聖<sup>道</sup>ヲ庶<sup>幾</sup>テ、數<sup>ハ</sup>空<sup>匱</sup>シト雖<sup>モ</sup>、樂<sup>ミ</sup>其<sup>ノ</sup>中ニ在リ、賜ハ教<sup>命</sup>ヲ受ケ不<sup>ス</sup>、唯<sup>タ</sup>財<sup>貨</sup>是レ殖<sup>ス</sup>、是<sup>ハ</sup>非<sup>ハ</sup>憶<sup>レ</sup>度<sup>ス</sup>、蓋シ回ヲ美メテ賜ヲ厲マス所以、

### 【疏】

此注與前通竝會、

此ノ注ハ前ノ通與竝ニ會フ、

【注】

一曰、屢猶毎也、空猶虚中也、

一二曰ク、屢ハ毎ノ猶シ、空ハ虚中ノ猶シ、

【疏】

此以下、竝是後解也、中猶心也、謂虚心也、禮曰虚中以治之、

此レヨリ以下ハ、竝ニ是レ後ノ解ナリ、中ハ心ノ猶シ、謂ル虚心ナリ、禮ニ曰ク中ヲ虚ニシテ之ヲ治ム、

【注】

以聖人之善道、

聖人ノ善道ヲ以、

【疏】

謂孔子也、

孔子ヲ謂フ、

【注】

教數子之庶幾、

數子ノ庶幾ヲ教フ、

【疏】

柴參之屬也、竝被孔子教於庶幾之事也、

柴參カ屬ナリ、竝ニ孔子ノ教ヲ庶幾ノ事ニ被ル、

【注】

猶不至於知道者、各内有此害也、

猶ヲ道ヲ知ルニ至ラ不ルコトハ、各内此ノ害有レハナリ、

【疏】

道謂庶幾之道也、緣其各有愚、魯、僻、嘑、之害、故不能至知庶幾之道、

道トハ庶幾ノ道ヲ謂フ、其ノ各愚、魯、僻、嘑（嘑）ノ害有ルニ縁ル、故ニ庶幾ノ道ヲ知ルニ至ルコト能ハ不（不）、

【注】

其於庶幾、每能虛中者、唯回懷道深遠、

其レ庶幾ニ於テ、每ニ能ク虚中ナレハ、唯タ回道ヲ懷フコト深遠ナリ、

【疏】

唯回一人能懷道深遠、故庶幾虚心、

唯タ回一人能ク道ヲ懷フコト深遠ナリ、故ニ庶幾虚心ナリ、

【注】

不虚心不能知道、

心ヲ虚フセ不レハ道ヲ知ルコト能ハ不（不）、

【疏】

更明所以須虚心之義也、庶幾之道深遠也、欲知庶幾者、虚心乃知其道也、

更ニ須（すへ）ク心ヲ虚ニス須キノ所以ノ義ヲ明ス、庶幾ノ道深遠ナリ、庶幾ヲ知ラント欲セハ、心ヲ虚ニシテ其ノ道ヲ知ラン、

【注】

子貢無數子病、

子貢ニ數（やま）子ノ病無シ、

【疏】

無愚、魯、僻、嘑、之病也、

愚、魯、僻、嘑ノ病無シ、

【注】

然亦不知道者、

然トモ亦道ヲ知ラ不ルコトハ、



【疏】

既無病、應能庶幾、何亦不能乎、

既ニ病<sup>ヤマト</sup>無シ、能ク庶幾ス應シ、何ソ<sup>イヘトモ</sup>亦タ能クセ不<sup>ス</sup>ル乎、

【注】

雖不窮理而幸中、

理ヲ窮メ不<sup>ス</sup>ト雖<sup>イヘトモ</sup>幸ニシテ<sup>アタ</sup>中<sup>ス</sup>ル、

【疏】

解<sup>(二五)</sup>其不知之由也、申先解憶則屢中也、言子貢不能虚心、心好憶度、雖不能窮理如顔、而有時幸中、幸中故、不能知大道也、

其ノ知ラ不<sup>ス</sup>ルノ由ヲ解ス、申テ<sup>カサネ</sup>先ツ憶フ<sup>シハシハ</sup>則ハ屢<sup>アタ</sup>中<sup>コノミ</sup>ルコト解ス、言<sup>イヘトモ</sup>ハ子貢心ヲ虚ニスルコト能ハ不<sup>ス</sup>、心<sup>コノミ</sup>好<sup>イヘトモ</sup>テ憶<sup>イヘトモ</sup>度ス、理ヲ窮ムルコト顔力如ナルコト能ハ不<sup>ス</sup>ト雖、而トモ時有テ幸ニシテ<sup>アタ</sup>中<sup>ス</sup>ル、幸ニシテ<sup>アタ</sup>中<sup>ス</sup>ルカ故ニ、大<sup>ス</sup>道ヲ知ルコト能ハ不<sup>ス</sup>、

【注】

雖非天命而偶富、

天<sup>イヘトモ</sup>命ニ非スト雖<sup>イヘトモ</sup>偶<sup>イヘトモ</sup>サカニシテ<sup>イヘトモ</sup>富メリ、

【疏】

此釋不受命、而貨殖焉也、雖非天命者謂雖非受當時天子之命也、偶富者、謂家自偶富、非祿位所得也、然雖非時祿、而富之、亦非清虛之士、故亦不知大道、

此レハ命ヲ受ケ不<sup>ス</sup>シテ、貨<sup>イヘトモ</sup>殖スルコトヲ釋ス、天<sup>イヘトモ</sup>命ニ非スト雖モトハ謂ル當<sup>イヘトモ</sup>時<sup>イヘトモ</sup>天<sup>イヘトモ</sup>子ノ命ヲ受ルニ<sup>イヘトモ</sup>非<sup>イヘトモ</sup>雖、偶ニシテ富ムト<sup>イヘトモ</sup>者、謂ル家<sup>イヘトモ</sup>自<sup>イヘトモ</sup>偶ニシテ<sup>イヘトモ</sup>富ム、祿<sup>イヘトモ</sup>位ノ得ル所ニ<sup>イヘトモ</sup>非<sup>イヘトモ</sup>、然<sup>イヘトモ</sup>トモ時ノ<sup>イヘトモ</sup>祿ニ非スト雖モ、富メリ、亦清<sup>イヘトモ</sup>虛ノ士ニ<sup>イヘトモ</sup>非<sup>イヘトモ</sup>、故ニ亦大<sup>イヘトモ</sup>道ヲ知ラ不<sup>ス</sup>、

【注】

亦所以不虚心也、

亦心ヲ虚ニセ不<sup>ス</sup>ル所<sup>イヘトモ</sup>以ナリ、

【疏】

憶事幸中、及家富榮心、所以竝不虛心也、

事ヲ憶フトキハ幸ニシテ中ル、及ヒ家富テ榮心ナリ、竝ニ心ヲ虚フセ不<sup>さ</sup>ル所以ナリ、

(一)「紫」、武内本作「柴」。

(二)「直」下、武内本有「之」字。

(三)「在」、武内本無此字。

(四)「子」下、武内本有「曰」字。

(五)「數」、武内本作「屢」。

(六)「可」、武内本作「有」。

(七)「微」、武内本作「敬」。

(八)「忘」、武内本作「亡」。

(九)「詳」、武内本作「評」。

(一〇)「湛」、武内本作「堪」。

(一一)「嬌」、武内本作「驕」。

(一二)「蓋」上、武内本有「是」字。

(一三)「厲」、武内本作「勵」。

(一四)「道」下、武内本有「既」字。

(一五)「解」、武内本作「說」。

【經】

子張問善人之道、

子張善人ノ道ヲ問フ、

【疏】

此問善人非聖人也、問其道云、何而可謂爲善人也、

此二問フ善人ハ聖人ニ非、其ノ道ヲ問テ云ク、何而謂テ善人ト爲可キ、

【經】

子曰、不踐迹、

子ノ曰ク、迹ニシモ踐ハ不、

【疏】

答善人之法也、踐循也、迹舊迹也、言善人之道、亦當別宜創建善事、不得唯依循前人舊迹而已、

善人ノ法ヲ答フ、踐ハ循ナリ、迹ハ舊迹ナリ、言ハ善人ノ道ハ、亦當二別ニ宜ク善事ヲ創メ建ツ當シ、唯

夕前一人ノ舊迹ニ依リ、循フコトヲ得不ル而已、

## 【經】

亦不入於室、

亦室ニシモ入不、

## 【疏】

又雖有創立、而未必使能入聖人奧室也、能入室者顏子而已、

又創メ立ルコト有雖、未タ必モ能ク聖人ノ奧室ニ入ラ使メ未、能ク室ニ入ル者ハ顏子而已、

## 【注】

孔安國曰、踐循也、言善人不但循追舊迹而已、亦多少能創業、然亦不能入於聖人之奧室也、

孔安國カ曰ク、踐ハ循、言ハ善人ハ但タ舊迹ヲ循ヒ追ハ不ル而已、亦多少能ク業ヲ創ム、然トモ亦聖人ノ奧室ニ入ルコト能ハ不、

## 【疏】

創業、謂創仁義之業也、聖人之奧室、即前云、子路升堂矣、未入於室、是也、

業ヲ創トハ、謂フ仁義ノ業ヲ創ムルヲ、聖人ノ奧室トハ、即チ前ニ云ク、子路堂ニ升レトモ、未タ室ニ入ラ未トイフ、是ナリ、

## 【經】

子曰。論篤是與、君子者與、色莊者乎、

子ノ曰ク。論篤是與、君子者與、色莊者乎、

## 【疏】

此亦答善人之道也、當是異時之間、故更稱子曰、俱是答善、故共在一章也、篤厚也、言善人有所論說、必出篤厚謹敬之辭也、故云、論篤是與也、又能行君子之行、故云、君子者乎、又須顏色莊嚴、故云色莊者乎、

此レ亦善人ノ道ヲ答フ、當ニ是レ異時ノ問ナル當、故ニ更ニ子曰ヲ稱ス、俱ニ是レ善ヲ答フ、故ニ共ニ一章ニ在リ、篤ハ厚ナリ、言ハ善人ハ論說スル所有テ、必ス

篤<sup>ノ</sup>厚謹<sup>ノ</sup>敬ノ辭ヲ出ス、故ニ云ク、論篤<sup>ノ</sup>是<sup>カ</sup>與ト、又能  
ク君<sup>ノ</sup>子ノ行ヲ行フ、故ニ云ク、君<sup>ノ</sup>子者<sup>ハ</sup>乎、又須ク顔<sup>ノ</sup>  
色莊<sup>シ</sup>嚴ナル須、故ニ云ク色莊者<sup>ハ</sup>乎、

【注】

論篤者、謂口無擇言、

論篤トハ、口ニ擇フ<sup>コト</sup>言無キヲ謂フ、

【疏】

擇者除麤取好之謂也、論篤是、言語竝善、故復無可擇之言  
也、

擇トハ麤ヲ除キ好ヲ取ルノ謂ナリ、論篤是トハ、言<sup>コト</sup>語竝  
ニ善シ、故ニ復タ擇フ可キノ言無シ、

【注】

君子者、謂身無鄙行也、

君<sup>ノ</sup>子トハ、身ニ鄙<sup>ナキ</sup>行無ヲ謂ソ、

【疏】

所行皆善、故無鄙惡也、然此註亦與上互也

行フ所皆<sup>ミナ</sup>善シ、故ニ鄙<sup>ナキ</sup>惡無、然レハ此ノ註ハ亦上與互フ

【注】

色莊者、不惡、而嚴、以遠小人者也、

色<sup>ハ</sup>莊トハ、惡<sup>アリ</sup>カラ不<sup>ス</sup>シテ、嚴ニシテ、小<sup>ミ</sup>人ニ遠<sup>サカ</sup>ル者ナ  
リ、

【疏】

威而不猛是也、

威アリテ猛<sup>タケ</sup>カラ不<sup>ス</sup>トイフ是ナリ、

【注】

言此三者、皆可以爲善人道也、

言<sup>コト</sup>ハ此ノ三ノ者<sup>モ</sup>ハ、皆善<sup>ミナ</sup>人ノ道ト爲可シ、

【疏】

三者、言、行、色也、云必備三皆可爲善人、明若能有一則亦可爲善人、不必備三也、殷仲湛云、夫善者淳穆之性、體之自然、雖不擬步性迹、不能入闢奧室、論篤質正、有君子之一致焉、

三ツトハ、言、行、色ナリ、云ク必ス三ヲ備テ皆善人ト爲可、明ケシ若シ能ク一モ有ル則ハ亦善人ト爲可シ、必シモ三ヲ備ヘシ、殷仲湛カ云ク、夫レ善トハ淳穆ノ性、體ノ自<sub>レ</sub>然ナリ、性<sub>レ</sub>迹ヲ歩マント擬セ不ト雖モ、奥<sub>レ</sub>室ニ入り<sub>レ</sub>闢ウコト能ハ不、論篤ハ質正シテ、君子ノ一<sub>レ</sub>致有リ、

(一) 「答」、武内本作「亦」。

(二) 「註」、武内本作「注」。

(三) 「湛」、武内本作「堪」。

(四) 「性」、武内本作「往」。

【經】

子路問、聞斯行諸、

子路問ハク、聞クママニ斯レ<sub>レ</sub>行ハンヤ、

【疏】

斯此也、此此於賑窮救乏之事也、諸之也、子路問孔子、若聞有周窮救乏事、便得行之不乎、

斯ハ此ナリ、此レトハ窮ヲ賑ハシ乏キラ救フノ事ニ此レソ、諸ハ之ナリ、子路孔子ニ問フ、窮ヲ周<sub>レ</sub>ハシ乏キラ救フ事有リト聞クカ若キンハ、便チ之ヲ行フコトヲ得ンヤ不ヤ、

【注】

苞氏曰、賑窮救乏之事也、

苞氏カ曰ク、窮ヲ賑<sub>フ</sub>ハシ乏キラ救フノ事ソ、

【經】

子曰、有父兄在、

子ノ曰ク、父<sub>レ</sub>兄<sub>レ</sub>在スコト有リ、

【疏】

人子無私假與、故若有事、必先啓告父兄也、

人ノ子ハ私ニ假シ<sup>カ</sup>與<sup>マ</sup>フルコト無シ、故ニ若シ事有ラハ、必ス先ツ父<sup>一</sup>兄ニ啓<sup>マ</sup>フシ<sup>一</sup>告ク、

【經】

如之何其聞斯行之也、

如<sup>イ</sup>之<sup>カン</sup>何ソ其レ聞クママニ斯レ行ハン、

【疏】

既由父兄、故已如何聞而行乎、言不可也、

既ニ父<sup>一</sup>兄ニ由ル、故ニ已<sup>おのレ</sup>如<sup>レ</sup>何ソ聞クママニ行ハン乎、  
言<sup>いふこと</sup>ハ不<sup>一</sup>可ナリ、

【注】

孔安國曰、當白父兄、不可得自專也、

孔安國カ曰ク、當ニ父<sup>一</sup>兄ニ白ス當シ、自<sup>みづから</sup>專<sup>一</sup>ラスルコト  
ヲ得<sup>うへからず</sup>可不、

【經】

冉有問、聞斯行諸、

冉有問ハク、聞クママニ斯レ行ハンヤ、

【疏】

與子路問同也、

子路カ問<sup>ト</sup>與同シ、

【經】

子曰、聞斯行之、

子<sup>ノ</sup>曰ク、聞クママニ斯レ<sup>レ</sup>行ヘ、

【疏】

此答異也、言聞而即行之也、

此レハ答<sup>いふこと</sup>異ナリ、言<sup>一</sup>ハ聞ママニシテ即チ之ヲ行ヘ、

【經】

公西華曰、由也問、聞斯行諸、子曰有父兄在、

公西華カ曰ク、由問ハク、聞クママニ斯レ行ハンヤ、子<sup>ノ</sup>  
曰<sup>いふまは</sup>ク父<sup>一</sup>兄在スコト有リ、

【疏】

公西華疑二人問同而答異、故先領<sup>三</sup>二人之間答也、此領子路問答也、

【疏】

惑疑惑也、二人問同、而孔子答異、故已生疑惑、故惑、赤公西華名也、

公西華二人ノ問同シテ答異コトヲ疑フ、故ニ先ツ二人ノ問<sup>レ</sup>答ヲ領ス、此レハ子路カ問<sup>レ</sup>答ヲ領ス、

【經】

求之問、聞斯行諸、子曰聞行之、

【經】

敢問、

求問ハク、聞クママニ斯レ行ハンヤ、子ノ曰ク聞クママニ行ヘ、

敢テ問フ、

【疏】

此領冉有之問答也、求冉有名也、

【疏】

敢果敢也、既惑其深、故果敢而問之、

此レハ冉有カ問<sup>レ</sup>答ヲ領ス、求ハ冉有カ名ナリ、

敢ハ果<sup>レ</sup>敢ナリ、既ニ惑フコト其レ深シ、故ニ果<sup>レ</sup>敢ニシテ之ヲ問フ、

【經】

赤也惑、

【注】

孔安國曰、惑其問同而答異也、

赤惑イヌ、

孔安國カ曰ク、其ノ問同フシテ答異ナルニ惑イヌ、

【經】

子曰、求也退、故進之、

子ノ曰ク、求ハ退ク、故ニ進ム、

【疏】

答所以答異義也、言冉求謙退、故引之令進、所以不云先白父兄也、

答異ナル所以ノ義ヲ答フ、言ハ冉求謙退ナリ。故ニ之ヲ引テ進マ令ム、所以ニ先ツ父兄ニ白セト云ハス、

【經】

由也兼人、故退之、

由ハ人ヲ兼タリ、故ニ退ク、

【疏】

言子路性、行行兼人、好在率爾、故抑退之、必令白父兄也、

言ハ子路カ性、行行トシテ人ヲ兼タリ、好テ率爾ニ

在リ、故ニ抑ヘ退テ、必ス父兄ニ白サ令ム、

【注】

鄭玄曰、言冉有性謙退、子路務在勝尚人、各因其人之失而正之、

鄭玄カ曰ク、言ハ冉有ハ性謙退ナリ、子路ハ務メテ人ニ勝チ尚ランコト在リ、各其ノ人ノ失ニ因テ正ス、

【疏】

或問曰、禮若必諮父兄、則子路非抑、若必不諮、則冉有非引、今夫子云進退、請問其旨。或答曰、夫賑施之理、事有大小、大者車馬、小或一簞、若其大者、必諮、小可專行、而由施無大小、悉竝不諮、求大小悉諮、今故抑由之不諮、欲令其竝諮、引冉之必諮、令其竝不諮也、但子路性進、雖抑而不患其退、冉求性退、雖引不嫌其過也、

或ヒト問テ曰ク、禮ニ若シ必ス父兄ニ諮ハハ、則チ子路ハ抑ルニ非ス、若シ必ス諮ハ不シハ、則チ冉有ハ引クニ非ス、今夫子進メ退クト云フ、其ノ旨ヲ請ヒ問ハン。或ヒト答テ曰ク、夫レ賑（賑）施（施）ノ理、事ニ大ニ小有リ、大ナル者ハ車馬、小ナルハ或ハ一簞、若シ其レ大ナル



者ハ、必ス「諮フ、小ナルハ專ラ」行フ可シ、而ルヲ由ハ施  
スコト大<sup>イマ</sup>小<sup>ハツ</sup>ト無ク、悉ニ<sup>ス</sup>竝ニ諮ハ不<sup>ス</sup>、求ハ大<sup>ス</sup>小<sup>ハツ</sup>悉ニ<sup>ス</sup>諮  
フ、今故ニ由カ諮ハ不<sup>ス</sup>ルヲ抑テ、其ヲ令テ竝ニ諮ハ令メン  
ト欲<sup>ハツ</sup>、冉カ必ス諮フヲ引テ、其ヲ令テ竝ニ諮ハ不<sup>ス</sup>ラ令ム、  
但タ子路カ性ノ進メル、抑ト雖モ其ノ退ニ患アラ不<sup>ス</sup>、  
冉求カ性ノ退クハ、引ト雖モ其ノ過クルコトヲ嫌ハ不<sup>ス</sup>、

(一) 「賑」、武内本作「振」。

(二) 「先」、武内本無此字。

(三) 「聞」下、武内本有「斯」字。

(四) 「惑」、武内本無此字。

(五) 「故」下、武内本有「云」字。

(六) 「之」下、武内本有「也」字。

(七) 「有」、武内本作「求」。

【經】

子畏於匡、

子匡ニ畏ル、

【疏】

猶是前被匡人誤圍

是レ前ニ匡人ニ誤テ「圍マ被ルトイフカ猶シ

【經】

顔淵後、

顔淵後レタリ、

【疏】

時顔淵與孔子俱爲匡圍、孔子先得出還至家、而顔淵後乃得  
出還至也、

時ニ顔淵孔子與<sup>ト</sup>俱ニ匡ノ爲ニ圍マル、孔子先ツ出ルコトヲ  
得テ還テ家ニ至ル、而ルニ顔淵ハ後ニ乃チ出ルコトヲ得テ  
還リ<sup>イタ</sup>至ル、

【注】

孔安國曰、言與孔子相失、故在後也、

孔安國カ曰ク、言<sup>いふこと</sup>ハ孔子與<sup>ト</sup>相ヒ<sup>レ</sup>失セリ、故ニ在<sup>レ</sup>後ナ  
リ、

【疏】

於圍中相失也、

圍ノ中ニ於テ相イ失セリ、

【經】

子曰、吾以汝爲死矣、

子ノ曰ク、吾汝ヲ以テ死ニケント爲ス、

【疏】

淵後至、而孔子云、汝不還、我言汝當死於匡難中、

淵後レテ至ル、而シテ孔子ノ云ク、汝還ラ不、我汝  
當ニ匡難ノ中ニ死ス當シト言フ、

【經】

曰。子在、回何敢死、

曰ハク。子在ス、回何ソ敢テ死ナン、

【疏】

顏淵之答、其有以也、夫聖賢影響、如天降時雨、山澤必先爲出雲、孔子既在世則顏回理不得死、死則孔道便絶、故淵死、而孔云、天喪予也、康翼云、顏子未能盡窮理之妙、妙有不盡則、不可以涉嶮津、理有未窮則、不可以冒屯路、故賢不遭聖、運否則必隱、聖不值賢、微言不顯、是以夫子因畏匡而發問、顏子體其旨而仰酬、稱入室爲指南、啓門徒、以出處、豈非聖賢之誠、言互相與爲起予者也、

顏淵カ答ナリ、其レ以有リ、夫レ聖賢ハ影影響ナリ、天ノ時雨ヲ降セハ、山澤ヨリ必ス先ツ爲ニ雲ヲ出スカ如シ、孔子既ニ世ニ在ス則ハ顏回理死スルコトヲ得不、死スル則ハ孔道便チ絶セン、故ニ淵死ス、而シテ孔子云ク、天予ヲ喪スト、康翼カ云ク、顏子未タ理ノ妙ヲ盡シ窮ムルコト能未、妙盡サ不ルコト有ル則ハ、以テ嶮津ヲ涉ル可ラ不、理未タ窮メ未ルコト有ル則ハ、屯路ヲ冒ス可ラ不、故ニ賢ハ聖ニ遭ハ不レハ、運否ニシテ則チ必ス隱ル、聖モ賢ニ値ハ不レハ、微言顯ハレ不、是以夫子匡ニ畏ルルニ因テ而シテ問ヲ發ス、顏子其ノ旨ヲ體シテ仰酬ス、入室ヲ稱シテ指南ヲ爲シテ、門徒ニ啓クニ、出處ヲ以ス、豈ニ聖賢ノ誠ニ非ンヤ、言ハ互ニ

相ヒトモ與ニ予ヲ起スコトヲ爲ル者ナリ、

【注】

苞氏曰、言夫子在、己無所敢死也、

苞氏カ曰ク、言いふことハ夫子在ス、己敢テ死ナン所無シ、

【疏】

李充云、聖無慮之悔、賢無失理之患、而斯言何興乎、將以世道交喪利義相蒙、或殉名以輕死、或昧利以苟生、苟生非存理、輕死非明節、故發顔子之死、對以定死生之命也、

李充カ云ク、聖ハ慮リムヲ虚スルノ悔無シ、賢ハ理ヲ失スルノ患無シ、而ルヲ斯ノ言何トシテカ興ル乎、將ニ世道交アザム喪ホロヒ利コモ義相ヒモト蒙クヲ以テ、或ハ名ヲ殉メテ死ヲ輕ンシ、或ハ利ニ昧フシテ苟モイセク生ス、苟モ生ハ理ヲ存スルニ非ス、死ヲ輕ンスルハ節（節）ヲ明ニスルニ非ス、故ニ顔子カ死ヲ發ス、對テ以テ死生ノ命ヲ定ム、

- (一) 「康」、武内本作「庾」。
- (二) 「嶮」、武内本作「險」
- (三) 「旨」、武内本作「致」

【經】

季子然問、仲由冉求可謂大臣與、

季子然問ハク、仲由冉求ヲハ大臣ト謂フ可シ與、

【疏】

季子然季氏家之子弟也、時仲由冉求仕季氏家、季子然自誇己家能得此二賢爲臣、故問孔子以謂此二人、可謂大臣不也、

季子然ハ季氏カ家ノ子弟ナリ、時ニ仲由冉求季氏カ家ニ仕フ、季子然自ミツカ己カ家ニ能ク此ノ二賢ヲ得テ臣ト爲ルニ誇ル（誇フ）、故ニ孔子ニ問テ以テ此ノ二人ヲ謂フ、大臣ト謂ツ可シヤ不ヤ、

【注】

孔安國曰、季子然季氏之子弟也、自多得臣此二子、故問之、

孔安國カ曰ク、季子然ハ季氏カ子弟ソ、自ミツカ此ノ二子ヲ臣トスルコトヲ得ルコトヲ多マサレリトス（多シトス）、故ニ問フ、

【疏】

自多、猶言已有豪勢、能得臣此二人爲多也、

自<sup>ミツカラ</sup>多<sup>マサ</sup>レリトストハ、己<sup>おのレ</sup>豪勢有テ、能ク此ノ二人ヲ臣トスルコトヲ得テ多<sup>マサ</sup>レリト爲<sup>ス</sup>ト、言ハンカ猶シ、

【經】

子曰、吾以子爲異之間、

子ノ曰ク、吾<sup>われ</sup>子<sup>ナシ</sup>ヲ以テ異<sup>コトナ</sup>ル間ト爲<sup>ス</sup>、

【疏】

此因答而拒之也、子指子然也、言子今所問<sup>③</sup>是異事也、所以是異事之間者、由求非大臣、而汝云可謂大臣、故謂汝爲異事之間也、

此レハ答ニ因テ之ヲ拒<sup>コト</sup>ク、子トハ子然ヲ指ス、言<sup>いふこと</sup>ハ子<sup>ナシ</sup>今問フ所是レ異<sup>イマ</sup>事ナリ、是レ異<sup>イマ</sup>事ノ問トスル所以ハ、由求大<sup>イマ</sup>臣ニ非ス、而ルヲ汝<sup>なんぢ</sup>太<sup>なんぢ</sup>臣ト謂ツ可シヤト云フ、故ニ謂ラク汝<sup>なんぢ</sup>異<sup>ナ</sup>事ノ問ヲ爲スト（故ニ汝<sup>なんぢ</sup>異<sup>ナ</sup>事ノ問ヲ爲スト謂ヘリ）、

【經】

曾由與求之間、

曾<sup>ソナハ</sup>チ由ト求與<sup>ト</sup>カ問ナリ、

【疏】

此是舉異問也、曾猶則也、言汝問所以是異者、則問由與求、是異問也、

此レハ是レ異<sup>イマ</sup>問ヲ舉ク、曾ハ則ノ猶シ、言<sup>いふこと</sup>ハ汝<sup>なんぢ</sup>カ問<sup>ナリ</sup>是レ異ナリトスル所以ハ、由ト求與<sup>ト</sup>ヲ問フ、是レ異<sup>イマ</sup>問ナリ、

【注】

孔安國曰、謂子問異事耳、

孔安國カ曰ク、謂ラク子<sup>なんぢ</sup>異<sup>ナ</sup>事ヲ問フト耳<sup>ノミ</sup>（子<sup>なんぢ</sup>異<sup>ナ</sup>事ヲ問フト謂ヘル耳）、

【疏】

謂汝所問、爲異事之間也、

謂ラク汝ノ問フ所、異<sup>ナ</sup>事ノ問ヲ爲スト（汝ノ問フ所、異<sup>ナ</sup>

事ノ問ヲ爲<sup>ナ</sup>スト謂<sup>ヘリ</sup>、

【注】

則此二人之間、安足爲大臣乎、

則チ此ノ二人ノ問ナリ、安ソ大臣ト爲<sup>ス</sup>ルニ足ラン<sup>ヤ</sup>、

【疏】

如前釋也、問去聲<sup>四</sup>

前ノ釋ノ如シ、問ハ去<sup>一</sup>聲

【經】

所謂大臣者、以道事君、不可則止、

謂<sup>い</sup>ハ所<sup>ゆ</sup>ル大<sup>一</sup>臣ハ、道<sup>もて</sup>ヲ以君ニ事フ、不<sup>一</sup>可ナル則ハ止ム、

【疏】

此明大臣之事也、以道事君、謂君有惡名必諫也、不可則止、謂三諫不從則、越境而去者也、

此レハ大臣ノ事ヲ明ス、道ヲ以テ君ニ事ルトハ、君惡<sup>一</sup>名

有ルトキハ必ス諫ムルヲ謂フ、不<sup>一</sup>可ナル則ハ止ムトハ、三ヒ諫メテ從ハ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>則ハ、境ヲ越ヘテ去<sup>ル</sup>者ヲ謂フ、

【經】

今由與求也、可謂具臣矣、

今<sup>いま</sup>由ト求<sup>ト</sup>與<sup>ト</sup>ヲハ、具<sup>キ</sup>臣ト謂ツ可シ、

【疏】

言今由求二人亦不諫、諫若不從則、亦不去、不可名此爲大臣、則乃可名爲備具之臣而已也。繆協稱中正曰、所以假言二子之、不能盡諫者、以譏季氏雖知貴其人、而不能敬其言也、

言<sup>いふこと</sup>ハ今<sup>いま</sup>由<sup>ゆ</sup>求<sup>もと</sup>ノ二人ハ亦諫メ不<sup>ス</sup>、諫メ若シ從ハ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>則ハ、亦去<sup>ラ</sup>不<sup>ス</sup>、此ヲ名ケテ大<sup>一</sup>臣ト爲<sup>ス</sup>可<sup>ラ</sup>不<sup>ル</sup>、則ハ乃チ名ケテ備<sup>一</sup>具ノ臣ト爲<sup>ス</sup>可<sup>キ</sup>而<sup>レ</sup>已<sup>ミ</sup>。繆協中正ヲ稱シテ曰ク、假<sup>かり</sup>ニ二<sup>一</sup>子ノ、諫メヲ盡スコト能ハ<sup>ス</sup>不<sup>ト</sup>言フ所<sup>一</sup>以ハ、季氏カ其ノ人ヲ貴フコトヲ知ルト雖モ、其ノ言ヲ敬スルコト能ハ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>コトヲ譏ル、

【注】

孔安國曰、言備臣數而已也、

孔安國カ曰ク、言ハ臣ノ數ニ備フラク而已、

【經】

曰、然則從之者與、

曰ク、然ラハ從ハン者<sup>モウ</sup>與、

【疏】

子然聞孔子云二人不爲大臣、更云<sup>(五)</sup>、既不以道及不可則止、若如此者、其君有惡事、則二人皆從君爲之不平、

子然孔子ノ二人ハ大<sup>キ</sup>臣爲ラ<sup>ス</sup>不ト云フヲ聞テ、更ニ云ク、既ニ道ヲ以テシ及ヒ不<sup>レ</sup>可ナル則ハ止マ<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>、若シ此ノ如キ<sup>セ</sup>ンハ、其ノ君惡<sup>イナ</sup>事有テハ、則チ二人ハ皆君ニ從テ之ヲ爲<sup>ス</sup>ンヤ不ヤ、

【注】

孔安國曰、問爲臣、皆當從君所欲耶、

孔安國カ曰ク、問フ臣ト爲<sup>シ</sup>テ、皆當ニ君ノ欲スル所ニ從<sup>ミ</sup>フ當ケン耶、

【經】

子曰、弑父與君、亦不從也、

子曰ク、父ト君與<sup>ト</sup>ヲ弑センニハ、亦從ハ<sup>シ</sup>不、

【疏】

答言、雖不諫不止、若君有弑上之事、則二人亦所不從也、

答<sup>コタヘ</sup>テ言<sup>ハ</sup>ク、諫メ不止マ<sup>ス</sup>不ト雖モ、若シ君上ヲ弑スルノ事有<sup>ル</sup>ハ、則チ二人亦從ハ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>所ナリ、

【注】

孔安國曰、二子雖從其主、亦不與爲大逆也、

孔安國カ曰ク、二子ハ其ノ主ニ從フト雖モ、亦與<sup>トモ</sup>二大<sup>キ</sup>逆ヲ爲サ<sup>シ</sup>不、

【疏】

孫綽云、二子者皆政事之良也、而不出具臣之流、所免者、

唯弑之事、其罪亦豈少哉、夫抑揚之教、不由乎理、將以深激子然、以重季氏之責也、

孫綽カ云ク、二子ハ皆政事ノ良ナリ、而ルニ具臣ノ流ヲ出テ不シテ、免ル所ハ、唯タ弑ノ事ナリ、其ノ罪亦豈ニ少ナランヤ、夫レ抑揚ノ教ヘハ、理ニ由ラ不、將ニ深ク子然ヲ激シテ、季氏カ責メヲ重クセント將、

(一) 「季」、武内本無此字。

(二) 「之」下、武内本有「也」字。

(三) 「問」、武内本作「尚」。

(四) 「聲」下、武内本有「言則問此由求二人、安足爲汝家大臣乎也」十七字。但武内疑「問去聲」以下二十字是後人所增。

(五) 「更」上、武内本有「故」字。

(六) 「云」上、武内本有「問」字。

(七) 「弑」、武内本作「殺」。下同。

【經】

子路使子羔爲費宰、

子路子羔ヲ使テ費ノ宰爲ラ使ム、

【疏】  
費季氏菜邑也、季氏邑宰叛、而子路欲使子羔爲季氏邑宰也、

費ハ季氏カ菜邑ナリ、季氏カ邑宰叛ク、而ルヲ子路子羔ヲ使テ季氏カ邑宰爲ラ使ント欲、

【經】

子曰、賊夫人之子、

子ノ曰ク、夫人ノ子ヲ賊ス、

【疏】

賊猶害也、夫人之子、指子羔也、孔子言、子羔習學、未習熟、若使其爲政則、必乖僻、乖僻則爲罪累所及、故云賊夫人之子也、

賊ハ害ノ猶シ、夫人ノ子トハ、子羔ヲ指ス、孔子ノ言ク、子羔習ヒ學フコト、未タ習ヒ熟セ未、若シ其ヲ使テ政ヲ爲使メハ、必ス乖僻セン（乖キ僻ム）、乖僻スル則ハ罪累ノ及フ所爲リ、故ニ云ク夫人ノ子ヲ賊

ス、

【注】

荀氏曰、子羔學未熟習、而使爲政、所以賊害人之也、

荀氏カ曰ク、子羔カ學未タ熟ク習ハ未、而ルヲ政ヲ爲使ムルコトハ、人ヲ賊害スル所以ナリ、

【疏】

張憑云、季氏不臣、由不能正、而使子羔爲其邑宰、直道而事人、焉往不致弊、枉道而事人、不亦賊夫人之子乎、

張憑カ云ク、季氏不臣ナリ、由正スコト能ハ不、而シテ子羔ヲ使テ其ノ邑宰爲ラ使ム、道ヲ直フシテ人ニ事ヘハ、焉クンソ往クトシテカ弊（弊）ヲ致サ不ラン、道ヲ枉ケテ人ニ事ヘハ、亦タ夫ノ人ノ子ヲ賊セ不ラン乎、

【經】

子路曰、有民人焉、有社稷焉、何必讀書然後爲學、

子路カ曰ク、民人有リ、社稷有リ、何ソ必モ書ヲ讀テ然シテ後ニ學フコトヲ爲ン、

【疏】

子路云、既邑有民人社稷、今爲其宰、則是習治民事神、此即是學、亦何必在於讀書、然後方謂爲學乎、

子路カ云ク、既二邑二民人社稷有、今其ノ宰爲ラハ、則チ是レ民ヲ治メ神ニ事コトヲ習ハン、此レ即チ是レ學ナリ、亦何ソ必モ書ヲ讀ムニ在テ、然シテ後ニ方ニ學コトヲ爲ルト謂ハン、

【注】

孔安國曰、言治民事神、於是而習亦學也、

孔安國カ曰ク、言ハ民ヲ治メ神ニ事ル、是ニ於テ習フモ亦タ學フナリ、

【經】

子曰、是故惡夫佞者、

子ノ曰ク、是ノ故ニ夫ノ佞者ヲ惡ム、

【疏】

孔子以此語、罵子路也、佞口才也、我言子羔學未習熟、所



以不欲使之爲政、而汝仍云、有民神亦是學、何必讀書、此是佞辨之辭、故古人所以惡之也、

孔子此ノ語ヲ以、子路ヲ罵ル、佞ハ口才ナリ、我言ハ子羔力學未習ヒ熟セ未、所以ニ之ヲ使テ政ヲ爲使メンコトヲ欲不、而ルヲ汝仍テ云ク、民神有リ亦是レ學ナリ、何ソ必シモ書ヲ讀ント、此レハ是レ佞ノ辨ノ辭ナリ、故ニ古人所以ニ之ヲ惡ム、

## 【注】

孔安國曰、疾其以口給應、遂已非而不知窮者也、

孔安國カ曰ク、其ノ口ヲ以テ給(給)應シテ、己カ非ヲ遂ケテ窮マルコトヲ知ラナルコトヲ疾ム者ナリ、

## 【疏】

繆協云、子路以子羔爲學藝可仕矣、而孔子猶曰不可者、欲令愈精愈究也、而于時有以佞才惑世竊位要名、交不以道、仕不由學、以之宰牧徒有民人社稷、比之子羔則長短相形、子路舉茲以對者、所以深疾當時、非美之也、夫子善其來旨、故曰、是故惡夫佞者、此乃斥時、豈譏由乎也、

繆協カ云ク、子路子羔ヲ以學藝仕フ可シト爲、而ルヲ孔子猶ヲ曰ク不可ナリト者、愈精ク愈究メ令メマク欲ス、而ルヲ時于佞才ヲ以世ヲ惑ハシ、位ヲ竊ミ名ヲ要メ、交ルニ道ヲ以テセ不、仕ルニ學ニ由ラナルコトヲ有リ、之ヲ以宰牧ノ徒民人社稷ヲ有ツ、之ヲ子羔ニ比スレハ則チ長短相ヒ形ル、子路茲ヲ舉テ對ルコトハ、深ク當時ヲ疾ム所以ナリ、之ヲ美シトスルニ非ス、夫子其ノ來旨ヲ善ス、故ニ曰ク、是ノ故ニ夫ノ佞者ヲ惡ムト、此レ乃チ時ヲ斥ル、豈ニ由ヲ譏ランヤ、

(一) 「業」、武内本作「采」。

(二) 「人之」、武内本作「之人」。

(三) 「必」上、武内本有「爲」字。

(四) 「辨」、武内本作「辯」。

## 【經】

子路曾皙

子路曾皙

## 【注】

孔安國曰、曾皙曾參父也、名點也、

孔安國カ曰ク、曾皙ハ曾參カ父、名點、

【經】

冉有公西華侍坐、

冉有公西華侍坐セリ、

【疏】

此四弟子侍孔子坐也、

此ノ四弟子孔子ノ坐ニ侍リ、

【經】

子曰、以吾一日長乎爾、無吾以也、

子ノ曰ク、吾一日モ爾ニ長タルヲ以、吾ヲ以テスルコト無レ、

【疏】

孔子將欲令四子言志。故先說此言、以勸引之也、爾汝也、

言吾今一日年齒長大於汝耳、汝等無以言吾年長、而不敢言

己志也、

孔子將ニ四子ヲ令テ志ヲ言ハ令メント欲ス。故ニ先ツ此ノ言ヲ說テ、之ヲ勸メ引ク、爾ハ汝ナリ、言ハ吾今一日モ年一齒（齒）汝ニ長一スラク耳、汝等吾カ年一長ヲ言テ、敢テ己カ志ヲ言ハ不トイフコト無レ、

【注】

孔安國曰、言我問汝、汝無以我長故難對也、

孔安國カ曰ク、言ハ我汝ニ問ハン、汝我カ長タルヲ以テノ故ニ對フルニ難ルコト無レ、

【經】

居則曰、不吾知也、

居ル則ハ曰フ、吾ヲ知ラ不ト、

【疏】

居謂弟子常居時也、吾弟子自謂也、言汝等常居之日、則皆自云、無知吾者也、

居トハ弟子ノ常ニ居ル時ヲ謂フ、吾トハ弟子自ニ謂フ、言ハ汝等常ニ居ルノ日、則チ皆自云ツシク、吾ヲ

知ル者無シト、

## 【注】

孔安國曰、汝常居云、人不知己也、

孔安國カ曰ク、汝<sup>なんチ</sup>常ニ居テ云ツシク、人己ヲ知ラ不ト、

## 【經】

如或知爾、則何以哉、

如シ<sup>モ</sup>爾ヲ知ルコト或<sup>ア</sup>ラハ、何ヲ以テカセン哉、

## 【疏】

言汝<sup>ニ</sup>或有人、欲知用汝等、汝等則志各欲何爲治哉、

言<sup>いふこと</sup>ハ汝<sup>なんチ</sup>或ハ人有テ、汝<sup>なんチ</sup>等ヲ知リ用イント欲セハ、汝<sup>なんチ</sup>等則チ志<sup>こころざし</sup>各何ヲ治ムルコトヲ爲<sup>おの</sup>ントカ欲スル、

## 【注】

孔安國曰、如有用汝者、則何以爲治乎也、

孔安國カ曰ク、如シ<sup>モ</sup>汝ヲ用ルコト有ラハ、何ヲ<sup>なんチ</sup>以テカ治

ムルコトヲ爲シ乎、

## 【經】

子路率爾而對曰、

子路率<sup>ニ</sup>爾ニシテ對ヘテ曰ク、

## 【疏】

禮侍坐於君子、君子問更端則、起而對、及宜顧望而對、而子路不起、又不顧望、故云卒爾對也、卒爾謂無禮儀也、

禮ニ君<sup>ニ</sup>子ニ侍<sup>ニ</sup>坐トキニ、君<sup>ニ</sup>子問テ端<sup>は</sup>ヲ更<sup>アラタ</sup>ムル則ハ、起テ對ヘ、及ヒ宜ク顧<sup>ニ</sup>望シテ對フ宜シ、而ルヲ子路起<sup>た</sup>タ不<sup>ス</sup>、又顧<sup>ニ</sup>望セ不<sup>ス</sup>、故ニ云ク卒<sup>ニ</sup>爾ニシテ對フト、卒<sup>ニ</sup>爾トハ禮儀無キヲ謂フ、

## 【注】

卒爾、先三人對也、

卒<sup>ニ</sup>爾、三人ニ先<sup>サ</sup>タツテ對ルソ、

【經】

曰千乘之國、攝乎大國之間、

曰ク千一乘ノ國、大國ノ間ニ攝マツテ、

【疏】

此子路言志也、千乘大國也、攝迫也、大國又大於千乘者也、言己願得治於大國、而此大國、又有迫近他大國之間、所謂他大國挾己國於中也、

此レハ子路カ志ヲ言フ、千一乘ハ大國ナリ、攝ハ迫ナリ、大國ハ又千一乘ヨリ大ナル者ナリ、言ハ己願ハ大國ヲ治ムルコトヲ得ン、而ルニ此ノ大國、又他ノ大國ノ間ニ迫近クコト有テ、謂ハ所ル他ノ大國己カ國ヲ中ニ挾ムヲ、

【經】

加之以師旅、因之以飢饉、

之ニ加フルニ師一旅ヲ以シ、之ニ因ルニ飢一饉ヲ以テセンニ、

【疏】

乏穀爲飢、乏菜爲饑、言己國既被四方大國兵陵、又自國中因大荒饑也、

穀ニ乏キヲ飢ト爲、菜ニ乏キヲ饑ト爲、言ハ己カ國既二四方ノ大國ノ兵ニ陵カ被ン、又自國中因テ大ニ荒一饑セン、

【注】

荀氏曰、攝攝迫乎大國之間也、

荀氏カ曰ク、攝トハ大國ノ間ニ攝迫スルソ、

【經】

由也爲之、

由之ヲ爲メハ、

【疏】

爲猶治也、言己國以爲他兵所加、又荒飢日久、而由願得此國治之也、

爲ハ治ノ猶シ、言ハ己カ國他ノ兵ノ爲ニ加カ所ル、又  
荒飢スルコト日久シ、而ルヲ由願ハ此ノ國ヲ得テ之ヲ治  
メン、

【經】

比及三年、可使有勇且知方也、

三年ニ及ハン比ニ、勇有テ且ツ方ヲ知ラ使メツ可シ、

【疏】

比至也、言由治此國、至於三年、而使民人皆勇健、又皆知  
識義方也、

比ハ至ナリ、言ハ由此ノ國ヲ治テ、三年ニ至テ、而シ  
テ民人ヲ使テ皆勇健(健)ニシテ、又タ皆義方ヲ知  
リ識ラ使メン、

【注】

方義方也、

方ハ義方ソ、

【經】  
夫子哂之、

夫子哂ウ、

【疏】

哂笑也、孔子聞子路之言、而笑之也、

哂ハ笑ナリ、孔子子路カ言ヲ聞テ、之ヲ笑フ、

【注】

馬融曰。哂笑也、

馬融カ曰ク。哂ハ笑、

【疏】

齒本曰哂、大笑口開則哂見、故謂哂爲笑者也、

齒ノ本ヲ哂ト曰フ、大ニ笑テ口開クル則ハ哂見ユ、故  
ニ哂ヲ謂テ笑ト爲ル者ナリ、

【經】

求爾何如、

求爾ハ何<sup>イカン</sup>如、

【疏】

哂由既竟、而餘三人無言、故孔子又問冉求、汝志何如也、

由ヲ哂フコト既ニ<sup>アマリ</sup>竟テ、餘ノ三人<sup>モノいふ</sup>言コト無シ、故ニ孔子又冉求ニ問フ、汝カ<sup>こころシイカン</sup>志何<sup>イカン</sup>如、

【經】

對曰、方六七十、

對ヘテ曰ク、方六七十、

【疏】

求答曰、言志也、言願得國地方六七十里者、而已治之、<sup>モ</sup>

求答ヘ<sup>レ</sup>曰テ、志ヲ言フ、言ハ願ハ國ノ地方六七十<sup>モ</sup>里ナル者ヲ得テ、而シテ己之ヲ治メン、

【經】

如五六十、

如シクハ五六十<sup>モ</sup>、

【疏】

意又自嫌向所言方六七十爲大、故又退言、如方五六十里者也、

意ニ<sup>ミづからサキ</sup>又自向ニ言フ所ノ方六七十ヲ嫌<sup>キラヒ</sup>テ大ナリト爲<sup>ス</sup>、故ニ又退言ス、如クハ方五六十里ナル者ト、

【注】

求性謙退、言欲得方六七十、如五六十里小國、治之而已也、

求カ性謙退ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ方六七十、如クハ五六十<sup>モ</sup>里ノ小國ヲ得テ、之ヲ治メマク欲スラク而<sup>レ</sup>已、

【疏】

一云、願六七十者、如五十六大者、己欲得其小也、

一ニ云ク、願ハ六七十ノ者<sup>も</sup>ノ、五六十ノ大サノ如クナル者<sup>も</sup>ノ、己<sup>おの</sup>其<sup>の</sup>小ヲ得ント欲ス、

## 【經】

求也爲之、比及三年、可使足民也、

求之ヲ爲<sup>ヲサ</sup>メハ、三年ニ及ハン比<sup>ころほひ</sup>ニ、民ヲ足ラ使<sup>シ</sup>メツ可シ、

## 【疏】

言己願治此小國、若至三年、則能使民人足也、

言<sup>いふこと</sup>ハ己<sup>おの</sup>願ハ此ノ小國ヲ治メン、若シ三年ニ至テハ、能<sup>よく</sup>民人ヲ使<sup>シ</sup>テ足ラ使メン、

## 【經】

如其禮樂、以俟君子、

其ノ禮樂ノ如キンハ、君子ヲ俟<sup>マ</sup>タン、

## 【疏】

又謙也、言己乃能足民<sup>八</sup>、而已若教民之禮樂則、己所不能<sup>九</sup>、

故請俟君子爲之也、

又謙ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ己<sup>おの</sup>乃チ能ク民ヲ足ラシメン、而ルヲ己<sup>おの</sup>民ヲ教ルノ禮樂ノ若キンハ、己<sup>おの</sup>能ハ不<sup>さ</sup>ル所ナリ、故ニ請<sup>こ</sup>テ君子ヲ俟<sup>マ</sup>チテ之ヲ爲ン、

## 【注】

孔安國曰、求自云、能足民而已、謂衣食足也、若禮樂之化、當以待君子謙之辭也、

孔安國カ曰ク、求<sup>もつから</sup>自云ツレク、能ク民ヲ足サン而<sup>ミ</sup>已トハ、衣<sup>シ</sup>食<sup>シ</sup>ノ足ルヲ謂フ、禮樂ノ化ノ若キンハ、當ニ君子ヲ待ツ當シトハ謙ノ辭ナリ、

## 【經】

赤爾何如、

赤爾<sup>い</sup>何<sup>かん</sup>如、

## 【疏】

求答已竟、故更問公西華也、

求カ答已ニ竟ル、故ニ更ニ公西華ニ問、とよ

【經】

對曰、非曰能之、願學焉、

對ヘテ曰ク、之ヲ能クセント曰フニハ非ス、願ハ學ビカタ  
ラニセン、

【疏】

赤答也、非曰猶非謂也、答曰、己非謂自能、願從此、而後  
學爲之也、

赤カ答ナリ、非曰ハ非謂（謂）ノ猶シ、答テ曰ク、己おのレ  
自みづか能クセント謂フニハ非ス、願クハ此ニ從テ、而シテ  
後ニ學ヒカタラニ之ヲ爲ン、

【經】

宗廟之事、如會同、

宗廟ノ事、如シクハ會同センニ、

【疏】

此以下、竝言願所學之事也、宗廟之事、謂人君祭祀之事、  
如會同、諸侯有會同之事時也、

此ヨリ以下ハ、竝ニ願ハ學ヒカタラニセントイフ所ノ事  
ヲ言フ、宗廟ノ事トハ、人君祭祀ノ事ヲ謂フ、如クハ  
會同トハ、諸侯會同ノ事有ル時ナリ、

【經】

端章甫願爲小相焉、

端章甫ノ願ハ小相爲ラン、

【疏】

端玄端之服也、章甫謂章甫之冠也、言願君有祭祀及會同之  
事、而已玄端服、章甫之冠也、爲小相相君之禮也、

端ハ玄端ノ服ナリ、章甫トハ章甫ノ冠ヲ謂フ、言ハ  
願ハ君ノ祭祀及ヒ會同ノ事有ランニ、己玄端ノ服シ、  
章甫ノ冠ソ、小相爲ラントハ君ノ禮ヲ相クルソ、



【注】

鄭玄曰、我非自言能也、願學爲之、宗廟之事謂祭祀也、

鄭玄カ曰ク、我<sup>わ</sup>自<sup>レミ</sup>能<sup>ツカラ</sup>クセント言フニ非、願クハ之ヲ學ヒカテラニ<sup>爲</sup>ン、宗廟ノ事トハ祭<sup>イ</sup>祀<sup>ハ</sup>ヲ謂フ、

【疏】

四時及禘祫皆是也、

四時及ヒ禘<sup>ミナ</sup>祫<sup>ミナ</sup>皆是ナリ、

【注】

諸侯時見曰會、殷見曰同、

諸侯ノ時ニ見<sup>マミユル</sup>ヲ會<sup>クワイ</sup>ト曰ヒ、殷<sup>サカ</sup>ニ見<sup>マミユル</sup>ルヲ同ト曰フ、

【疏】

周禮六服、各隨服而來、是正朝有數也、而時見曰會此無常期、諸侯有不庭服者、王將有征討之事、則因朝、竟王命爲壇於國外、合諸侯而發禁、亦隨其方、若東方不服則、命與東方諸侯共征之、此是時見曰會也、又王十二年、一巡狩、若王有事故則、六服諸侯竝來京師朝王、受法、此是殷覲

曰同也。而鄭玄注云、殷覲曰同者、周禮又有時聘曰問、殷覲曰視、竝是諸侯遣臣來京師也、王有時<sup>(二二)</sup>故、諸侯不得自來、而遣臣來聘王、此亦無定<sup>(二二)</sup>服、是時<sup>(二四)</sup>聘曰問也。又元年<sup>(二五)</sup>六年、六服唯侯服獨來朝京師、人少、故諸侯竝遣臣來京師視王、是殷覲曰視也、鄭玄云、殷見曰同者、廣覲見之言通也、

周禮ニ六服、各<sup>おのおの</sup>服ニ隨テ來ル、是正朝ニシテ數有リ、而シテ時ニ見<sup>マミユル</sup>ヲ會ト曰フトハ此レ常ノ期無シ、諸侯庭<sup>(一)</sup>服セ<sup>さ</sup>ズル者有<sup>レ</sup>ハ、王將ニ征<sup>タテ</sup>討<sup>タテ</sup>ノ事有<sup>ラ</sup>ント將テ、則チ朝ニ因テ、竟<sup>ツイ</sup>ニ王<sup>(二)</sup>命シテ壇ヲ國<sup>(三)</sup>外ニ爲<sup>ナ</sup>シテ、諸侯ヲ合セテ禁ヲ發ス、其ノ方ニ隨フ、若シ東方服セ<sup>さ</sup>ズル則ハ、命シテ東<sup>(四)</sup>方ノ諸<sup>(五)</sup>侯與<sup>ト</sup>共ニ之ヲ征ス、此レハ是レ時ニ見<sup>マミユル</sup>ヲ會ト曰フナリ、又王十二年ニ、一ヒ巡<sup>(六)</sup>狩ス、若シ王事<sup>(七)</sup>故<sup>(八)</sup>(事ノ故)有<sup>ル</sup>則ハ、六<sup>(九)</sup>服ノ諸侯竝ニ京師ニ來テ王ニ朝シテ、法<sup>ユエ</sup>ヲ受ク、此レハ是レ殷<sup>(一〇)</sup>ニ覲<sup>(一一)</sup>ユルヲ同ト曰フナリ。而ルヲ鄭玄カ注ニ云ク、殷ニ覲<sup>マミ</sup>ユルヲ同ト曰フトハ、周禮ニ又時有テ聘スルヲ問ト曰ヒ、殷ニ覲<sup>(一二)</sup>ヲ視ト曰フ、竝ニ<sup>(一三)</sup>是レ諸侯ノ臣ヲ遣<sup>シ</sup>テ京師ニ來タスナリ、王時ニ故<sup>ユエ</sup>有<sup>リ</sup>、諸侯自<sup>レ</sup>來コトヲ得<sup>ズ</sup>シテ、臣ヲ遣<sup>シ</sup>テ王ニ來<sup>(一四)</sup>聘セ遣ム、此レ亦服ヲ定ムルコト無シ、是ノ時ニ聘ヲ問ト曰フ。又元年二六年ノ、六服唯<sup>(一五)</sup>タ侯<sup>(一六)</sup>服獨<sup>(一七)</sup>リ來テ京師ニ

朝ス、人<sup>一</sup>少シ、故ニ諸侯竝ニ臣ヲ遣テ京<sup>一</sup>師ニ來遣メテ王ニ視ユ、是レ殷<sup>サカ</sup>シニ覲ルハ視ト曰フナリ、鄭玄カ云ク、殷ニ見ルヲ同ト曰フトハ、覲<sup>テフ</sup>見<sup>コト</sup>ノ言通スルコトヲ廣ム、

【注】

端玄端也、衣玄端冠章甫、

端ハ玄<sup>一</sup>端ナリ、玄<sup>一</sup>端ヲ衣<sup>キ</sup>章甫ヲ冠ニス、

【疏】

章甫殷冠也、

章<sup>一</sup>甫ハ殷ノ冠ソ、

【注】

諸侯日視朝服也、<sup>(一八)</sup>

諸侯ノ日ニ朝ヲ視ルノ服ナリ、

【疏】

然周家諸侯日視朝之服、服緇布衣素積裳、冠委貌、此云玄端日視朝者、容是周末禮亂者也、

然ルニ周家ニ諸侯ノ日ニ朝ヲ視ルノ服ハ、緇布ノ衣ニ素<sup>一</sup>積<sup>一</sup>裳ヲ服シテ、委<sup>一</sup>貌ヲ冠ル、此ニ玄<sup>一</sup>端ハ日ニ朝ヲ視ルト云コトハ、是レ周ノ末<sup>スヘ</sup>ニ禮<sup>一</sup>亂ル容<sup>ヘ</sup>キ者ナリ、

【注】

小相、謂相君禮者、

小<sup>一</sup>相トハ、君ノ禮ヲ相<sup>タス</sup>クル者ヲ謂フ、

【疏】

宗廟及會同、皆是君事而已願相之耳、

宗<sup>一</sup>廟及ヒ會<sup>一</sup>同ハ、皆是<sup>ミナ</sup>レ君ノ事ナリ而ルヲ己<sup>オノレ</sup>願ハ之ヲ相<sup>タス</sup>ケン耳、

【經】

點爾何如、

點<sup>なん</sup>爾<sup>ニ</sup>ハ何<sup>い</sup>如<sup>かん</sup>、

【疏】

赤答既竟、又問曾皙也、

赤カ答既ニ竟テ、又タ曾皙ニ問フ、

【經】

鼓瑟希、

瑟ヲ鼓スルコト希ナリ（希ラナリ）、

【疏】

鼓猶彈也、希疎也、點政彈瑟、既得孔子之間、將思所以對之言、故彈瑟手遲而聲希也、

鼓ハ彈ノ猶シ、希ハ疎ナリ、點政ニ瑟ヲ彈ス、既ニ孔子ノ問ヲ得テ、將ニ對ヘン所以ノ言ヲ思ハント將、故ニ瑟ヲ彈スルコト手<sub>レ</sub>遲シテ聲<sub>レ</sub>希ナリ、

【注】

孔安國曰、思所以對、故其音希也、

孔安國カ曰ク、對ヘン所以ヲ思フ、故ニ其ノ音希ナリ、

【經】

鐙爾舍瑟而作、

鐙<sub>カウ</sub>爾トシテ瑟ヲ舍<sub>ヲ</sub>ヒテ作<sub>モチ</sub>テ、

【疏】

鐙投瑟聲也、捨投也、作起也、點思<sub>（二九）</sub>所對之辭、將欲仰答、故投瑟而起對也、起對者禮也、點獨云起則、求赤起可知也、

鐙ハ瑟ヲ投スル聲ナリ、捨ハ投ナリ、作ハ起ナリ、點對ヘン所ノ辭ヲ思テ、將ニ仰<sub>（仰）</sub>答セント欲<sub>（ほつす）</sub>、故ニ瑟ヲ投ケテ起テ對フ、起テ對ルハ禮ナリ、點ニ獨リ起ト云フ則ハ、求赤カ起ツコトハ知ヌ可シ、

【經】

對曰。異乎三子者之撰、

對テ曰ク。三子者ノ撰<sub>（撰）</sub>ヘニ異ナリ、

【疏】

撰具也、點起而對云、己所志者、異於路求赤三子之志所具<sub>（二〇）</sub>也、所具即千乘之國等是也、

撰ハ具ナリ、點起テ對ヘテ云ク、己カ志ス所ハ、路求赤

ノ三子ノ志ノ具ル所ニ異ナリ、具ル所トハ即チ千乘ノ國  
等是ナリ、

【注】

孔安國曰、置瑟起對也、撰具也、爲政之具也、鏗爾者投瑟  
之聲也、

孔安國カ曰ク、瑟ヲ置テ起テ對フ、撰ハ具、政ヲ爲ルノ  
具ソ、鏗爾ハ瑟ヲ投クル聲ソ、

【經】

子曰、何傷乎、亦各言其志也、

子ノ曰ク、何ソ傷マン乎、亦タ各其ノ志ヲ言フ、

【疏】

孔子聞點志異、故云、人生所志、各異、亦何傷乎、汝但當  
言之、

孔子點カ志ノ異ナリトイフヲ聞ク、故ニ云ク、人ノ生志  
ス所、各異ナリ、亦何ソ傷マン乎、汝但タ當ニ之ヲ言フ  
當シ、

【注】

孔安國曰、各言己志、於義無傷之、

孔安國カ曰ク、各己カ志ヲ言フ、義ニ於テ傷ルコト（傷ム  
コト）無シ、

【經】

曰、暮春者春服既成、

曰ク、暮春ニハ春ノ服既ニ成シヌ、

【疏】

此點言志也、暮春謂建辰、夏之三月也、年有四時、時有三  
月、初月爲孟、次者爲仲、後者爲季、季春是三月也、不云  
季春、而云暮春者、近月末也、月末其時已暖也、春服成  
者、天時暖而衣服單袷者成也、

此レハ點カ志ヲ言ナリ、暮春トハ建辰ヲ謂フ、夏ノ三  
月ナリ、年ニ四時有り、時ニ三月有り、初月ヲ孟ト爲、  
次ナル者ヲ仲ト爲、後ナル者ヲ季ト爲、季春ハ是レ三  
月ナリ、季春ト云ハ不シテ、而シテ暮春ト云フコトハ、  
月ノ末ニ近シ、月ノ末ハ其ノ時已ニ暖ナリ、春ノ服成

シヌトハ、天<sup>一</sup>時暖ニシテ衣服單<sup>一</sup>衿<sup>アハセ</sup>(單衿)ノ者成<sup>一</sup>シヌ、

## 【經】

得冠者五六人、

冠<sup>一</sup>者五<sup>一</sup>六<sup>一</sup>人、

## 【疏】

已加冠成人者也、五六者、趣舉其數也、

已<sup>二</sup>冠<sup>一</sup>ヲ加<sup>ル</sup>ハ人ト成<sup>ル</sup>者ナリ、五<sup>一</sup>六<sup>一</sup>トハ、其ノ數ヲ趣<sup>ス</sup>舉<sup>ス</sup>、

## 【經】

童子六七人、

童<sup>一</sup>子六<sup>一</sup>七<sup>一</sup>人得<sup>テ</sup>、

## 【疏】

童子、未冠之稱也、又有未冠者六七人也、或云、冠者五六、五<sup>六</sup>三<sup>十</sup>人也、童子六七、六<sup>七</sup>四<sup>十二</sup>人也、四<sup>十二</sup>就<sup>三</sup>十、合爲七<sup>十二</sup>人也、孔子升堂者、七<sup>十二</sup>人也、

童<sup>一</sup>子トハ、未<sup>一</sup>冠ノ稱ナリ、又未<sup>一</sup>夕冠セ未<sup>ル</sup>者六<sup>一</sup>七<sup>一</sup>人有<sup>リ</sup>、或ヒト云ク、冠<sup>一</sup>者五<sup>一</sup>六<sup>一</sup>トハ、五<sup>一</sup>六<sup>一</sup>三<sup>一</sup>十<sup>一</sup>人ナリ、童<sup>一</sup>子六<sup>一</sup>七<sup>一</sup>トハ、六<sup>一</sup>七<sup>一</sup>四<sup>一</sup>十二<sup>一</sup>人ナリ、四<sup>一</sup>十二<sup>一</sup>ヲ、三<sup>一</sup>十二<sup>一</sup>就<sup>レ</sup>ハ、合<sup>セ</sup>テ七<sup>一</sup>十二<sup>一</sup>人爲<sup>リ</sup>、孔子ノ堂ニ升<sup>ル</sup>者、七<sup>一</sup>十二<sup>一</sup>人ナリ、

## 【經】

浴乎沂、

沂<sup>キ</sup>ニ浴シ、

## 【疏】

沂水名也、暮春者既暖、故與諸朋友、相隨往沂水而浴也、

沂ハ水ノ名ナリ、暮<sup>一</sup>春ハ既<sup>ニ</sup>暖ナリ、故<sup>ニ</sup>諸ノ朋友<sup>ト</sup>與<sup>、</sup>相<sup>ヒ</sup>隨<sup>テ</sup>沂水<sup>ニ</sup>往<sup>テ</sup>浴<sup>セ</sup>ン、

## 【經】

風乎舞雩、

舞雩<sup>ウ</sup>ニ風<sup>シ</sup>テ、

【疏】

風風涼也、舞雩請雨之壇處也、請雨祭、謂之雩、雩吁也、民不得雨、故吁嗟也、祭而巫舞、故謂爲舞雩也、沂水之上有請雨之壇、壇上有樹木、故入沂浴、出登壇庇於樹下、逐風涼也、故王弼云、沂水近孔子宅、舞雩壇在其上、壇有樹木、遊者託焉、也

風ハ風<sub>上</sub>涼ナリ、舞雩ハ雨ヲ請フノ壇處ナリ、雨ヲ請テ祭ル、之ヲ雩<sub>（雩）</sub>ト謂フ、雩ハ吁ナリ、民雨ヲ得不<sub>ず</sub>、故ニ吁<sub>上</sub>嗟ス、祭テ巫<sub>ナケク</sub>舞ス、故ニ謂テ舞<sub>上</sub>雩ト爲<sub>ス</sub>、沂水ノ上ニ雨ヲ請フ壇有リ、壇<sub>上</sub>ニ樹<sub>上</sub>木有リ、故ニ沂ニ入テ浴シテ、出テテ壇ニ登テ樹<sub>下</sub>ニ庇<sub>ヲ</sub>ワレテ、風涼ヲ逐ハン、故ニ王弼カ云ク、沂水ハ孔子ノ宅ニ近シ、舞雩壇ハ其ノ<sub>上</sub>上ニ在リ、壇ニ樹<sub>上</sub>木有リ、遊<sub>者</sub>者焉レニ託ク、

【經】

詠而歸、

詠シテ歸ラン、

【疏】

浴竟涼罷、日光既稍晚、於是朋友詠歌先王之道、歸還孔子

之門也、

浴シ<sub>ヲ</sub>竟リ涼シ罷テ、日<sub>上</sub>光既ニ稍<sub>ヤ</sub>晩ル、是ニ於テ朋<sub>友</sub>ト先王ノ道ヲ詠<sub>上</sub>歌シテ、孔子ノ門ニ歸リ<sub>上</sub>還ラン、

【注】

苞子曰、暮春者、季春三月也、春服既成者、衣單袷之時也、我欲得冠者五六人、童子六七人、浴於沂水之上、風涼於舞雩之下、歌詠先王之道、歸夫子之門也、

苞子カ曰ク、暮<sub>上</sub>春ハ、季<sub>上</sub>春三月ソ、春ノ服既ニ成トハ、單<sub>上</sub>袷<sub>上</sub>ヲ衣ル時ソ、我冠<sub>者</sub>者五<sub>上</sub>六<sub>上</sub>人、童<sub>上</sub>子六<sub>上</sub>七<sub>上</sub>人ヲ得テ、沂水ノ上ニ浴シ、舞<sub>上</sub>雩ノ下ニ風涼シテ、先王ノ道ヲ歌<sub>上</sub>詠シテ、夫<sub>上</sub>子ノ門ニ歸ラント欲ス、

【經】

夫子喟然歎曰、吾與點也、

夫<sub>上</sub>子喟<sub>キイ</sub>然トシテ歎シテ曰ク、吾ハ點ニ與セン、

【疏】

孔子聞點之願、是以喟然而歎也、既歎而云、吾與點也、言

我志與點同也、所以與同者、當時道消世亂、馳競者衆、故諸弟子、皆以仕進爲心、唯點獨識時變、故與之也、故李充云、善其能樂道知時逍遙遊詠之至也、夫人各有能、性各有尚、鮮能舍其所長、而爲其所短、彼三子者之云、誠可各言其志矣、然此諸賢、既已漸染風流、<sup>(三三)</sup>飡服道化、親仰聖師、誨之無倦、先王之門、豈執政之所先乎、嗚呼遽不能一忘鄙願、而暫同于雅好哉、諒知情從中來、不可假、已唯曾生起然獨對揚德音、起予風儀、其辭精而遠、其指高而適、臺臺乎、固盛德之所同也、三子之談、於茲陋矣、

孔子點方願ヲ聞ク、是ヲ以テ喟然トシテ歎ス、既ニ歎シテ云ク、吾ハ點ニ與セント、言ハ我カ志點與同シ、與ニ同キ所以ハ、當時道消シ世亂テ、馳セ競フ者衆ナリ（衆シ）、故ニ諸弟子、皆仕進ヲ以テ心ト爲、唯タ點獨リ時ノ變ヲ識ル、故ニ之ニ與ス、故ニ李充カ云ク、其ノ能ク道ヲ樂ミ時ヲ知リ逍遙遊詠ノ至リヲ善ミス、夫レ人各能有リ、性各尚フコト有リ、能ク其ノ長トスル所ヲ舍テテ、其ノ短トスル所ヲ爲スコト鮮シ、彼ノ三子者ノ云ク、誠ニ各其ノ志ヲ言フ可シ、然ルニ此ノ諸賢、既已ニ漸ニ風流ニ染ミ、道化ヲ飡服シテ、親ク聖師ヲ仰ク、之ヲ誨テ倦ムコト無シ、先王ノ門、豈ニ執一政ノ先トスル所ナランヤ、嗚呼遽ニ一ヒ鄙

願ヲ忘コト能ハ不シテ、暫ク雅好ニ同シキカナ、諒ニ知ヌ情ハ中從リ來ル、假トス可<sup>カリ</sup>不<sup>ヘカ</sup>、已ニ唯曾生起然トシテ獨リ德音ヲ對揚シテ、予カ風儀ヲ起ス、其ノ辭ハ精ニシテ遠シ（遠ナリ）、其ノ指高シテ適ヘリ、臺臺乎タルカナ、固ニ盛德ノ同フスル所ナリ、三子ノ談、茲ニ於テ陋シ、

【注】

周生烈曰、善點之獨知時也、<sup>(二五)</sup>

周生烈カ曰ク、點カ獨リ時ヲ知ルコトヲ善スルソ、

【經】

三子者出、

三子者出テヌ、

【疏】

子路求赤三人見孔子與點、故已竝先出去也、<sup>(一六)</sup>

子路求赤三人孔子ノ點ニ與スルヲ見テ、故ニ已竝ニ先ツ出テ去ル、

【經】

曾哲後、

曾哲<sup>ヲク</sup>後レタリ、

【疏】

在後未去

後ニ在テ未ダ去ラ未<sup>ス</sup>

【經】

曾哲曰、夫三子者之言何如、

曾哲カ曰ク、夫ノ三子者ノ言<sup>コト</sup>何<sup>イ</sup>如<sup>カン</sup>、

【疏】

哲既留後、故問孔子也、言向者三子所言者、其理如何也、

哲既ニ後ニ留マル、故ニ孔子ニ問フ、言<sup>いふこと</sup>ハ向<sup>さき</sup>ニ三子ノ言フ所ノ者、其ノ理<sup>イカン</sup>如何、

【經】

子曰、亦各言其志也已矣、

子ノ曰ク、亦各其ノ志<sup>イ</sup>ヲ言フラク已<sup>ノミ</sup>、

【疏】

孔子答言、三子之言、雖各不同、然亦各是其心所志也、

孔子答テ言<sup>ことば</sup>ク、三子ノ言、各<sup>おのの</sup>同カラ不ト雖モ、然ト

モ亦各是レ其ノ心ニ志ス所ナリ、

【經】

曰、吾子何哂由也、

曰ク、吾子何ソ由ヲ哂フ、

【疏】

點呼孔子爲吾子也、點又云、若各親是言志則、孔子何獨笑子路也、乎、故云何也、

點孔子ヲ呼テ吾子ト爲<sup>ス</sup>、點又云ク、若シ各親<sup>ミづから</sup>是レ志ヲ言フ則ハ、孔子何ソ獨リ子路ヲ笑フヤ、故ニ何ソト云フ、



## 【經】

子曰。爲國以禮、其言不讓、是故哂之、

子ノ曰ク。國ヲ爲ムルニハ禮ヲ以テス、其ノ言讓ラ不、  
是ノ故ニ之ヲ哂フ、

## 【疏】

答笑子路之所由也、言我笑子路、非笑其志也、政是笑其卒  
爾不讓故耳、夫爲國者、必應須禮讓、而子路既願治國而卒  
爾其言無所謙讓、故笑之耳、

子路ヲ笑フ所由ヲ答フ、言ハ我子路ヲ笑フコト、其ノ  
志ヲ笑フニ非、政ニ是レ其ノ卒爾ニシテ讓ラ不コトヲ  
笑フ故耳、夫レ國ヲ爲ムルコトハ、必ス禮讓ヲ須チフ應  
シ、而ルヲ子路カ既ニ願イ國ヲ治ム而ルニ卒爾ニシテ其  
ノ言謙讓スル所無シ、故ニ之ヲ笑フ耳、

## 【注】

苞子曰、爲國以禮、禮道貴讓、子路言不讓、故笑之也、

苞子カ曰ク、國ヲ爲ムルニハ禮ヲ以テス、禮ノ道ハ讓ヲ貴  
フ、子路カ言讓ラ不、故ニ之ヲ笑フ、

## 【經】

唯求則非邦也與、安見方六七十如五六十而、非邦也者、

唯タ求ハ邦ニ非スヤ、安クンソ方六七十如シクハ五六十  
十二シテ、邦ニ非ル者ヲ見ン、

## 【疏】

孔子更證我笑非笑子路之志也、若笑子路有爲國之志則冉求  
亦是志於爲國。吾何獨不笑耶也、既不笑求、豈獨笑子路  
乎、故云、唯求非邦也與、言是邦也、安見方六七十、如五  
六十非邦也者、亦云是邦也、

孔子更ニ我カ笑フコト子路カ志ヲ笑フニ非ルコトヲ證ス、  
若シ子路カ國ヲ爲ムルノ志有コトヲ笑ハハ則チ冉求モ亦是  
レ國ヲ爲ムルニ志ス。吾何ソ獨リ笑ハ不ンヤ、既ニ求ヲ笑  
ハ不、豈ニ獨リ子路ヲ笑ハンヤ、故ニ云ク、唯タ求ハ邦  
ニ非スヤ、言ハ是レ邦ナリ、安ソ方六七十、如クハ  
五六十ニシテ邦ニ非ル者ヲ見ン、亦タ云ク是レ邦ナ  
リ、

## 【經】

唯赤則非邦也與、宗廟之事、如會同、非諸侯如之何、

唯タ赤ハ邦ニ非スヤ、宗廟ノ事、如クハ會同セン、諸侯ニ非シテ如之何、

【疏】

又引赤證我不笑子路志也、赤云、宗廟會同、會同即是諸侯之事、豈曰非邦、而我何獨不笑乎、又明笑非笑志也、

又赤ヲ引テ我カ子路カ志ヲ笑ハ不ルコトヲ證ス、赤カ云ク、宗廟會同ト、會同ハ即チ是レ諸侯ノ事ナリ、豈ニ邦ニ非スト曰ハンヤ、我何ソ獨リ笑ハ不ランヤ、又笑フコト志ヲ笑フニ非コトヲ明ス、

【注】

孔安國曰、明皆諸侯之事、與子路同徒、

孔安國カ曰ク、明ケシ皆諸侯ノ事ナリ、子路與同徒ナリ、

【疏】

徒猶黨輩也。言求等所言、皆是諸侯事、與子路猶是一黨輩耳、

徒ハ黨輩ノ猶シ。言ハ求等カ言フ所、皆是レ諸侯

ノ事ニシテ、子路與猶ヲ是レ一黨輩耳、

【注】

笑子路不讓也、

子路カ讓ラ不ルヲ笑フ、

【疏】

本是笑其不讓也、

本是レ其ノ讓ラ不ルヲ笑フ、

【經】

赤也爲之小相、孰能爲之大相、

赤小相爲ラハ、孰カ能ク大相爲ラン、

【疏】

又因不許赤謙也、言赤之才德、云自願爲小相、若以赤爲小、誰堪大者乎、赤又是有明、己不笑之、故因美之也、

又因テ赤カ謙スルコトヲ許サ不、言ハ赤カ才德ヲモ

テ、自<sup>ミツから</sup>願クハ小<sup>ミ</sup>相爲ラント云フ、若シ赤ヲ以テ小ト爲  
ハ、誰<sup>タレ</sup>カ大ニ堪ヘン者ナラン乎<sup>ヤ</sup>、赤又是レ明有リ、己<sup>おのレ</sup>之  
ヲ笑ハ不<sup>ス</sup>、故ニ因テ之ヲ美ム、

【注】

孔安國曰、赤謙言小相耳、孰能爲大相者也、

孔安國カ曰ク、赤謙シテ小相ト言フ耳、孰<sup>タレ</sup>カ能ク大相爲ラ  
ン者、

- (一) 「也」、武内本無此字。
- (二) 「謂」、武内本作「指」。
- (三) 「汝」、武内本作「如」。
- (四) 「曰」、武内本無此字。
- (五) 「之」、武内本無此字。
- (六) 「也」、武内本無此字。
- (七) 「之」下、武内本有「也」字。
- (八) 「能」下、武内本有「使」字。
- (九) 「己」、武内本作「已」。
- (一〇) 「同」下、武内本有「謂」字。
- (一一) 「規」、武内本作「見」。
- (一二) 「時」、武内本作「事」。

- (一三) 「服」、武内本作「時」。
- (一四) 「時」、武内本作「問」。
- (一五) 「六年」、武内本無此二字。
- (一六) 「云」、武内本無此字。
- (一七) 「見」、武内本作「規」。
- (一八) 「朝」下、武内本有「之」字。
- (一九) 「所」下、武内本有「以」字。
- (二〇) 「也」、武内本無此字。
- (二一) 「之」、武内本作「也」。
- (二二) 「五六」、武内本作「冠者」。
- (二三) 「飡」、武内本作「喰」。
- (二四) 「已」、武内本作「己」。
- (二五) 「也」、武内本作「之」。
- (二六) 「己」、武内本作「已」。
- (二七) 「也」、武内本無此字。
- (二八) 「會」上、武内本有「宗廟」二字。
- (二九) 「云」、武内本作「之」。

(先進篇担当 中田妙葉)